



ネットワークカメラ Qシリーズ ユーザーマニュアル

バージョン : V1.0

日付 : 2025年7月24日

内容

第1章 はじめに	4
1.1 著作権表示.....	4
1.2 安全に関する注意事項	4
1.3 EU 適合性に関する声明	5
1.4 改訂履歴	5
第2章 製品概要	6
2.1 製品概要	6
2.2 システム要件.....	6
第3章 設定フロー	7
第4章 ネットワーク接続	9
4.1 LAN 経由でのカメラの設定	9
4.1.1 カメラを PC に直接接続する	9
4.1.2 スイッチまたはルーター経由での接続	9
4.2 ダイナミックIP接続	9
第5章 ネットワークカメラへのアクセス	11
5.1 IPアドレスの割り当て	11
5.1.1 Smart Toolsを使用したIPアドレスの割り当て	11
5.1.2 ブラウザ経由でのIPアドレスの割り当て	15
5.2 ウェブブラウザからのアクセス	18
5.3 Milesightデバイスポータルからのアクセス	19
5.4 Milesight バックエンドソフトウェアからのアクセス	19
5.4.1 Milesight NVR (ネットワークビデオレコーダー) からのアクセス	19
5.4.2 Milesight CMS (中央管理システム) からのアクセス	20
5.4.3 Milesight VMS Enterprise (映像管理システム) からのアクセス	21
第6章 ライブビュー	23
6.1 ライブ映像.....	23
6.2 顔キャプチャモード	26
第7章 再生	29
第8章 設定	34

8.1	メディア	34
8.1.1	ビデオ	34
8.1.2	画像	37
8.1.3	音声	58
8.2	ネットワーク	61
8.2.1	基本	61
8.2.2	詳細設定	73
8.3	ストレージ	87
8.3.1	ストレージ管理	87
8.3.2	録画設定	89
8.3.3	スナップショット設定	91
8.3.4	エクスプローラー	93
8.4	イベント	94
8.4.1	基本イベント	95
8.4.2	VCA イベント	105
8.4.3	物体カウント	128
8.4.4	ヒートマップ	149
8.4.5	顔キャプチャ	156
8.4.6	ワンクリック解除	160
8.5	システム	162
8.5.1	システム設定	162
8.5.2	セキュリティ	164
8.5.3	ログ	172
8.5.4	メンテナンス	175
第9章	サービス	180

第1章 はじめに

1.1 著作権表示

本マニュアルは、Milesight IoT Co., Ltd（以下「Milesight」といいます）の書面による事前の許可なく、翻訳、改変、翻案などの派生作品を作成するために、いかなる形式または手段によっても複製することはできません。

Milesight 当社は、事前の通知なしに本マニュアルおよび仕様を変更する権利を留保いたします。すべてのMilesight製品の最新仕様およびユーザードキュメントは、公式ウェブサイト <http://www.milesight.com>でご覧いただけます。

1.2 安全に関する注意事項

本注意事項は、ユーザーが製品を正しく使用し、危険や財産の損失を避けることを目的としています。注意事項は「警告」と「注意」に分類されています。

警告：これらの警告を無視した場合、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

- ・本製品の設置は、資格を有するサービス担当者によって行われ、現地の電気安全規制を厳守する必要があります。
- ・火災や感電の危険を避けるため、設置前は製品を雨や湿気から遠ざけてください。
- ・ヒートシンク、電源レギュレータ、プロセッサなどの部品は高温になる可能性がありますので、触れないでください。
- ・DC/AC 12V または PoE 電源をご使用ください。
- ・プラグが電源コンセントに確実に差し込まれていることをご確認ください。
- ・壁や天井に設置する場合は、装置をしっかりと固定してください
- ・製品が正常に動作しない場合は、販売店にお問い合わせください。カメラを分解しようとしてください。

ご注意：これらの注意事項を無視すると、怪我や機器の損傷の原因となる可能性があります。

- ・カメラをご使用になる前に、電源電圧が正しいことを必ずご確認ください
- ・極端な高温・低温環境、ほこりや湿気の多い場所での保管・設置は避け、強い電磁波にさらさないでください
- ・メーカー推奨の部品のみをご使用ください
- ・カメラを落下させたり、物理的な衝撃を与えないでください

- 熱がこもるのを防ぐため、カメラ周辺の空気の流れを妨げないでください。
- レーザー光線はイメージセンサーを損傷する恐れがあります。レーザー光線機器が使用されている場所では、イメージセンサーの表面を露出させないでください。
- レンズカバーのほこりは、ブロワーで取り除いてください。
- カメラの表面の清掃には、柔らかい乾いた布をご使用ください。頑固な汚れは、少量の洗剤溶液を浸した柔らかい布で拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。
- アルコール、ベンゼン、シンナーなどの揮発性溶剤は、表面仕上げを損傷する恐れがありますので、使用しないでください。
- 将来の輸送に備えて、輸送用コンテナが利用できるよう、パッケージは保管しておいてください。

1.3 EU 適合性に関する声明

2012/19/EU (WEEE 指令): この記号が付いている製品は、欧州連合では一般廃棄物として処分することはできません。適切なリサイクルのために、同等の新しい機器を購入した際には、この製品を販売店に返却するか、指定の回収場所に廃棄してください。詳細については、www.recyclethis.info をご覧ください。

1.4 改訂履歴

表 1.

バージョン	改訂内容	公開日
V1.0	初回リリース	2025年7月

第2章 製品概要

2.1 製品概要

Milesightは、お客様のあらゆるご要望にお応えするため、一貫してコストパフォーマンスに優れた信頼性の高いネットワークカメラを提供しております。組み込みLinuxオペレーティングシステムを基盤とするMilesightネットワークカメラは、高い信頼性をもって、ローカルまたはリモートから容易にアクセスおよび管理が可能です。高性能DSP映像処理モジュールを内蔵し、低消費電力と高い安定性を誇ります。最先端のH.265/H.264/MJPEG映像圧縮アルゴリズムと業界をリードするHDデュアルストリーム技術をサポートし、限られたネットワークリソース下でも最高レベルの映像品質を実現します。柔軟かつ包括的なアラーム連動機構、昼夜自動切替、プライバシーマスキングなど、充実した機能を備えております。

実際の運用においては、MilesightネットワークカメラはLAN内で単独で動作することも、ネットワーク接続により強力な安全監視システムを構築することも可能です。セキュリティ対策のため、金融、教育、工業生産、防災、医療などの分野で広く活用されています。

2.2 システム要件

本製品を正常にアクセス・操作するためには、お使いのコンピュータが以下のシステム要件を満たしていることをご確認ください。

オペレーティングシステム : Windows XP/Windows 7/8/10/11/Server 2000/Windows Server 2008

CPU : 1.66GHz以上

RAM : 1GB以上

グラフィックメモリ : 128MB以上

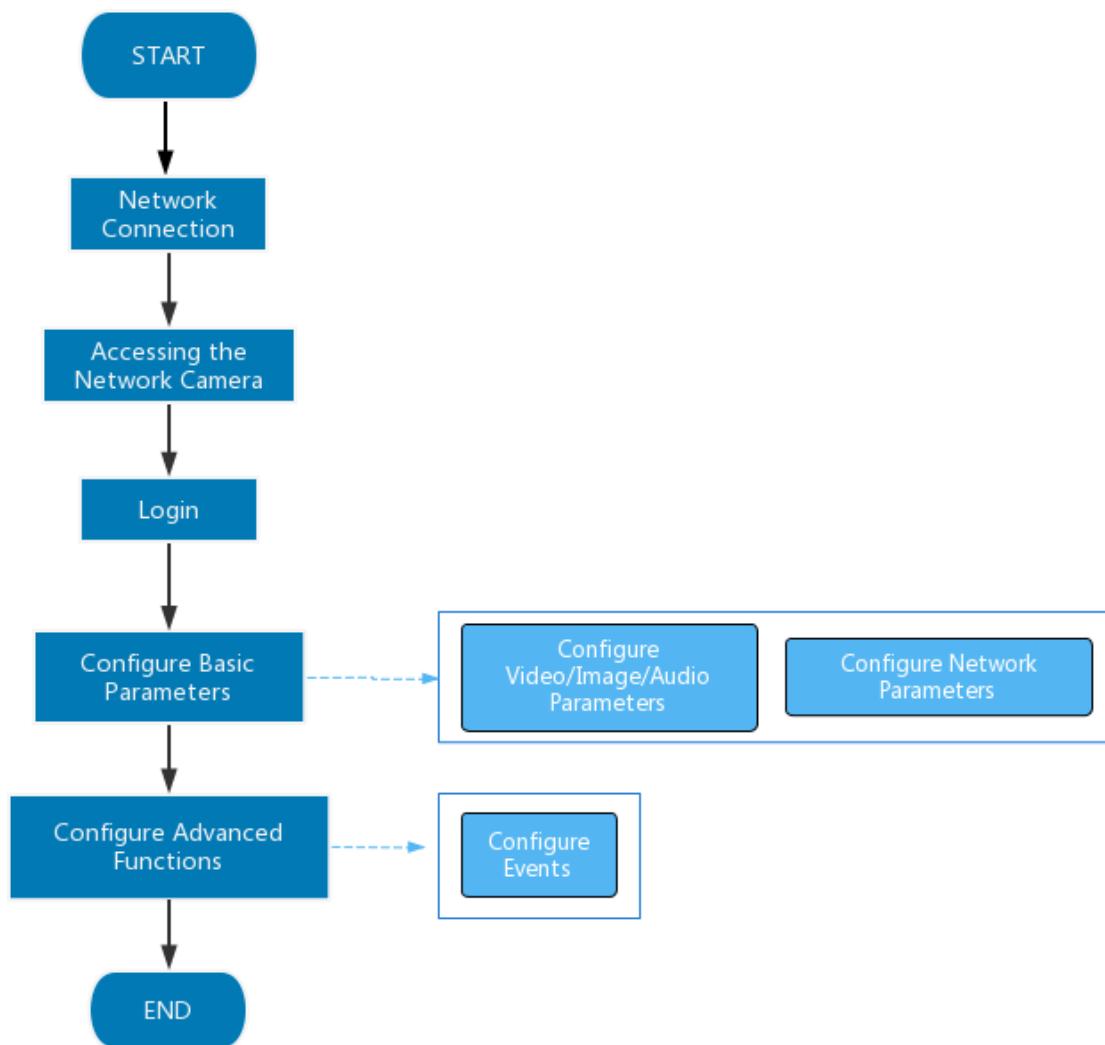
インターネットプロトコル : TCP/IP (IPv4/IPv6)

ウェブブラウザ : Microsoft Edge/Google Chrome/Safari/Mozilla Firefox ブラウザに対応

第3章 設定フロー

カメラの設定フローは下記の図に示しております。

 **注記 :** 設定は、各モデルの実際の状況に基づいて行う必要があります。



より詳細な設定内容は、下記の表に示します。

表2. フローの説明

ネットワークカメラ ユーザーマニュアル | 3 - 設定フロー | 8

設定	説明	参照
ネットワーク接続	ネットワークカメラを接続します。LAN 経由またはダイナミックIP接続でカメラを設定できます。	4.1 LAN 経由でのカメラ設定 (9 ページ)
ネットワークカメラへのアクセス	IPアドレス、ウェブブラウザ、および Milesightバックエンドソフトウェアからのアクセスが可能です。	5.1 IP アドレスの割り当て (11 ページ)
基本パラメータの設定	カメラにログイン後、必要に応じてビデオ/画像/オーディオ/ネットワークパラメータを調整できます。	8.1 メディア (34ページ) 8.2 ネットワーク (60ページ)
高度な機能の設定	VCA や人数のカウントなど、高度な機能を設定します。	8.4 イベント (94ページ)

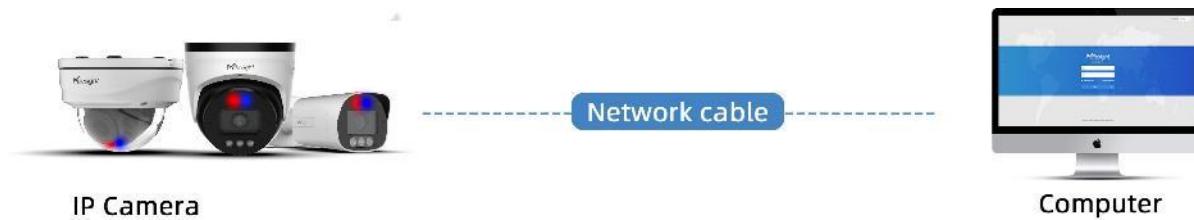
第4章 ネットワーク接続

4.1 LAN 経由でのカメラの設定

カメラをスイッチまたはルーターに接続するのが、最も一般的な接続方法です。カメラには、その LAN と互換性のある IP アドレスを割り当てる必要があります。

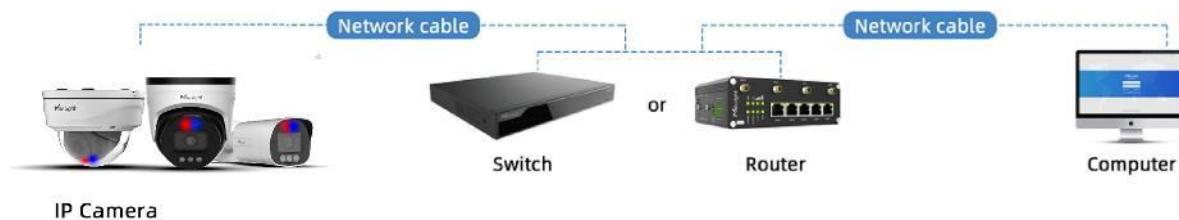
4.1.1 カメラを PC に直接接続する

この方法では、カメラに接続されたコンピューターのみがカメラを閲覧できます。カメラには、コンピューターと互換性のあるIPアドレスを割り当てる必要があります。詳細は以下の図に示されています。



4.1.2 スイッチまたはルーター経由での接続

スイッチまたはルーター経由でLAN上にネットワークカメラを設定するには、以下の図をご参照ください。



4.2 ダイナミックIP接続

ステップ1：ネットワークカメラをルーターに接続してください。

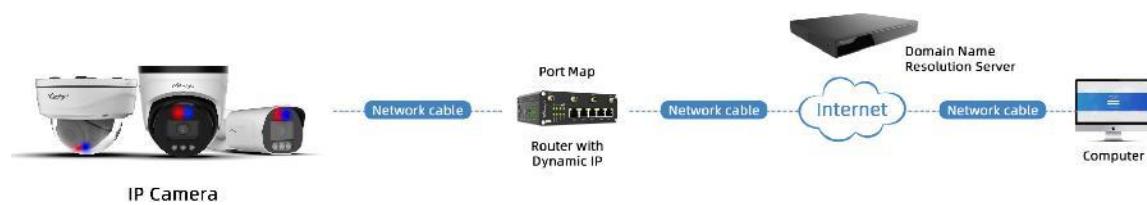
ステップ2：カメラ上で、LAN IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイを設定してください。

ステップ3：ルーターでポート転送を設定します。例：80、8000、554ポート。ポート転送の手順はルーターによって異なります。ポート転送の設定方法については、ルーターの取扱説明書をご参照ください。

ステップ4：ドメイン名プロバイダーからドメイン名を適用してください。

ステップ5：ルーターの設定画面でDDNS設定を行ってください。

ステップ6：ドメイン名を使用してカメラにアクセスします。



第5章 ネットワークカメラへのアクセス

5.1 IPアドレスの割り当て

ネットワークカメラは、ネットワーク上でアクセス可能にするためにIPアドレスを割り当てる必要があります。デフォルトでは、カメラはDHCPが有効になっており、自動的にIPアドレスを取得しようとします。

DHCP通信が30秒以内に失敗した場合、カメラはデフォルトの静的IPアドレスに切り替わります：

192.168.5.190

カメラのIPアドレスは、**Milesight Smart Tools**を使用するか、ウェブブラウザから直接変更できます。

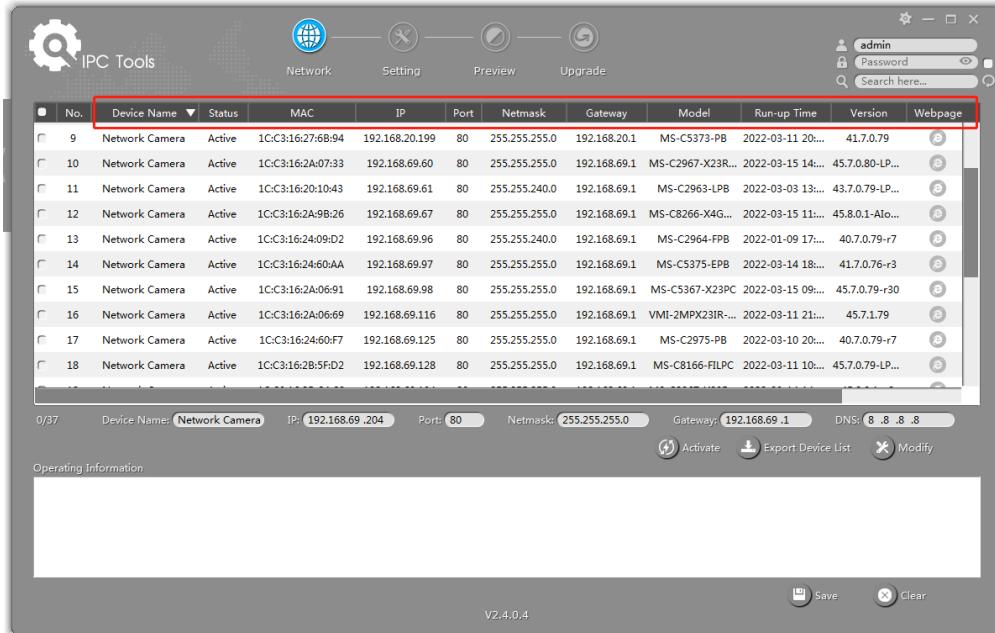
 **ご注意**：カメラがお客様のコンピューターと同じLANに接続されていることをご確認ください。

5.1.1 Smart Toolsを使用したIPアドレスの割り当て

Smart Toolsは、LAN内の複数のオンラインMilesightネットワークカメラを自動検出、IPアドレス設定、ファームウェアアップグレード管理が可能なソフトウェアツールです。複数のカメラにIPアドレスを割り当てる際に推奨されます。

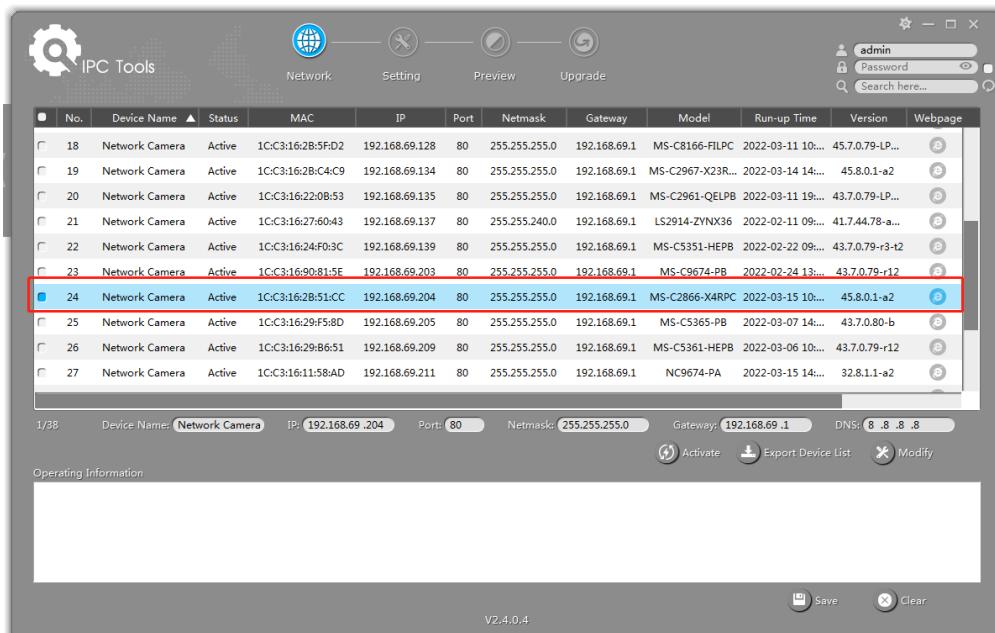
ステップ1 : Smart Toolsをインストールします（ソフトウェアは弊社ウェブサイトからダウンロード可能です）。

ステップ2 : Smart Toolsを起動し、「IPC Tools」ページをクリックします。その後、IPアドレス、MACアドレス、ステータス、ポート番号、ネットマスク、ゲートウェイなどのデバイス情報を入力すると、同一ネットワーク内の関連するすべてのMilesightネットワークカメラが表示されます。詳細は下図の通りです。

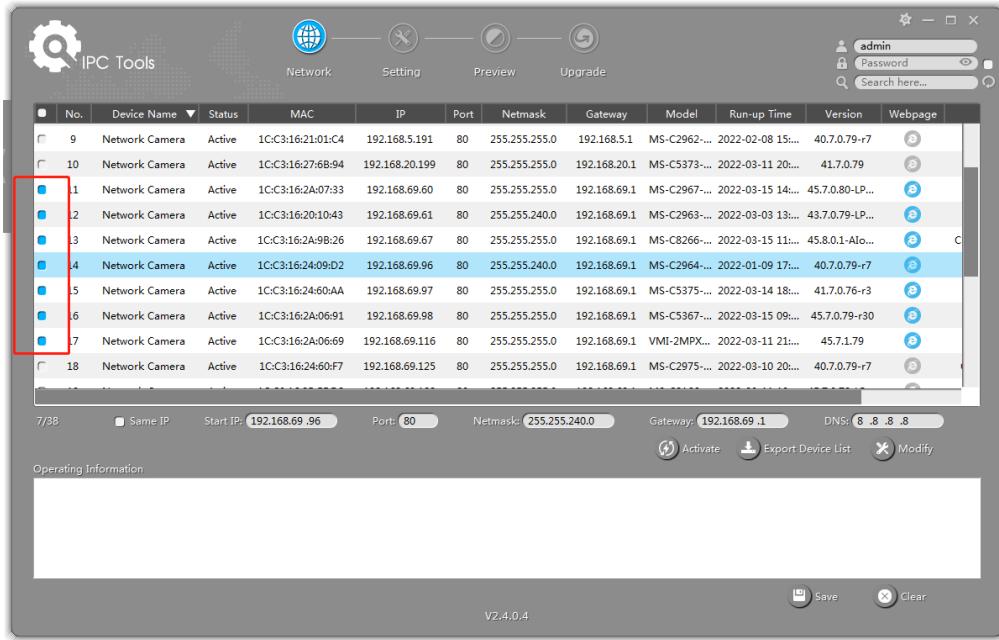


ステップ3 : MACアドレスに基づき、1台または複数のカメラを選択します。

单一カメラの選択 :



複数カメラの選択 :

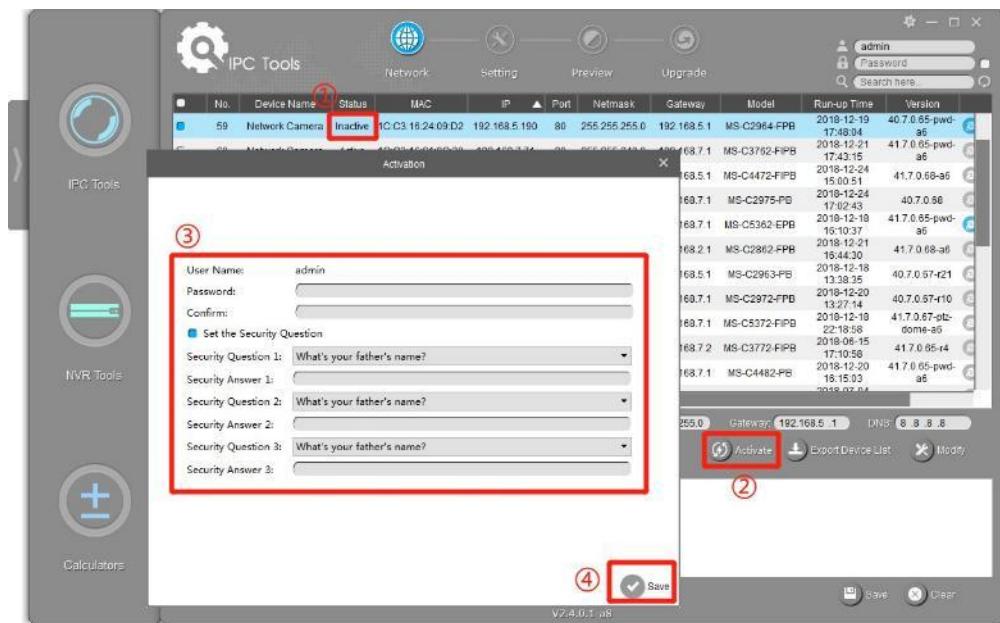


ステップ4 : 選択したカメラのステータスバーに「Inactive」と表示されている場合、初回使用時には「Activate」をクリックしてパスワードを設定してください。また、パスワードを忘れた場合に備え、カメラのアクティベート時にセキュリティ質問を設定することも可能です（3つのセキュリティ質間に正しく回答することでパスワードをリセットできます）。

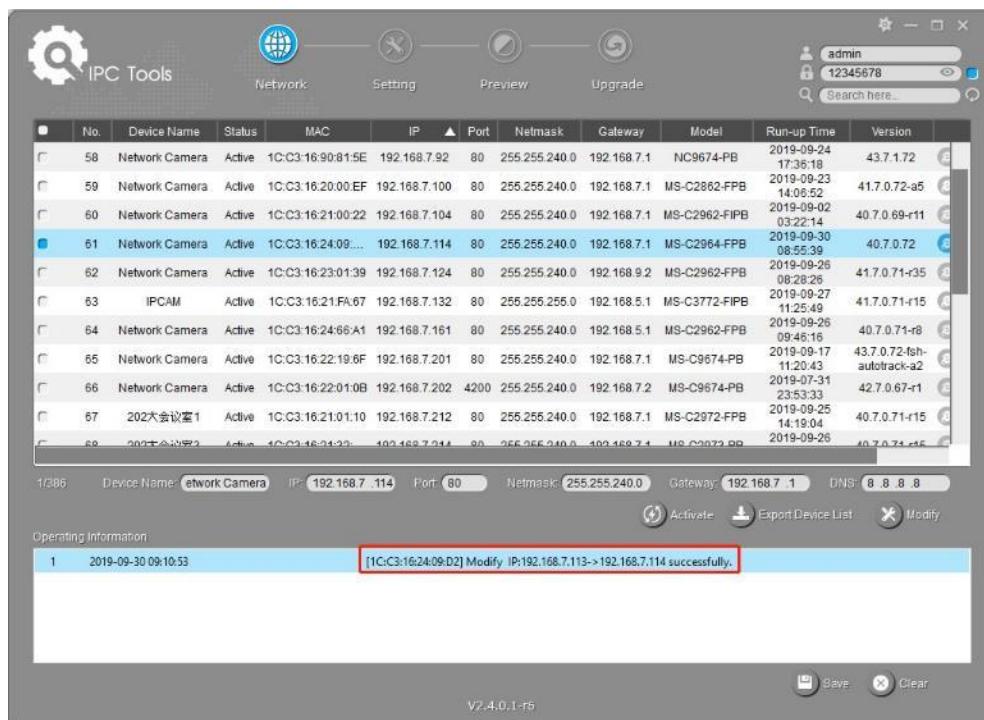
「Save」をクリックすると、アクティベートが成功したことを示すメッセージが表示されます。

ご注意:

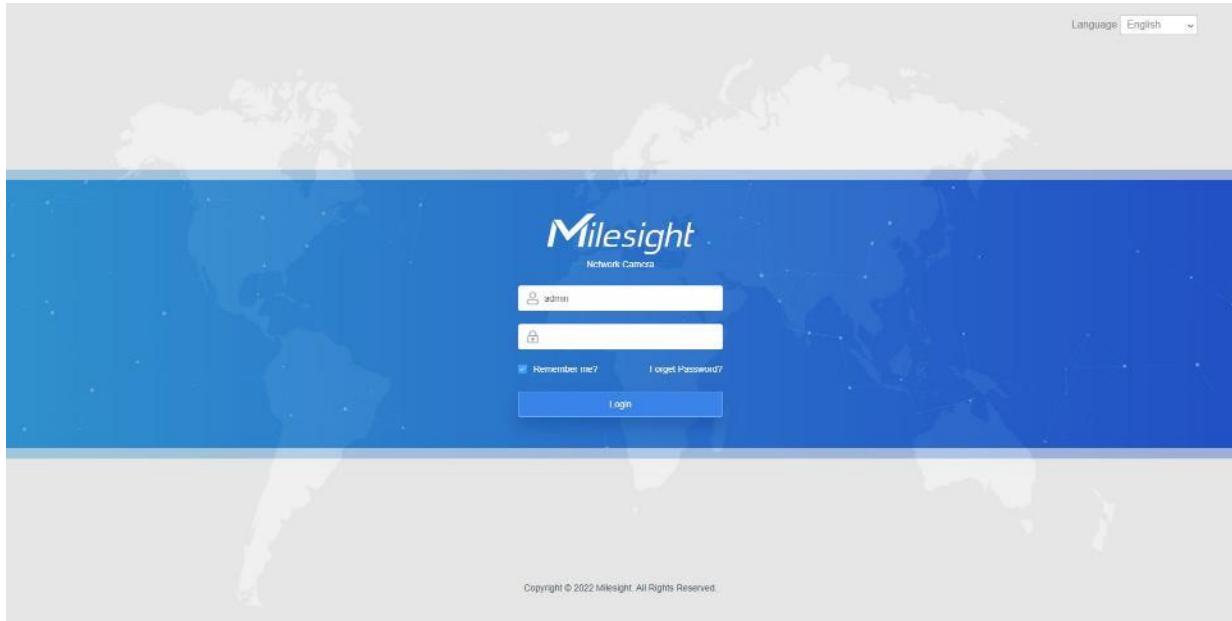
- ・パスワードは8文字以上32文字以内で、数字と英字をそれぞれ1つ以上含める必要があります。
- ・カメラをアクティベートするには、Smart ToolsのバージョンをV2.4.0.1以上にアップグレードする必要があります。



ステップ5: アクティベーション後、IPアドレスやその他のネットワーク設定を変更し、「Modify」ボタンをクリックしてください。



ステップ6：選択したカメラまたは対象カメラのブラウザをダブルクリックすると、ウェブブラウザから直接カメラにアクセスできます。Internet Explorerのウィンドウが表示されます。



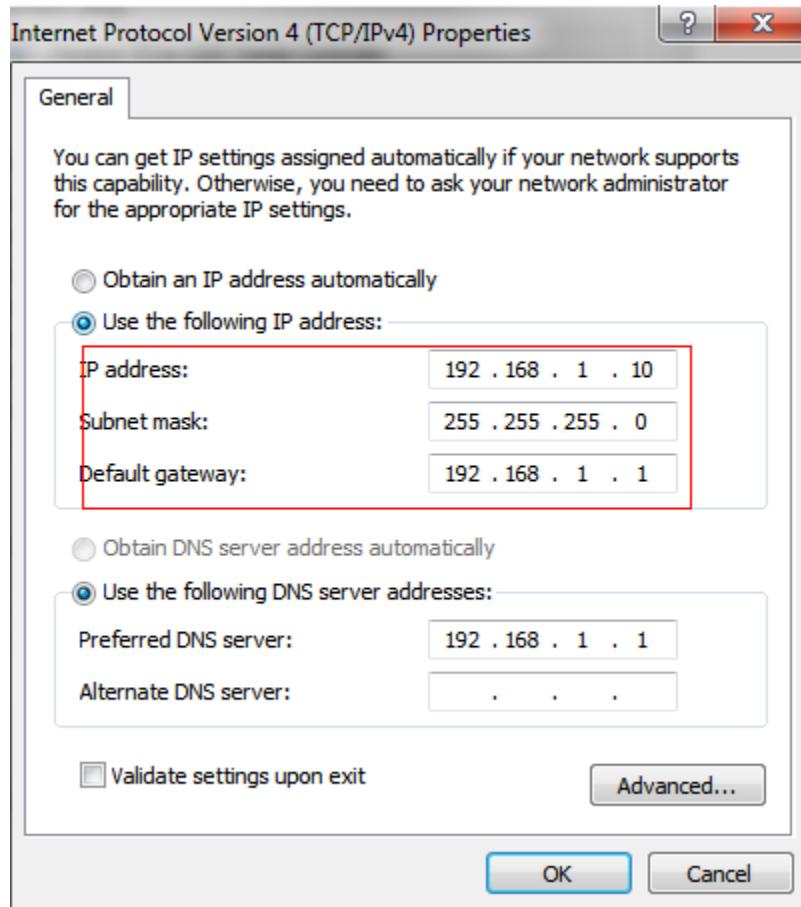
スマートツールの詳細な使用方法につきましては、[スマートツール取扱説明書](#)をご参照ください。

5.1.2 ブラウザ経由でのIPアドレスの割り当て

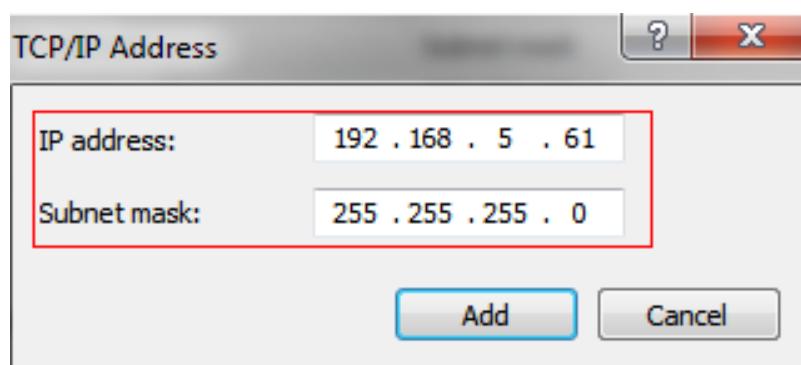
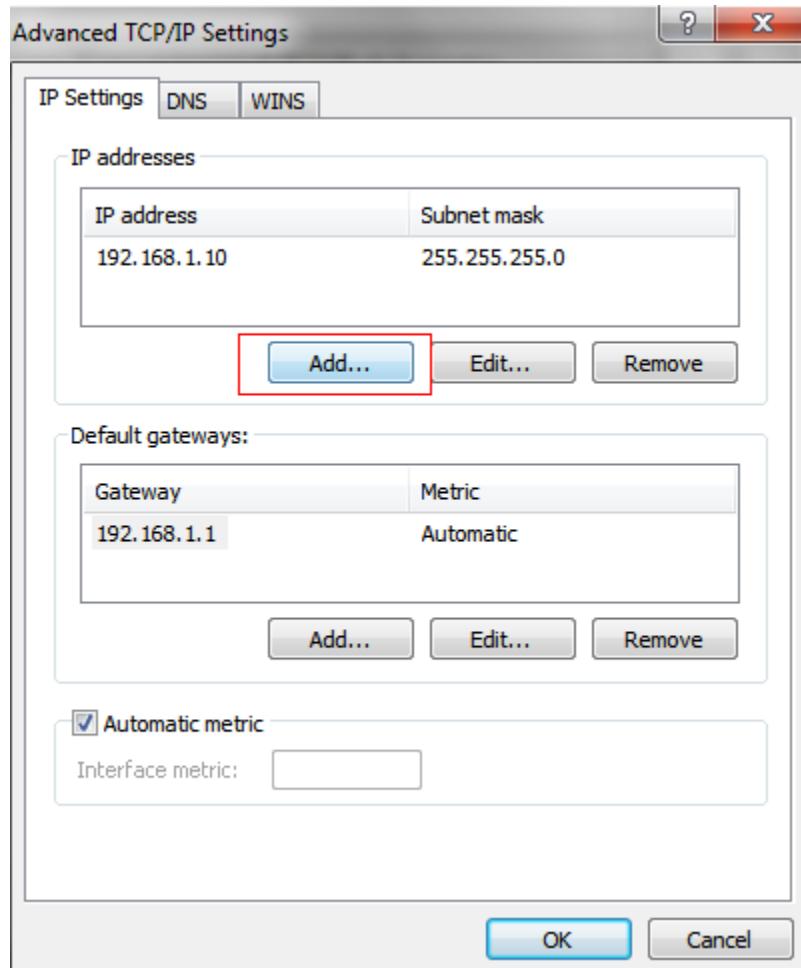
お使いのコンピュータとカメラのネットワークセグメントが異なる場合、以下の手順でIPアドレスを変更してください：

手順1：コンピューターのIPアドレスを192.168.5.0セグメントに変更します。以下の2つの方法があります：

- スタートメニュー→コントロールパネル→ネットワークとインターネット接続→ネットワーク接続→ローカルエリア接続をダブルクリックします。



- b. 「詳細設定」をクリックし、「IPの設定」→「IPアドレス」→「追加」をクリックします。表示されるウィンドウに、Milesightネットワークカメラと同じセグメントのIPアドレス（例：192.168.5.61）を入力してください（ただし、既存ネットワーク上のIPアドレスと重複しないようご注意ください）。



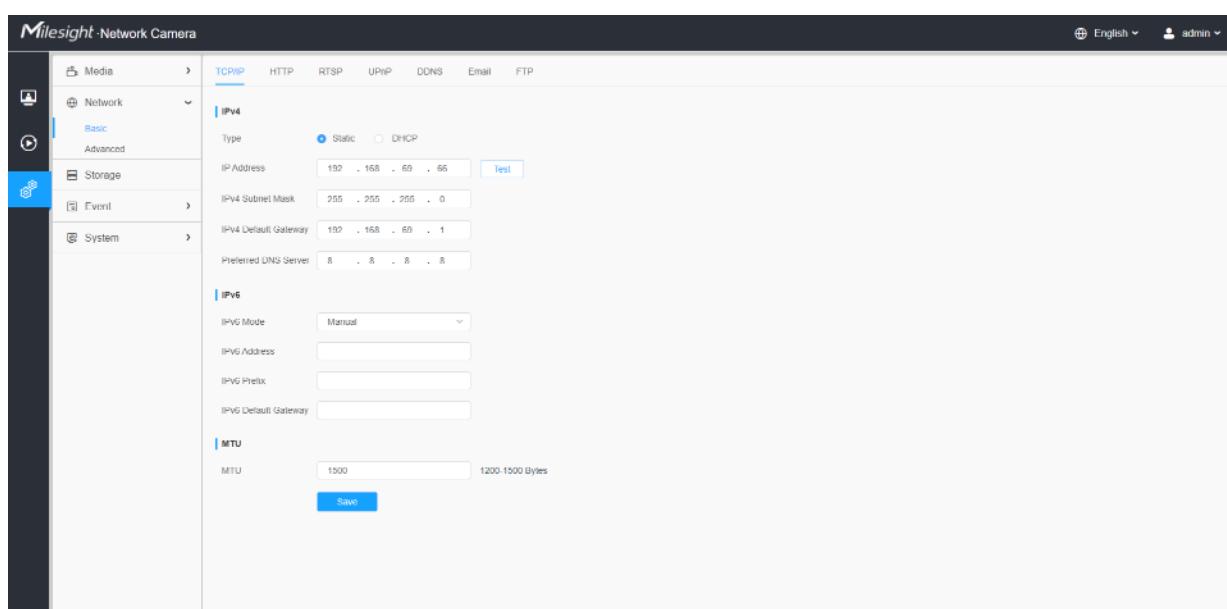
ステップ2 : ブラウザを起動します。アドレスバーにカメラのデフォルトIPアドレス<http://192.168.5.190>を入力してください。

ステップ3 : 初回ご利用時には、まずパスワードの設定が必要です。また、起動後にデバイス用のセキュリティ質問を3つ設定することも可能です。その後、ユーザー名（admin）と任意のパスワードでカメラにログインできます。

 ご注意：

- パスワードは8文字以上32文字以内で、数字と英字をそれぞれ1つ以上含める必要があります。
- パスワードを忘れた場合、事前にセキュリティ質問を設定していれば、ログイン画面の「**forget password**」をクリックし、3つのセキュリティ質問に回答することでパスワードをリセットできます。

ステップ4：ログイン後、“Settings” --> “Network” --> “Basic” --> “TCP/IP”を選択してください。ネットワーク設定ページが表示されます（下図参照）。



ステップ5：IPアドレスや他のネットワーク設定値を変更してください。その後、「Save」ボタンをクリックしてください。

ステップ6：デフォルトIPアドレスの変更が完了しました。

5.2 ウェブブラウザからのアクセス

本カメラは、主要なオペレーティングシステムおよびブラウザでご利用いただけます。また、プラグイン不要モードに対応するようアップグレードされました。プラグイン不要モードでは、プラグインなしでブラウザ上で映像をプレビューできます。現在、プラグイン不要モードはWindowsシステム、MACシステム、iOSシステム、Androidシステム向けのFirefox、Google Chrome、Safari、Edgeブラウザでサポートされています。カメラのプラグイン不要モードではH.265とH.264の両方のビデオコーデックがサポートされており、デフォルトではセカンダリストリームが再生されます。

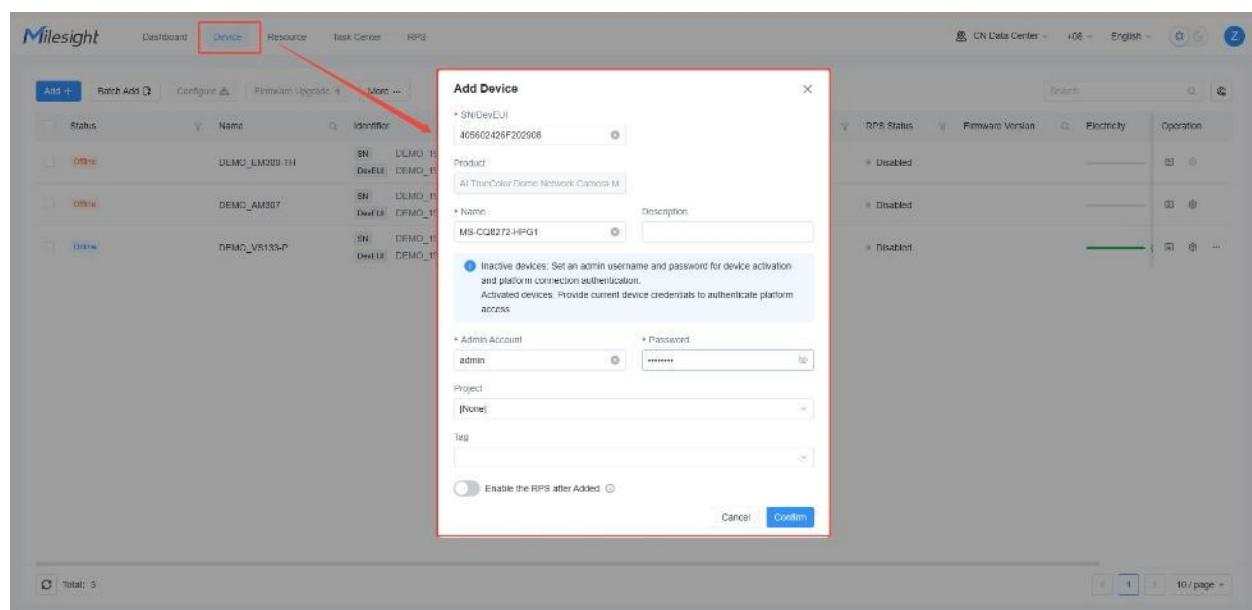
 ご注意：

- Milesightカメラのプラグインフリーモードの設定に関する詳細は、
<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643388>をご参照ください。

5.3 Milesightデバイスポータルからのアクセス

Milesightデバイスポータルは、運用・保守チームが多数のデバイスを容易に接続、管理、操作できる集中管理プラットフォームです。インターネット経由のリモート操作をサポートし、ユーザーがデバイスのライフサイクル全体を効率的に管理することを可能にします。

ご利用開始にあたっては、まずMilesightデバイスポータルにログインいただき、デバイスマジュールよりカメラを追加してください。詳細な手順につきましては、**Milesightデバイスポータルユーザーマニュアル**をご参照ください。



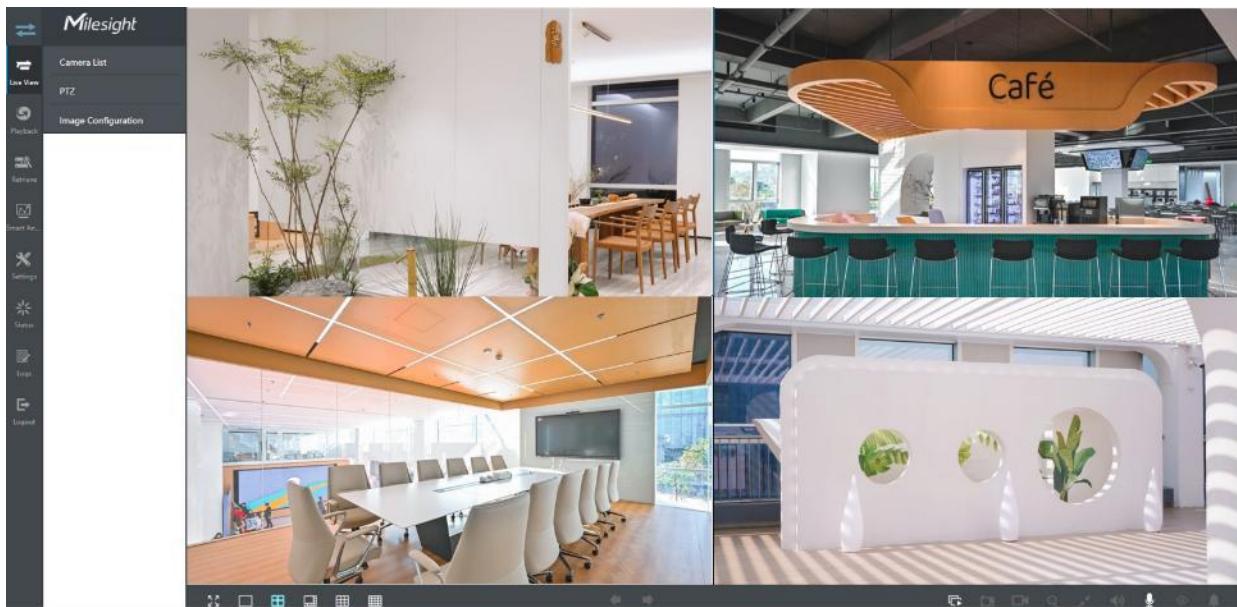
5.4 Milesight バックエンドソフトウェアからのアクセス

5.4.1 Milesight NVR (ネットワークビデオレコーダー) からのアクセス

Milesight NVRシリーズは、Milesightネットワークカメラと連携して動作します。組み込みLinuxオペレーティングシステムを基盤とし、Milesight NVRシリーズはHDビデオデータの管理と保存を行います。マルチディスク管理システム、フロントエンドHDデバイス管理システム、HDビデオ分析システム、大容量ビデオシステムを備えています。また、高流量データネットワーク伝送技術を採用しています。

マルチチャンネル動画デコード機能により、インテリジェント管理、安全な保存、HDデコードなどの機能を実現しております。

Milesight NVRシリーズの詳しい操作方法につきましては、**Milesight NVRユーザーマニュアル**をご参照ください。

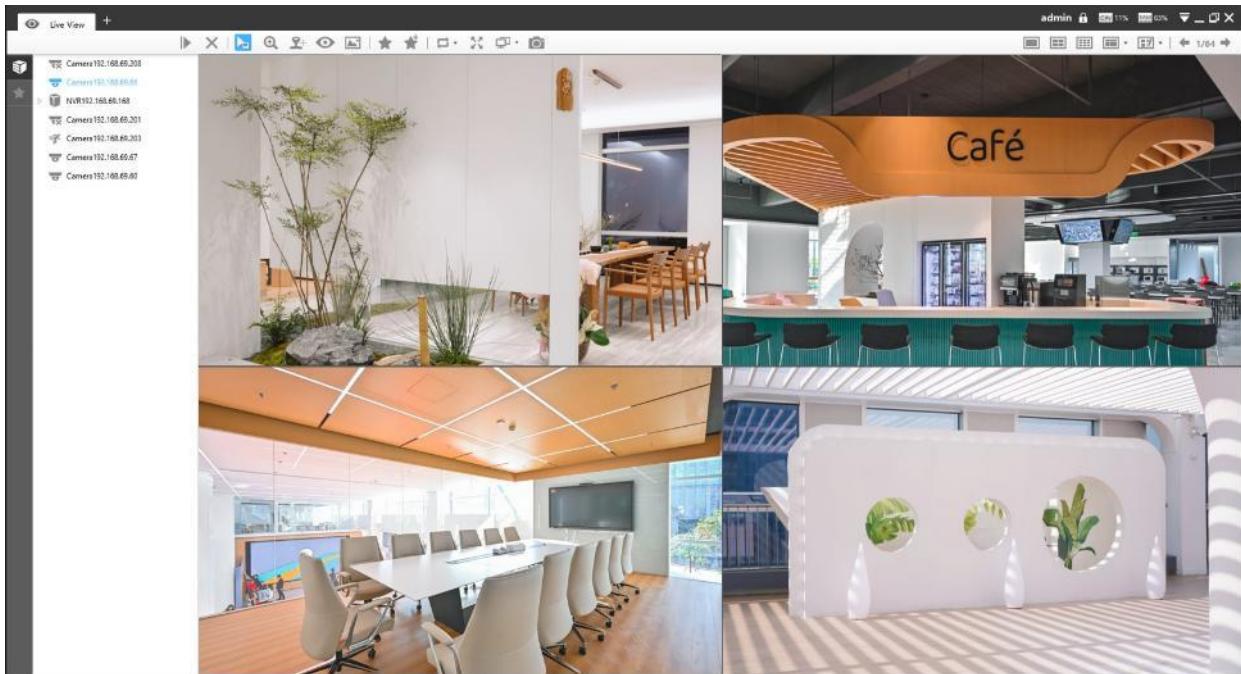


5.4.2 Milesight CMS（中央管理システム）からのアクセス

Milesight Central Management System (CMS) は、MilesightネットワークカメラおよびMilesight NVRのための中央管理システムです。最大256台のデバイスを制御し、より便利に遠隔プレビューや再生を行うためのインテリジェント監視ソリューションです。高効率な管理性能を備えたMilesight CMSソフトウェアは、このような集中管理システムにおいて優れた管理体験を提供します。

使いやすいUIデザインを特徴とするインテリジェント映像管理システムCMSは、あらゆるレベルのユーザーが簡単にソリューションを設定・導入できるように設計されています。さらに、E-map機能により、デバイスの空間的な分布をよりスマートに表示することができます。本ソフトウェアは当社[ウェブサイト](https://www.milesight.com/)
<https://www.milesight.com/> からダウンロードいただけます。

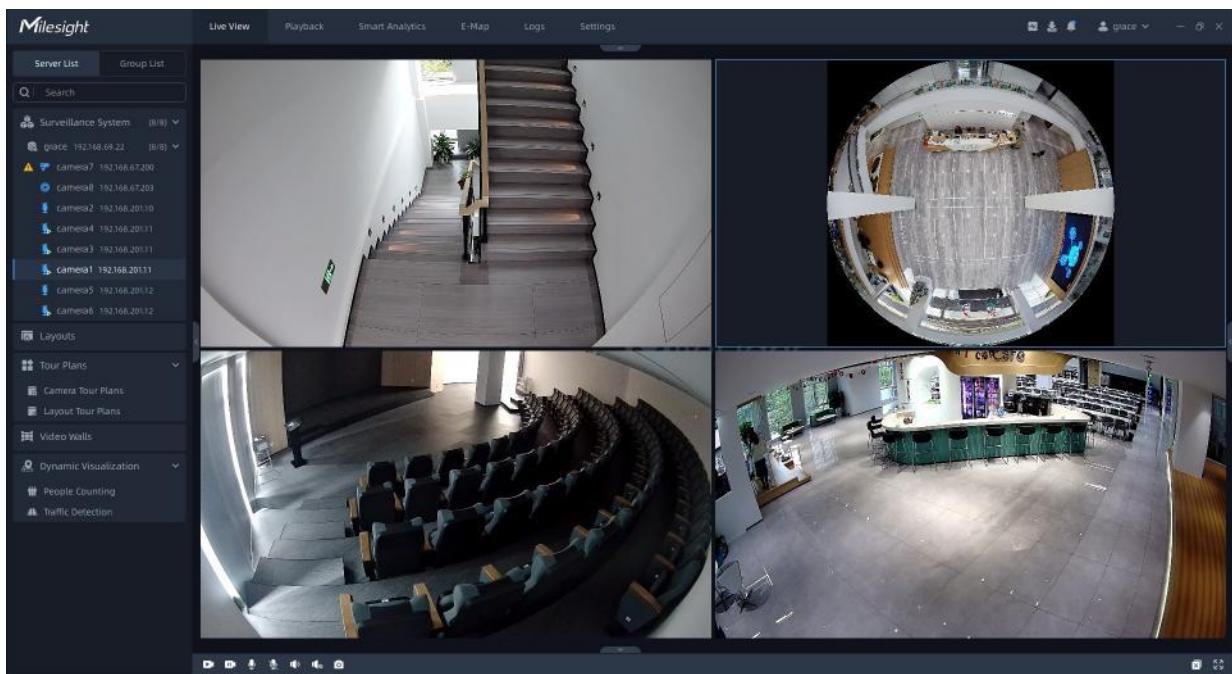
Milesight CMSをインストール後、プログラムを起動しカメラをチャンネルリストに追加してください。ソフトウェアの詳細な操作方法につきましては、**Milesight CMSユーザーマニュアル**をご参照ください。



5.4.3 Milesight VMS Enterprise (映像管理システム) からのアクセス

Milesight VMS Enterpriseは、企業向けのプロフェッショナルでインテリジェントな映像管理ソフトウェアです。当社のカメラと組み合わせることで、映像監視システムを簡素化・刷新いたします。先進的なC/Sアーキテクチャを採用し、ライブビュー、録画、E-Map、イベントアラーム、スマート分析など豊富なコア機能により、お客様の要求と期待にお応えします。ソフトウェアは当社[ウェブサイト](https://www.milesight.com/) <https://www.milesight.com/> よりダウンロードいただけます。

Milesight VMS Enterpriseをインストールしてください。その後、プログラムを起動し、カメラをチャンネルリストに追加してください。ソフトウェアの使用方法の詳細については、**Milesight VMS Enterprise**ユーザーマニュアルをご参照ください。



第6章 ライブビュー

6.1 ライブ映像

ネットワークカメラのWeb GUIに正常にログイン後、ユーザーは以下の方法でライブ映像を視聴できます。

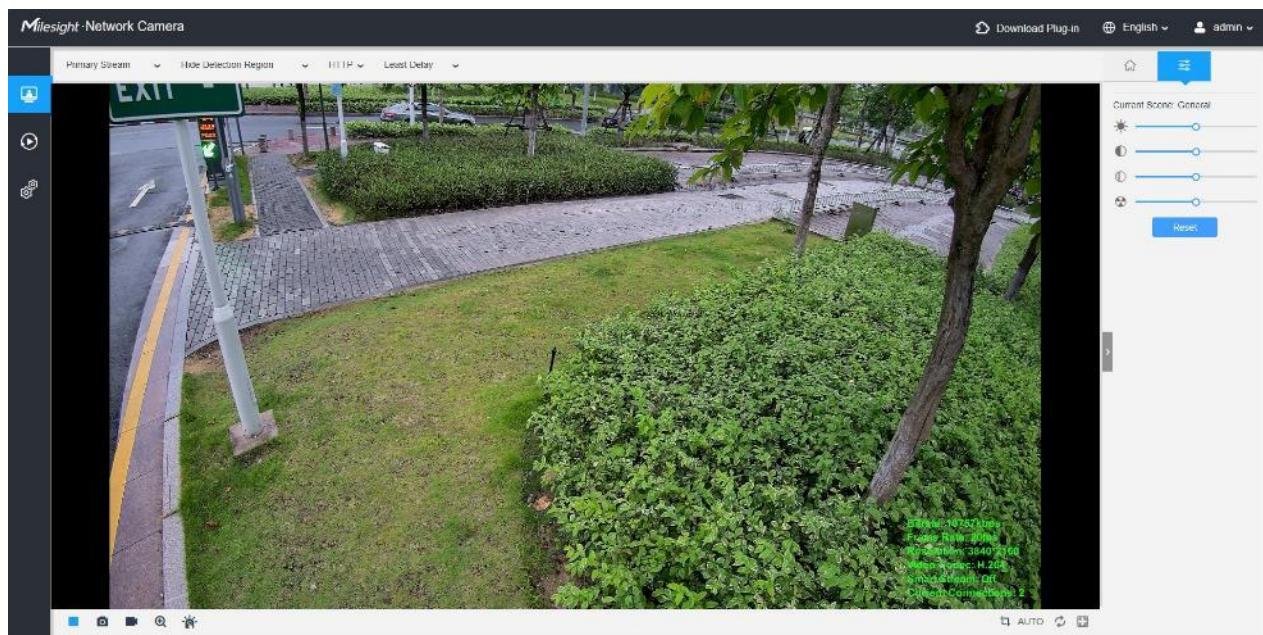


表 3. ボタン説明

番号	パラメータ	説明
1	ライブ動画	ライブビューページにアクセスするには、こちらをクリックしてください。
2	再生	再生ページにアクセスするには、こちらをクリックしてください。
3	設定	設定ページにアクセスするには、こちらをクリックしてください。

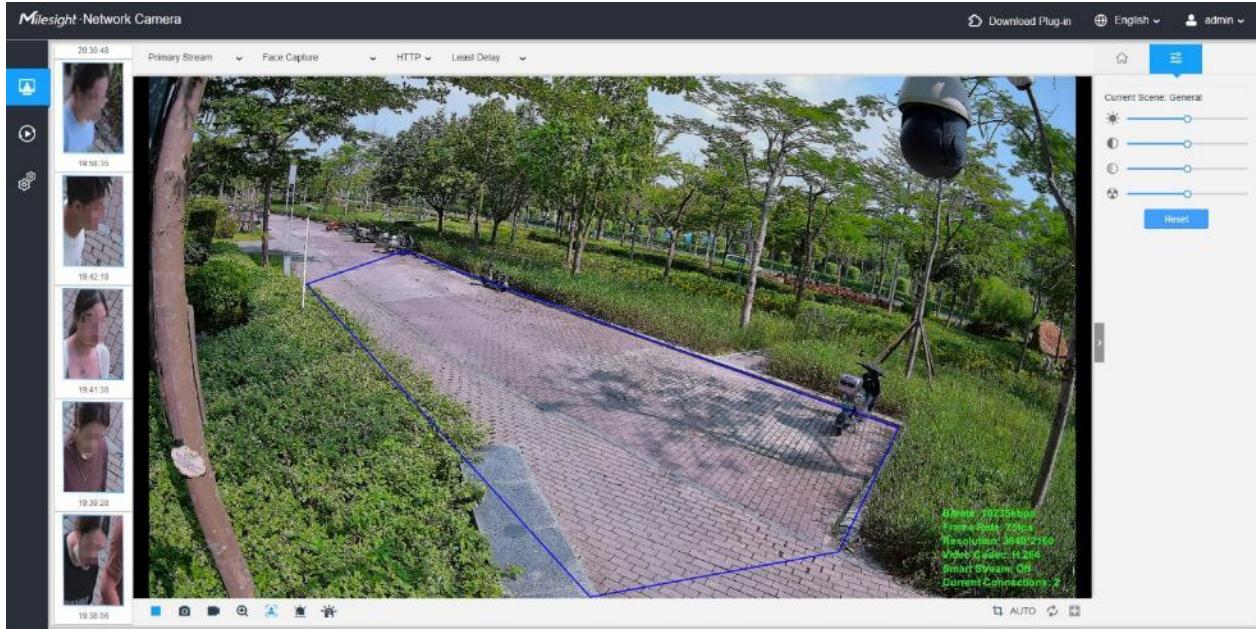
番号	パラメータ	説明
4		クリックしてシステム言語を選択してください。
5		ユーザー名を表示し、クリックするとログアウトします。
6	Primary Stream	現在の動画ウィンドウに表示するストリーム（プライマリ／セカンダリ）をお選びください。
7		現在のビデオウィンドウ上で検知領域を非表示/表示するオプション（検知領域の非表示/侵入検知/領域への進入/領域からの退出/高度な動き検知/ライン越え検知/徘徊検知/オブジェクトの残留/オブジェクトの除去/オブジェクトカウント/エリア別人数カウント）を選択します。
8		<p>TCP : より信頼性の高い接続です。</p> <p>UDP : より瞬時の接続ですが、ライブビューを正常に取得できない場合は、TCP接続に切り替えてください。</p> <p>HTTP : 特にインターネット環境において、より高速かつ安全な接続です。</p>
9		<p>Least Delay : 最も即時性の高いモードです。</p> <p>Balanced : 最小遅延と最高の滑らかさのバランスを取ったモードで、滑らかさを維持しつつ許容範囲の遅延を保ちます。</p> <p>Best Fluency : 最も滑らかなモードです。</p>
10		録画中は、アイコンが表示されます。

番号	パラメータ	説明
11	アラーム	VCAイベントのアラームがトリガーされた場合、アイコンが表示されます。
12	アラーム	オブジェクトカウントのアラームが作動した際、アイコンが表示されます。
13	アラーム	モーション検知のアラームが作動した際、アイコンが表示されます。
14	アラーム	上記のアラームの種類を除き、他のアラームが作動した際には、アイコンが表示されます。
15	停止/再生	ライブビューの 停止/再生 を行います。
16	スナップショット	現在の画像をキャプチャし、設定されたパスに保存するにはクリックしてください。デフォルトのパスは次のとおりです : C:\VMS\+-1\IMAGE-MANUAL。
17	画の開始/停止 録	クリックすると、ビデオの 録画を開始 し、設定されたパスに保存します。 デフォルトのパスは C:\VMS\+-1\MS_Record です。再度クリックすると 録画を停止 します。
18	デジタルズーム	有効にすると、マウスホイールを使用してビデオ画像の特定領域を拡大表示できます。
19	手動出力	カメラのアラーム出力を手動でトリガーします。

No.	パラメータ	説明
20	 ウィンドウサイズ	画像を表示するウィンドウサイズをクリックしてください。
21	 フルスクリーン	クリックすると画像を全画面表示します。
22	 顔認識	顔認識モードを有効にするには、こちらをクリックしてください。
23		クリックすると、検知エリア内の侵入者に対する視覚的な抑止力となる赤と青の点滅ライトが作動します。
	 壁/天井	クリックすると設置方法にアクセスできます。設置方法（壁用アルゴリズム／天井用アルゴリズム）に応じてAIアルゴリズムが変更されます。
		明るさ：シーンの明るさを調整します。
		コントラスト：色と光のコントラストを調整します。
		彩度：画像の彩度を調整します。彩度を高くすると色がより「鮮やか」に、低くすると「くすみ」がかった印象になります。
		シャープネス：画像のシャープネスを調整します。シャープネスを高くするとピクセル境界が鮮明になり、画像が「よりクリア」に見えます。
		2D DNR/3D DNR：ノイズリダクションのレベルを調整します。
		デフォルト：明るさ、コントラスト、彩度をデフォルト設定に戻します。

6.2 顔キャプチャモード

Milesightの顔キャプチャ機能は、監視シーン内の人間の顔のスナップショットを撮影します。これにより監視効率が大幅に向上し、公安、アクセス制御、業務管理など、多くの人々が関わる業界に有益です。

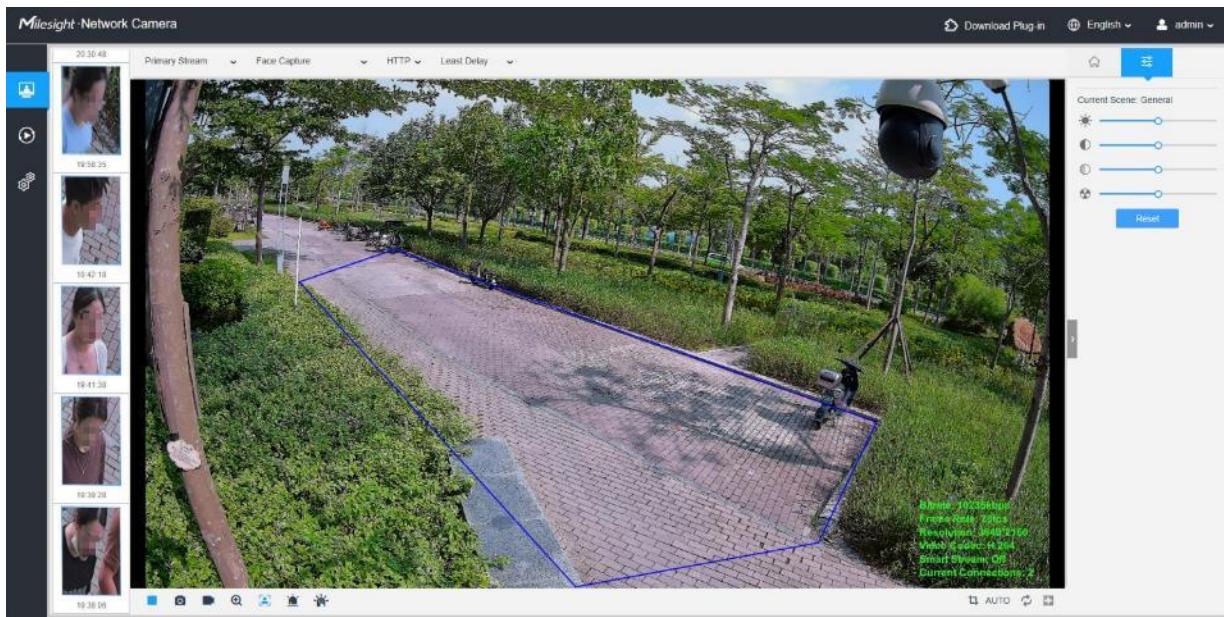


ステップ1: 顔検出モードを有効にするには、 をクリックしてください。カメラは、設定された領域と条件に基づき、ライブビューで顔を検出します。

ご注意: 顔検出モードを有効化する前に、顔検出機能が有効化され設定済みであることをご確認ください。顔検出の設定方法の詳細については、[8.4.5 顔検出 \(156ページ\)](#) をご参照ください。

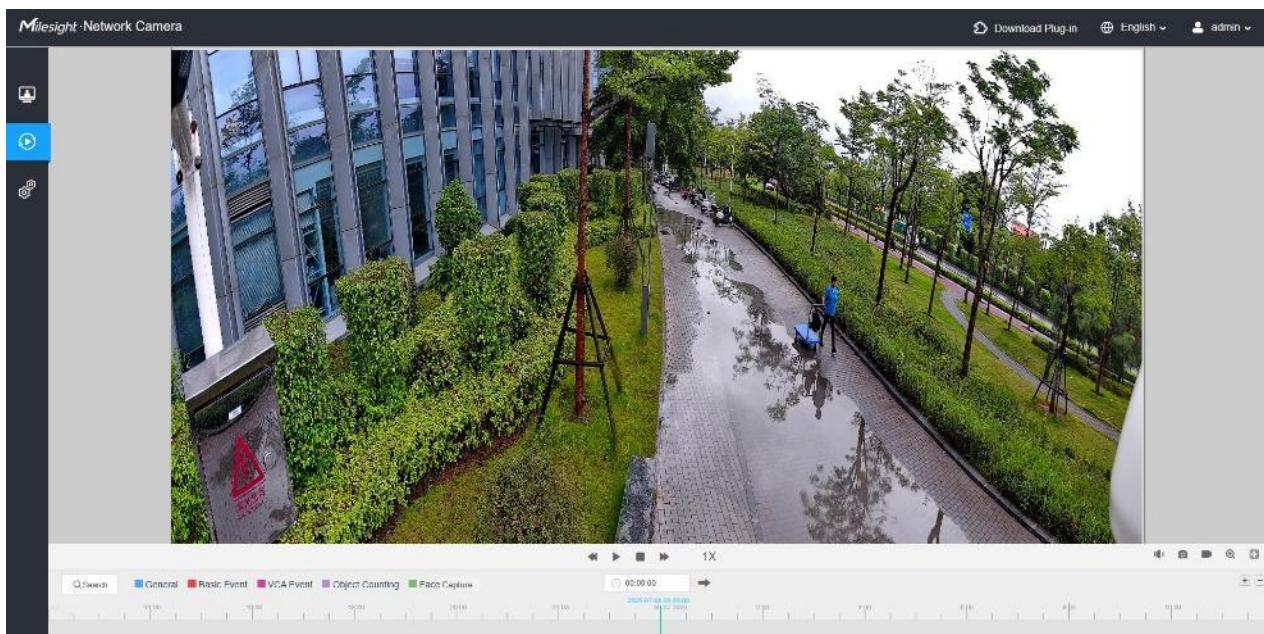
ステップ2: 顔が検出されると、ライブビュー画面の左側に表示されます。

ネットワークカメラ ユーザーマニュアル | 6 - ライブビュー | 28



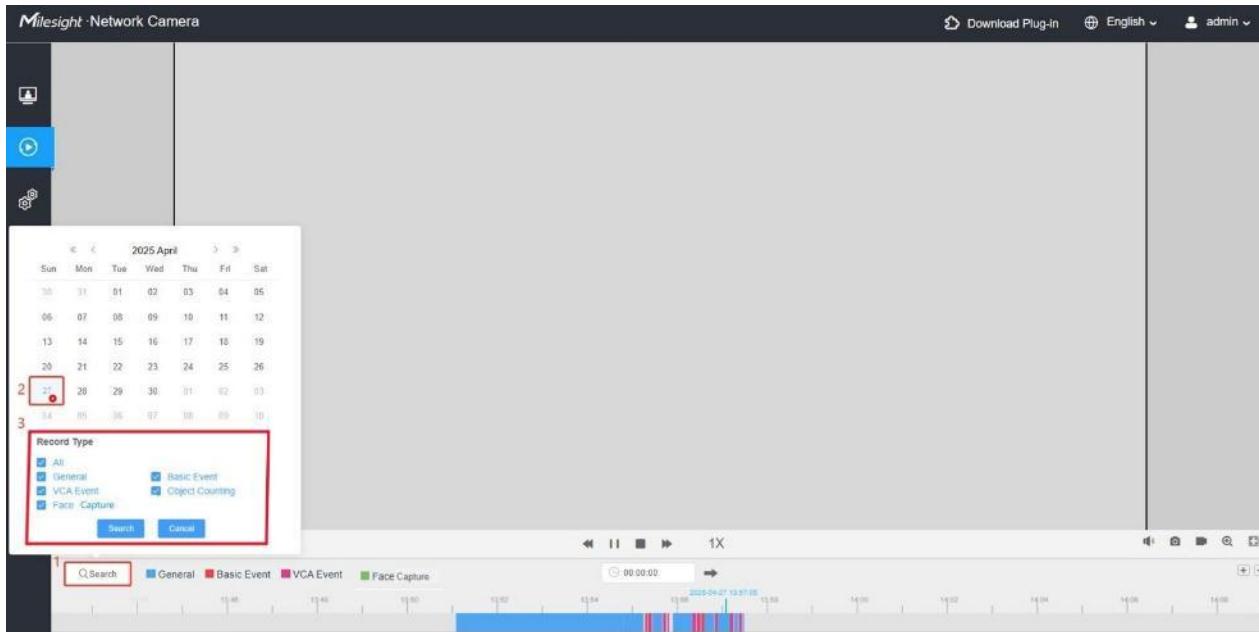
第7章 再生

「」をクリックすると再生画面に入れます。ここでは、SDカードまたはNASに保存された録画ファイルを検索・再生できます。再生画面は以下の通りです：



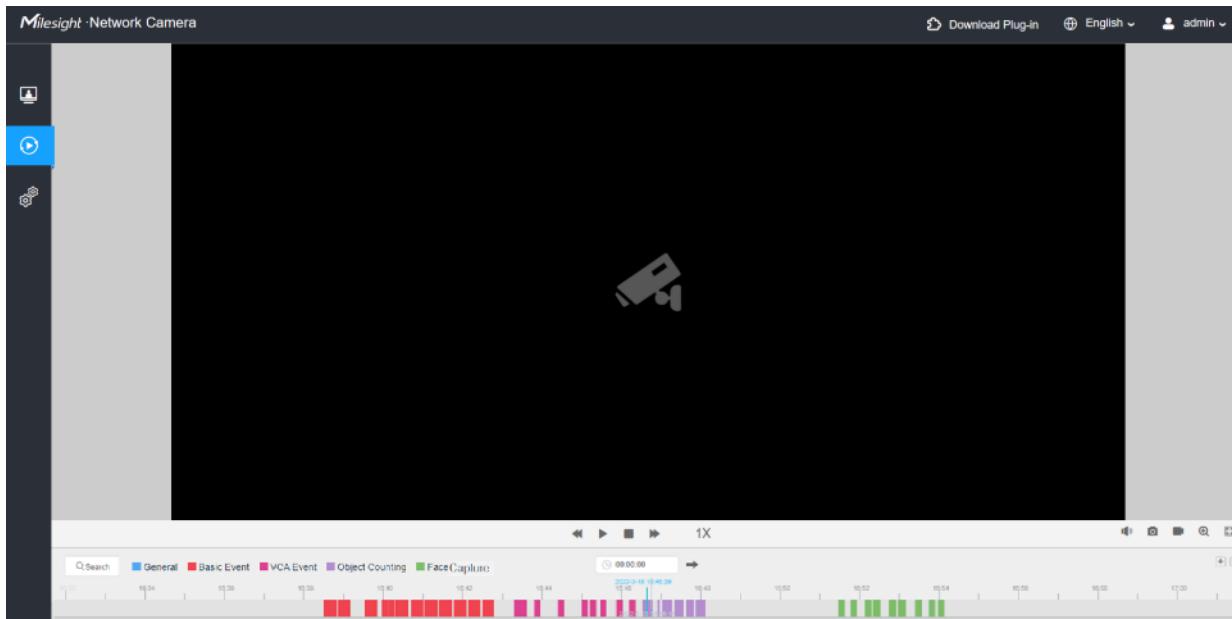
ステップ1: 「Search」ボタンをクリックし、表示されるウィンドウでデータと記録タイプを選択します。

 注記：録画がある日付には赤いアイコンが表示されますので、録画がある日付を素早く識別できます。



ステップ2：タイムラインにはその日の動画ファイルが表示され、選択した録画タイプに応じて異なる色で表示されます。必要に応じてマウスでプログレスバーをドラッグし、再生位置を正確に指定してください。

注記 : 時間を直接入力し、「」をクリックして再生位置を指定することも可能です。また、「」をクリックすると、プログレスバーの拡大・縮小操作が行えます。



ステップ3：再生ボタン (▶) をクリックすると、該当日付の動画ファイルが再生されます。再生画面下部のツールバーで再生進行を制御できます。

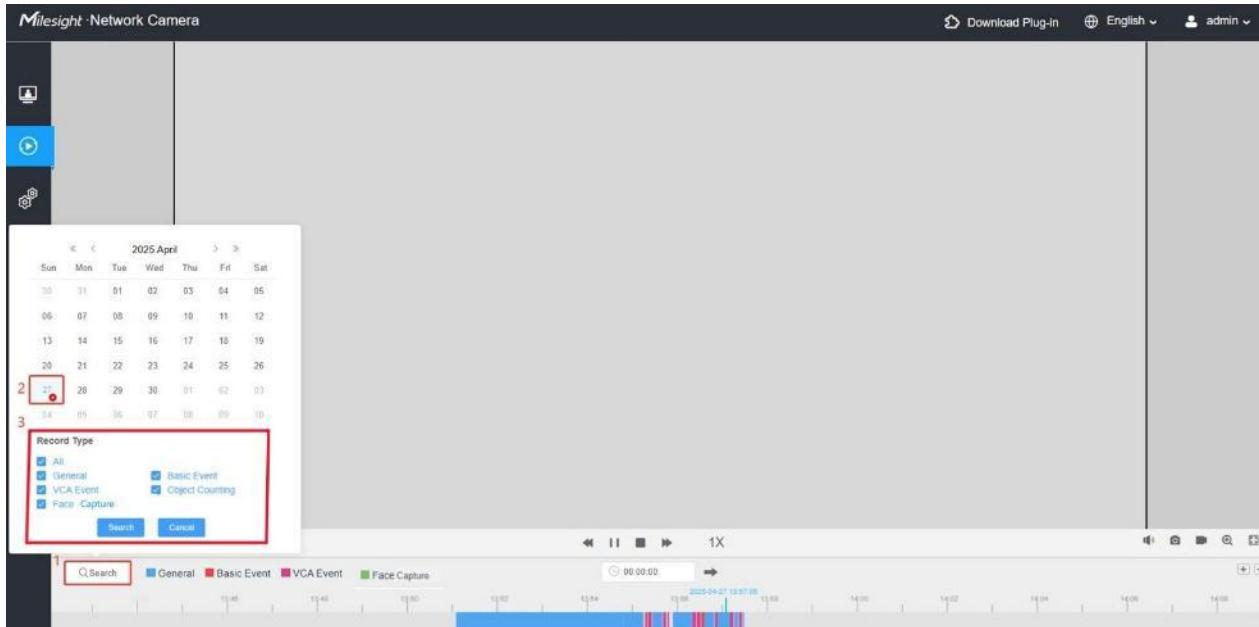


表4. ボタン説明

番号	パラメータ	説明
1	 <p>録画された動画を検索する日付をお選びください。</p> <p>録画された動画は、録画タイプ（全録画／一般／基本イベント／VCA イベント／物体計数／顔検出）で検索できます。タイムラインは、選択された録画タイプに応じて以下のように異なる色で表示されます：</p> 	
2	 <p>動画再生速度を調整します。</p> <p>速度ダウン：再生速度0.5倍および0.25倍が含まれます。</p> <p>速度アップ：再生時に2倍速と4倍速が含まれます。</p> <p>速度：デフォルトの再生速度は1倍速です。</p>	

番号	パラメータ	説明
2	再生/一時停止	動画の再生/一時停止を行います。
3	停止	動画を停止します。
4	00:00:00 検索時間	お探しの時間を選択してください。
5	ジャンプ	移動

表 5. ボタンの説明

番号	パラメータ	説明
1	ミュート	クリックすると音声が有効になります。
2	スナップショット	クリックするとスナップショットを撮影します。
3	録 音の開始/停止	クリックすると録画を開始／停止いたします。
4	デジタルズーム	クリックするとズームのオン/オフを切り替えます。

No.	パラメータ	説明
5	 フルスクリーン	フルスクリーン。
6	 時間 拡大/縮小	時間の絞り込み/拡大。

第8章 設定

8.1 メディア

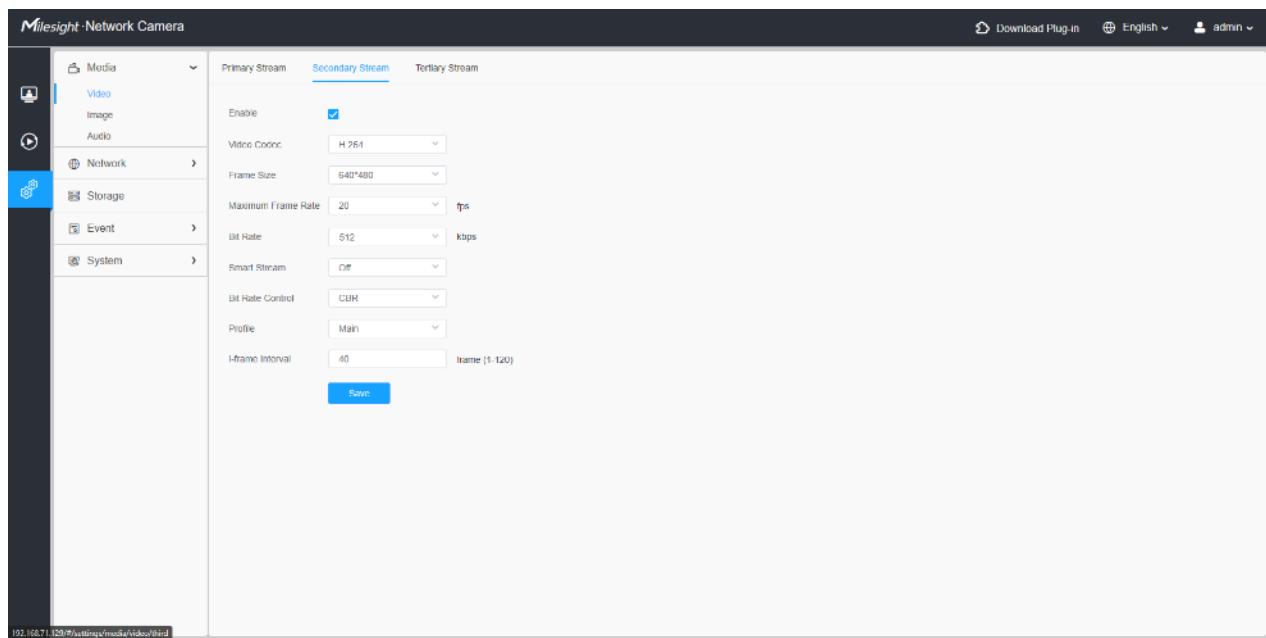
8.1.1 ビデオ

このモジュールでは、さまざまなネットワーク環境や要求に合わせて、ストリームのパラメータを設定することができます。

プライマリストリーム設定

The screenshot shows the Milesight Network Camera configuration interface. The left sidebar has a 'Media' section selected, with 'Video' highlighted. The main panel displays the 'Primary Stream' configuration. It includes tabs for 'General' and 'Event'. Under 'General', there are fields for 'Record Stream Type' (set to '—'), 'Enable' (unchecked), 'Video Codec' (set to 'H.264'), 'Frame Size' (set to '3840*2160'), 'Maximum Frame Rate' (set to '20 fps'), 'Bit Rate' (set to '10240 kbps'), 'Smart Stream' (set to 'Off'), 'Bit Rate Control' (set to 'CBR'), 'Profile' (set to 'Main'), and 'I-frame Interval' (set to '40 frame (1-120)'). A 'Save' button is at the bottom.

セカンダリーストリーム設定



三次ストリーム設定

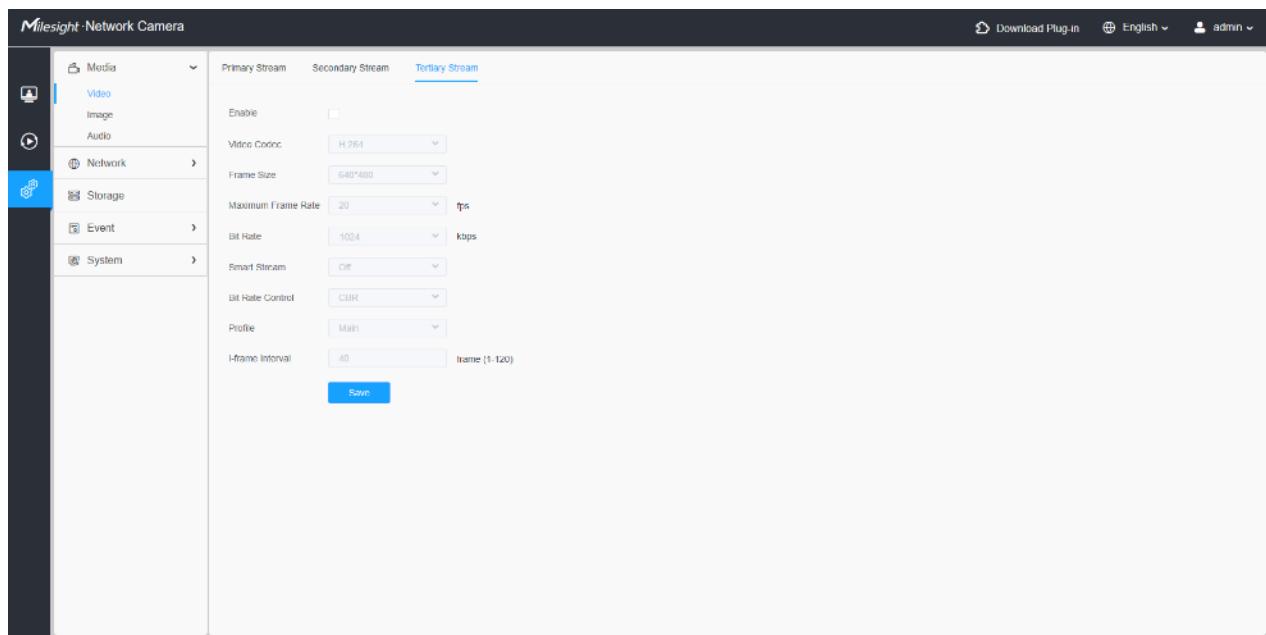


表 6. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Record Stream Type	<p>GeneralおよびEventはPrimary Streamでのみご利用いただけます。Generalは連続録画を指し、Eventにはモーション検知、例外検知、ナンバープレート認識など、アラームをトリガーする可能性のあるイベントが含まれます。</p> <p>この項目では、録画ストリームタイプごとに異なるビットレートとフレームレートを個別に設定できます。Eventを選択した場合、イベント発生時に動画ストリームタイプの設定に従って録画が行われるため、録画ストレージ容量を大幅に削減できます。</p>
Enable Event Stream	この項目は、イベントを選択した場合にのみオプションとなります。
Video Codec	 H.265/H.264/MJPEGをご利用いただけます。 <p>注記：Milesight-H.264 と H.265+ の詳細については、YouTube 動画をご覧ください： https://www.youtube.com/watch?v=Wkom8HQ00jl</p>
Frame Size	<p>Primary Stream of Channel 1 : 8MP (3840x2160)、5MP (2960x1664)、4MP (2688x1520)、3MP (2304x1296)、2MP (1920x1080)、1.3M (1280x720)をサポートしております。</p> <p>Secondary Stream : 704x576、640x480、640x360をサポート。</p> <p>Tertiary Stream of Channel 1 : 1920x1080、1280x720、704x576、640x480、640x360をサポートしております。</p>  ご注意：フレームサイズの選択肢は、モデルによって異なります。
Maximum Frame Rate	1秒あたりの最大リフレッシュフレームレートであり、モードによって異なります。
Bit Rate	1秒あたりのデータ伝送ビット数。この項目は、 H.265/H.264 を選択した場合にのみオプションとなります。ビットレートは 16~16384 Kbps に設定してください。値が高いほどより高い画質に対応しますが、より多くの帯域幅も必要となります。
Smart Stream	スマートストリームモードのオン/オフはオプションです。スマートストリームモードは、ネットワークカメラの高画質を確保しながら、帯域幅とデータストレージの要件を大幅に削減する、10段階に調整可能なコーデックです。
	Level : レベル1~10から必要に応じて選択可能です。

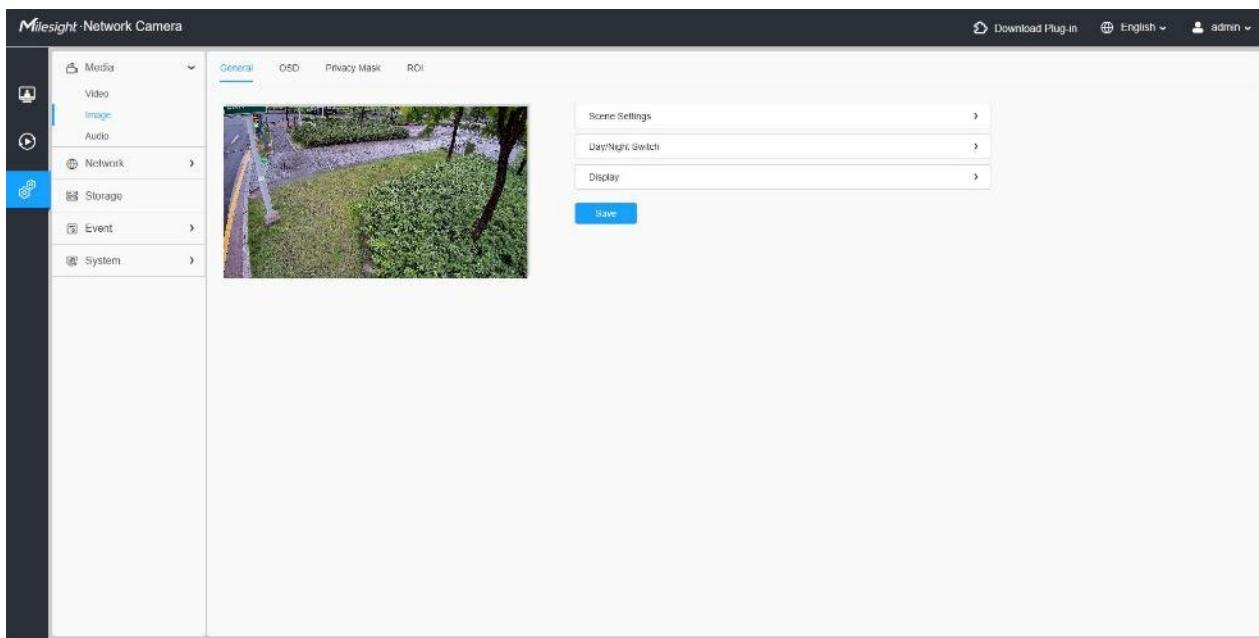
パラメータ	機能紹介
Bit Rate Control	CBR : 定ビットレート。CBR出力のレートは一定です。
Bit Rate Control	VBR : 可変ビットレート。VBRファイルは、時間単位あたりの出力データ量を変化させます。
Image Quality	Low/Medium/High が選択可能です。この項目は、VBRを選択した場合にのみオプションとなります。
Profile	このオプションは H.264 用であり、必要に応じて Main/High/Base を選択できます。
I-frame Interval	Iフレーム間隔を1~120に設定します。デフォルトは50です。この項目は、H.265/H.264を選択した場合にのみオプションとなります。数値はフレーム数の倍数である必要があります。

8.1.2 画像

本モジュールでは、画像調整、昼夜設定、画像強化を含む画像の一般的な設定を行えます。OSD（オンスクリーンディスプレイ）内容、プライバシーマスク、ビデオ時間を表示し、画像情報を充実させることができます。

8.1.2.1 一般

画像調整、デイ/ナイト切り替え、デイ/ナイトパラメータ、露出、逆光補正、ホワイトバランス、画像強調、表示などの画像に関する一般設定を、このモジュールで設定できます。



シーン設定

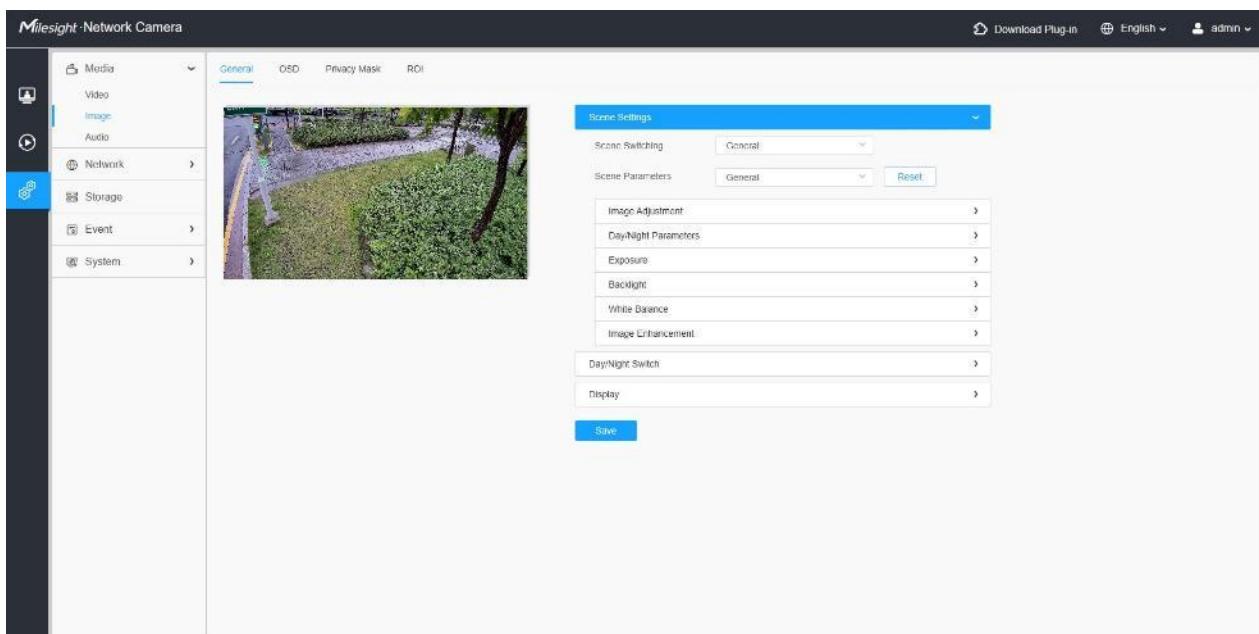


表 7. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Scene Switching	各シナリオのパラメータ設定が完了しましたら、このオプションを使用して、現在使用中のシナリオのパラメータを切り替えてください。

パラメータ	機能紹介
	シーン切り替え設定で「スケジュール」を選択後、シーン切り替えのスケジュールを設定します。
	この機能により、特定のシナリオごとにカスタマイズされたパラメータセットを設定することができます。
	選択したシーンの画像パラメータは、「リセット」をクリックすることでリセットできます。

ステップ 1: シーンパラメータを選択すると、**General, Front Light, Low Light, Back Light, Customize 1, Customize 2、 Schedule**など、複数のシーンオプションが表示されます。

ステップ 2: Image Adjustment, Day/Night Parameter, Exposure, Backlight, White Balance, Image Enhancementなどの機能を使用して、詳細なパラメータを調整します。

ステップ3 : シーン切り替えを選択して対応するシーンに変更し、「Save」を選択すると、現在のリアルタイムストリームに調整が適用されます。

Scene Settings--> Image Adjustment

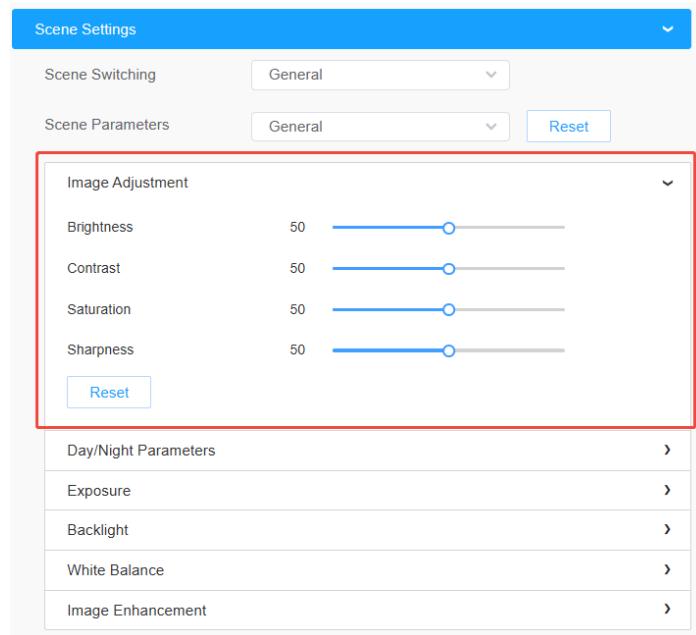


表 8. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Brightness	シーンの明るさを調整します。
Contrast	色と光のコントラストを調整します。
Saturation	画像の彩度を調整します。彩度を高くすると色がより「鮮やか」に、低くするとより「くすみ気味」に映ります。
Sharpness	画像のシャープネスを調整します。シャープネスを高くするとピクセル境界がくつきりし、画像が「より鮮明」に見えます。
Reset	画像調整パラメータをデフォルト値にリセットします。

Scene Settings--> Day/Night Parameters

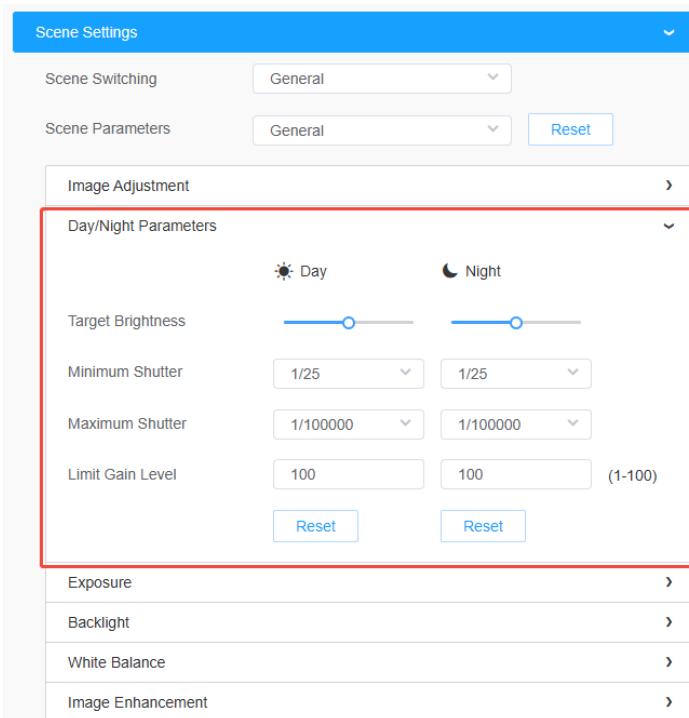
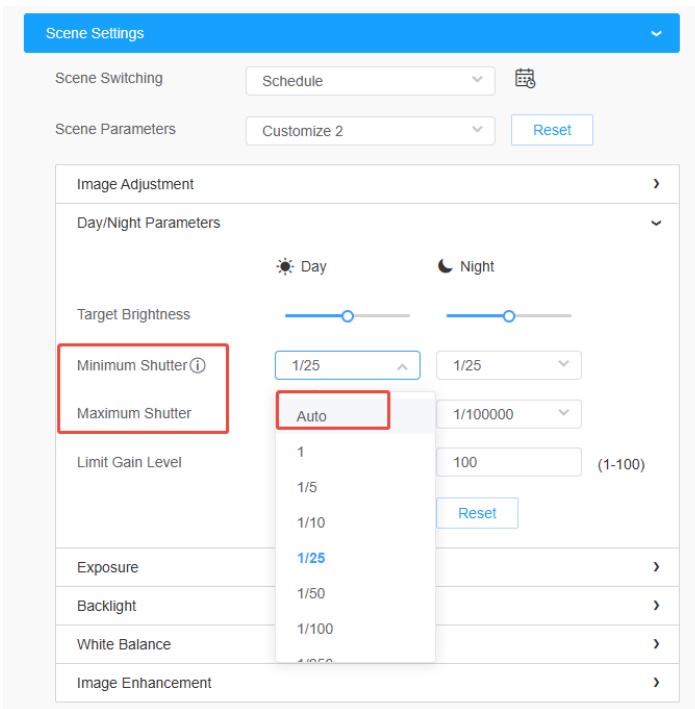


表 9. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Target Brightness	露出が自動モードに設定されている場合、露出の変化が生じた際に画像の明るさが事前定義された値に調整されます。
Minimum Shutter	最小シャッターは最大露光時間と同じです。最小シャッターは 1~1/100000 秒および自動に設定してください。
Maximum Shutter	最大シャッターは最小露光時間と同じです。最大シャッターは1~1/10000秒および自動に設定してください。
Limit Gain Level	利得レベル制限は1~100の範囲で設定してください。

注記 :

1. 最小シャッター速度と最大シャッター速度の両方に、自動設定オプションが追加されました。自動設定を有効にすると、フレームレート低減技術が作動します。この技術は、フレームレートを低下させ、1フレームあたりの露光時間を延長し、明るさを向上させ、ノイズを最小限に抑えることで、低照度環境における静止画の画質を向上させます。
2. シャッターをオートに設定した場合、静止画はノイズが低減され明るく映りますが、動いている被写体にはブレが生じる可能性があります。



Scene Settings--> Exposure

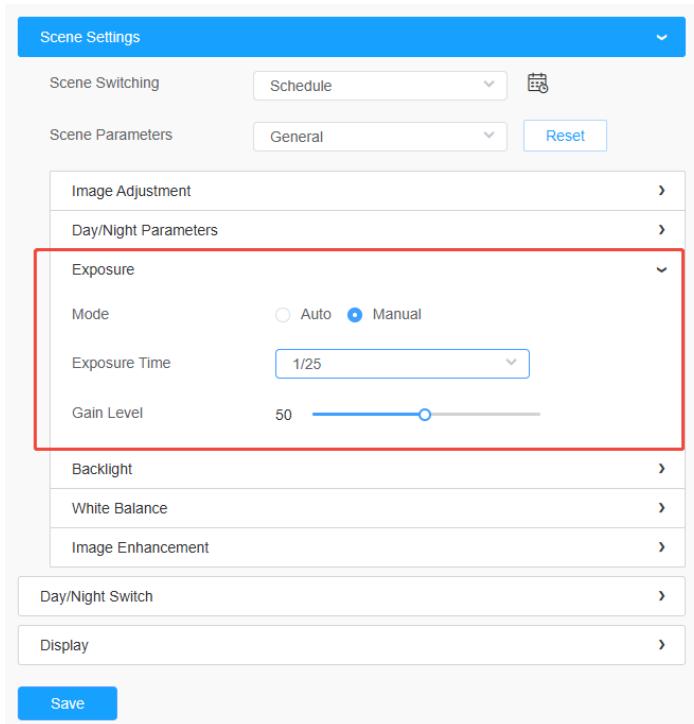


表10. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Exposure Mode	<p>自動モードと手動モードをご利用いただけます。</p> <p>Auto Mode : カメラは、照明環境に応じて自動的に明るさを調整いたします。</p> <p>Manual Mode : カメラは、お客様が設定した値に基づいて明るさを調整します。1~1/100000 秒の範囲で露光時間を設定し、1~100 の範囲でゲインレベルを設定できます（デフォルト値：50）。ゲイン値が高いほど、画像は明るくなります。</p>

Scene Settings--> Backlight

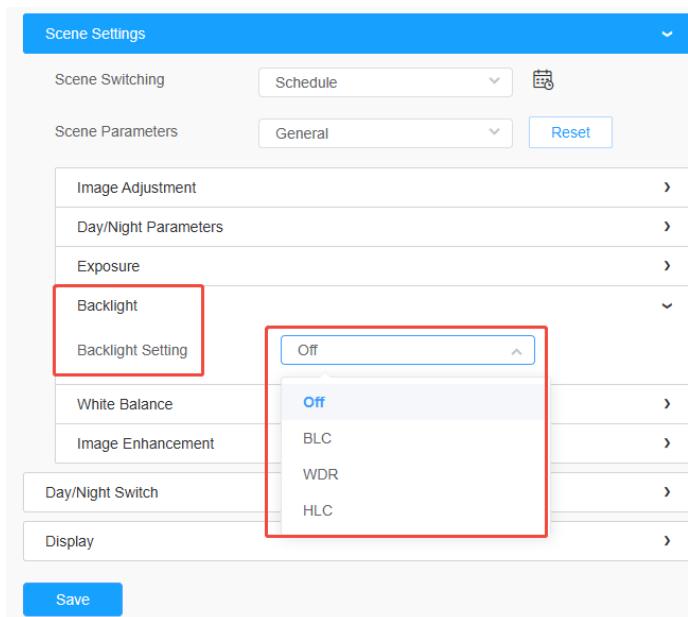
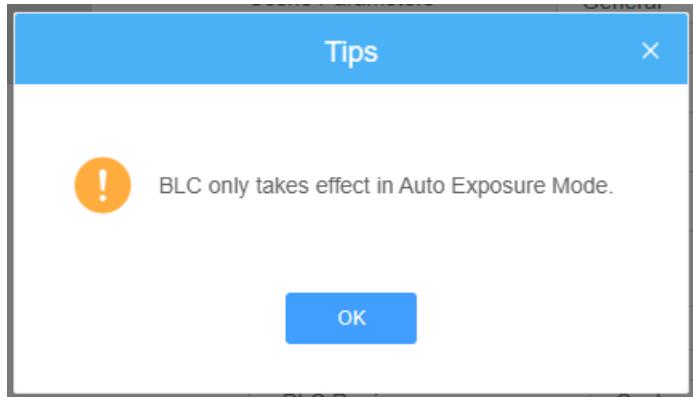


表 11. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Backlight Mode	<p>Backlight Setting : 詳細設定として「オフ」、「BLC」、「WDR」、「HLC」が利用可能です。初期設定は「オフ」となっています。</p> <p>BLC > BLC Region : カスタム設定と中央設定が選択可能です。カスタム設定を選択された場合、画面上に描画してBLC領域を定義する必要があります。</p> <p>Type : 「Inclusive」または「Exclusive」のいずれかを選択できます。デフォルトでは「Inclusive」が選択されています。</p> <p>WDR > Wide Dynamic Level : ワイドダイナミックレンジ (WDR) レベルを選択できます。</p> <p>Low : このオプションを選択すると、明るい領域の補正が強化され、それらの領域の画像詳細がより鮮明になります。</p> <p>High : このオプションを選択すると、画像全体が明るくなり、暗い領域のディテールをより鮮明に捉えることができます。</p> <p>Auto : この設定では、シーンに応じて明るい領域と暗い領域の露出を自動的に調整します。</p> <p>HLC > HLC Level : HLC を有効にした場合、HLC レベルを 0 から 100 まで設定できます。HLC レベルが高いほど、光補正効果が強くなります。</p> <p>注記 : WDR、BLC、HLCを有効にするには、露出を自動モードに設定する必要があります。</p> 

ご注意 :

- Milesight WDR オン/オフ動画の詳細については、YouTube をご覧ください：

<https://www.youtube.com/watch?v=McoOL0Pyk0w>

- Milesightの超低照度映像デモ - HLCの詳細については、YouTube動画をご覧ください：

<https://www.youtube.com/watch?v=ly8uKWbj40>

- Milesight Super WDR Proの詳細については、YouTubeをご覧ください：

<https://www.youtube.com/watch?v=edsPZXBJRnI>

- MilesightのスーパーWDR性能に関する詳細については、YouTubeの以下のリンクをクリック

いただけます：<https://www.youtube.com/watch?v=BKEZ6BW-YZE>

Scene Settings--> White Balance

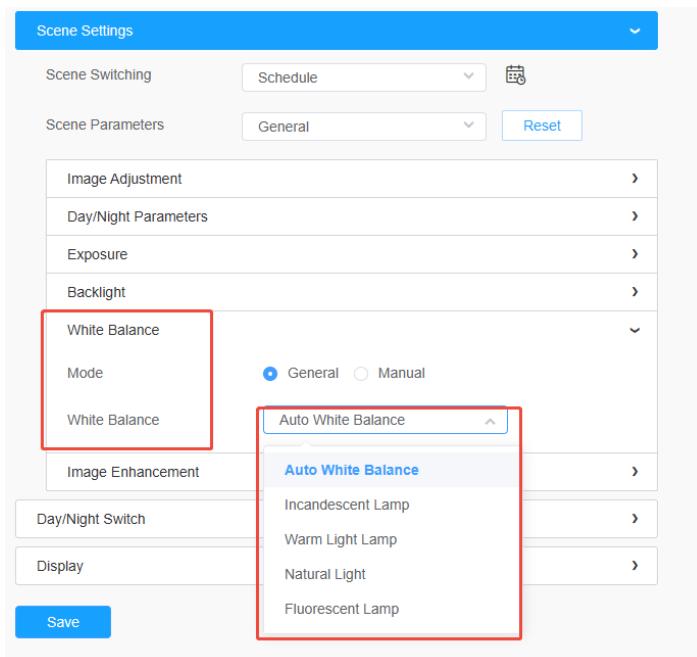


表12. 各ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
White Balance	白い物体を復元し、環境光による色の歪みを除去します。 Mode : 一般と手動が選択可能です。

パラメータ	機能紹介
White Balance	<p>Manual > Manual White Balance Settings : 赤ゲインレベルと青ゲインレベルを手動で設定します。</p> <p>General Mode : 必要に応じてホワイトバランスモードを選択します</p> <ul style="list-style-type: none"> • Auto White Balance : このオプションを選択すると、ホワイトバランス機能が自動的に有効になります。 • Incandescent Lamp : 照明が白熱灯に類似している場合に選択してください。 • Warm Light Lamp : 照明が暖色系照明に類似している場合に選択してください。 • Natural Light : 自然光以外の光源がない場合に選択してください。 • Fluorescent Lamp : 照明が蛍光灯に似ている場合、このオプションを選択してください。

Scene Settings--> Image Enhancement

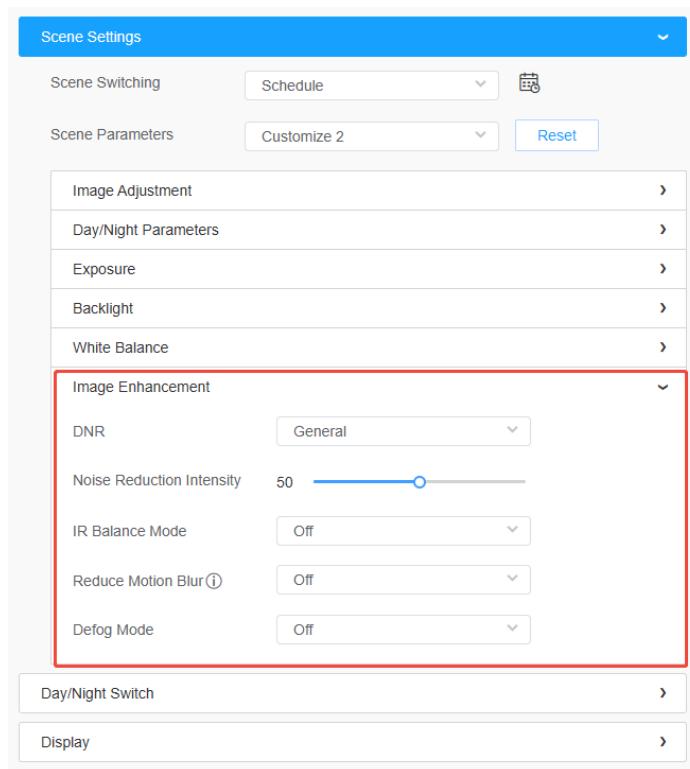
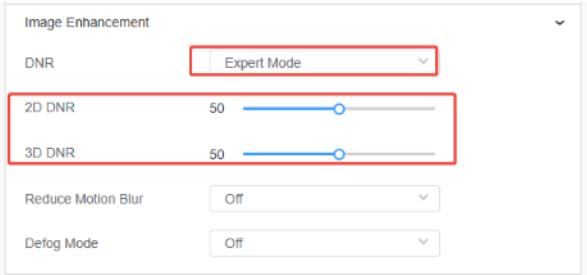


表 13. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
DNR	<p>DNRモードを選択します。GeneralモードとExpertモードが利用可能です。</p> <p>General : アルゴリズムを用いてノイズ低減を自動調整します。</p> <p>Expert Mode : 3D および 2D DNR 設定を手動で調整し、画像ノイズを低減できます。</p> 
Noise Reduction Intensity	バーを調整してDNRレベルを設定します。レベルが高いほどDNR機能が強力になります。調整範囲は0~100で、デフォルト値は50です。
IR Balance Mode	IR LED のオン/オフを切り替えるオプションがございます。 IR バランスモードは、露出オーバーや暗さの問題を回避し、IR LED は実際の照明に応じて変化します。
Reduce Motion Blur	この機能を有効にすると、物体のモーションブラーを効果的に低減できます。プレ補正レベルは 1 から 100 まで調整可能です。
Defog Mode	霧の多い天候でもより良い画像効果を得られます。Anti-fog Intensityは0から100まで調整可能で、デフォルト値は50です。

Day/Night Switch

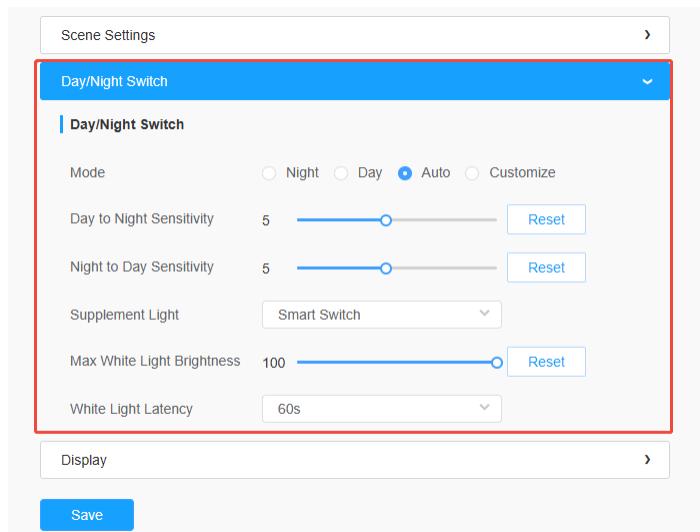
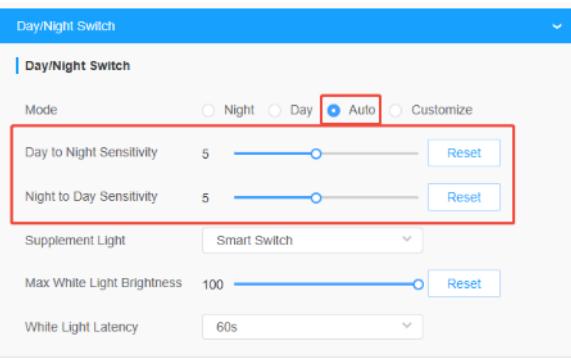
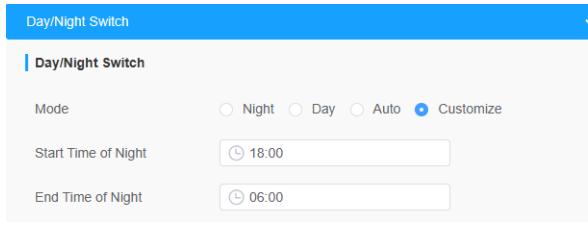


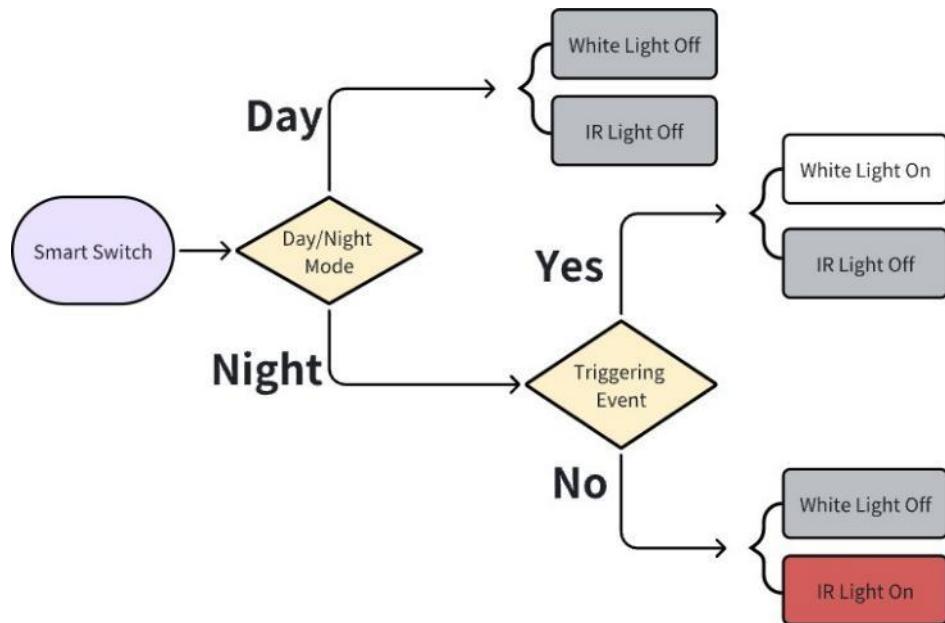
表 14. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Mode	<p>Night Mode : ナイトモードの設定に基づいてライブビューに表示されます。</p> <p>Day Mode : デイモードの設定に基づきライブビューに表示されます。</p> <p>Auto Mode : 環境に応じてライブビューに表示されます。デイモードからナイトモードへ、またはナイトモードからデイモードへ切り替える感度を設定してください。</p> <p>Customize : 設定されたナイトモードの開始/終了時間に基づいてライブビューに表示されます。</p>

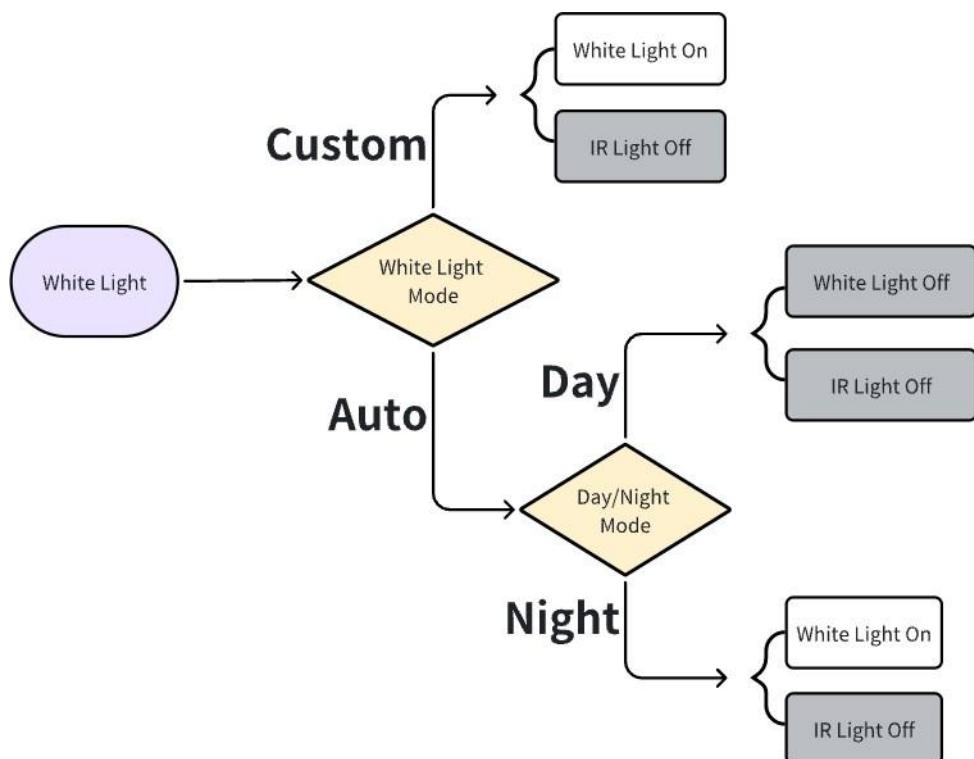
パラメータ	機能紹介
Auto Mode	<p>Day to Night Sensitivity : デイモードからナイトモードへの切り替え感度を設定できます。IR光センサーの電流値がこの値を下回ると、デイモードからナイトモードに切り替わります。</p> <p style="text-align: center;">Reset</p> <p>モードに切り替わります。クリックすると  をクリックすると、値を5にリセットできます。</p> <p>Night to Day Sensitivity : 夜間モードから昼間モードへの切り替え感度です。赤外線センサーの電流値がこの値より高い場合、夜間モードから昼間モードに切り替わります。</p> <p style="text-align: center;">Reset</p> <p>モードに切り替わります。クリックすると、値を5にリセットできます。</p>  <p> 注記 : この2つのボタンは、自動モードを選択した場合にのみオプションとなります。</p>
Customize	<p>Start Time of Night : ナイトモードを開始する時刻を設定できます。</p> <p>End Time of Night : デイモードを終了する時刻を設定できます。</p>  <p> 注 : 夜間モードの開始時間/終了時間は、カスタマイズモードを選択した場合にのみオプションとなります。</p>

パラメータ	機能紹介
Supplement Light	<p>Smart Switch, White Light, IR Light, Offモードをご利用いただけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Smart Switch : イベントを検知すると、カメラは自動的にフルカラー照明に切り替わり、鮮明なクリアさでより多くの詳細を映し出します。 • Max White Light Brightness : 白色光の最大輝度しきい値を設定します。値が高いほど白色光は明るくなります。0~100の範囲で調整可能です（初期値：100）。 • White Light Latency : イベント発生後、カメラがフルカラーモードに切り替わった際に白色光が点灯し続ける時間を設定します。 • White Light : カメラの白色光は常に点灯し、画像の明るさを確保します。 • White Light Mode : 自動モードとカスタマイズモードが利用可能です。 自動モードでは、白色光の最大輝度を設定できます。実際の輝度は、設定した最大レベルを超えない範囲で、周囲の照明状況に応じて自動的に調整されます。 カスタムモードでは、ホワイトライトの明るさを直接設定できます。デフォルト値は100です。 • IR Light : カメラのIRライトは常時点灯します。 • IR Light Mode : 自動モードとカスタマイズモードが利用可能です。カスタマイズモードでは、IRライトの明るさを設定できます。デフォルト値は100です。 • Off : すべてのライトを消灯します。

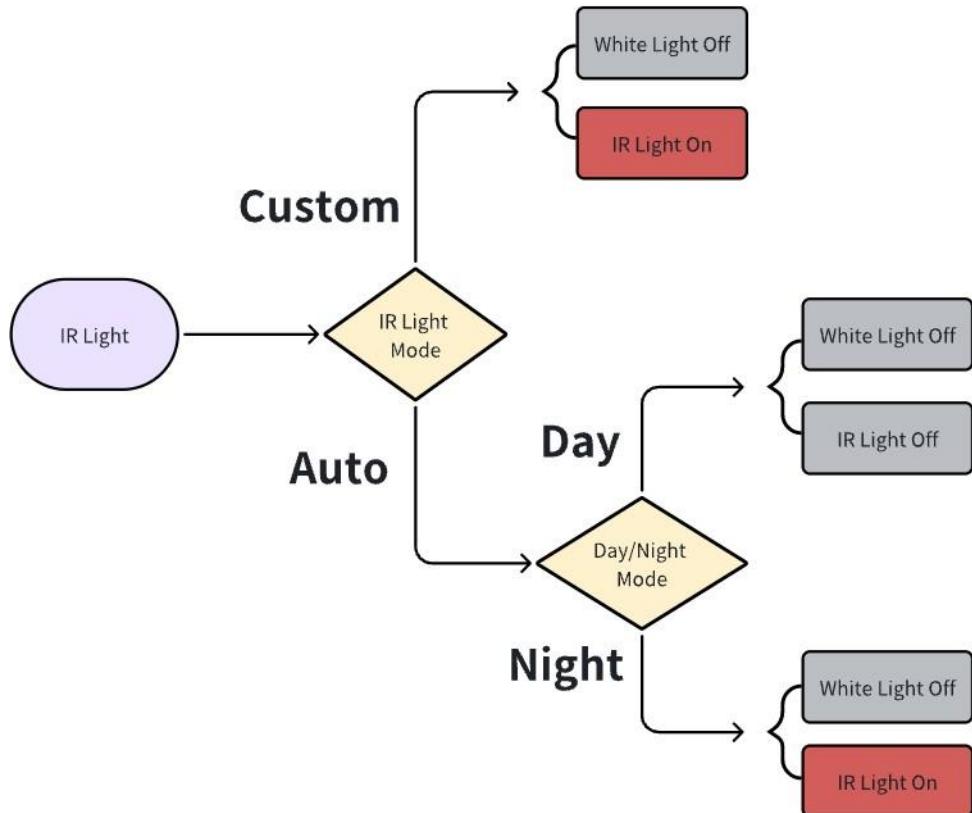
 **注記** : 以下の図は補助照明が**Smart Switch**に設定された場合の動作を示しています。



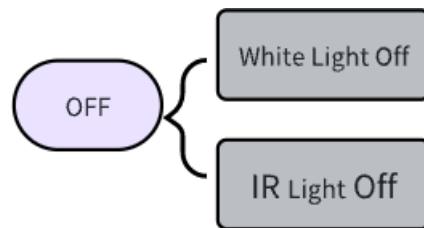
補助ライトが**White Light**に設定されている場合。



補助照明が**IR Light**に設定されている場合。



補助照明が「OFF」に設定されている場合。



表示

Display

Power Line Frequency	50Hz
Image Rotation	Rotating 180°
Lens Distortion Correction	On

Save

表 15. ボタン説明

パラメータ	機能 概要
Power Line Frequency	60Hz および 50Hz が選択可能です。
Image Rotation	<p>お客様のニーズに合わせてお選びいただけます。</p> <p>Off : 画像を通常の方向に保持します。</p> <p>Rotating 180° : 画像を上下反転します。</p> <p>Flip Horizontal : 画像を水平方向に反転します。</p> <p>Flip vertical : 画像を縦方向に反転します。</p> <p>Clockwise 90° : 画像を時計回りに90度回転させます。</p> <p>Anticlockwise 90° : 画像を反時計回りに90度回転させます。</p>
Lens Distortion Correction	<p>2つのオプションが用意されており、必要に応じていずれかを選択いただけます。</p> <p>Off : カメラのオリジナル画像を選択します。</p> <p>On : カメラの歪み補正後の画像を選択します。</p>

8.1.2.2 OSD

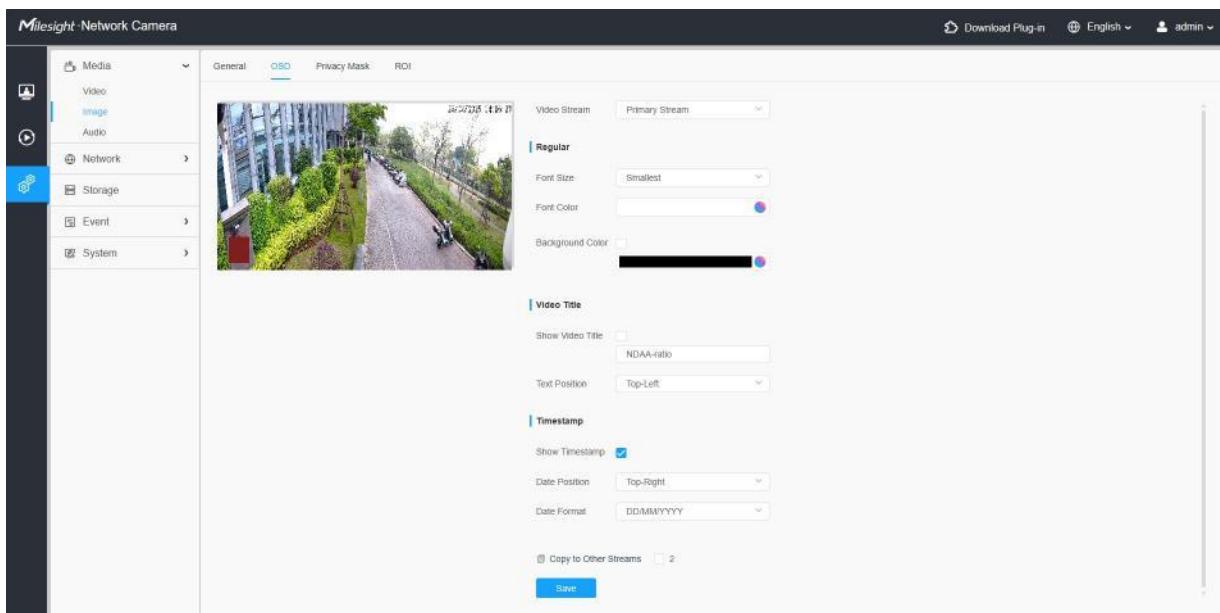


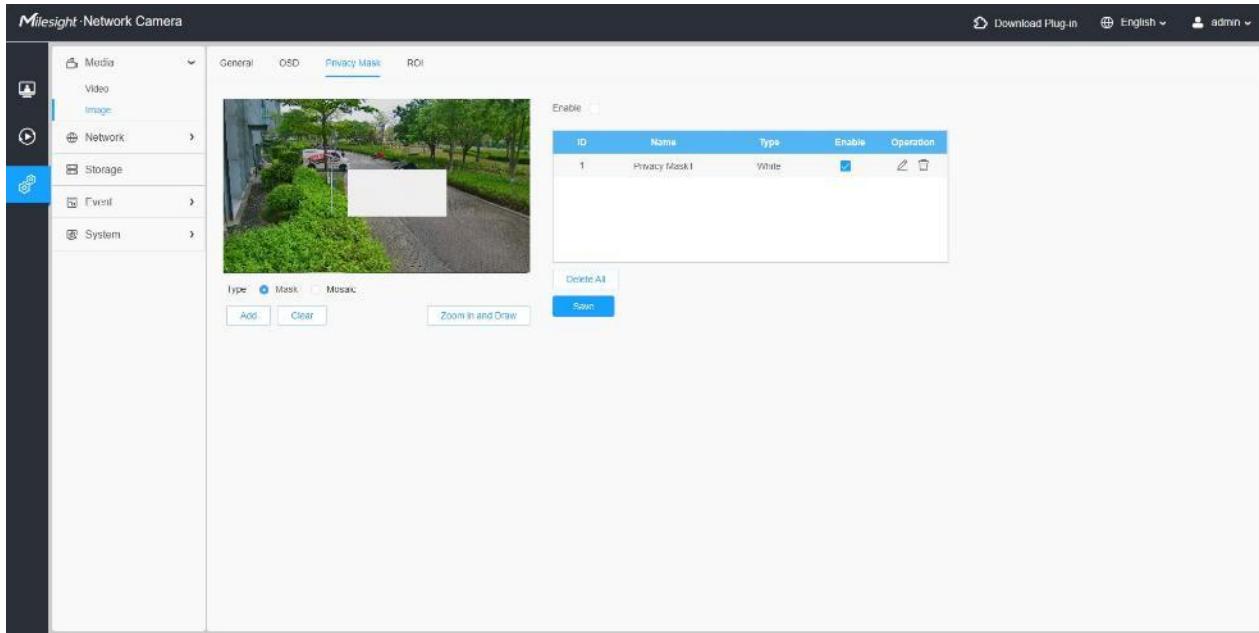
表 16. ボタン説明

パラメータ	機能 概要
Video Stream	有効にすると、プライマリストリームおよびセカンダリストリームのOSDを設定できます。
Font Size	タイトルおよび日付には、最小/小/中/大/最大/自動がご利用いただけます。
Font Color	タイトルと日付に異なる色を設定できます。
Background Color	画面上の表示情報の背景色を個別に設定できます。 画像のフォントと背景に異なる色を設定できます。設定後の画像OSDは下記のようになります： 
Show Video Title	動画タイトルを表示するには、チェックボックスにチェックを入れてください。
Video Title	OSDの内容をカスタマイズします。
Text Position	画像上のOSD表示位置。
Show Timestamp	画像上に日付を表示するには、チェックボックスにチェックを入れてください。
Date Position	画像上の日付表示位置。
Date Format	日付の形式です。
Copy to Other Streams	設定を他のストリームにコピーします。

8.1.2.3 プライバシーマスク

プライバシーマスクは、監視エリア内の特定の場所が閲覧・録画されないよう、ライブ映像上の特定領域を覆い隠す機能です。

[プライバシーマスク]



ライブ映像の特定領域を覆う際に使用する色を選択できます。

注記 :

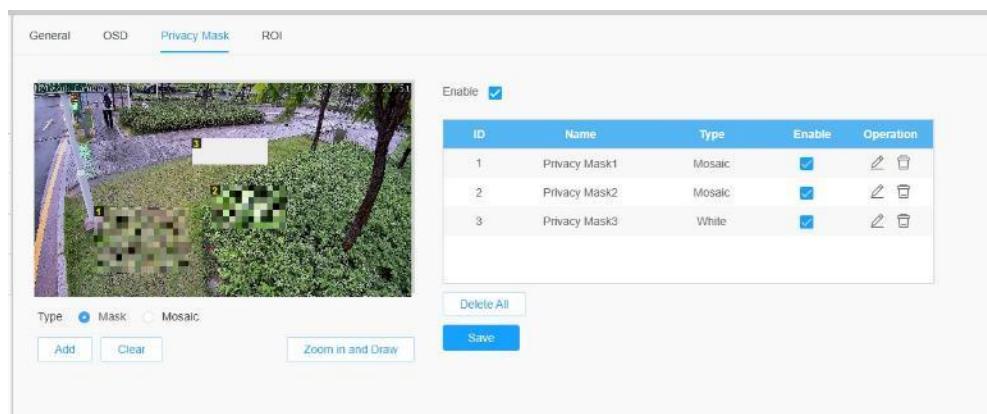
表17. ボタン説明

パラメータ	機能説明
Enable	プライバシーマスク機能を有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください。
Type	プライバシー領域に使用するタイプを選択してください。利用可能なタイプは「マスク」と「モザイク」の2種類です。 プライバシータイプを「マスク」に設定した場合、プライバシー領域の色を選択できます。ご利用いただける色は8色です：白、黒、青、黄、緑、茶、赤、紫。また、代替のプライバシーオプションとして「モザイク」タイプもご利用いただけます。
	ライブ映像上で必要に応じてプライバシー領域を描画してください。
	「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、より正確な検出領域を描画するためのフルスクリーンポップアップアップウィンドウが表示されます。
Operation	/ 選択したROI領域の有効化/無効化を行います。

パラメータ	機能紹介	
Operation		マスク領域の色を変更します。利用可能な色は8色です：白、黒、青、黄、緑、茶、赤、紫
		プライバシーマスク領域を削除します
	ライブ映像上に描画した領域を消去します。	
	以前に描画した領域をすべて消去します。	

[プライバシーマスクのモザイクタイプ]

ライブ映像の特定領域を覆う際に使用する色タイプとモザイクタイプを選択できます。モザイクタイプは画像の連続性を保ち、視覚効果を向上させます。



8.1.2.4 ROI

関心領域（Region of Interest、略称：ROI）とは、特定の目的のためにデータセット内で選択されたサンプルのサブセットを指します。ユーザーはシーン内の最大8つの重要領域を選択し、個別ストリームで送信することで、対象を絞ったプレビューや録画が可能です。

MilesightのROI技術を活用することで、50%以上のビットレート削減が可能となり、帯域幅の消費とストレージ使用量を低減できます。これにより、高解像度設定でも低ビットレートを実現できます。

 注記：ROIの設定方法の詳細については、

<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643441>をご参照ください。

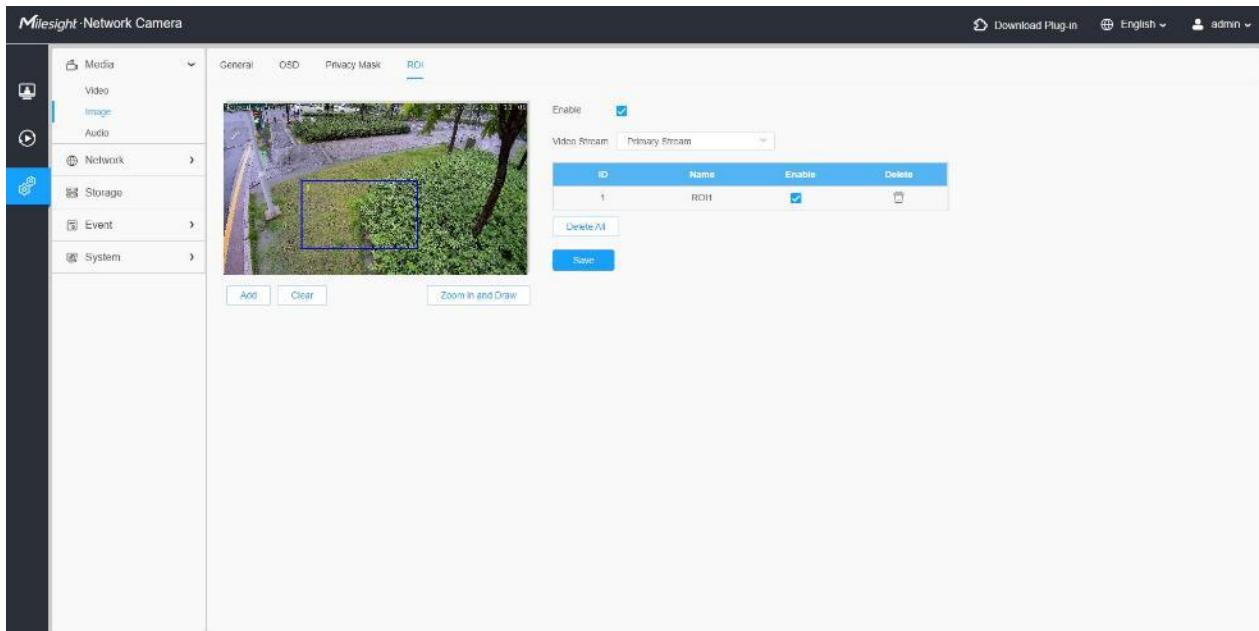


表18. ボタン説明

パラメータ	機能紹介	
Enable	チェックボックスをオンにすると、ROI機能が有効になります。	
Video Stream	ビデオストリームをお選びください。	
ROI	<input type="checkbox"/> / <input checked="" type="checkbox"/>	選択したROI領域を有効/無効にします。
		選択したROI領域を削除します。
	ライブ映像上に必要に応じてROI領域を描画します。	
	ライブ映像上に描画した領域を消去します。	
	「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、より正確な検出領域を描画するためのフルスクリーンポップアップウィンドウを起動できます。	

パラメータ	機能紹介
Delete All	以前に描画した領域をすべて消去します。

 **注記 :**

- 低ビットレートを設定することが可能です。例えば、ビットレートを512Kbps、解像度を1080Pに設定すると、ROI領域の画像品質が他の領域よりも鮮明かつ滑らかに表示されます。

8.1.3 音声

8.1.3.1 音声

この音声機能により、カメラからの音声を聞くことや、ご自身の音声をカメラ側に送信することが可能です。この機能により双方向通信も実現できます。音声入力が設定した特定の警報レベルを超えた場合に警報を発動させることができ、警報発生時には設定済みの音声再生が可能です。

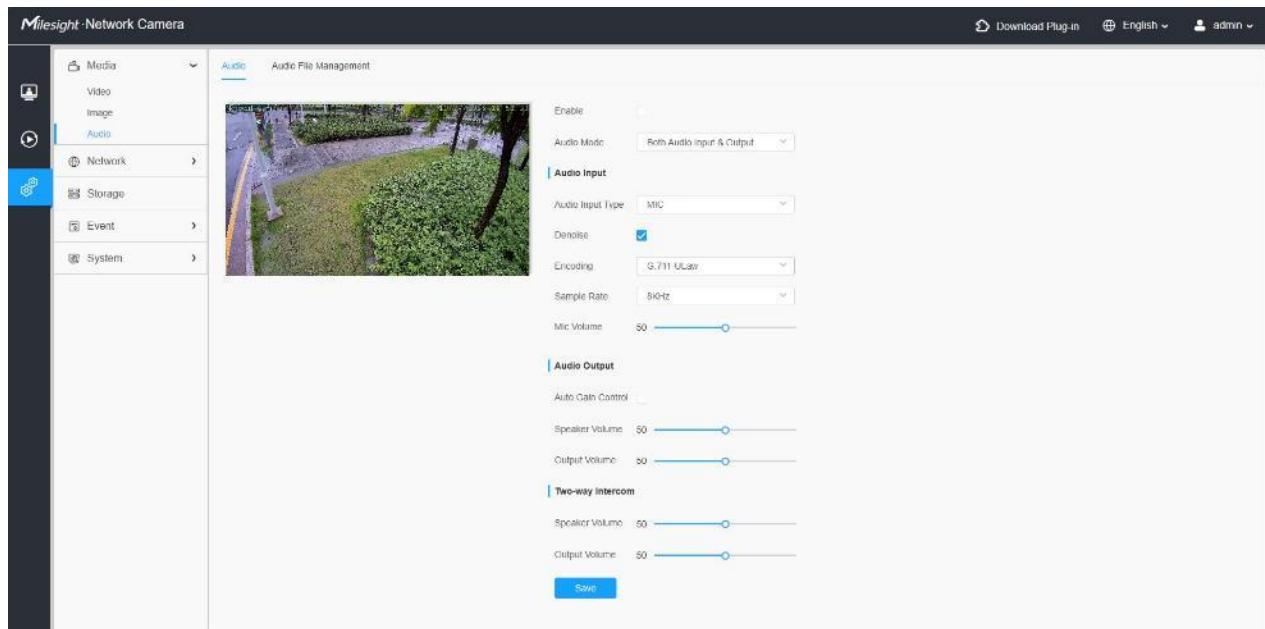
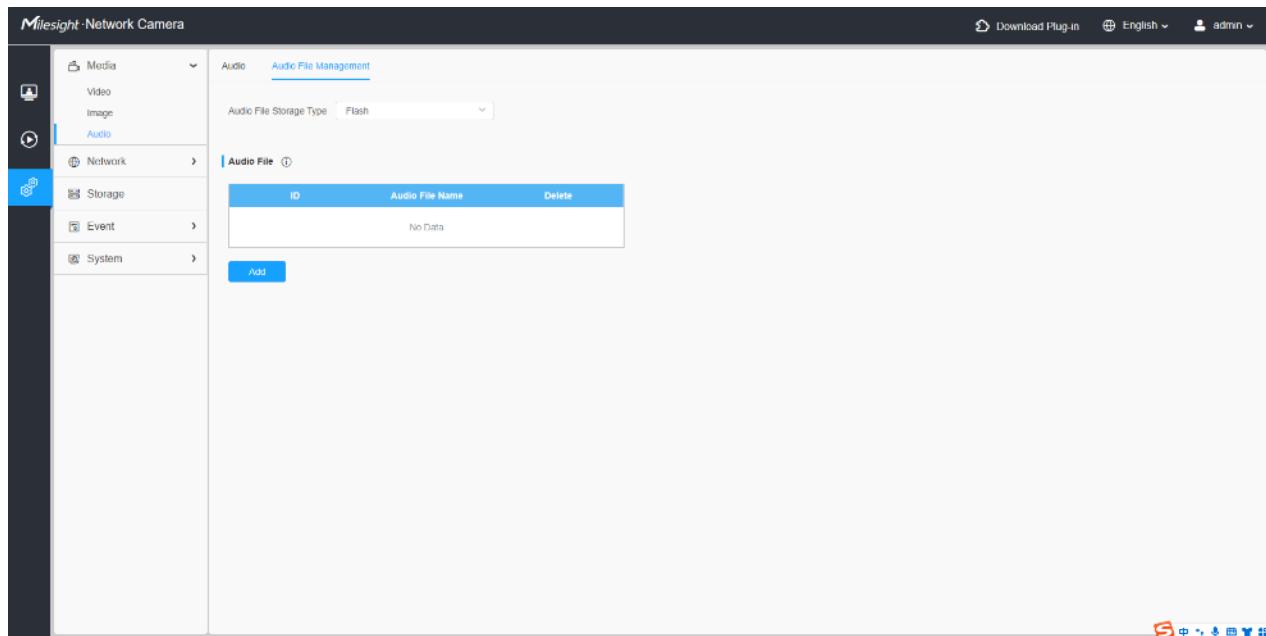


表 19. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Enable	チェックボックスにチェックを入れて音声機能を有効にしてください。
Audio Mode	Audio Input/ Audio Output/ Both Audio Input & Output の両方が選択可能です。
Audio Input	<p>Audio Input Type : マイク入力とライン入力の両方をサポートしております。ライン入力は、オーディオ入力ケーブルを装備したモデルでのみご利用いただけます。</p> <p>Denoise : オン/オフを設定します。機能をオンに設定すると、検知されたノイズを除去できます。</p> <p>Encoding : G.711-ULaw、G.711-ALaw、AAC LC、G.722、G.726が利用可能です。</p> <p>Sample Rate : 8KHz、16KHz、32KHz、44.1KHz、48KHzが利用可能です。</p> <p>Audio Bit Rate : この機能はAAC LCでのみ利用可能で、最大48kbpsまで対応しております。</p> <p>Input Volume : 入力オーディオの音量レベル、0~100。</p> <p>Mic Volume / Input Volume : 入力オーディオの音量レベル、0~100。</p>
Audio Output	<p>Auto Gain Control : この機能はH.265シリーズ専用で、音声品質を向上させます。</p> <p>Speaker volume : アラーム作動時のスピーカー音量を調整します。0~100。</p> <p>Output volume : アラーム作動時の出力音量を調整します。0~100。</p>
Two-way Intercom	<p>Speaker Volume : 双方向通信使用時のスピーカー音量を調整します（0~100）。</p> <p>双方向インターモン機能をご利用になる場合は、「話し始める」が有効になっており、音声がミユートされていないことをご確認ください。詳細な手順については、「ライブビュー (23ページ)」のセクションをご参照ください。</p> <p>Output Volume : 双方向通信使用時の出力音量を調整します（0~100）。</p>

8.1.3.2 自動ファイル管理

オーディオウェブページでは、フラッシュメモリまたは SD カードに最大 5 つの音声ファイルを手動でアップロードすることができ、アップロード時に音声ファイルの名前を編集することも可能です。



ご注意：

- ・オーディオモードおよびオーディオ出力は、特定のモジュールでのみご利用いただけます。
- ・対応するオーディオファイルは、コーデックタイプがPCM/PCMU/PCMA、ビットレートが64kbps または128kbps、ファイルサイズが500k以下の「.wav」形式に限られます。
- ・サポートされるオーディオファイルは、コーデックタイプがPCM/PCMU/PCMA、ビットレートが 64kbps または128kbps、かつ500k以下の「.wav」形式のみとなります。

8.2 ネットワーク

8.2.1 基本

8.2.1.1 TCP/IP

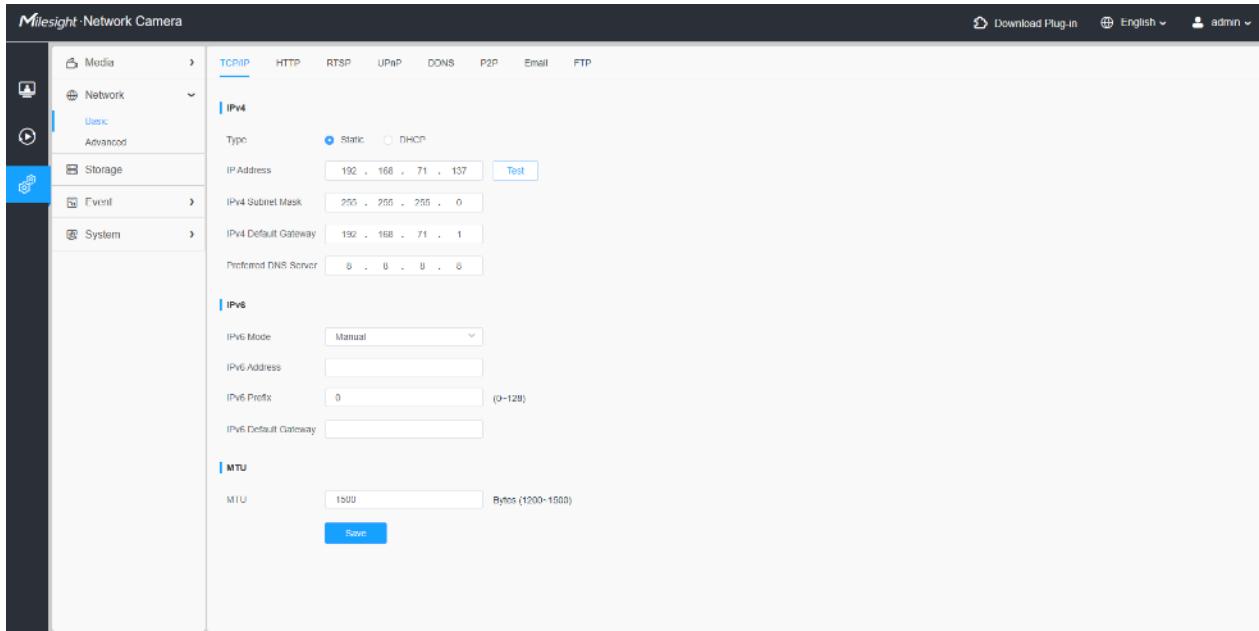


表 20. ボタン説明

パラメータ	機能 概要
IPv4	<p>タイプ : IPv4アドレスを取得する方法として、静的設定とDHCP設定からお選びいただけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP: カメラはDHCPサーバーから自動的にIPアドレスを取得します（デフォルトで有効）。 • Static: カメラに固定IPアドレスを手動で割り当てることができます。 <p>IPv4 Address : ネットワーク上でネットワークカメラを識別するために使用されるアドレスです。</p> <p>注記 : Testボタンは、IPアドレスの競合をテストするために使用します。</p> <p>IPv4 Subnet Mask : ネットワークカメラが配置されているサブネットを識別するために使用されます。</p> <p>IPv4 Default Gateway : デフォルトのルーターアドレスです。</p> <p>Preferred DNS Server : ドメイン名をIPアドレスに変換するDNSサーバーです。</p>

パラメータ	機能紹介
IPv6	<p>IPv6 Mode : IPv6 のモードを選択します：手動/ルートアドバタイズメント/DHCPv6</p> <p>IPv6 Address : ネットワーク上でネットワークカメラを識別するために使用するIPv6アドレス</p> <p>IPv6 Prefix : IPv6 アドレスのプレフィックス長を定義します</p> <p>IPv6 Default Gateway : デフォルトルータのIPv6アドレス</p>
MTU	最大伝送単位。デフォルト値は1500です。必要に応じて1200から1500の範囲で値をカスタマイズできます。
Save	設定を保存してください。

8.2.1.2 HTTP

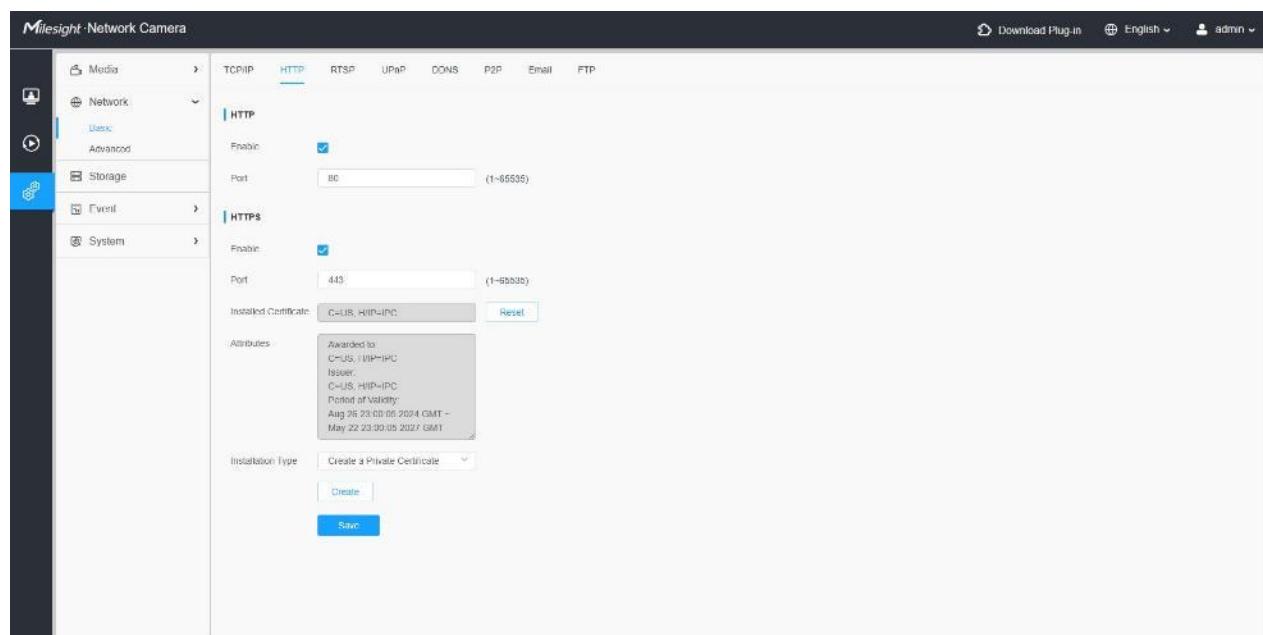


表 21. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
HTTP	<p>Enable : HTTP の使用を開始または停止します。</p> <p>Port : Web GUIログインポート。デフォルトは80で、ONVIFポートと同じです。</p>

パラメータ	機能紹介
HTTPs	<p>Enable : HTTPsの使用を開始または停止します。</p> <p>Port : HTTPs経由のWeb GUIログインポートです。デフォルトは443です。</p> <p> 注記 : HTTPS アクセスの有効化方法の詳細については、 https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000797384 をご参照ください。</p>
Installed Certificate	
Attributes	SSL 証明書をアップロードして設定します。
Installation Type	
Save	設定を保存します。

表 22. HTTP URL は以下の通りです:

ストリーム	URL
Main Stream	https://username:password@IP:ポート/pcam/mjpeg.cgi
Secondary Stream	https://username:password@IP:ポート番号/pcam/mjpegcif.cgi
Tertiary Stream	https://username:password@IP:ポート番号/pcam/mjpeghird.cgi

8.2.1.3 RTSP

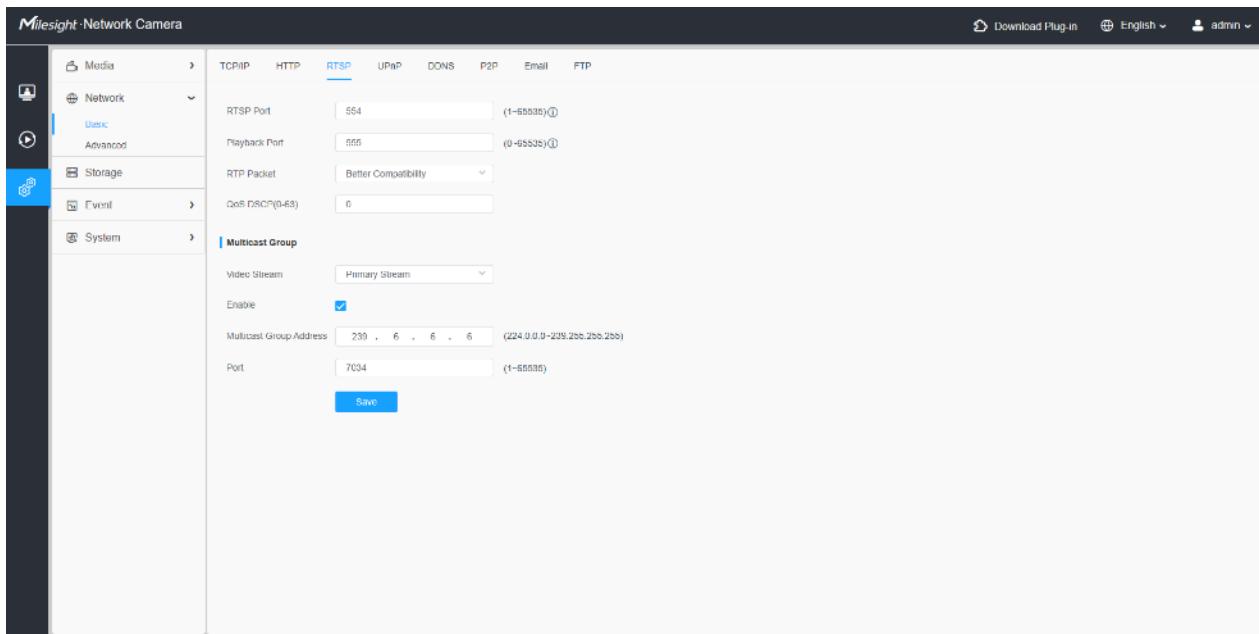


表 23. ボタンの説明

パラメータ	機能 概要	
RTSP Port	RTSP のポート番号です。デフォルトは 554 です。	
Playback Port	再生ポート再生用のポートです。デフォルトは 555 です。 ■ 注記 : ポート 0 は再生機能の終了を意味します。	
RTP Packet	「互換性の向上」と「パフォーマンスの向上」の 2 つのオプションがございます。カメラの画像が乱れる場合は、このオプションを切り替えてください。	
QoS DSCP	DSCP の有効な値の範囲は 0~63 です。	
Multicast Group	Video Stream	プライマリストリームまたはセカンダリストリームはオプションです。
	Enable	マルチキャストグループ機能を有効または無効にします。
	Multicast Group Address	マルチキャスト機能をサポートします。
	Port	マルチキャストグループのポートです。デフォルトは 7034 です。 ポートの有効な値の範囲は 1~65535 です。

パラメータ	機能紹介
Save	設定を保存します。

表 24. RTSP URL は以下の通りです：

ストリーム	URL
Primary Stream	rtsp://IP:RTSPポート/main
Secondary Stream	rtsp://IPアドレス:RTSPポート番号/sub
Tertiary Stream	rtsp://IPアドレス:RTSPポート番号/third

 **注記 :**

- DSCPとは、差別化サービスコードポイント（Differentiated Service Code Point）を指します。DSCP値は、データの優先度を示すためにIPヘッダーで使用されます。
- 設定を有効にするには、再起動が必要となります。

8.2.1.4 UPnP

ユニバーサルプラグアンドプレイ（UPnP）は、ネットワーク機器、ソフトウェア、その他のハードウェアデバイス間の互換性を提供するネットワークアーキテクチャです。UPnPプロトコルにより、デバイスはシームレスに接続でき、家庭や企業環境におけるネットワーク構築を簡素化します。この機能を有効にすると、各ポートのポートマッピングを設定する必要がなく、カメラはルーター経由で広域ネットワークに接続されます。

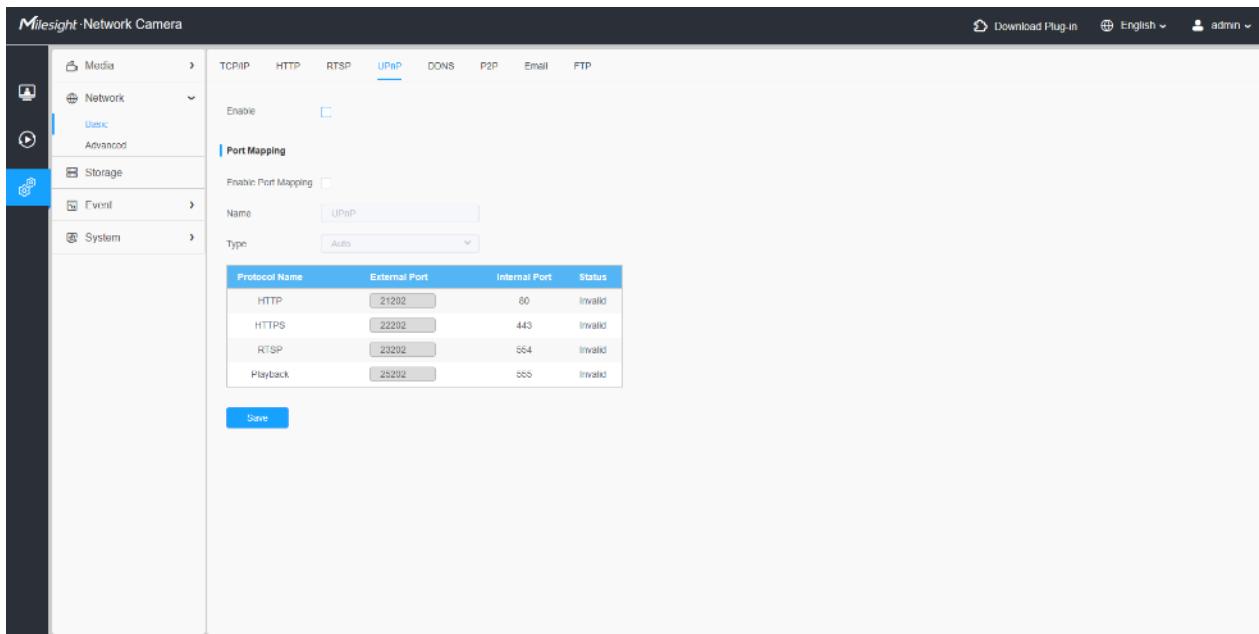


表 25. ボタン説明

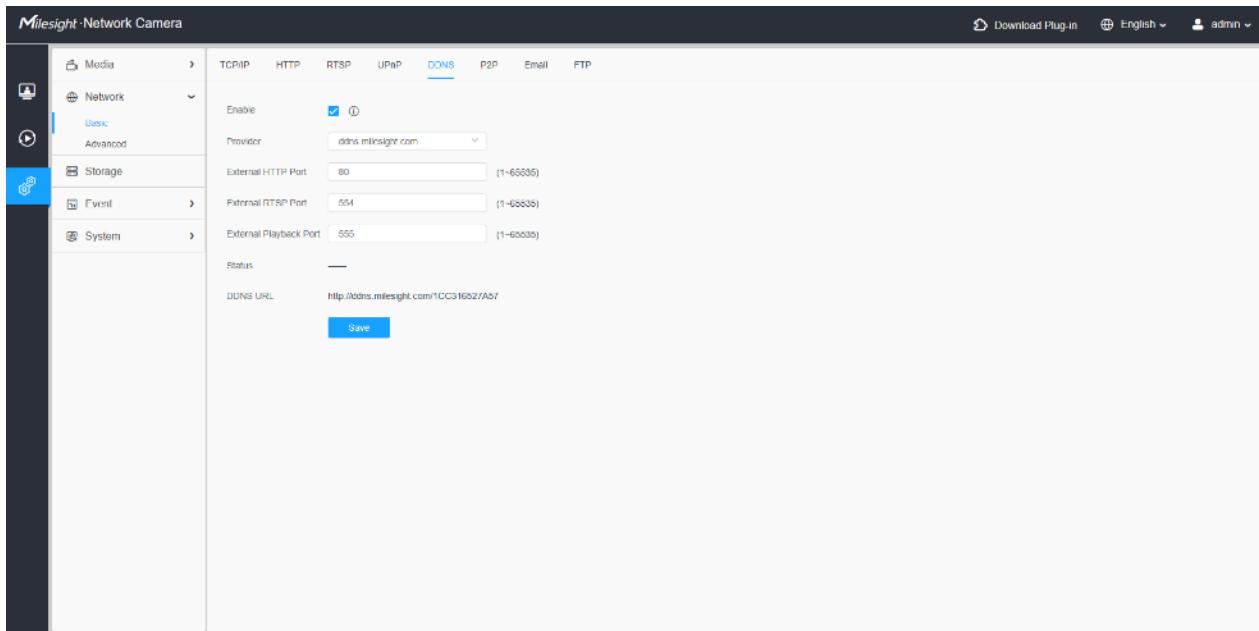
パラメータ	機能紹介
Enable	チェックボックスをオンにすると、UPnP機能を有効にします。
Enable Port Mapping	ポートマッピングを有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください。
Name	オンラインで検出されたデバイスの名前は編集可能です
Type	<p>Auto : 設定なしで対応するHTTPおよびRTSPポートを自動的に取得します</p> <p>Manual : 適切なHTTPポートとRTSPポートを手動で設定する必要があります。手動を選択した場合、ポート番号の値を自由にカスタマイズできます</p>
Save	設定を保存してください。

8.2.1.5 DDNS

DDNSをご利用いただくと、IPアドレスではなくドメイン名でカメラにアクセスできます。IPアドレスの変更やドメイン情報の更新を動的に管理します。プロバイダーからアカウントを登録する必要があります。

 注記：DDNSの設定方法の詳細については、

<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643406> をご参照ください。



DDNSのプロバイダーとして「ddns.milesight.com」をお選びいただけます。有効化後、URL

「<http://ddns.milesight.com/MAC アドレス>」よりデバイスにアクセス可能です。

表 26. ボタンの説明

パラメータ	機能 説明
Enable DDNS	チェックボックスをオンになると、DDNS サービスが有効になります。  注記：DDNSで直接使用可能なUPnPポートの設定を有効化することをお勧めいたします。
Provider	DDNS プロバイダからのサポートをご利用いただけます： ddns.milesight.com 、 freedns.afraid.org 、 dyndns.org 、 www.no-ip.com 、 www.zoneedit.com 。 DDNS プロバイダをカスタマイズすることも可能です。
Hash	検証に使用される文字列で、「 freedns.afraid.org 」のみに使用されます。
User name	DDNS プロバイダからのアカウント名。「 freedns.afraid.org 」ではご利用いただけません。

パラメータ	機能紹介
Password	アカウントのパスワードです。「freedns.afraid.org」ではご利用いただけません。
Host name	アカウントで有効化されたDDNS名。
Status	DDNS の稼働状況を表示します。
Save	設定を保存します。

 ご注意 :

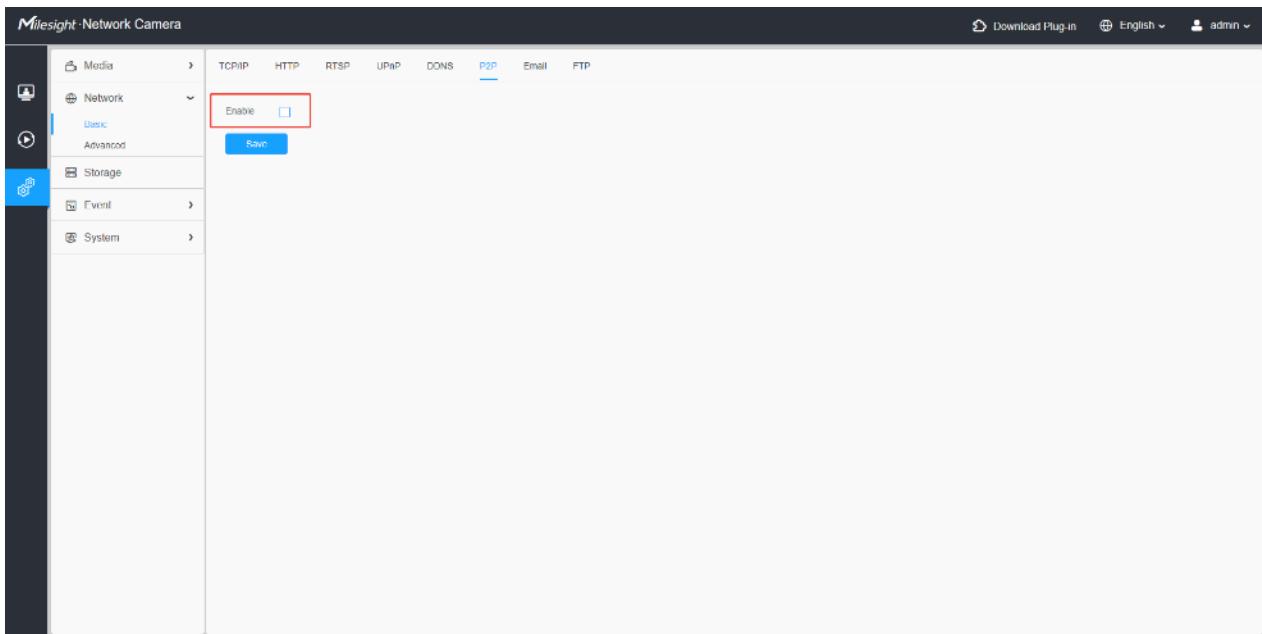
- Milesight DDNSをご利用になる前に、HTTPポートおよびRTSPポートのポート転送設定を行ってください。
- RTSPの内部ポート番号と外部ポート番号が同一であることをご確認ください。

8.2.1.6 P2P

ピアツーピア（P2P）プロトコルとは、中央サーバーや仲介者を必要とせず、ネットワーク内のノード（ピア）間で直接通信を可能にするネットワークプロトコルです。これらのプロトコルは、ファイル共有、分散コンピューティング、分散型ネットワークなど、様々なアプリケーションにおいて基盤的な役割を果たしています。MilesightカメラはP2Pプロトコルに対応しており、ネットワークインターフェース内で有効化できます。

チェックボックスにチェックを入れるだけで簡単にP2Pを有効にできます。

 ご注意 : P2Pをご利用になる前に、弊社サポートチームまでご連絡いただき、クラウド上のP2P機能を有効化してください。



8.2.1.7 メール

アラーム動画ファイルは、SMTPサーバーを介して指定のメールアカウントに送信できます。ご利用前にメール設定を正しく構成する必要があります。

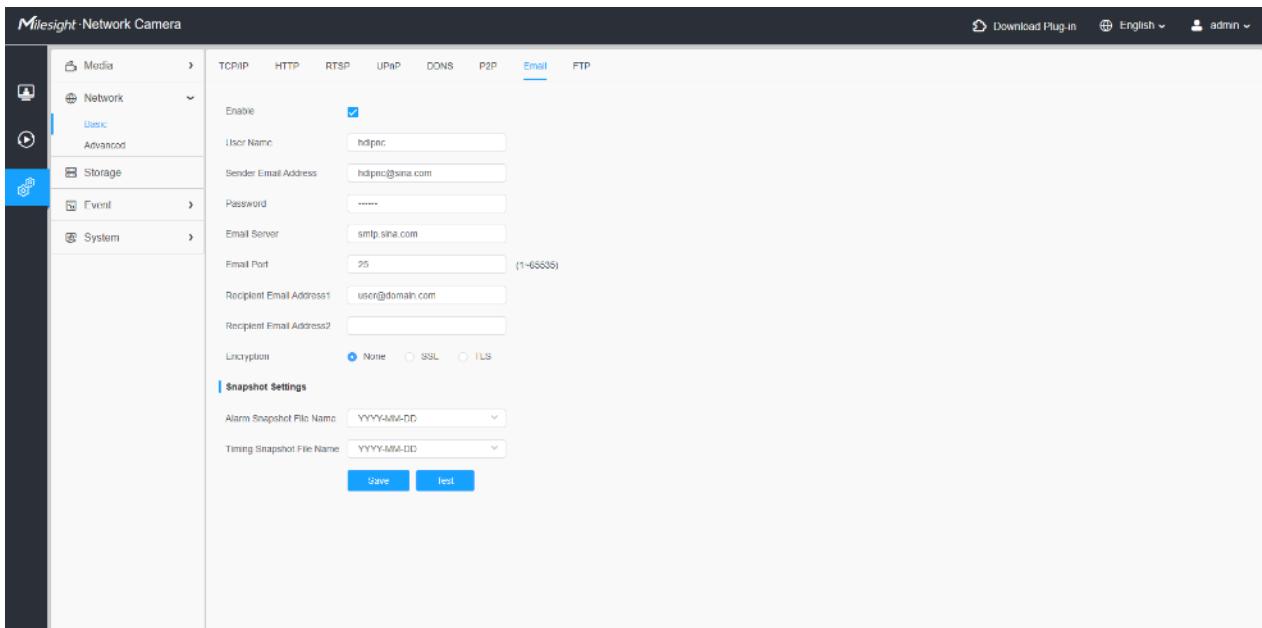


表 27. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Enable	メール機能を有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください。
User Name	送信者の名前です。通常はアカウント名と同じです。
Sender Email Address	動画ファイルを添付したメールを送信するメールアドレスです。
Password	送信者のパスワードです。
Email Server	メールサーバーのIPアドレスまたはホスト名（例：smtp.gmail.com）。
Email Port	SMTP のデフォルトの TCP/IP ポートは 25 です（非暗号化）。SSL/TLS ポートについては、ご利用のメールサービスによって異なります。
Recipient Email Address1	動画ファイルを受け取るメールアドレス。
Recipient Email Address2	動画ファイルを受け取るメールアドレスです。
Encryption	SMTPサーバーでSSLまたはTLSが必須の場合、チェックボックスにチェックを入れて有効にしてください。
Snapshot Settings	<p>Alarm Snapshot File Name : デフォルト (YYYY-MM-DD) /MM-DD-YYYY/ DD-MM-YYYY/ プレフィックス追加/ 基本ファイル名で上書き/ カスタマイズが可能です。</p> <p>Timing Snapshot File Name : デフォルト (YYYY-MM-DD) /MM-DD-YYYY/ DD-MM-YYYY/ プレフィックス追加/ 基本ファイル名で上書き/ カスタマイズが可能です。</p>
Save	設定を保存してください。
Test	設定が正常に行われたかテストしてください。

 **注記：**ファイル名をカスタマイズする際は、以下のファイル名に関するヒントをご参照ください。

File Name Tip
 &Device - Device Name
 &Y - Year
 &M - Month
 &D - Day
 &h - hour
 &m - minute
 &s - second
 &ms - millisecond
 && - &

8.2.1.8 FTP

アラーム動画ファイルは、特定のFTPサーバーへ送信することができます。ご利用前に、FTP設定を正しく構成する必要があります。

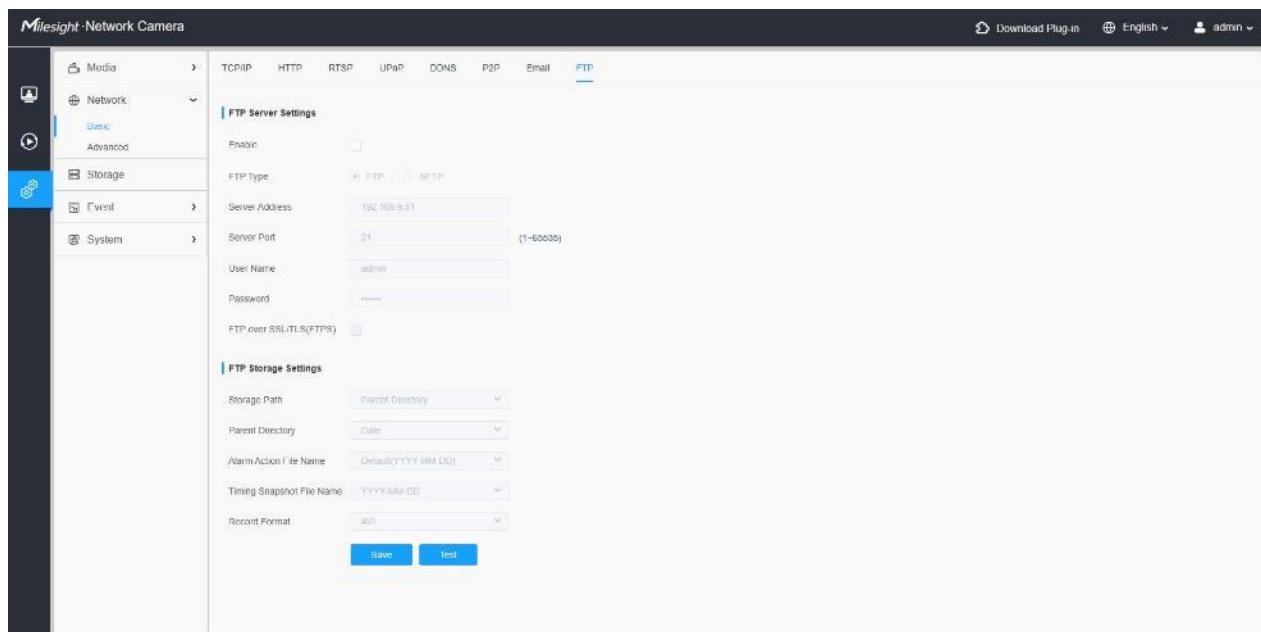


表 28. ボタン説明

パラメータ		機能紹介
FTP Server Settings	Enable	FTP機能を有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください。
	FTP Type	FTP および SFTP はオプションです。
	Server Address	FTP/SFTPサーバーのアドレスです。

パラメータ		機能紹介
FTP Server Settings	Server Port	FTPサーバーのポート番号です。通常は21です。 SFTPサーバーのポート番号です。通常は22です。
	User Name	FTP/SFTPサーバーへのログインに使用するユーザー名です。
	Password	ユーザーのパスワードです。
FTP Storage Settings	Storage Path	動画や画像をFTPサーバーにアップロードする保存先パスです。 ご利用いただけるFTPストレージパスには、ルートディレクトリ、親ディレクトリ、子ディレクトリ、カスタマイズという4種類がございます。
FTP Storage Settings	Parent Directory	親ディレクトリのフォルダ名として、IPアドレス/デバイス名/日付を選択するか、フォルダ名をカスタマイズしてください。
	Child Directory	子ディレクトリのフォルダ名として、IPアドレス/デバイス名/日付を選択するか、フォルダ名をカスタマイズしてください。
FTP Storage Settings	Multilevel Folder Name	保存パスが2階層以上になる場合は、ここにマルチレベルFTP保存パスを手動で入力してください。
	Alarm Action File Name	デフォルト(YYYY-MM-DD)を選択するか、アラームアクションファイル名をカスタマイズしてください。
	Video File Name	アラームアクションファイル名をカスタマイズする場合、YYYY-MM-DD/ MM-DD- YYYY/ DD-MM-YYYY/ プレフィックス追加が利用可能です。
	Image File Name	アラームアクションファイル名をカスタマイズする場合、YYYY-MM-DD/ MM-DD- YYYY/ DD-MM-YYYY/ プレフィックス追加が利用可能です。
	Timing Snapshot File Name	デフォルト(YYYY-MM-DD) /MM-DD-YYYY/ DD-MM-YYYY/ プレフィックス追加/ベースファイル名で上書きが利用可能です。
	Pre Second	アラーム発生前の録画時間を確保します。0~10秒の範囲で設定可能です。

パラメータ		機能紹介
FTP Storage Settings	Record Format	AVI および MP4 からお選びいただけます。
	Save	設定を保存し、0秒～10秒の範囲で選択可能です。
	Test	設定が正常に行われたかテストします。

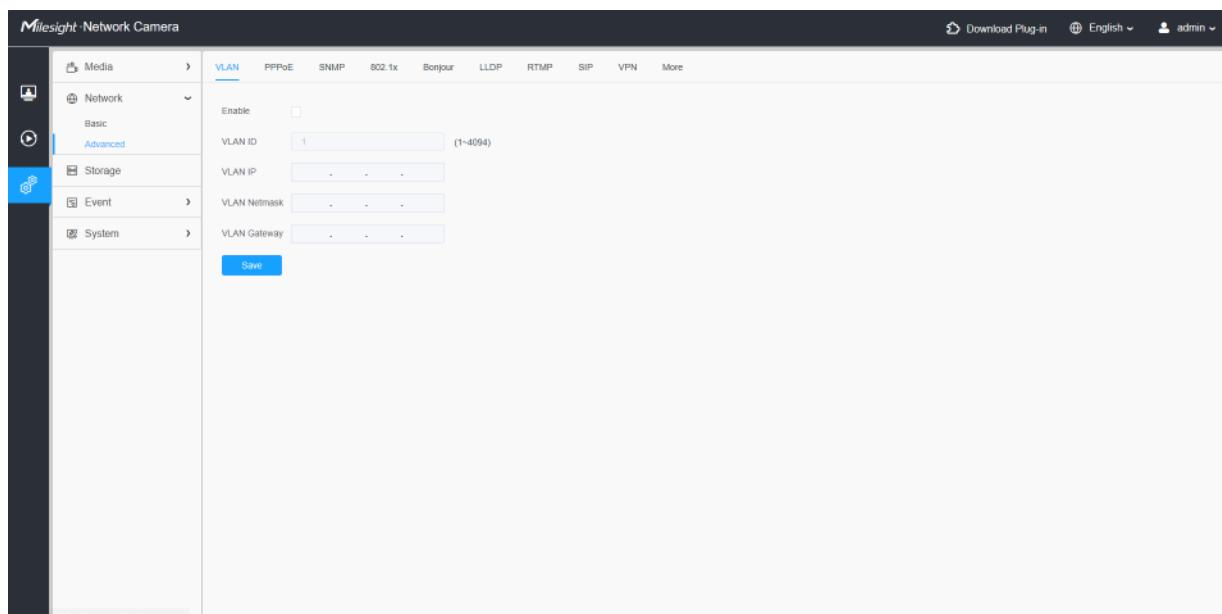
 ご注意：

- ・親ディレクトリはルートディレクトリの下に、子ディレクトリは親ディレクトリの下に配置されます。
- ・ファイル名のカスタマイズには、以下のファイル名に関するヒントをご参照ください。

8.2.2 詳細設定

8.2.2.1 VLAN

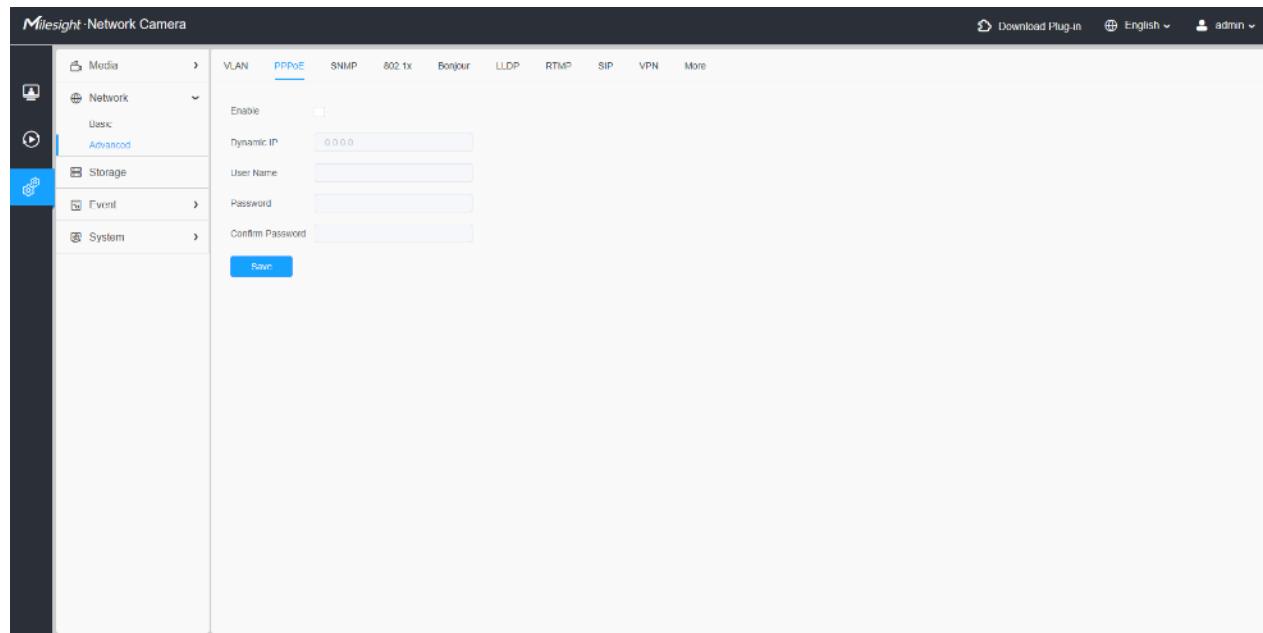
仮想LAN（VLAN）とは、データリンク層（OSIモデルの第2層）において、コンピュータネットワーク内で分割・分離されたブロードキャストドメインを指します。 LANはローカルエリアネットワークの略称です。 VLANを利用することで、ネットワーク管理者はホストが同一のネットワークスイッチ上に存在しなくとも、それらをグループ化することが可能となります。 VLANのメンバーシップはソフトウェアを通じて設定できるため、ネットワーク設計と展開を大幅に簡素化できます。 VLANがない場合、リソース要件に基づいてホストをグループ化するには、ノードの移動やデータリンクの再配線といった手間のかかる作業が必要となります。



注記：スイッチにおけるVLANの設定方法につきましては、お使いのスイッチの取扱説明書をご参照ください。

8.2.2.2 PPPoE

本カメラはPPPoE自動ダイヤルアップ機能に対応しております。モデムに接続後、ADSLダイヤルアップにより公衆IPアドレスを取得します。ネットワークカメラのPPPoEパラメータを設定する必要があります。



ご注意：

- 取得されるIPアドレスはPPPoE経由で動的に割り当てられるため、カメラの再起動後は常にIPアドレスが変更されます。動的IPの不便さを解消するには、DDNSプロバイダ（例：DynDns.com）からドメイン名を取得する必要があります。
- ユーザー名とパスワードは、ご利用のインターネットサービスプロバイダー（ISP）より割り当てられます。

8.2.2.3 SNMP

SNMP機能を設定することで、カメラがネットワークに接続されている際に、カメラの状態、パラメータ、アラーム関連情報を取得し、カメラをリモートで管理することができます。

SNMPを設定する前に、SNMPソフトウェアをダウンロードし、SNMPポート経由でカメラ情報を受信できるように設定してください。トラップアドレスを設定することで、カメラは警報イベントや例外メッセージを監視センターに送信することができます。

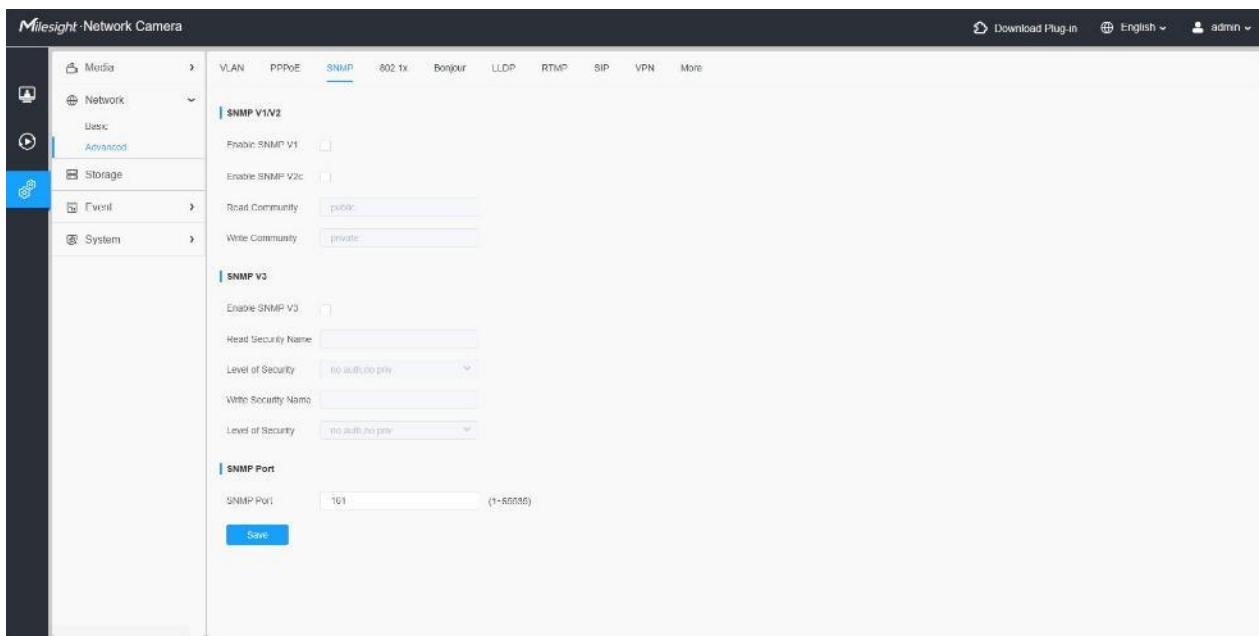


表 29. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
SNMP v1/v2	<p>SNMP のバージョンです。お使いの SNMP ソフトウェアのバージョンを選択してください。</p> <p>Enable SNMP v1 : セキュリティを提供しません。</p> <p>Enable SNMP v2 : アクセスにはパスワードが必要です。</p> <p>Write Community: 書き込みコミュニティの名前を入力してください。</p> <p>Read Community: 読み取りコミュニティの名前を入力してください。</p>
SNMP v3	<p>Enable SNMP v3: 暗号化を提供し、HTTPS プロトコルを有効にする必要があります。</p> <p>Read Security Name : 読み取りセキュリティコミュニティの名前を入力してください。</p> <p>Level of Security : 利用可能なレベルは 3 つあります：(認証あり、非認証なし)、(認証あり、非認証なし)、(認証なし、非認証なし)。</p> <p>Write Security Name : 書き込みセキュリティコミュニティの名前を入力してください。</p> <p>Level of Security : 利用可能なレベルは3つあります：(認証あり、非認証なし)、(認証あり、非認証なし)、(認証なし、非認証なし)。</p>
SNMP Port	SNMP のポート番号です。デフォルトは 161 です。

パラメータ	機能紹介
Save	設定を保存します。

 **注記 :**

- SNMPソフトウェアの設定は、こちらで設定された内容と一致している必要があります。
- 設定を有効にするには再起動が必要です。

8.2.2.4 802.1x

ネットワークカメラは IEEE 802.1X 規格に対応しており、この機能を有効にすると、カメラデータが保護され、IEEE 802.1X で保護されたネットワークにカメラを接続する際にユーザー認証が必要となります。

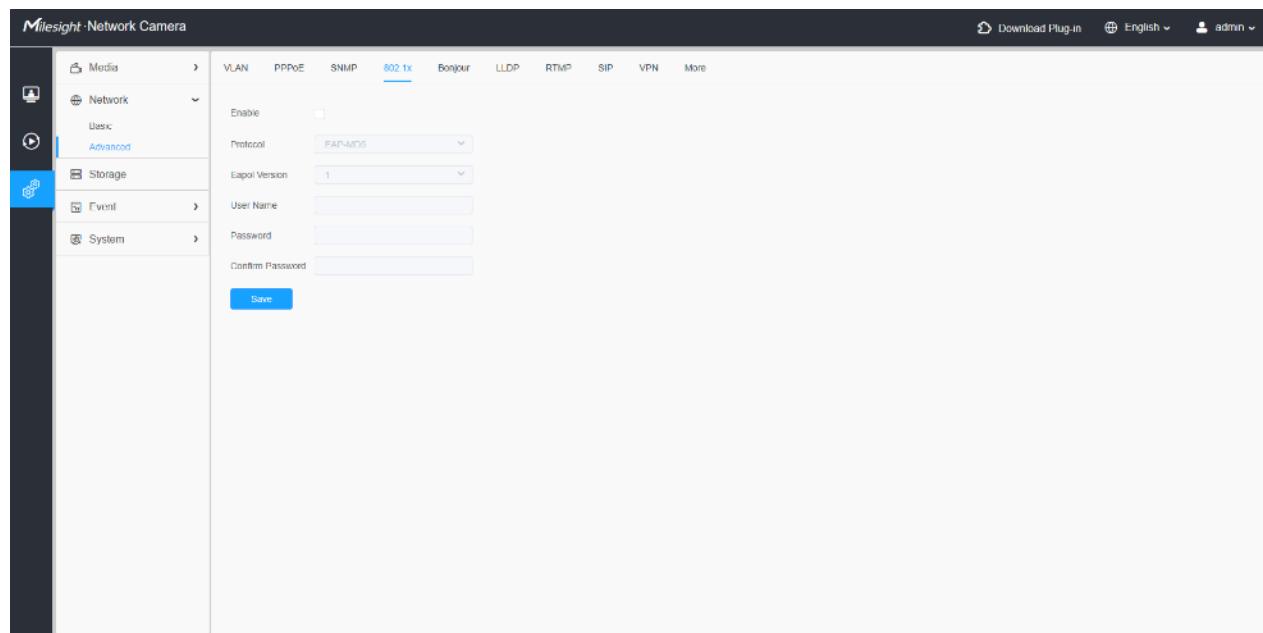


表 30. ボタン説明

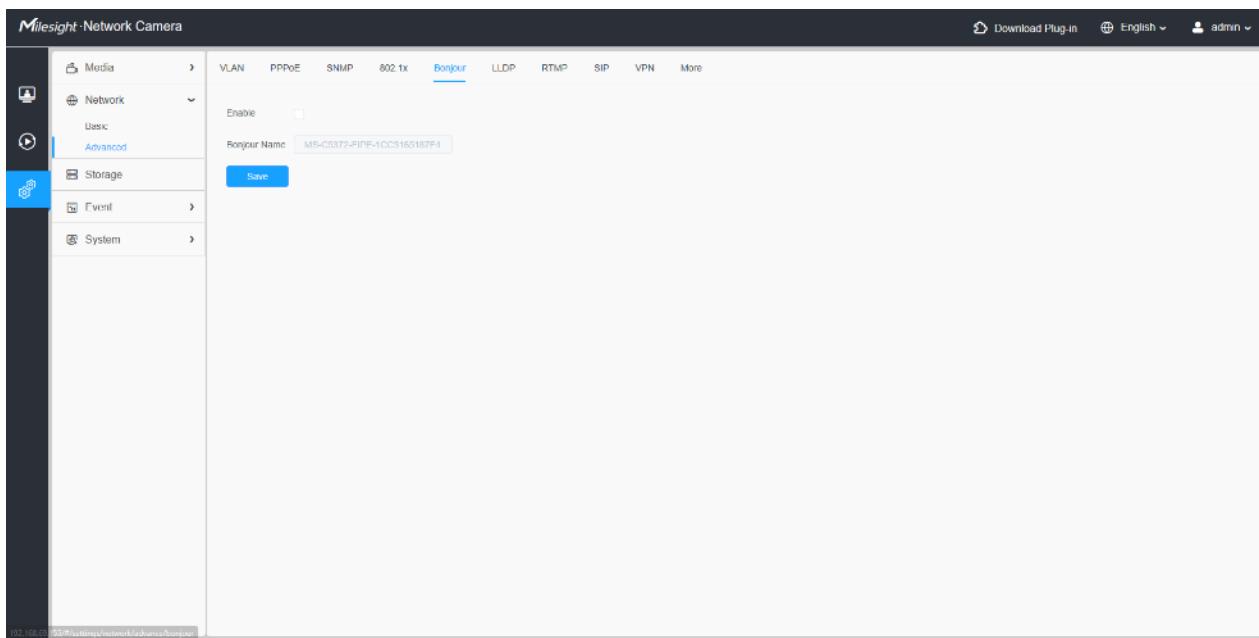
パラメータ	機能 概要	
Enable	802.1x認証の使用を開始または停止します。	
Protocol	プロトコルを選択します。EAP-MD5 および EAP-TLS が利用可能です。	
EAP-MD5	Eapol Version	このバージョン番号は、異なるバージョンのEAPOLプロトコルを実装するデバイス間の互換性を確保するのに役立ちます。バージョン1とバージョン2から選択できます。

パラメータ		機能紹介
EAP-MD5	User Name	EAP-MD5 暗号化アカウント名。
	Password	EAP-MD5 暗号化アカウントのパスワードです。
	Confirm Password	EAP-MD5暗号化アカウントのパスワードを再入力してください。
EAP-TLS	Identify	EAP-TLS 暗号化アカウント名。  注: 英数字、スペース、その他の標準文字を入力してください。また、識別子の文字数は 32 文字以内にしてください。
	Eapol Version	バージョン 1 およびバージョン 2 を選択できます。
	Client Certificate	クライアント証明書をアップロードし、設定してください。
	Private Key	クライアント証明書内の鍵証明書です。
	Private-key Password	クライアント証明書のパスワードを入力してください。  ご注意: 英数字およびその他の標準文字をご入力ください。また、パスワードの長さは32 文字以内であることをご確認ください。
	CA Certificate	CA証明書をアップロードし、設定してください。

8.2.2.5 Bonjour

Bonjour は Apple のマルチキャスト DNS サービスに基づいています。Bonjour デバイスは自動的に自身のサービス情報をブロードキャストし、他のデバイスのサービス情報をリッスンすることができます。

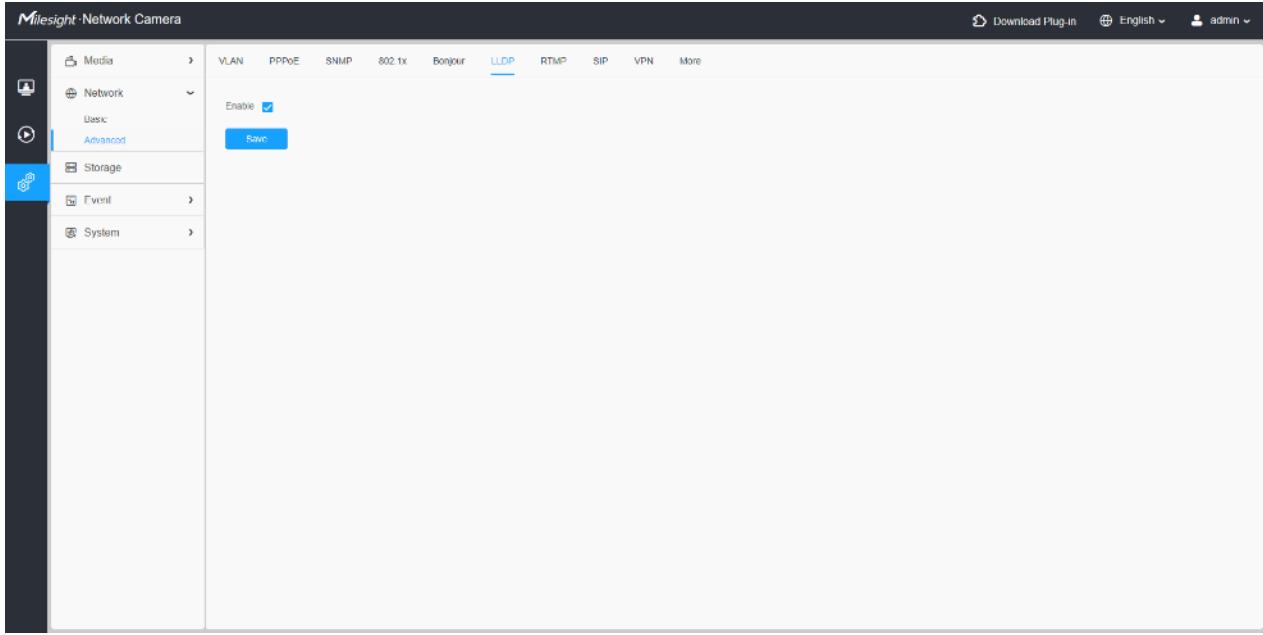
カメラの情報を知らない場合、同じ LAN 上の Bonjour サービスを使用してネットワークカメラデバイスを検索し、そのデバイスにアクセスすることができます。



8.2.2.6 LLDP

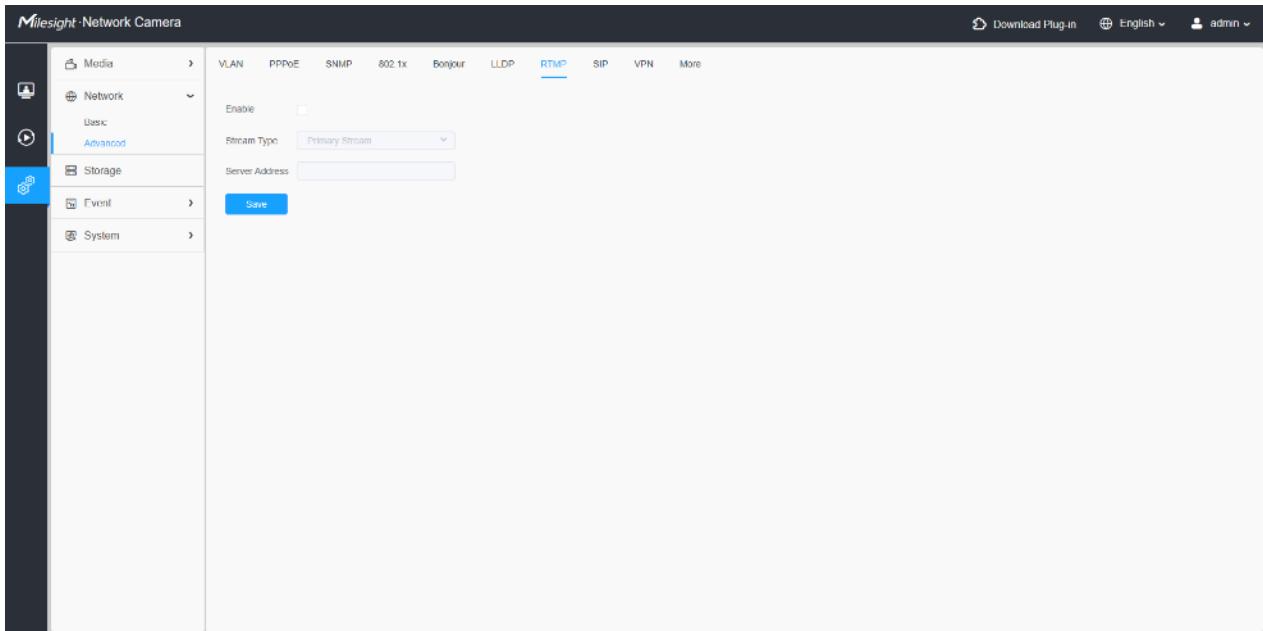
リンク層発見プロトコル (LLDP) は、ネットワーク機器がローカルエリアネットワーク (LAN) 上で自身の識別情報、機能、および隣接機器を広告するために使用する標準化されたネットワーク発見プロトコルです。OSIモデルのデータリンク層（レイヤ2）で動作します。LLDPはIEEE 802.1AB規格で定義されています。このプロトコルを利用することで、デバイスは相互の存在と機能を自動的に検出・認識することができ、ネットワーク管理や設定を簡素化します。

LLDPプロトコルを有効にすると、LLDPプロトコルをサポートするスイッチ上でカメラの情報を取得することができます。



8.2.2.7 RTMP

リアルタイムメッセージングプロトコル（RTMP）は、当初、Flashプレイヤーとサーバー間でインターネット経由で音声、動画、データをストリーミングするための独自プロトコルでした。RTMPはTCPベースのプロトコルであり、永続的な接続を維持し、低遅延通信を可能にします。これによりライブ配信機能を実現し、お客様はネットワーク環境があればどこからでもカメラにログインできます。



注記 :

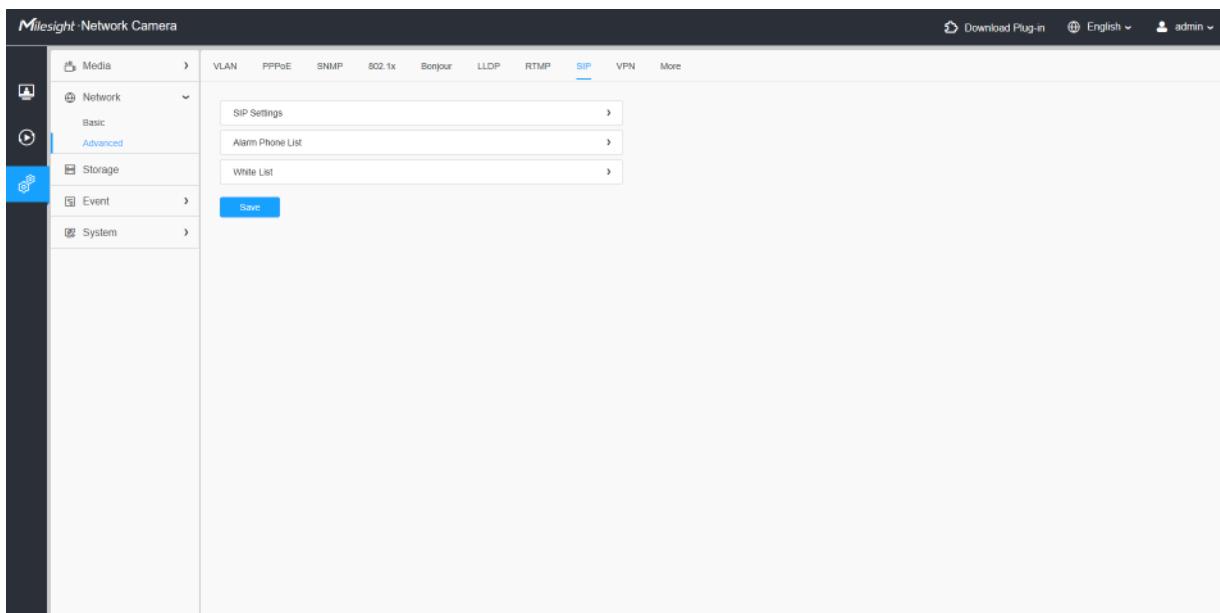
- YouTubeライブ配信をご利用の場合、新規作成したアカウントでライブ配信を行う際は、ライブ機能の利用が可能となるまで24時間お待ちいただく必要がございます。
- RTMPに関しては、YouTubeではG.711が利用できないため、YouTube上で再生可能な動画は、H.264動画符号化とAAC音声符号化を使用したMilesightネットワークカメラからのみとなります。
- ネットワークカメラのRTMPインターフェースにおけるサーバーアドレスは、以下の形式で入力してください : `rtmp://<サーバーURL>/<ストリームキー>`。なお、<サーバーURL>と<ストリームキー>の間には必ず「/」を挿入する必要があります。
- RTMPを使用したライブ配信の詳細な手順につきましては、
<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643313>をご参照ください。

8.2.2.8 SIP

セッション開始プロトコル (SIP) は、シグナリング通信プロトコルであり、インターネットプロトコル (IP) ネットワーク上の音声通話やビデオ通話などのマルチメディア通信セッションを制御するため広く利用されています。このページでは、SIP関連のパラメータを設定いただけます。Milesightネットワークカメラは、アラーム発生時に発信するSIPエンドポイントとして設定可能です。また、ビデオIP電話をご利用の場合、許可された番号からの着信を許可し、映像を確認することも可能です。

注記 : SIPの使用方法の詳細については、

<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643391>をご参考ください。



この機能をご利用いただくには、SIPページの設定を適切に構成する必要があります。SIP経由で映像を取得する方法は2通りあり、1つはIPアドレスを直接ダイヤルする方法、もう1つはアカウント登録モードです。詳細は以下の通りです：

方法1：IP直接モード

SIP電話からカメラのIPアドレスを直接ダイヤルすることで、映像をご覧いただけます。

 注：SIP電話とカメラは同一ネットワークセグメントに接続されている必要があります。

方法2：アカウント登録モード

- SIPをご利用になる前に、SIPサーバーからカメラのアカウントを登録する必要があります。
- 同じSIPサーバーからSIPデバイス用の別のユーザー アカウントを登録してください。
- SIPデバイスからカメラのユーザーIDを呼び出すと、SIPデバイスで映像が表示されます。

[SIP Settings]

SIP Settings

Enable	<input type="checkbox"/> ⓘ
Register Mode	Enable
User ID	500
User Name	sipclient
Password	*****
Server Address	192.168.5.101
Server Port	5060 (1~65535)
Connection Protocol	UDP
Video Stream	Secondary Stream
Enable Audio in SIP Call	<input type="checkbox"/>
Max Call Duration	1800 s (0 means no limitation.)
Status	Unregistered
Alarm Phone List	
White List	
<input type="button" value="Save"/>	

表31. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Enable	SIP の使用を開始または停止します。 ☞ 注記 : SIPはダイレクトIPコールをサポートしております。
Register Mode	有効モードまたは無効モードのいずれかを選択します。有効モードは、登録アカウントを使用してSIPを利用することを意味します。無効モードは、登録アカウントを使用せず、IPアドレスのみで通話を行うSIPの利用を指します。
User ID	SIP ID。
User Name	SIPアカウント名です。

パラメータ	機能紹介
Password	SIPアカウントのパスワードです。
Server Address	サーバーのIPアドレスです。
Server Port	サーバーのポート番号です。
Connection Protocol	UDP/TCP。
Video Stream	ビデオストリームをお選びください。
Enable Audio in SIP Call	SIP通話における音声の有効化/無効化。
Max Call Duration	SIPをご利用の際の最大通話時間です。
Status	SIP登録ステータス。「未登録」または「登録済み」を表示します。

[Alarm Phone List]

The screenshot displays the 'Alarm Phone List' configuration page. At the top, there's a header 'SIP Settings' with a dropdown arrow. Below it is a blue header bar labeled 'Alarm Phone List'. The main area contains a table with the following columns: 'SIP Phone', 'Phone Type', 'Remark Name', 'Duration', and 'Delete'. A message 'No Data' is shown below the table. At the bottom left of the table area is a blue 'Add' button. Below the table is another blue header bar labeled 'White List' with a dropdown arrow. At the very bottom is a blue 'Save' button.

SIP Phone	Phone Type	Remark Name	Duration	Delete
No Data				

Add

White List

Save

表 32. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
 Add	<p>カメラにアラーム電話を追加します。</p> <p>Phone Type : 電話番号（電話番号による発信）& 直接IP発信（ピアツーピアIP発信を受け入れる場合にチェック）。</p> <p>To Phone Number/IP Address : 電話番号またはIPアドレスによる発信を行います。</p> <p>Remark Name : 表示名。</p> <p>Duration : SIPを使用する時間帯の設定です。</p>
	選択したアラーム電話を削除します。
 Delete All	追加されたすべての警報電話を削除します。

[White List]

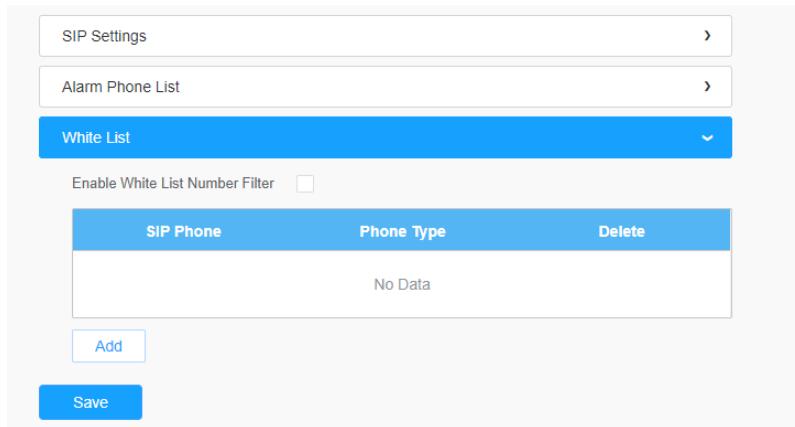


表 33. ボタンの説明

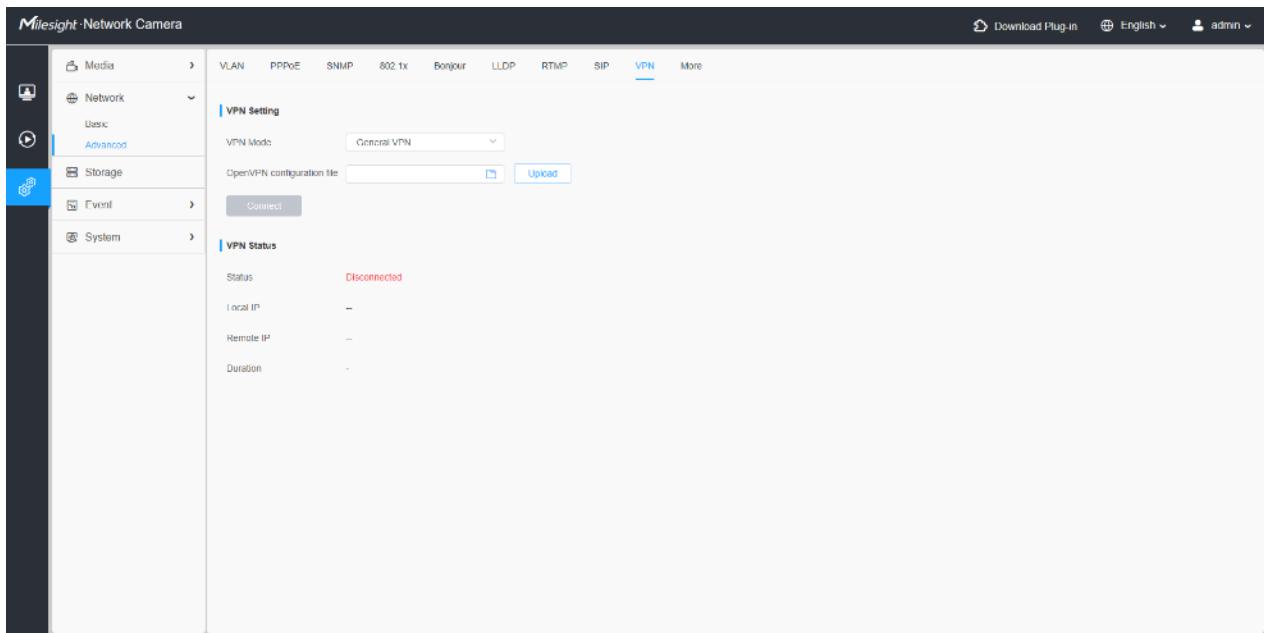
パラメータ	機能説明
Enable White List Number Filter	有効にすると、指定された電話番号またはIPアドレスのみがアクセス可能となります
 Add	<p>Phone Type : 電話番号（電話番号による通話）およびダイレクトIP通話。</p> <p>Phone Number/IP Address : ホワイトリストに登録された電話番号またはIPアドレスを含みます。</p>

8.2.2. VPN

VPNとはVirtual Private Network（仮想プライベートネットワーク）の略称です。これは、公衆インターネット上で安全な暗号化接続を提供するネットワークプロトコルであり、監視業界において重要な技術です。例えば、公衆IPアドレス経由で接続されたネットワークカメラを想定した場合、特定のIPアドレスと転送ポートを知っている第三者が不正にログインしたり、盗聴したりする可能性があります。VPN経由では、カメラの映像やデータは暗号化されたトンネルを通じて転送されます。この暗号化されたVPNトンネルにより、あたかもプライベートネットワークに直接接続しているかのように見え、オンライン活動（閲覧履歴を含む）を隠蔽します。Milesightカメラでは、VPN機能により仮想IP経由でカメラにログインできるため、リモートでの設定が容易になります。

MilesightカメラでのVPN使用方法の詳細につきましては、

<https://milesight.freshdesk.com/support/solutions/articles/69000829102-how-to-use-vpn-on-milesight-network-camera>をご参照ください。



8.2.2.10 その他の機能

ここでは、プッシュメッセージ設定や ONVIF 設定など、その他の機能を設定できます。

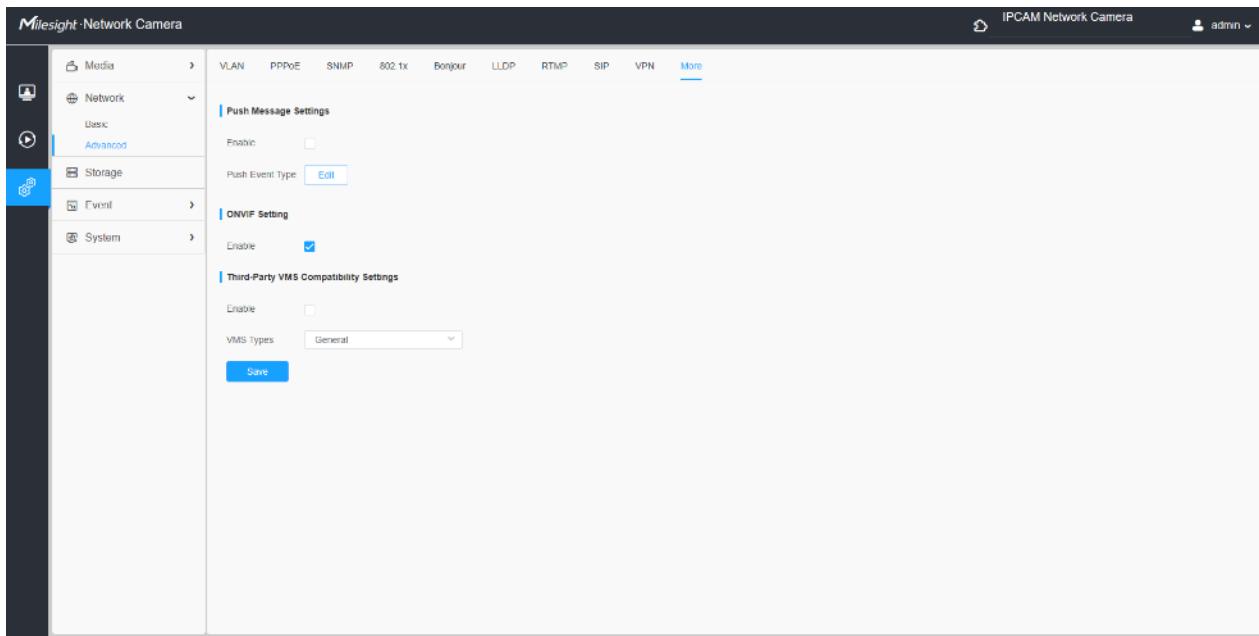
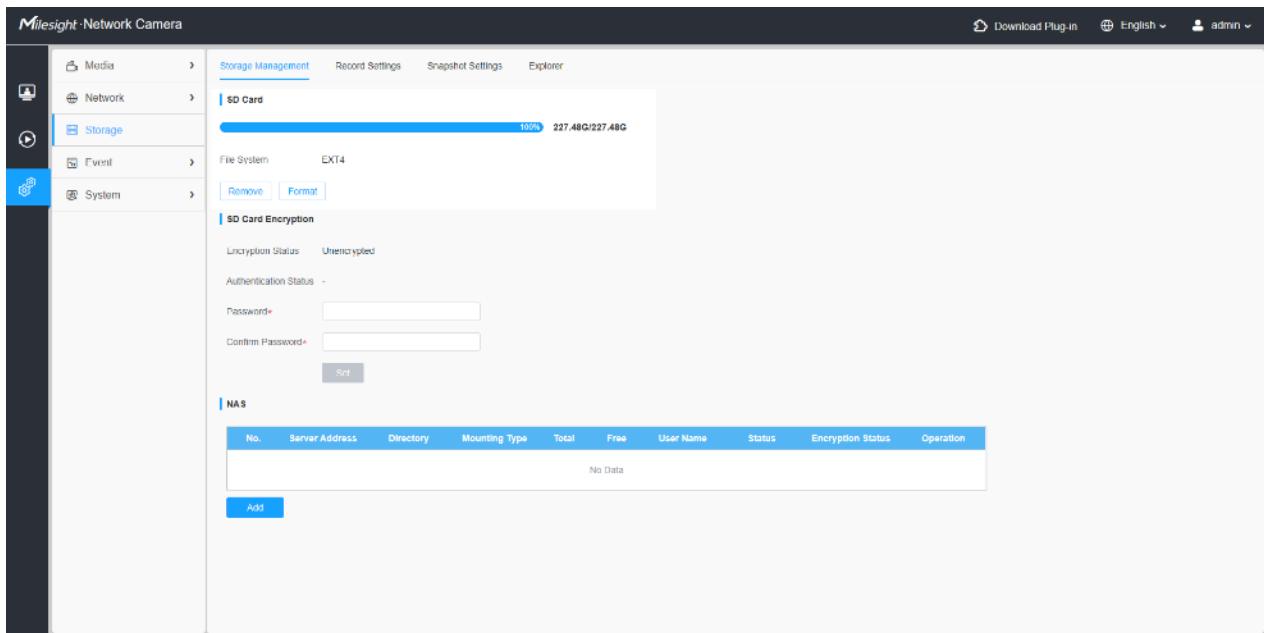


表 34. ボタン説明

パラメータ	機能紹介															
Push Message Settings	<p>Enable : プッシュ通知機能を有効／無効にします</p> <p>Edit</p> <p>Push Event Type : 以下の通り、Edit をクリックして、M-sight Proアプリにプッシュされるイベントメッセージの種類を選択できます：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">Push Event Type</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> All</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Motion Detection</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Tamper Detection</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> Region Entrance</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Region Exiting</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Line Crossing</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> Loitering</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Advanced Motion Detection</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Face Detection</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> People Counting</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> Object Left/Removed</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>Save Cancel</p>	Push Event Type			<input checked="" type="checkbox"/> All	<input checked="" type="checkbox"/> Motion Detection	<input checked="" type="checkbox"/> Tamper Detection	<input checked="" type="checkbox"/> Region Entrance	<input checked="" type="checkbox"/> Region Exiting	<input checked="" type="checkbox"/> Line Crossing	<input checked="" type="checkbox"/> Loitering	<input checked="" type="checkbox"/> Advanced Motion Detection	<input checked="" type="checkbox"/> Face Detection	<input checked="" type="checkbox"/> People Counting	<input checked="" type="checkbox"/> Object Left/Removed	
Push Event Type																
<input checked="" type="checkbox"/> All	<input checked="" type="checkbox"/> Motion Detection	<input checked="" type="checkbox"/> Tamper Detection														
<input checked="" type="checkbox"/> Region Entrance	<input checked="" type="checkbox"/> Region Exiting	<input checked="" type="checkbox"/> Line Crossing														
<input checked="" type="checkbox"/> Loitering	<input checked="" type="checkbox"/> Advanced Motion Detection	<input checked="" type="checkbox"/> Face Detection														
<input checked="" type="checkbox"/> People Counting	<input checked="" type="checkbox"/> Object Left/Removed															
ONVIF Setting	カメラのONVIF機能を有効にするか無効にするかを選択できます。カメラのONVIF機能を有効にすると、サードパーティ製ソフトウェアがONVIFプロトコルを通じてカメラを検索、追加、接続することが可能になります。通常、ONVIF機能のデフォルト状態は有効です。															
Third-Party VMS Compatibility Settings	<p>Enable : チェックボックスにチェックを入れ、サードパーティ製VMSシステムとの互換性を有効にします。</p> <p>VMS Types : 互換性を確保したいサードパーティ製VMSの種類を選択してください。</p>															

8.3 ストレージ

8.3.1 ストレージ管理



- SDカードをデバイスのSDカードスロットに挿入してください。その後、自動的に検出され、SDカードの詳細情報がSDカードバーに表示されます。
- SDカードバーでは、SDカードを取り外すためにクリックするか、SDカードを取り外すためにクリックすることができます。**Remove** をクリックするとSDカードを取り外すことができ、**Format** をクリックしてSDカードをフォーマットし、すべてのファイルを消去することができます。サポートされているファイルシステム形式はEXT4とFAT32の2種類で、カード取り外し時や電源障害時のデータ損失を防ぐためEXT4が推奨されます。一方、FAT32はオペレーティングシステムとの互換性が優れています。

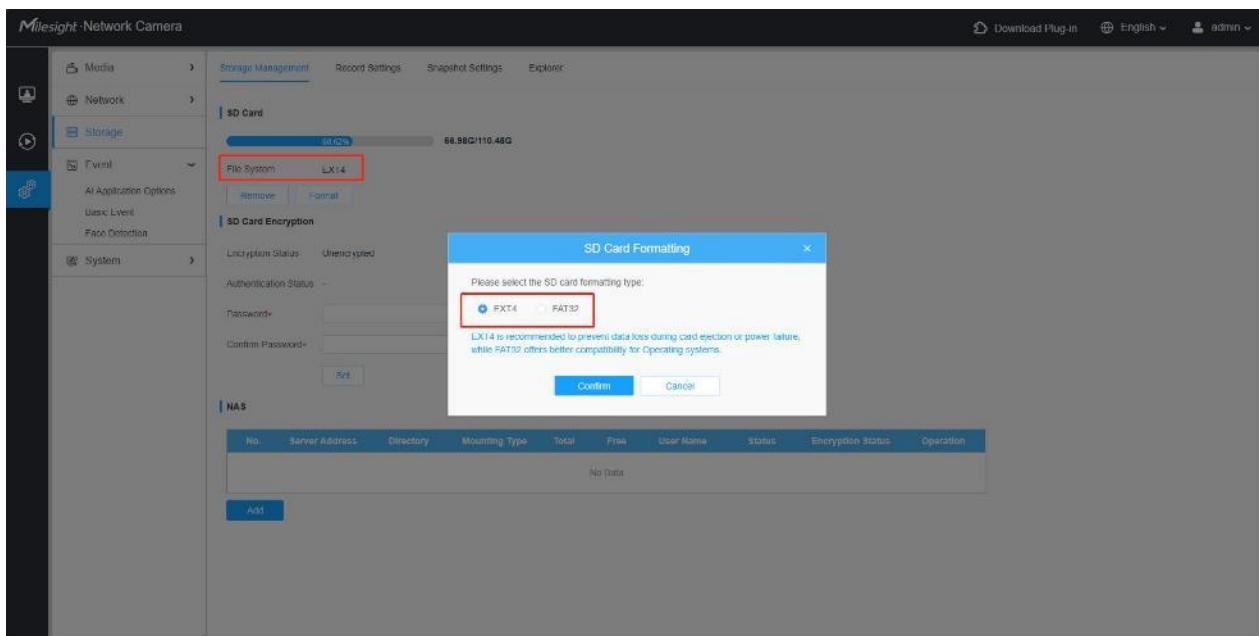
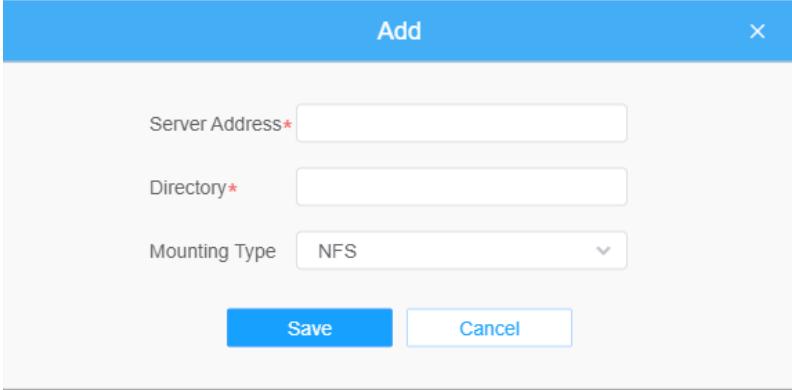


表 35. ボタン説明

パラメータ	機能 説明
SD Card	<p>Format : SDカードをフォーマットします。SDカード内のファイルは削除されます。</p> <p>Remove : SDカードを抜き取ります。</p> <p>Encryption Status : SDカードの暗号化ステータス (Encrypted、Unencrypted) を表示します。</p> <p>Authentication Status : 認証状態を表示します。</p> <p>Password/ Confirm Password : SDカードをロックするためのパスワードを入力してください。</p>

パラメータ	機能紹介
Nas	<p>ネットワークディスクは、ネットワーク内で利用可能であり、録画ファイルなどを保存するため適切に設定されている必要があります。</p> <p>NAS（ネットワーク接続ストレージ）は、ストレージデバイスを既存のネットワークに接続し、データおよびファイルサービスを提供します。</p>  <p>Server Address : NASサーバーのIPアドレス。</p> <p>Directory : NASのディレクトリを入力してください。例：「\パス」。</p> <p>Mounting Type : NFS および SMB/CIFS をご利用いただけます。SMB/CIFS を選択された場合、セキュリティを確保するため、ユーザー名とパスワードを設定することができます。</p> <p>ご注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"> カメラには最大5台のNASディスクを接続できます。 MilesightネットワークカメラでのNASの使用方法の詳細については、https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000797902をご参照ください。

8.3.2 録画設定

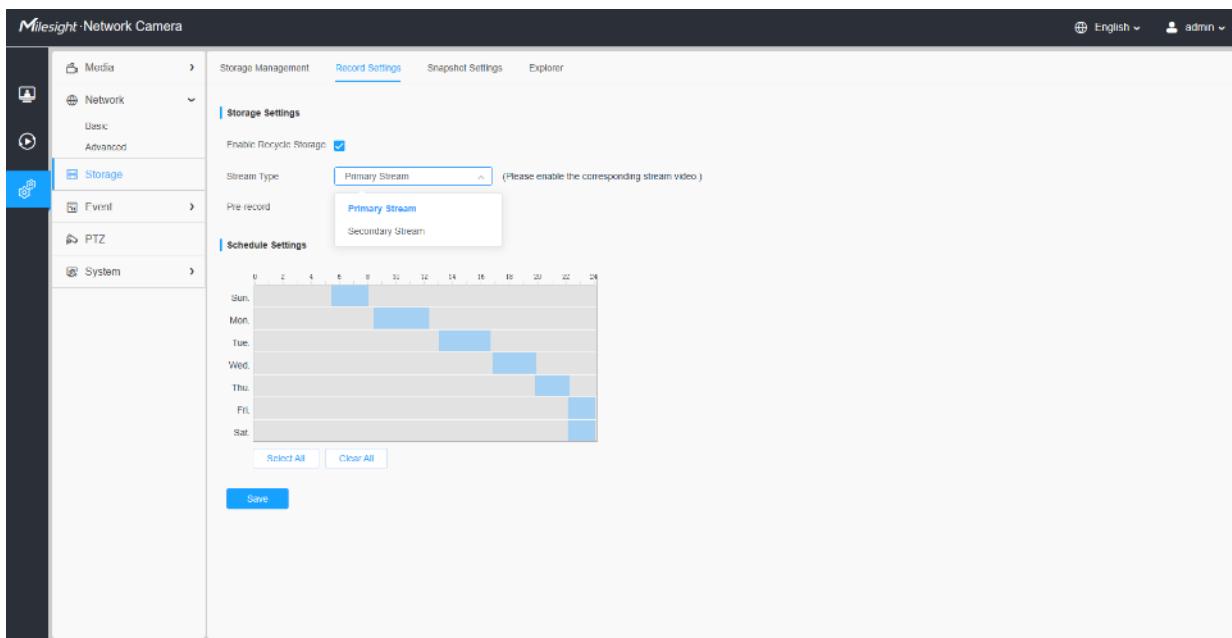
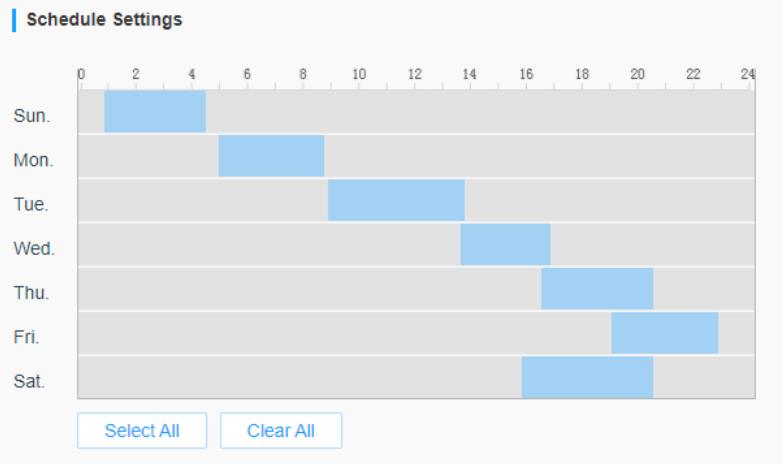
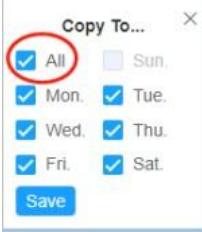
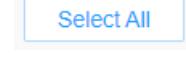
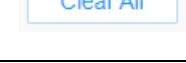


表 36. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Enable Recycle Storage	リサイクルストレージの有効化/無効化。このオプションを有効にすると、空きディスク容量が特定の値に達した際にファイルが削除されます。
Stream Type	ストリームタイプを選択します。プライマリストリームとセカンドリストリームが含まれます。 注：対応するストリーム動画を有効にしてください。
Pre Second	アラーム発生前の録画時間を予約します（0~10秒）。

パラメータ	機能紹介	
Schedule Settings	<p>必要に応じて録画スケジュールを編集します。タイムバーを直接描画することで直感的なスケジュール設定が可能です。</p> 	
Schedule Settings		<p>スケジュール領域を別の日付にコピーします。</p> <p>「すべて」ボタンは、本日のスケジュールを全日にコピーするのに便利です。</p>
		すべてのスケジュールを選択します。
		すべてのスケジュールをクリアします。
		設定を保存します。

 注：SDカードまたはNASがご利用いただけます。

8.3.3 スナップショット設定

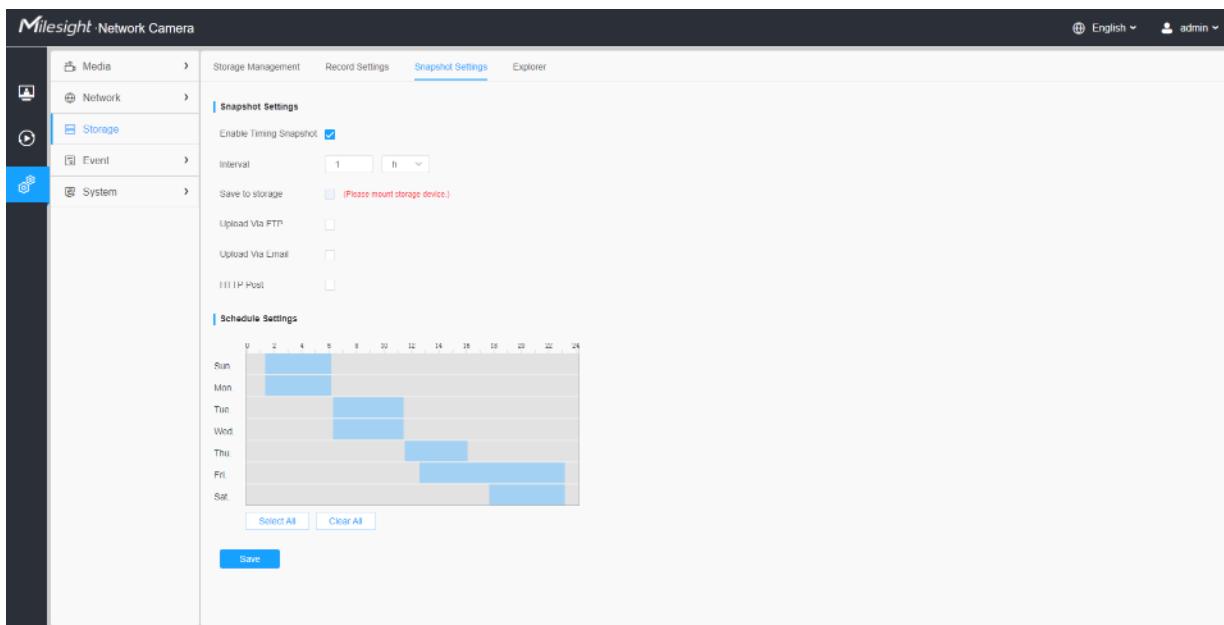
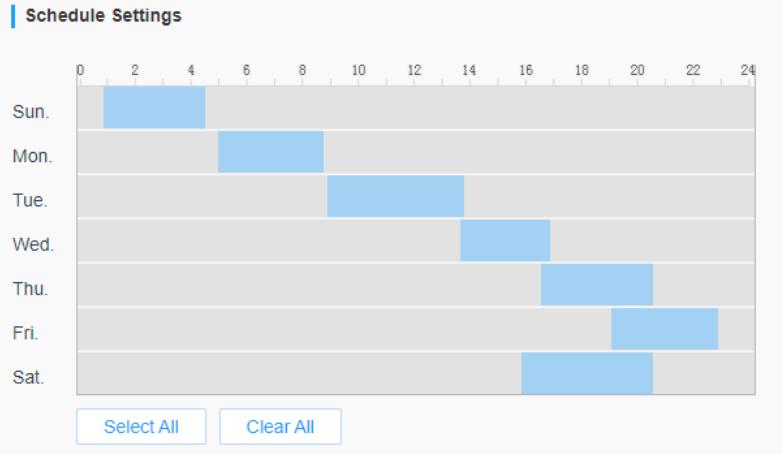
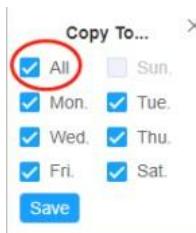


表 37. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Snapshot Settings	<p>Enable Timing Snapshot : チェックボックスをオンにすると、タイミングスナップショット機能が有効になります。</p> <p>Interval : スナップショットの間隔を設定します。数値を入力し、単位（ミリ秒、秒、分、時間、日）を選択してください。</p> <p>Save Into Storage : スナップショットをSDカードまたはNASに保存し、ファイル名に時刻の接尾辞を追加するか、基本ファイル名を上書きするかを選択します。</p> <p>Save Into NAS : スナップショットをNASに保存します。ファイル名に時刻の接尾辞を追加するか、基本ファイル名を上書きするかを選択します。</p> <p>Upload Via FTP : スナップショットをFTP経由でアップロードします。</p> <p>Upload Via Email : スナップショットをメール経由でアップロードします。</p> <p>ご注意 : 時間接尾辞を追加する場合、すべてのスナップショット画像が保存されますが、基本ファイル名を上書きする場合、最新の画像のみが保存されます。SDカードまたはNASへの基本ファイル名の上書きを選択すると、「Snapshot」という名前のファイルが作成され、そこにスナップショットが保存されます。</p> <p>HTTP POST: HTTP POST経由でスナップショットをアップロードします。指定されたHTTP URLへのスナップショットのアップロードをサポートします。</p>

パラメータ	機能紹介
Schedule Settings	<p>必要に応じて録画スケジュールを編集します。時間バーを直接描画することで直感的なスケジュール設定が可能です。</p> 
	 <p>スケジュール領域を別の日付にコピーできます。 「すべて」ボタンは、本日のスケジュールを全日にコピーするのに便利です。</p>
Schedule Settings	<input type="button" value="Select All"/> <p>すべてのスケジュールを選択します。</p>
Schedule Settings	<input type="button" value="Clear All"/> <p>すべてのスケジュールをクリアします。</p>
	<input type="button" value="Save"/> <p>設定を保存します。</p>

8.3.4 エクスプローラー

SDカードまたはNASへの保存設定が完了したファイルは、このページに表示されます。毎日の録画スケジュールを設定し、動画ファイルをご希望の場所に保存することができます。

〔注意〕 ご注意 :

1. SDカードが挿入されるとファイルが表示されます。電源投入中はSDカードの挿入・取り外しを行わないでください。

2. 録画またはスナップショットが存在する日の日付の下には赤いアイコンが表示され、ファイルが存在する日付を素早く識別できます。

動画ファイルは日付順に整理されます。ファイルの種類や開始/終了時刻を設定してファイルを検索できます。各日のファイルは対応する日付の下に表示され、ここからファイルのコピーや削除などが行えます。SDカード内のファイルにはFTPでアクセスできます。例：

`ftp://username:password@192.168.5.190` (ユーザー名とパスワードはカメラアカウントと同じ、IPはご利用のデバイスのIPアドレスです)。

The screenshot shows the Milesight Network Camera software interface under the 'Storage' tab. The left sidebar includes options like Media, Network, Storage (highlighted with a blue square), Event, System, and Maintenance. The main area has tabs for Storage Management, Record Settings, Snapshot Settings, and Explorer (highlighted with a blue square). In the Storage Management tab, there's a search bar with 'Main Type: Record' and 'Sub Type: All'. Below it is a table with columns 'File Name' and 'Start Time'. A red box labeled '1' points to the 'Start Time' column, which shows dates like 2024-11-14. To the right of the table is a detailed view of the 14th of November, showing file names, types (Timing), and sizes. A red box labeled '2' points to the 'Search' button. At the bottom right is a red box labeled '3' pointing to the 'Download' button.

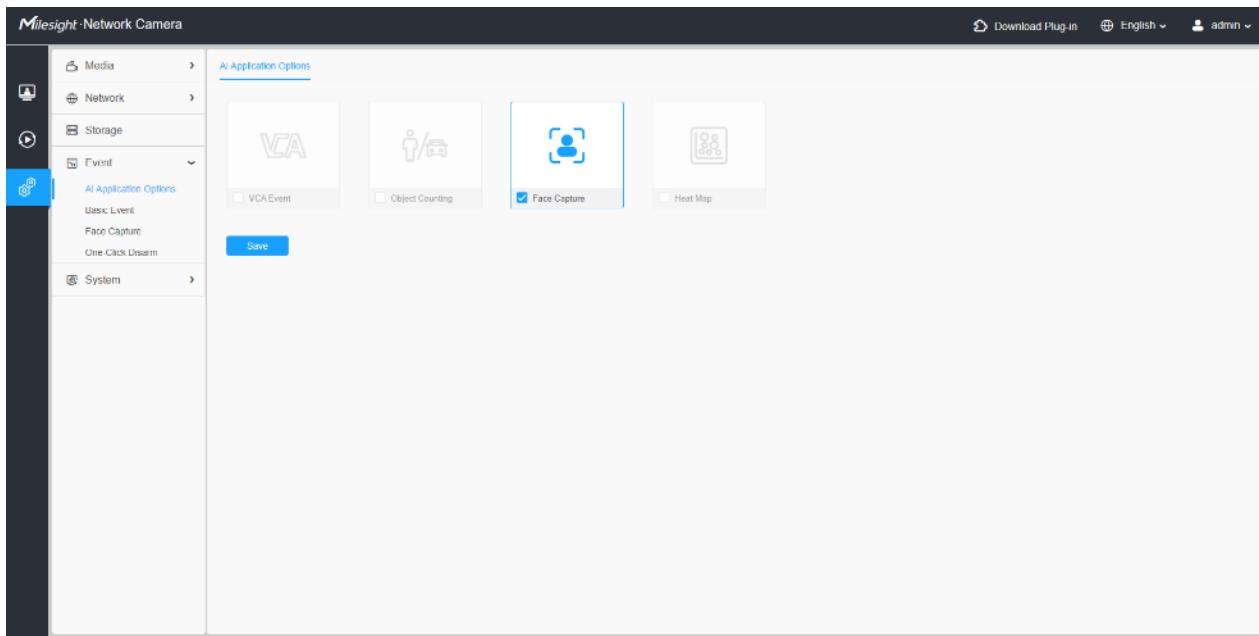
8.4 イベント

Milesight イベントは、Milesight ネットワークカメラ向けに高度で正確なスマートビデオ分析を提供します。

基本イベントおよびVCAイベントを通じてネットワークカメラの性能を向上させ、包括的な監視システムを実現するとともに、様々な監視シーンに対するカメラの迅速な対応を可能にします。

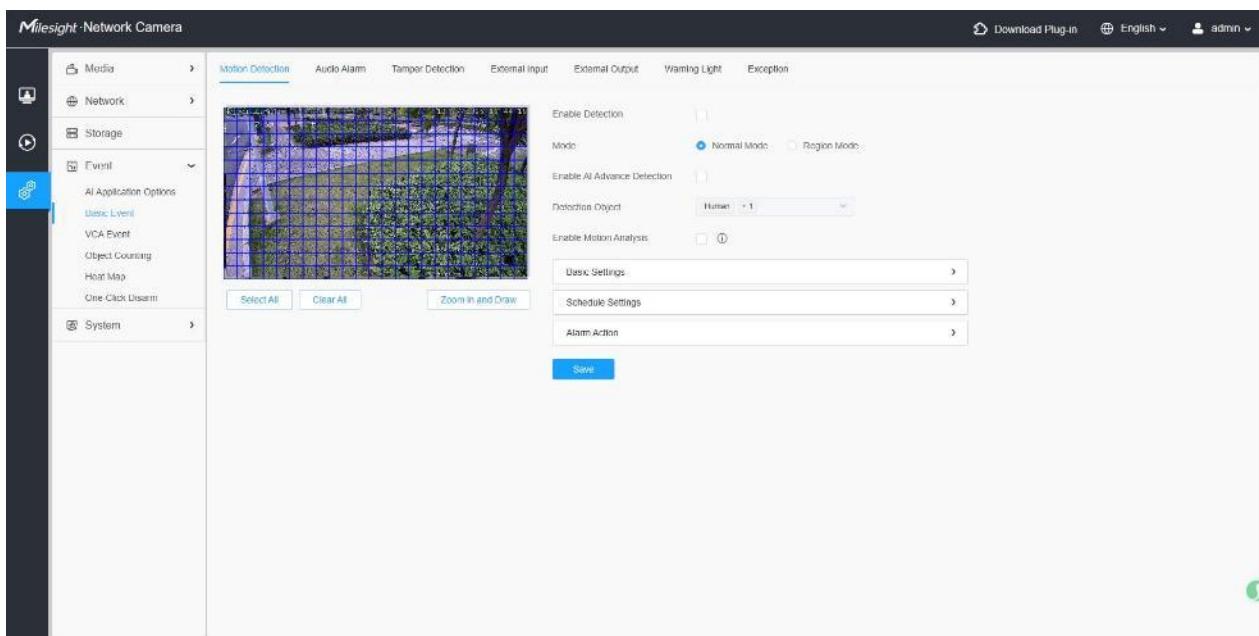
ご注意 :

- 対応する機能をご利用になる前に、AIアプリケーションオプションインターフェース内で有効にしてください。
- 顔キャプチャ機能は、VCAイベント、ヒートマップ、オブジェクトカウント機能と同時にご利用いただけません。



8.4.1 基本イベント

8.4.1.1 動き検知



注：動き検知の設定方法の詳細については、

<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643423> をご参照ください。

設定手順は以下の通りです：

ステップ1 : チェックボックスをオンにして、モーション検知を有効にしてください。

ステップ2 : 検知モードを選択します。通常モードと領域モードが利用可能です。

注記 : AI高度な動き検知のチェックボックスを有効にすると、カメラは人や車両を対象とした検知をサポートし、昆虫、蚊、犬、猫、その他の小動物などの環境の動きによる誤検知を大幅に低減します。また、ONVIFおよびメタデータを通じてサードパーティシステムとの互換性を備えており、シームレスな統合が可能です。

注記 : AI高度な動き検知は、顔キャプチャ機能と同時にご利用いただけません。

ステップ3 : 動作分析を有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください。

ステップ4 : モーション検知領域を設定します。

表38. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Enable Detection	チェックボックスをオンにすると、モーション検知機能が有効になります。
Enable AI Advance Detection	人物または車両のターゲットに対するAI高度検知機能を有効にするには、こちらのチェックボックスにチェックを入れてください。
Detection Object	「人物」または「車両」オプションを選択すると、カメラは人物または車両を検知した際にアラームを発します。
Enable Motion Analysis	<p>モーション分析を有効にすると、動きのある領域が黄色に変わり、ユーザーが動きの発生場所を正確に把握できるようになります。</p> <p>注 : ライブビューでHTTPが選択されている場合のみ対応しております。</p>
Select All	ボタンをクリックすると、指定エリア内の動きが検出されます。

パラメータ	機能紹介
Clear All	ボタンをクリックすると、以前に描画した領域が削除されます。
Zoom in and Draw	Zoom in and Draw ボタンをクリックすると、より正確な検出領域を描画するためのフルスクリーンポップアップウィンドウを起動できます。
Save	設定を保存します。

[Basic Settings]

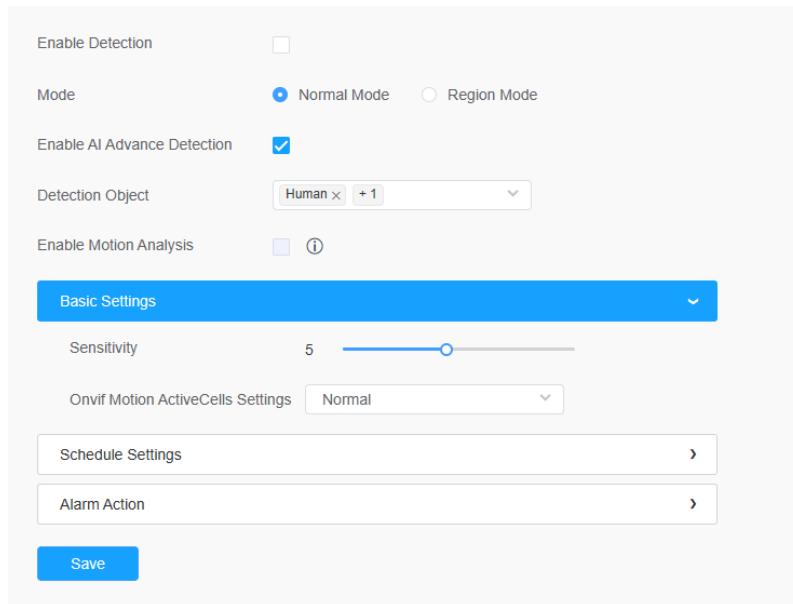


表 39. 各ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Sensitivity	感度レベル、1~10
Onvif Motion ActiveCells Settings	オプションとして「通常」と「互換」が選択可能です。サードパーティ製ソフトウェアのモーション検知領域設定が当社製品と異なる場合、本オプションを「互換」に設定してください

[Schedule Settings]

ステップ5：モーション検知のスケジュールを設定します。

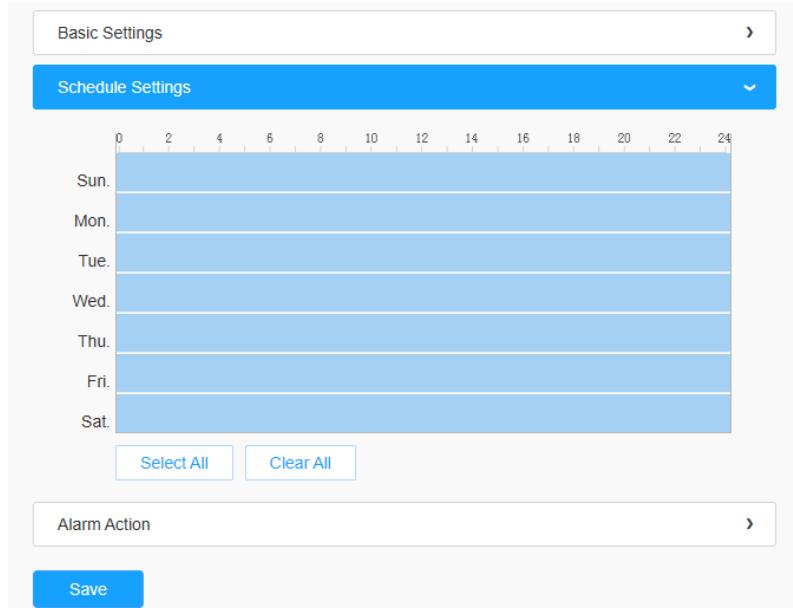


表40. ボタン説明

パラメータ	機能の説明
	<p>スケジュール領域を別の日付にコピーします。</p> <p>「すべて」ボタンは、本日のスケジュールを全日にコピーするのに便利です。</p>
<input type="button" value="Select All"/>	すべてのスケジュールを選択します。
<input type="button" value="Clear All"/>	すべてのスケジュールを消去します。

[Alarm Action]

ステップ6：アラームアクションを設定します。

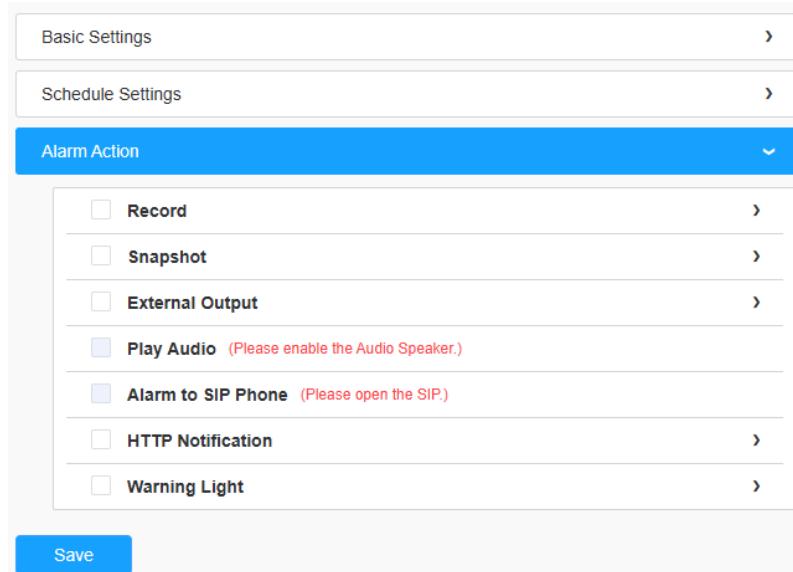


表41. ボタン説明

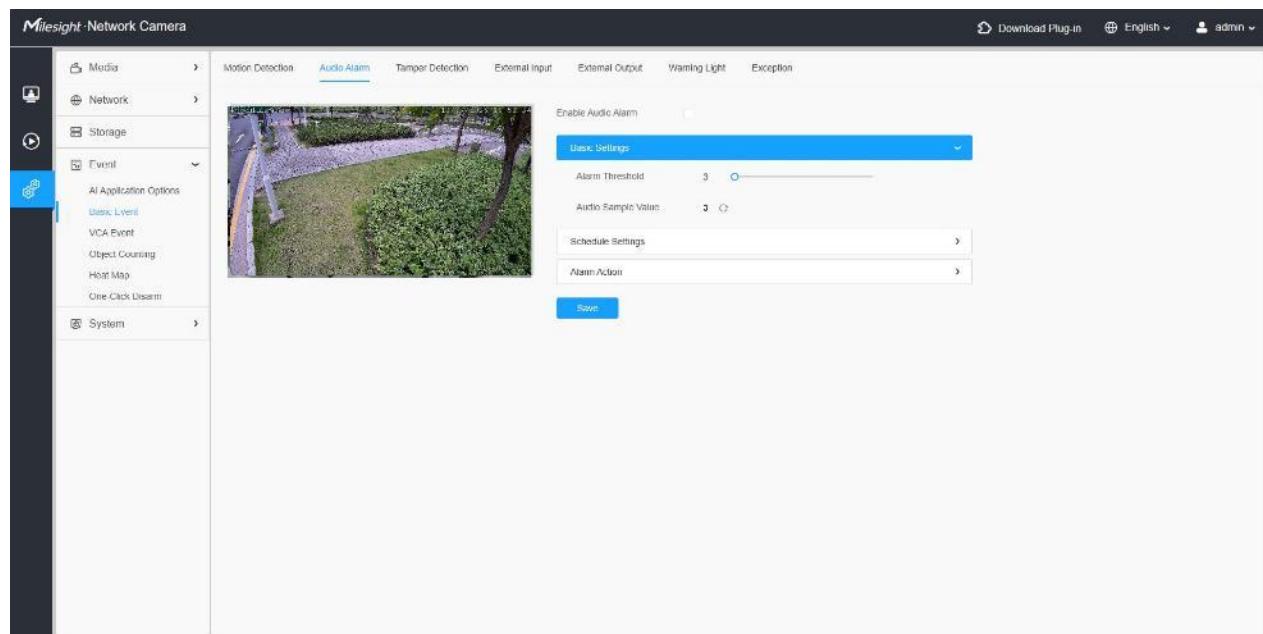
パラメータ	機能紹介
Record	<p>Duration : アラームの継続時間を選択します。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が利用可能です。</p> <p>Linkage : アラーム録画ファイルをSDカードまたはNASに保存、またはFTP経由で録画ファイルをアップロードします。</p>
Snapshot	<p>Number : スナップショットの枚数です。1~5枚まで設定可能です。</p> <p>Interval : スナップショットを1枚以上選択した場合にのみ編集可能です。</p> <p>Linkage : アラーム録画ファイルをSDカードまたはNASに保存、録画ファイルをFTP経由でアップロード、アラームメールを送信します。</p>
External Output	<p>カメラに外部出力が装備されている場合、トリガー期間を設定後にアクションを有効にできます。</p> <p>Action Time : カスタム設定/10秒/30秒/1分/5分/常時が選択可能です。</p>
Play Audio	<p>自動再生、10秒、30秒、1分、5分、10分からお選びいただけます。</p> <p> ご注意 : 音声スピーカーを有効にしてください。</p>
Alarm to SIP Phone	SIP機能を有効にした後、SIP電話への発信をサポートします。

パラメータ	機能紹介
HTTP Notification	<p>指定されたHTTP URLへアラーム通知をポップアップ表示する機能をサポートしております。</p> <p>注記 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 同一のイベントに対して、最大3件のHTTP通知を追加できます。 HTTP通知はBasic認証およびDigest認証に対応しております。
Warning Light	アラームが作動すると、 警告灯 (104ページ) が点灯し、検知対象物に警告します。

8.4.1.2 音声アラーム

音声アラーム機能を有効にするには、チェックボックスをオンにしてください。

注 : 音声アラーム機能をご利用になる前に、音声マイクを有効にしてください。



[Basic Settings]

表 42. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Alarm Threshold	閾値が0から100までの特定の値に達した場合、音声アラームが作動します。

パラメータ	機能紹介
Audio Sample Value	オーディオサンプルの現在の値です。

[Schedule Settings]

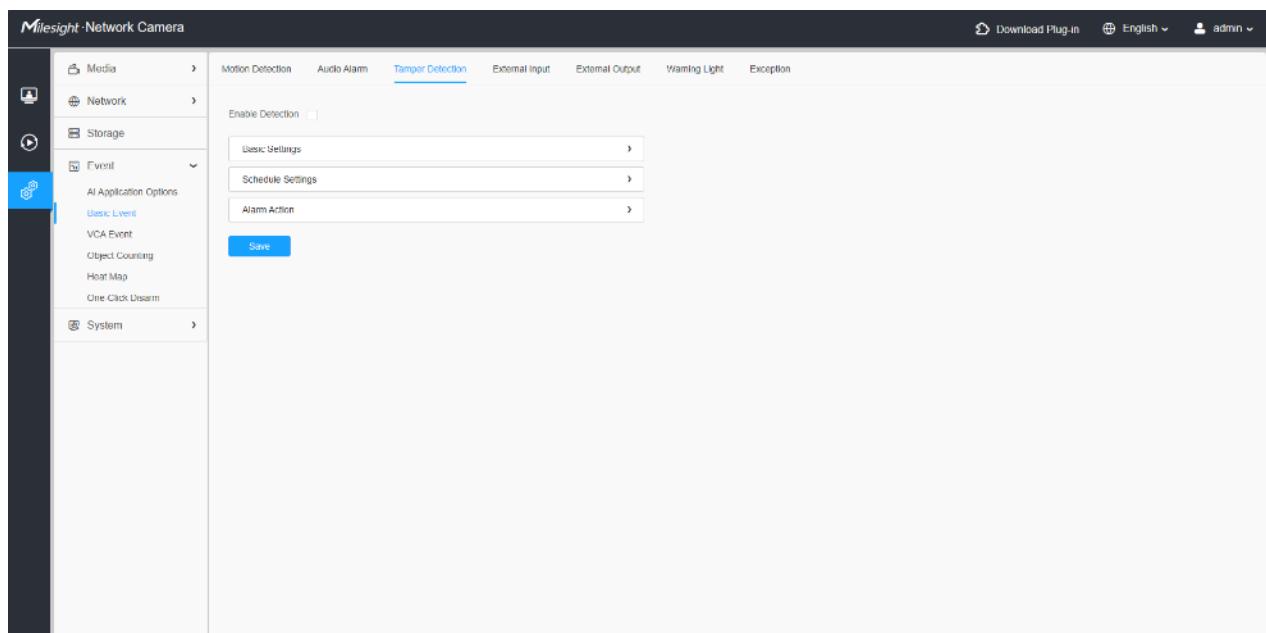
項目の意味については、[モーション検知（98ページ）](#) の表をご参照ください。ここでは繰り返し説明いたしません。

[Alarm Action]

項目の意味については、[モーション検知（99ページ）](#) の表をご参照ください。ここでは繰り返しません。

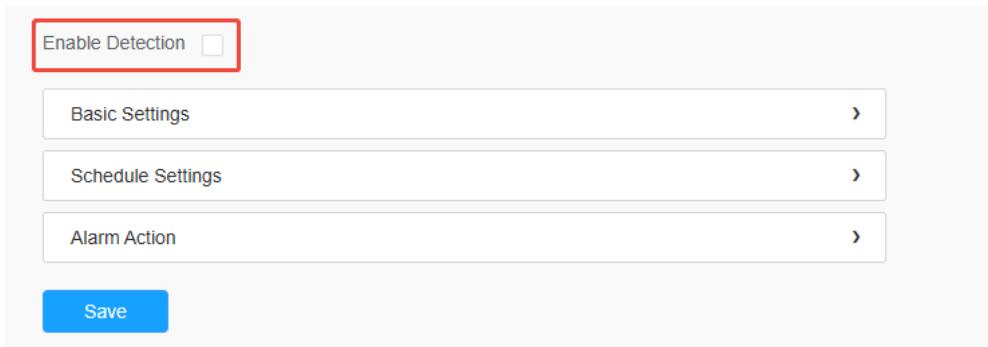
8.4.1.3 改ざん検知

改ざん検知機能は、カメラの焦点が合っていない状態、遮蔽、移動などの改ざん行為を検知するためを使用されます。この機能により、上記のいずれかの動作が発生した場合、直ちに警備担当者に通知されます。



設定手順は以下の通りです：

ステップ1：改ざん検知を有効にします。



[Schedule Settings]

ステップ2：検知スケジュールを設定します。

注：この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

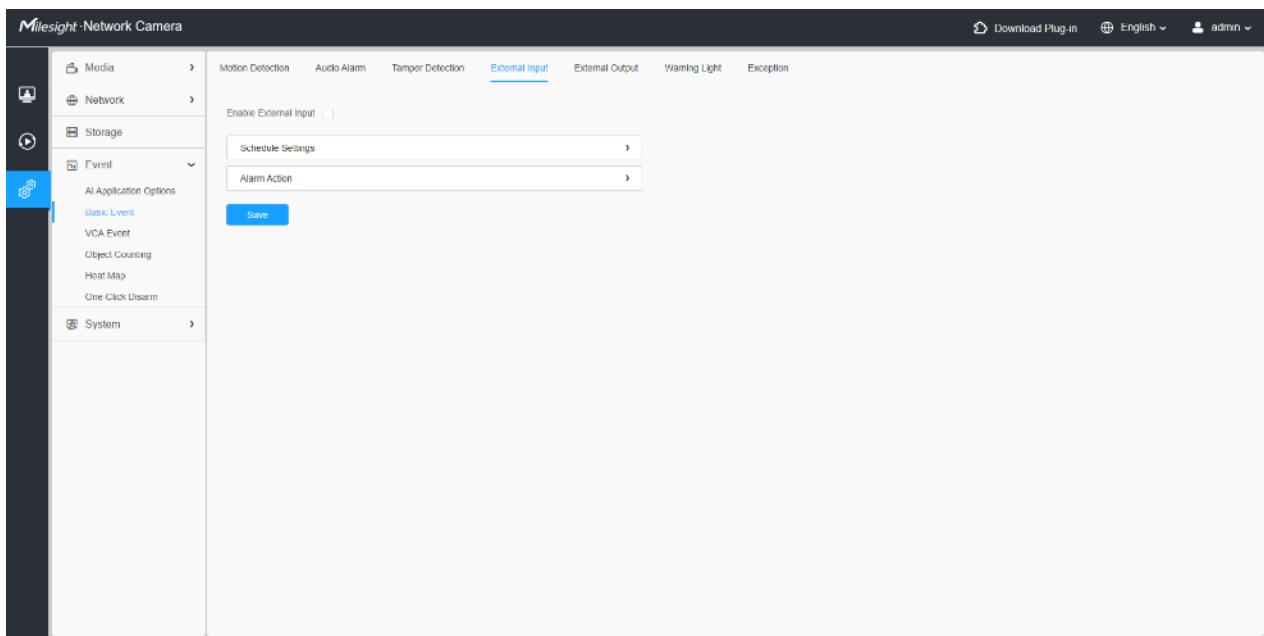
[Alarm Action]

ステップ3：アラーム動作を設定します。

ご注意：

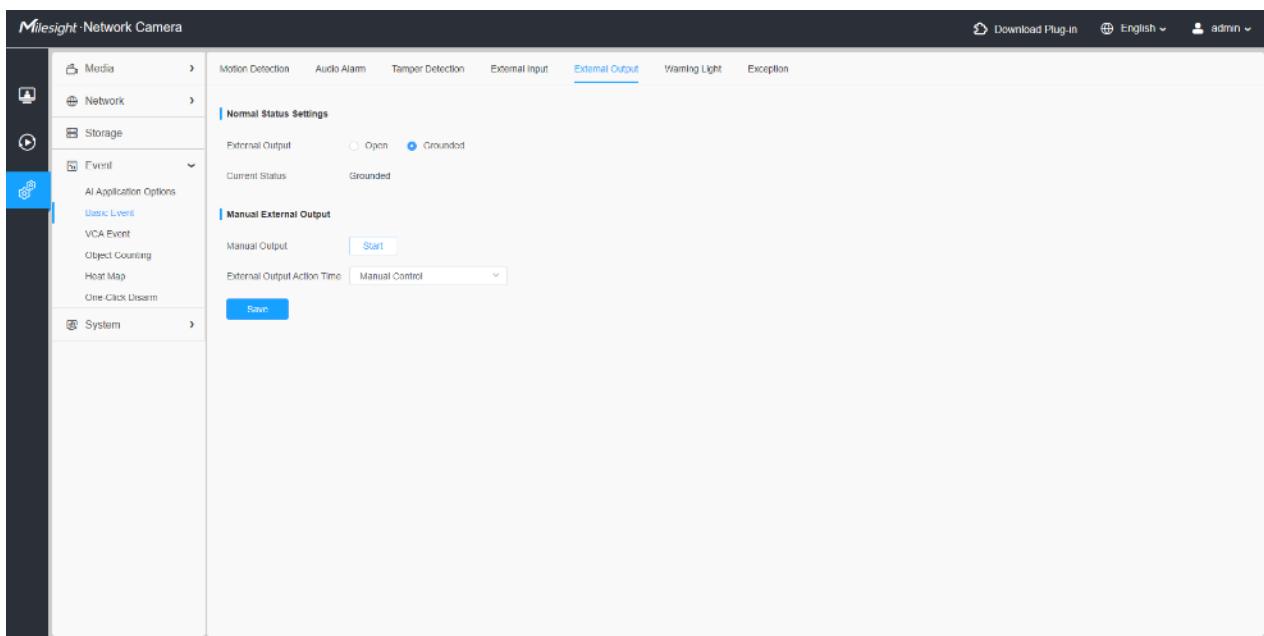
- この部分は通常のアラーム設定と同様です。 [モーション検知 \(99ページ\)](#) をご参照ください。
- 外部出力を有効にし、「外部出力アクション時間一定」を選択した場合、不正操作の可能性が検出されると、外部出力アクションのアラーム時間はアラーム解除まで常に一定となります。
- 本アルゴリズムは、改ざん検知機能における焦点外れ検知をサポートしております。

8.4.1.4 外部入力



項目の意味については表 3 (98 ページ)をご参照ください。ここでは繰り返しません。

8.4.1.5 外部出力



[Normal Status Settings]

まず最初に「**Normal Status**」を設定してください。**Current Status**が**Normal Status**と異なる場合、警報が発生いたします。

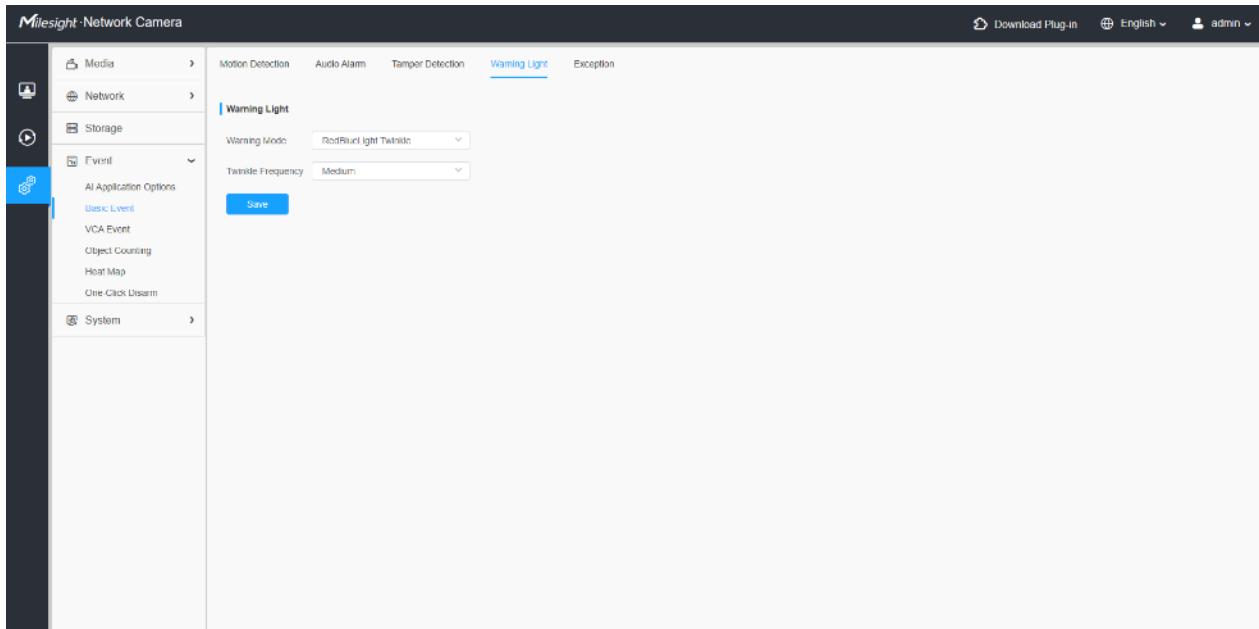
[Manual External Output]

手動外部出力を設定できます。

表43. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Manual Output	クリックすると、手動外部出力を開始/停止します。
External Output Action Time	手動制御/カスタマイズ/10秒/1分/5分/10分がご利用いただけます。

8.4.1.6 警告灯



警告灯機能は、アクション設定で警告灯の種類を設定し、さまざまな光効果オプションを有効にするために設計されています。

表 44.

パラメータ	機能紹介
Warning Mode	アクションがトリガーされた際の警告灯の動作を設定します。利用可能なオプションには、 RedBlue Light Twinkle , Red Light Twinkle , Blue Light Twinkle が含まれます。
Twinkle Frequency	警告灯の点滅頻度を設定します。選択肢には High , Medium , Low が含まれます。

パラメータ	機能紹介
Save	設定を保存します。

8.4.1.7 例外

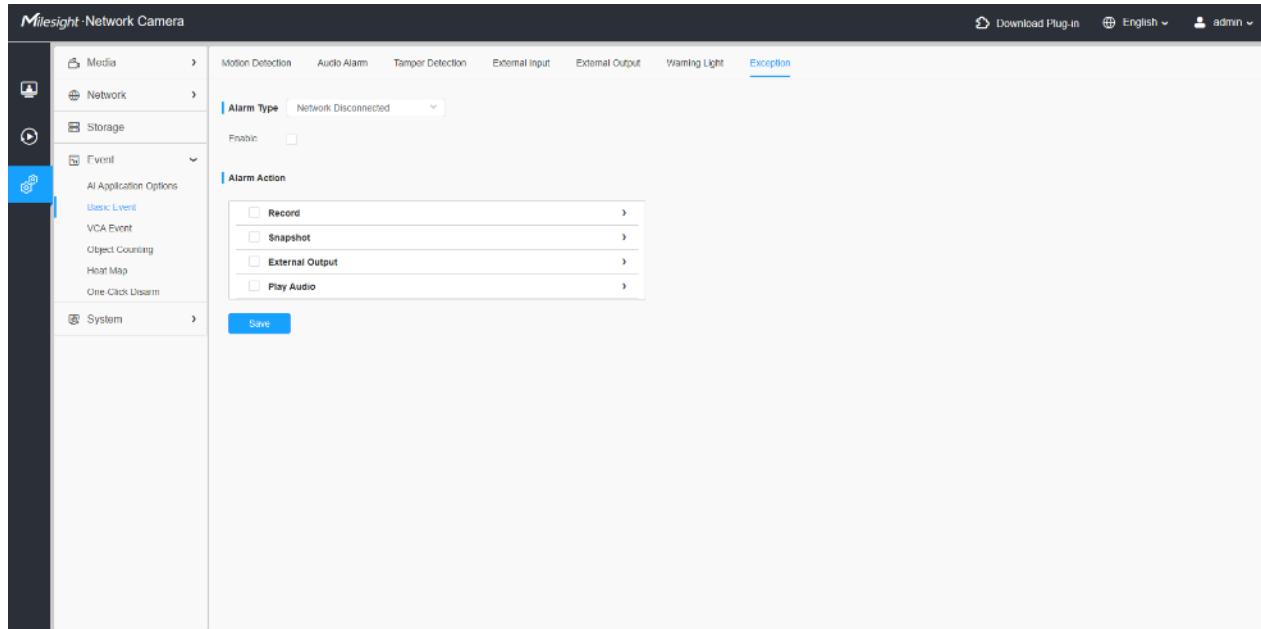


表 45. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Alarm Type	Network Disconnected, IP Address Conflicted, Record Failed, SD Card Full, SD Card Uninitialized, SD Card Error、No SD Card 選択したアラームタイプを有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください
Alarm Action	各項目の意味については、 表 3 (98 ページ) をご参照ください。ここでは繰り返し説明はいたしません。

8.4.2 VCA イベント

スマートイベントは、VCA（ビデオコンテンツ分析）技術を採用しており、Milesight ネットワークカメラに高度で正確なスマートビデオ分析機能を提供します。AI チップを搭載した新世代のビデオ分析機能は、人間、車両、および物体のパターン認識モデルに関する膨大な属性を認識することができます。

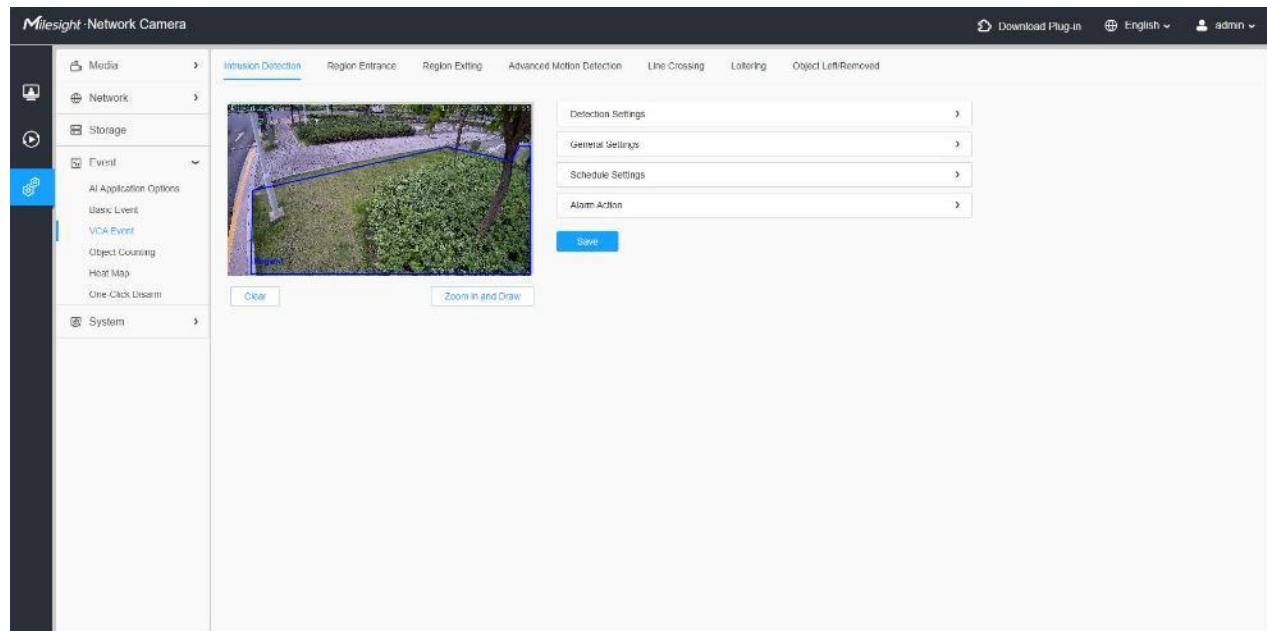
車両および人物関連のイベントはセキュリティ監視において非常に重要であるため、効率を最適化するためのフィルタリング機能がサポートされています。

ご注意 :

- VCAソリューションの設定方法の詳細につきましては、
<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643371>をご参照ください。
- Milesight AI 映像コンテンツ分析に関する詳細情報は、<https://resource.milesight.com/milesight/security/document/a-milesight-technology-moment/a-milesight-technology-moment-milesight-vca.pdf>をご参照ください。

8.4.2.1 侵入検知

侵入検知は、不審な人物やその他の物体による侵入の潜在的な脅威から特定の区域を保護するために使用されます。区域外からの侵入であれ、区域内での突然の出現であれ、警報動作が作動します。



設定手順は以下の通りです：

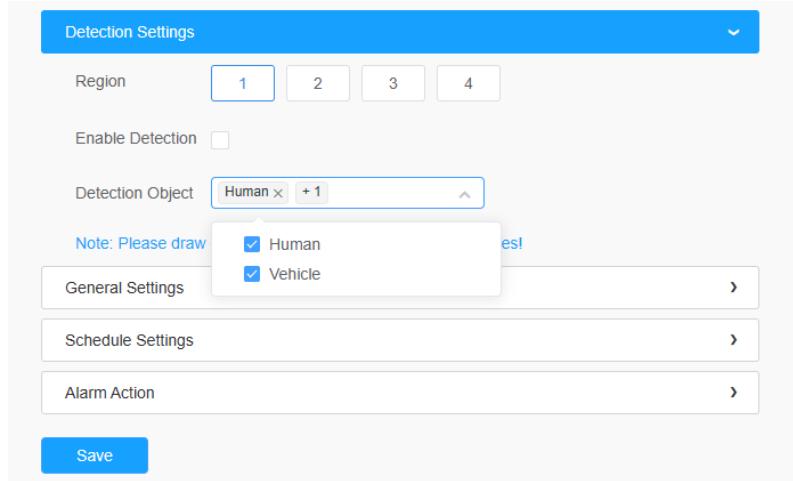
[Detection Settings]

 注：一般設定は、すべての検知区域/ラインに適用されます。

ステップ1 : 検知エリアを選択し、侵入検知を有効にします。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画してください。または、「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知エリアを描画できます。

ステップ2 : 検知対象を選択します。「人物」または「車両」の属性にチェックを入れ、人物や車両を検知して関連イベントが発生すると、カメラが警報を発します。



[General Settings]

ステップ3 : 検知感度と対象物サイズ制限を設定し、トリガーモードを「General Mode」または「Bottom Mode」から選択します。

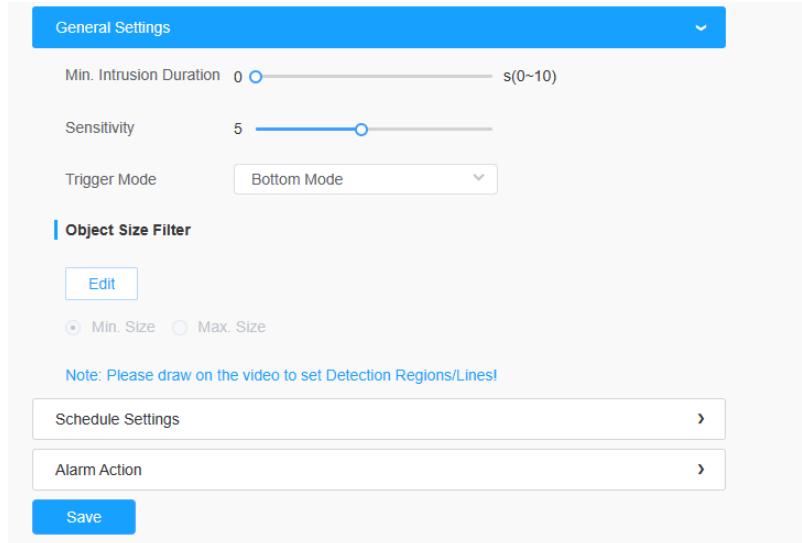
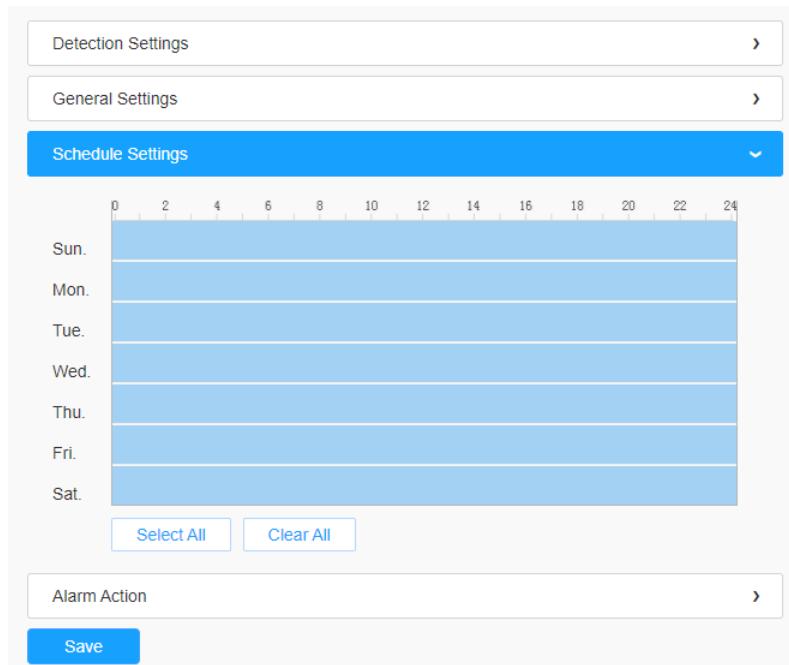


表46. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Min.Intrusion Duration	侵入検知のトリガー間隔を設定します。
Sensitivity	レベル1~10が設定可能で、デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。
Trigger Mode	トリガーロジックの希望モード（一般モードおよびボトムモードを含む）を設定します。 一般モード：物体の大まかな本体が検知エリアに入った時点で警報が作動します。 ボトムモード：物体の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態の検知感度や底面検知を優先するシナリオに適しています。
Min. Size	画面上に描画して、検出対象物の最大サイズを設定します。このサイズを超える対象物は検出されません。デフォルトの最大サイズは320x240です。
Max. Size	画面に描画して、検出対象物の最大サイズを設定します。このサイズを超える対象物は検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[Schedule Settings]

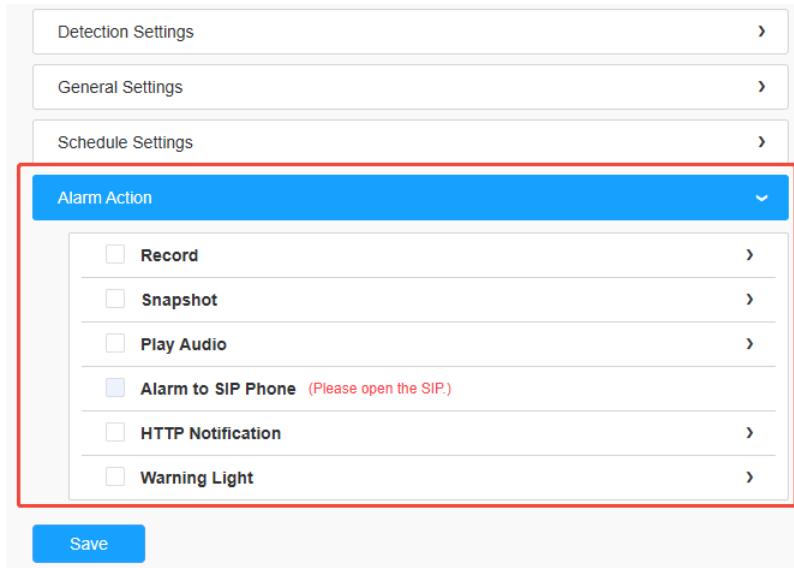
ステップ5：検知スケジュールを設定します。



注記 : この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

[Alarm Action]

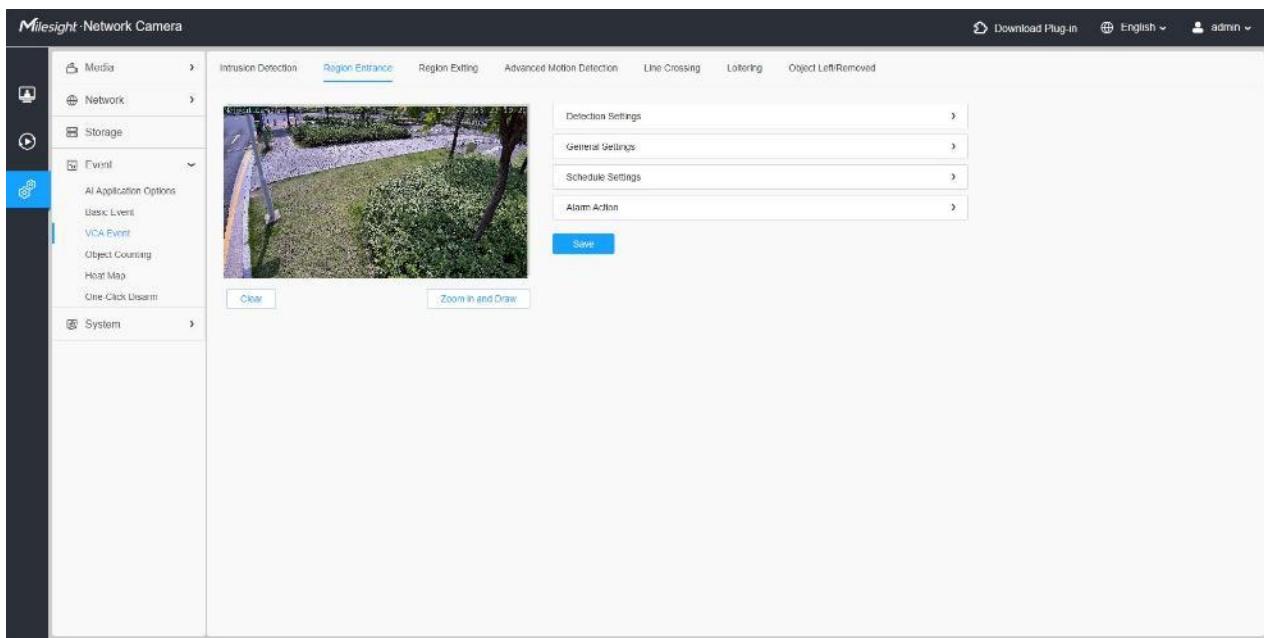
ステップ6 : アラーム動作を設定します。



注記 : この部分は通常のアラーム設定と同様です。 [モーション検知 \(99ページ\)](#) をご参照ください。

8.4.2.2 区域進入

区域進入機能は、不審者や不審物の進入による潜在的な脅威から特定エリアを保護するのに役立ちます。区域進入を有効にすると、選択した区域に物体が進入した際にアラームが作動します。



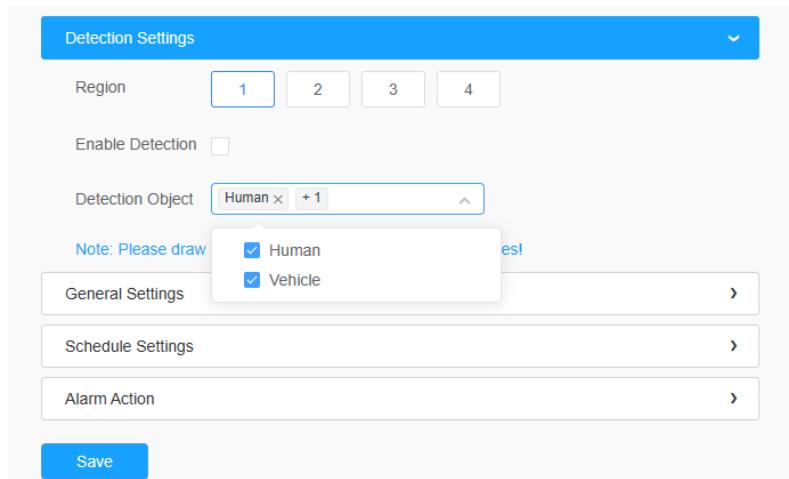
設定手順は以下の通りです：

[Detection Settings]

ステップ1: 検出領域を選択し、領域進入検出を有効にします。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画してください。または「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知ラインを描画できます。

ステップ2 : 検知対象を選択します。「Human」または「Vehicle」の属性にチェックを入れ、カメラが人物や車両を検知し関連イベントをトリガーするとアラームが作動します。



[General Settings]

ステップ3：検出感度を設定し、トリガーモードと対象物サイズ制限を選択します。

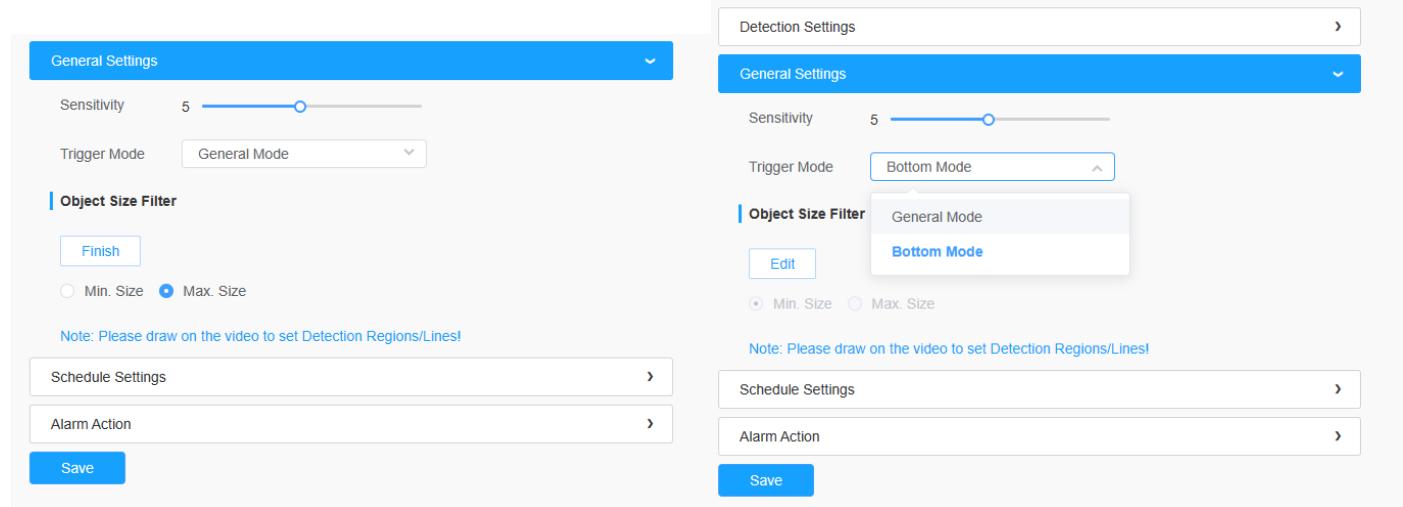
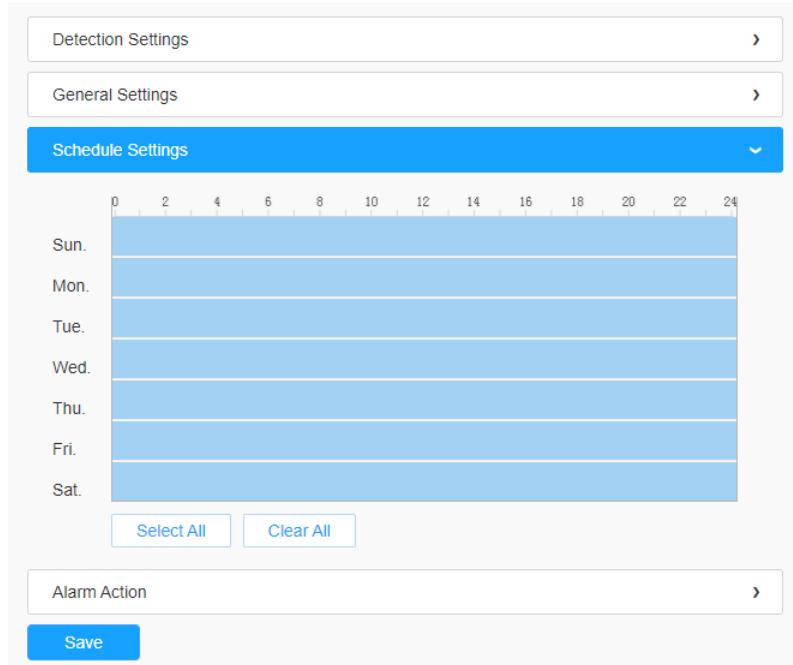


表47. 各ボタンの説明

パラメータ	機能説明
Sensitivity	レベル1～10が利用可能で、デフォルトレベルは5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。
Trigger Mode	トリガーロジックの希望モード（一般モードおよびボトムモードを含む）を設定します。 一般モード：物体本体が検知エリアにはほぼ入った時点で警報が作動します。 ボトムモード：物体の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態の検知感度や底面検知を優先するシナリオに適しています。
Min. Size	画面上に描画して、検出対象物の最小サイズを設定します。このサイズより小さい対象物は検出されません。デフォルトの最小サイズは3x3です。
Max. Size	画面上に描画して、検出対象物の最大サイズを設定します。このサイズを超える物体は検出されません。デフォルトの最大サイズは320x240です。

[Schedule Settings]

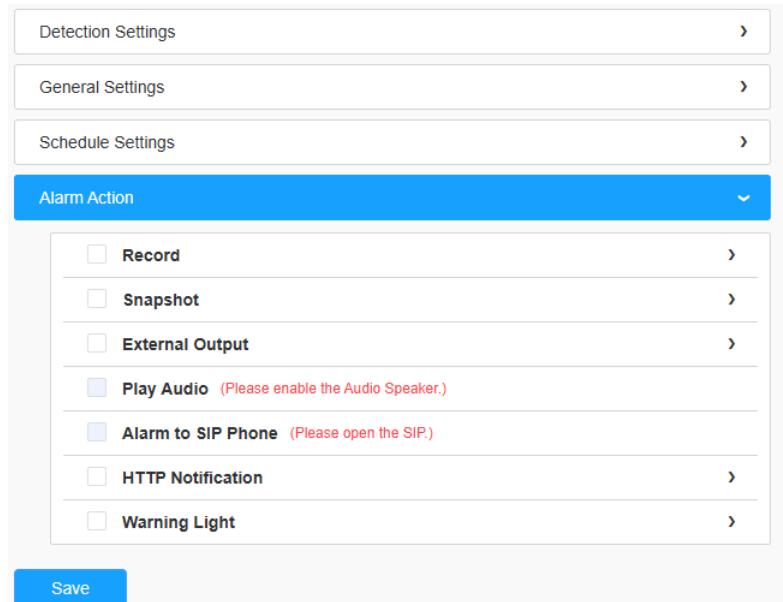
ステップ4：検知スケジュールを設定します。



注記 : この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

[Alarm Action]

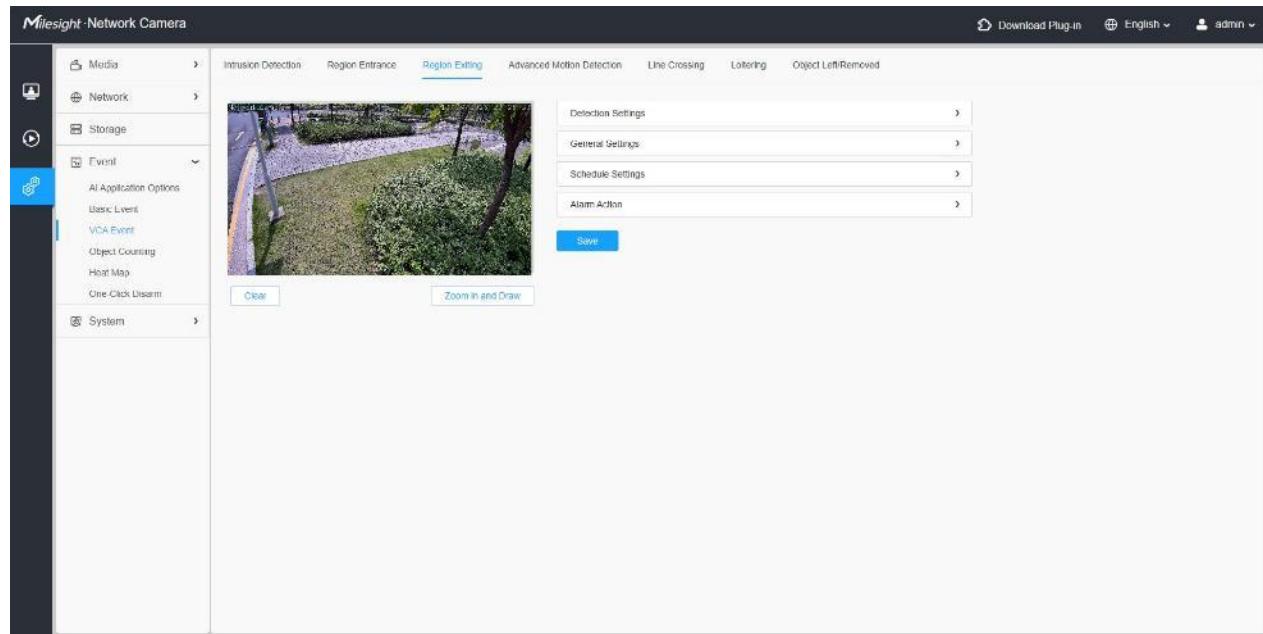
ステップ5 : アラーム動作を設定します。



 **注記 :** この部分は通常のアラーム設定と同じです。[モーション検知 \(99ページ\)](#) をご参照ください。

8.4.2.3 領域退出

区域退出機能は、監視対象エリアから人物や物体が退出しないことを確認するための機能です。人物や物体の退出が検知されると、アラームが作動します。



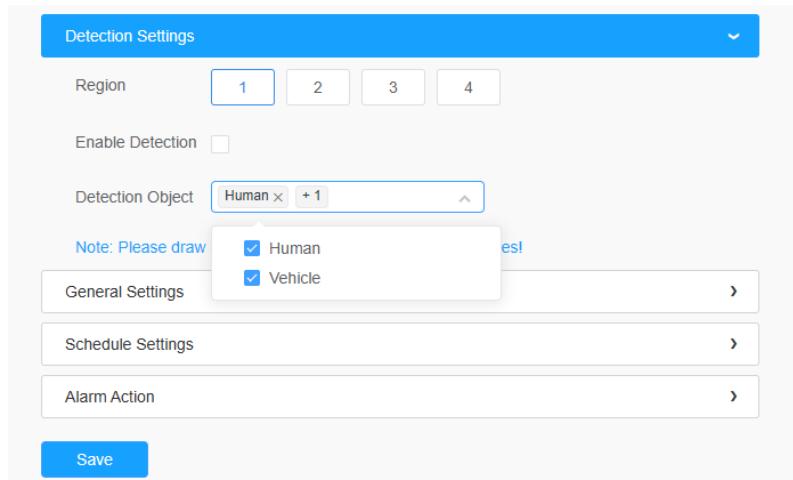
設定手順は以下の通りです：

[Detection Settings]

ステップ1 : 検知領域を選択し、領域退出検知を有効にします。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画します。または「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知ラインを描画できます。

ステップ2 : 検知対象を選択します。「Human」または「Vehicle」の属性にチェックを入れ、人物や車両を検知するとカメラが警報を発し、関連イベントをトリガーします。



[General Settings]

ステップ3：検知感度を設定し、トリガーモードと対象物のサイズ制限を選択します。

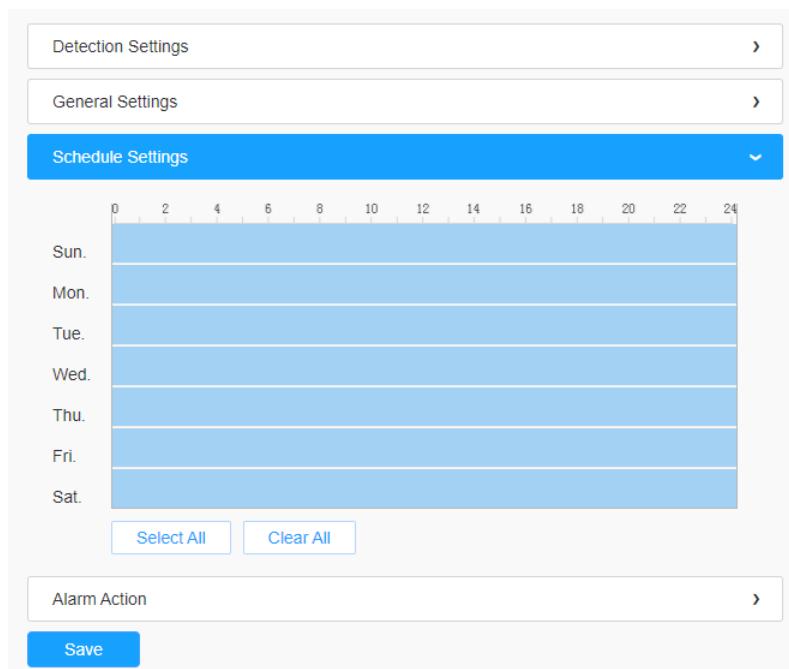
表48. ボタン説明

パラメータ	機能説明
Sensitivity	レベル1～10が選択可能です。デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。

パラメータ	機能紹介
Trigger Mode	<p>トリガーロジックの希望モード（一般モードおよびボトムモードを含む）を設定します。</p> <p>一般モード：対象物のおおむね本体が検知エリアに入った時点で警報が作動します。</p> <p>ボトムモード：物体の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態への感度や底面検知を優先する必要がある場合に適しています。</p>
Min. Size	画面をドラッグして、検出対象物の最小サイズを設定します。対象物がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
Max. Size	画面をドラッグして、検出対象の最大サイズを設定します。対象物がこのサイズを超える場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[Schedule Settings]

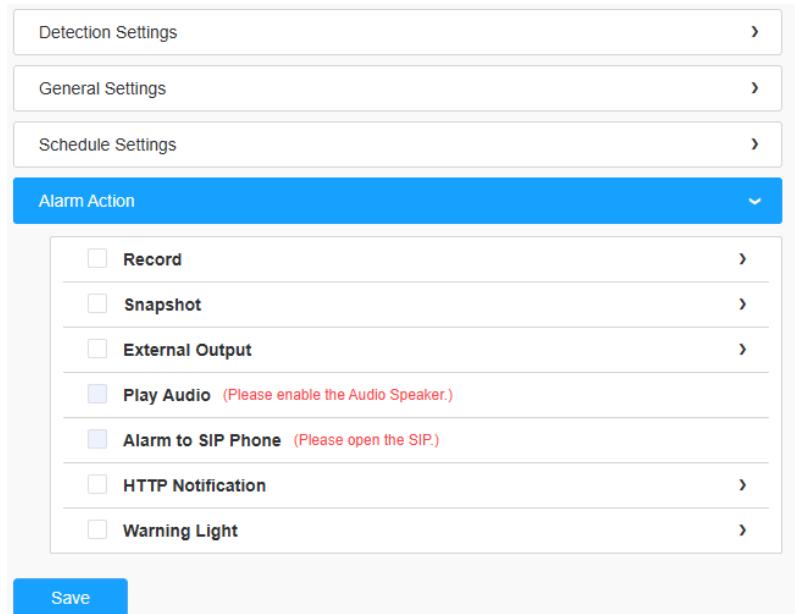
ステップ4：検知スケジュールを設定します。



注記 : この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

[Alarm Action]

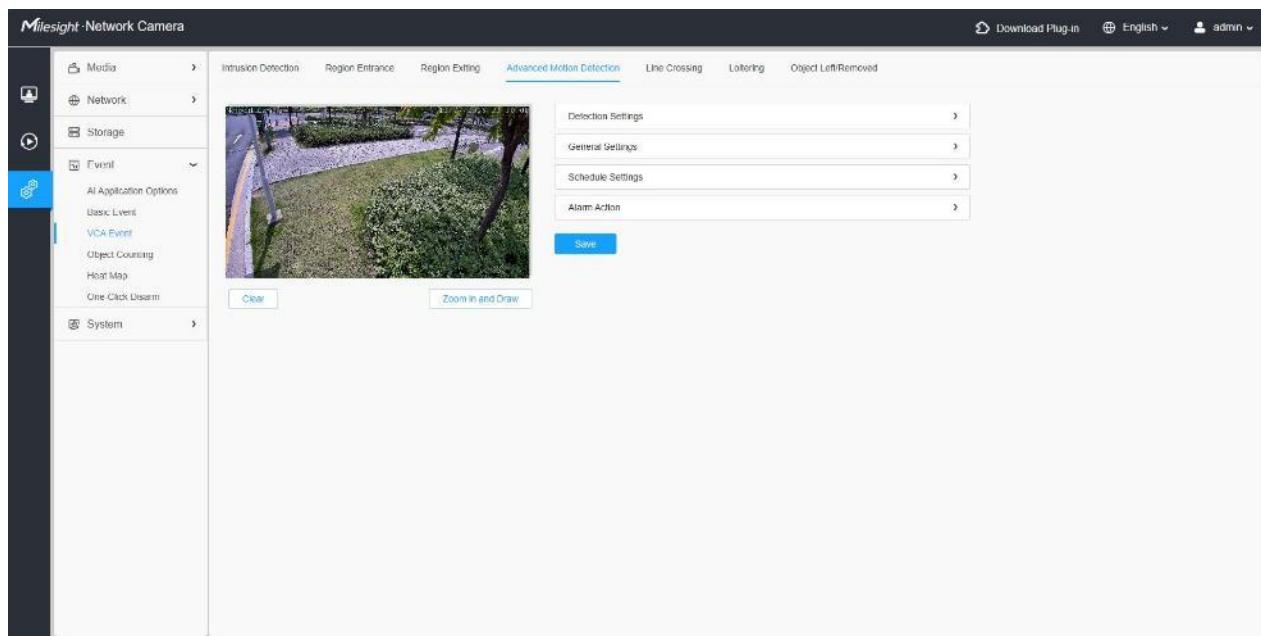
ステップ5 : アラーム動作を設定します。



注記 : この部分は通常のアラーム設定と同様です。 [モーション検知 \(99ページ\)](#) をご参照ください。

8.4.2.4 高度な動き検知

従来のモーション検知とは異なり、高度なモーション検知では照明の変化や自然の木の動きなどの「ノイズ」を除去できます。選択したエリア内で物体が移動すると、アラームが作動します。



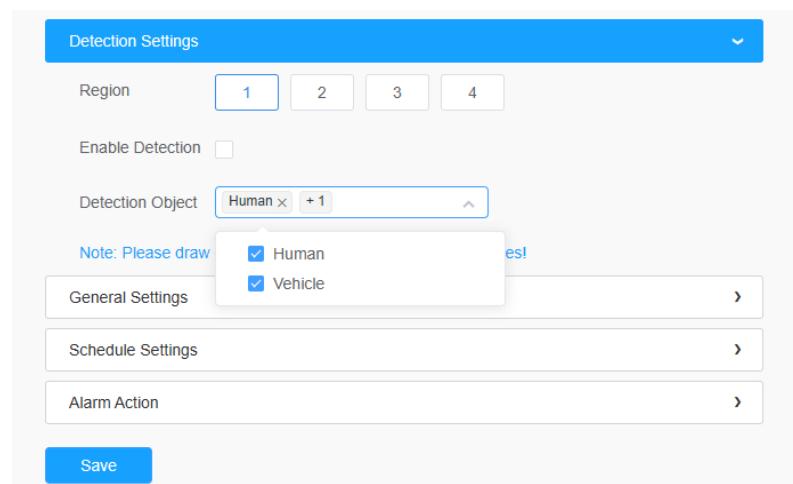
設定手順は以下の通りです：

通常モードは、すべての検知エリアに有効です。

ステップ1：検知エリアを選択し、高度な動き検知を有効にします。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画します。または「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知エリアを描画できます。

ステップ2：領域進入検知を有効にします。検知対象を選択してください。「Human」または「Vehicle」属性をチェックすると、人物や車両を検知し関連イベントが発生した際にカメラが警報を発します。



[General Settings]

ステップ3 : 短時間動作無視時間を設定します。設定時間内に物体の動作が継続した場合、アラームは作動しません。

ステップ4 : 検出感度と対象物サイズの制限を設定します。

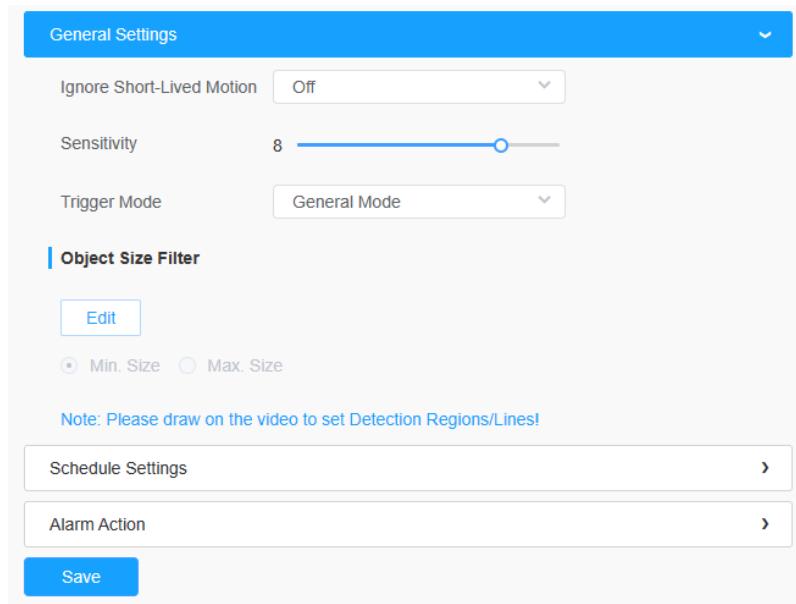


表49. 各ボタンの説明

パラメータ	機能の説明
Ignore Short-Lived Motion	対象物の移動時間が設定時間以内の場合、警報は作動しません。オフ/1秒/2秒/3秒/4秒/5秒から選択可能です。 注：短時間動作を無視する設定時間は、設定時間内の瞬間的な物体の動きによる誤作動を防ぐためのものです。
Sensitivity	レベル1～10が選択可能です。デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、動きのある物体が結果に記録されやすくなります。 注記：感度は、様々な要件に応じて異なる動きを検出するように設定できます。感度レベルが低い場合、わずかな動きでは警報が作動しません。

パラメータ	機能紹介
Trigger Mode	<p>トリガーロジックの希望モード（一般モードおよび下部モードを含む）を設定します。</p> <p>一般モード：対象物のおおよそ本体が検知エリアに入った時点で警報が作動します。</p> <p>ボトムモード：対象物の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態への感度や底面検知を優先する必要がある場合に適しています。</p>
Min. Size	画面に描画するか、ピクセル数を入力して、検出対象の最小サイズを設定します。対象がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
Max. Size	画面に描画するか、ピクセル数を入力して、検出対象の最大サイズを設定します。対象がこのサイズを超える場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[Schedule Settings]

検出スケジュールを設定します。

 注：この部分は通常のスケジュール設定と同様です。[モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

[Alarm Action]

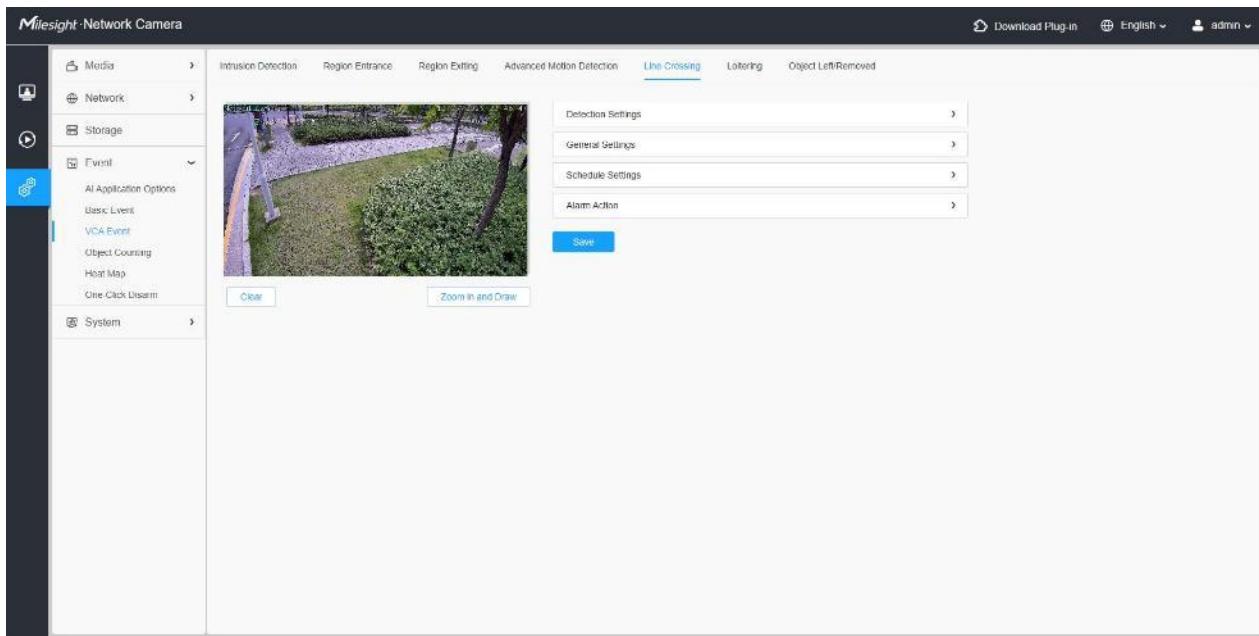
ステップ7：アラームアクションを設定します。

 ご注意：

- この部分は通常のアラーム設定と同様です。[モーション検知 \(99ページ\)](#) をご参照ください。
- 外部出力を有効にし、「外部出力アクション時間を一定に設定」を選択した場合、選択した領域で設定した「短時間の動きを無視する時間」よりも物体の動きが長くなったとき、外部出力アクションのアラーム時間はアラームが解除されるまで常に一定となります。

8.4.2.5 ラインクロス

ラインクロス検知は、ほとんどの屋内および屋外環境で動作するよう設計されています。カメラが定義された仮想ラインを横切る物体を検知するたびに、イベントがトリガーされます。



設定手順は以下の通りです：

[Detection Settings]

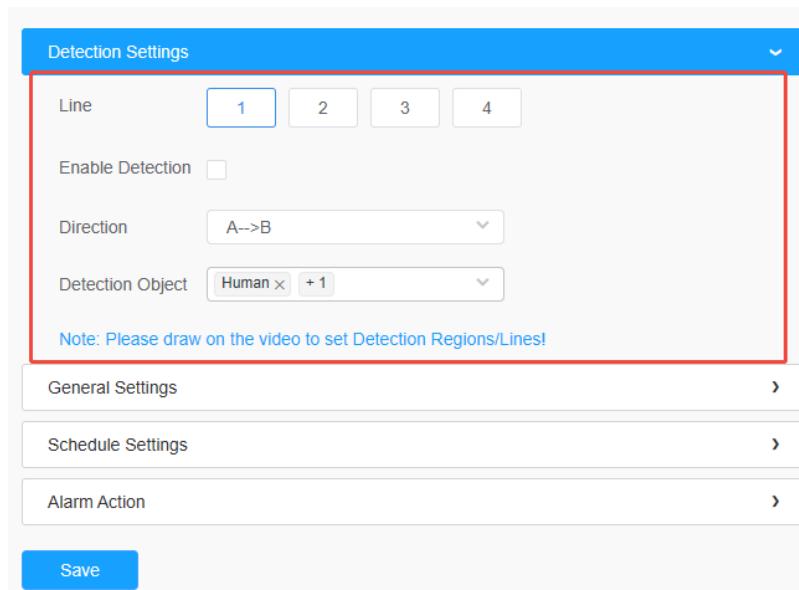
ステップ1：検知ラインを選択し、ライン越え検知を有効にして方向を定義します。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画します。または、「ズームインして描画」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知ラインを描画できます。

注記：

- 一度に最大4本のラインを設定できます。アラーム作動の方向モードは3種類から選択可能です。
「A→B」は「A」側から「B」側へ物体がラインを越えた場合にアラームが作動します。「B→A」はその逆です。「A<-->B」はどちらの方向からでも物体がラインを越えた場合にアラームが作動します。

ステップ2：検知対象の選択「人」または「車両」の属性にチェックを入れます。これにより、カメラは人や車両を検知するとアラームを発し、関連するイベントをトリガーします。



[General Settings]

ステップ3：検知感度と対象物サイズの制限を設定します。

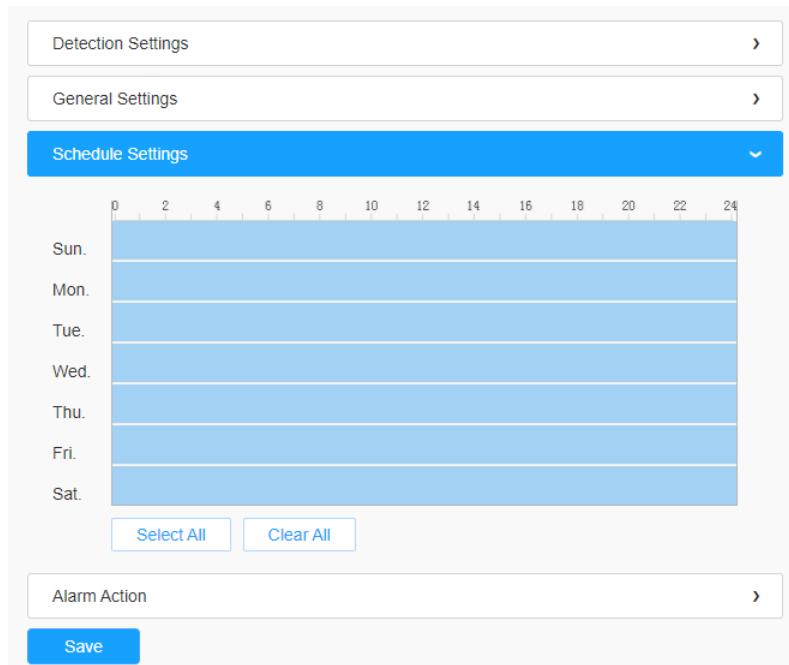
表50. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Sensitivity	レベル1～10が設定可能です。デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。

パラメータ	機能紹介
Trigger Mode	トリガーロジックの希望モード（一般モードおよびボトムモードを含む）を設定します。 一般モード：対象物のおおよそ本体が検知エリアに入った時点で警報が作動します。 ボトムモード：物体の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態への感度や底面検知を優先する必要がある場合に適しています。
Min. Size	画面をドラッグして、検出対象物の最小サイズを設定します。対象物がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
Max. Size	画面をドラッグして、検出対象の最大サイズを設定します。対象物がこのサイズを超える場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[Schedule Settings]

ステップ4：検知スケジュールを設定します。



注記：この部分は通常のスケジュール設定と同様です。[モーション検知（98ページ）](#)をご参照ください。

[Alarm Action]

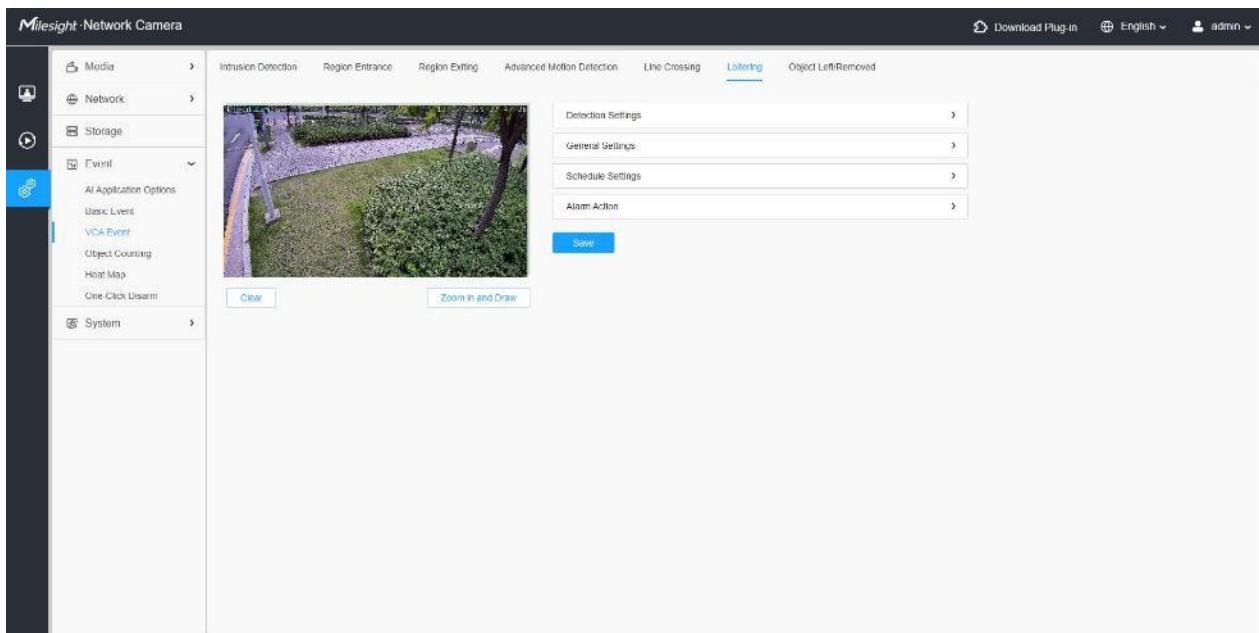
ステップ5：アラームアクションを設定します。

注記：

- この部分は通常のアラーム設定と同じです。[モーション検知（99ページ）](#)をご参照ください。
- 外部出力を有効にし、「一定時間外部出力動作」を選択した場合、対象物が設定された仮想ラインを通過すると、外部出力動作のアラーム時間はアラーム解除まで常に一定となります。

8.4.2.6 徘徊検知

対象物が定義されたエリアで特定の時間滞留した場合、アラームが作動します。



設定手順は以下の通りです：

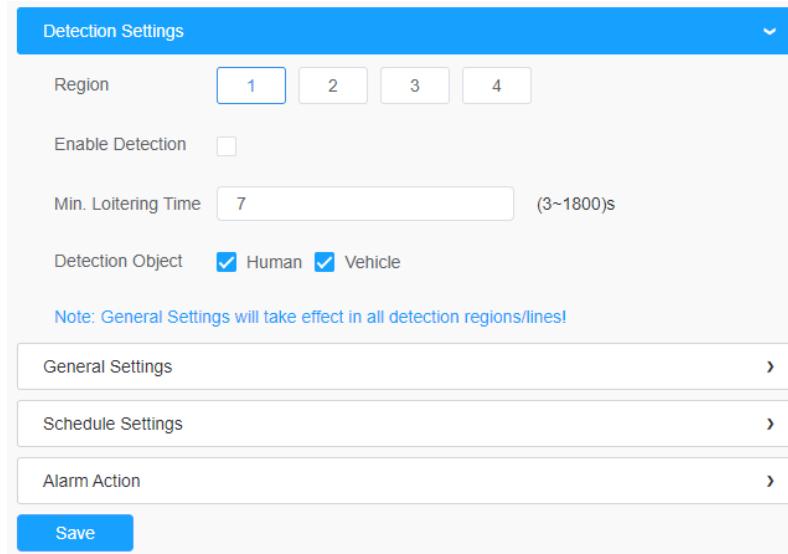
[Detection Settings]

注：一般設定は、すべての検知領域/ラインに適用されます。

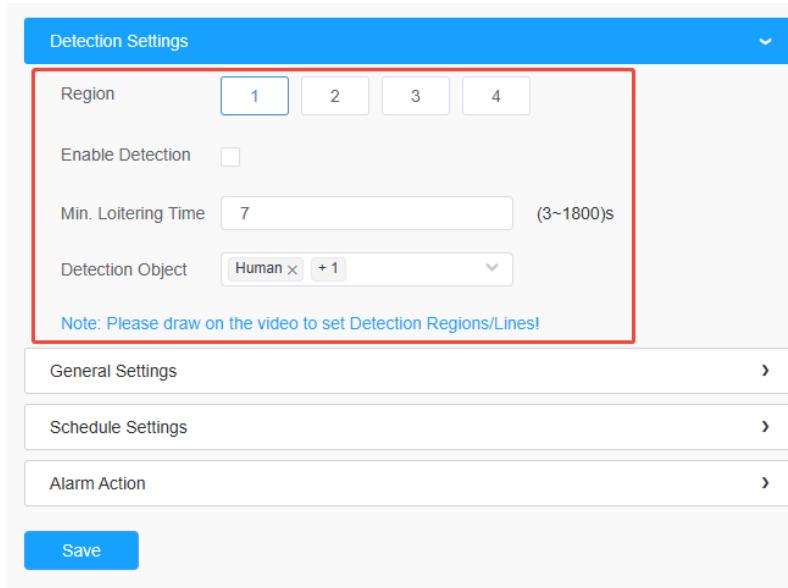
ステップ1：検知領域を選択し、徘徊検知を有効にします。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画してください。または、「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知エリアを描画できます。

ステップ2 : 最小滞留時間を設定します。3秒から1800秒の範囲で最小滞留時間を設定後、選択エリア内でこの時間以上滞留する物体が検知されると警報が作動します。



ステップ3 : 検知対象を選択します。人物または車両の属性にチェックを入れ、カメラが人物や車両を検知するとアラームが鳴り、関連するイベントが発生します。



[General Settings]

ステップ4 : 対象物のサイズ制限を設定します。

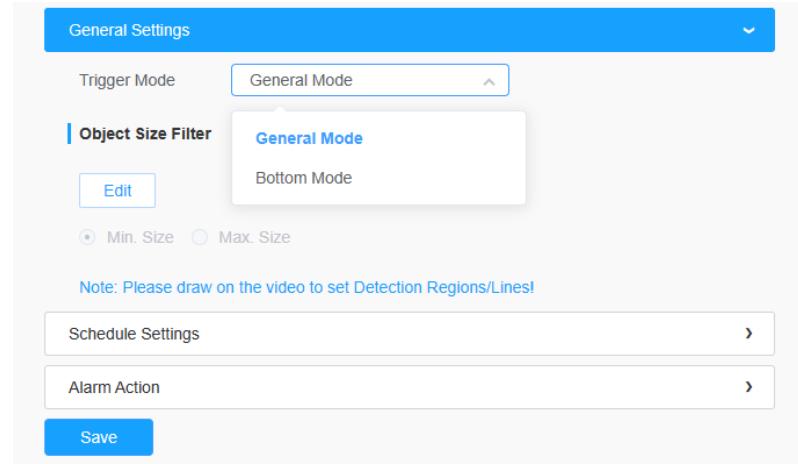


表51. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Trigger Mode	トリガーロジックの希望モード（一般モードおよびボトムモードを含む）を設定します。 General Mode : 対象物本体が検知エリアにほぼ進入した時点で警報が作動します。 Bottom Mode : 対象物の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態への感度や底面検知を優先する必要がある場合に適しています。
Min. Size	画面をドラッグして、検出対象物の最小サイズを設定します。対象物がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
Max. Size	画面をドラッグして、検出対象の最大サイズを設定します。対象物がこのサイズを超える場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[Schedule Settings]

ステップ5：検知スケジュールを設定します。

注：この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

[Alarm Action]

ステップ6：アラームアクションを設定します。

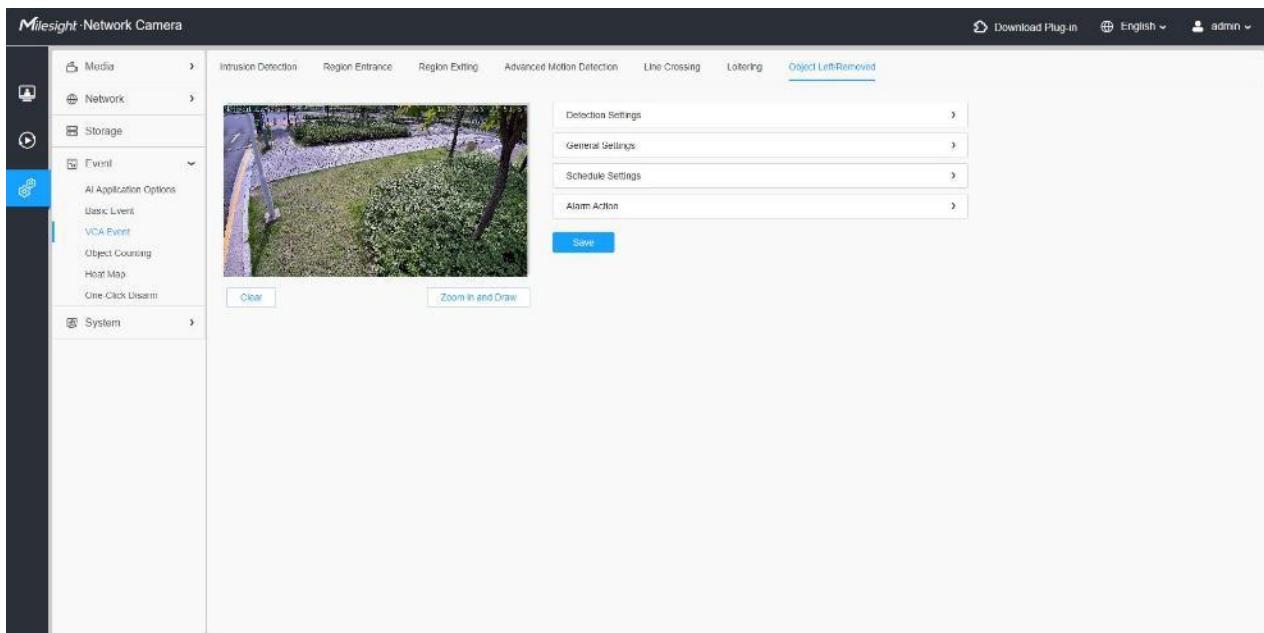
注記 :

- この部分は通常のアラーム設定と同じです。[モーション検知 \(99ページ\)](#) をご参照ください。
- 外部出力を有効にし、「外部出力アクション時間」を一定に設定を選択した場合、対象物が選択領域内に滞留している間、外部出力アクションのアラーム時間はアラーム解除まで常に一定となります。

8.4.2.7 物体の残留/除去

「物体の残留」は、あらかじめ設定された領域に物体が残留していることを検知し、警報を発します。

「物体の除去」は、あらかじめ設定された領域から物体が除去されたことを検知し、警報を発します。



設定手順は以下の通りです：

[Detection Settings]

 注：一般設定は、すべての検知領域/ラインに適用されます。

ステップ1：検知領域を選択し、物体残置検知または物体除去検知を有効にします（両機能を同時に有効にすることも可能です）。

ライブビュー上でクリックして検知エリアを描画してください。あるいは、「拡大して描画」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知エリアを描画できます。

Detection Settings

Region: 1, 2, 3, 4

Enable Detection: Enable Object Left: Enable Object Removed:

Note: Please draw on the video to set Detection Regions/Lines!

General Settings

Schedule Settings

Alarm Action

Save

[General Settings]

ステップ2：最小時間、検知感度、および物体サイズ制限を設定します。

Detection Settings

General Settings

Min. Time: 20 (5~1800)s

Sensitivity: 5

Object Size Limits

Edit

Min. Size: 3 * 3 Pixels (1*1~320*240)

Max. Size: 320 * 240 Pixels (1*1~320*240)

Note: General Settings will take effect in all detection regions/lines!

Schedule Settings

Alarm Action

Save

表52. 各ボタンの説明

パラメータ	機能説明
Min. Time	最小時間を5秒から1800秒に設定後、選択領域内に物体が最小時間以上留まるか、選択領域から最小時間以上離れると、警報が作動いたします。

パラメータ	機能紹介
Sensitivity	レベル1～10が設定可能で、デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。  注記： 感度は、様々な要件に応じて異なる動きを検出するように設定できます。感度レベルが低い場合、わずかな動きでは警報が作動しません。
Min. Size	画面に描画するか、ピクセル数を入力して、検出対象の最小サイズを設定します。対象がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3x3です。
Max. Size	画面に描画するか、ピクセル数を入力して、検出対象の最大サイズを設定します。対象がこのサイズを超える場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320x240です。

[Schedule Settings]

ステップ3：検知スケジュールを設定します；

 **注記：**この部分は通常のスケジュール設定と同様です。[モーション検知（98ページ）](#)をご参照ください。

[Alarm Action]

ステップ4：アラームアクションを設定します；

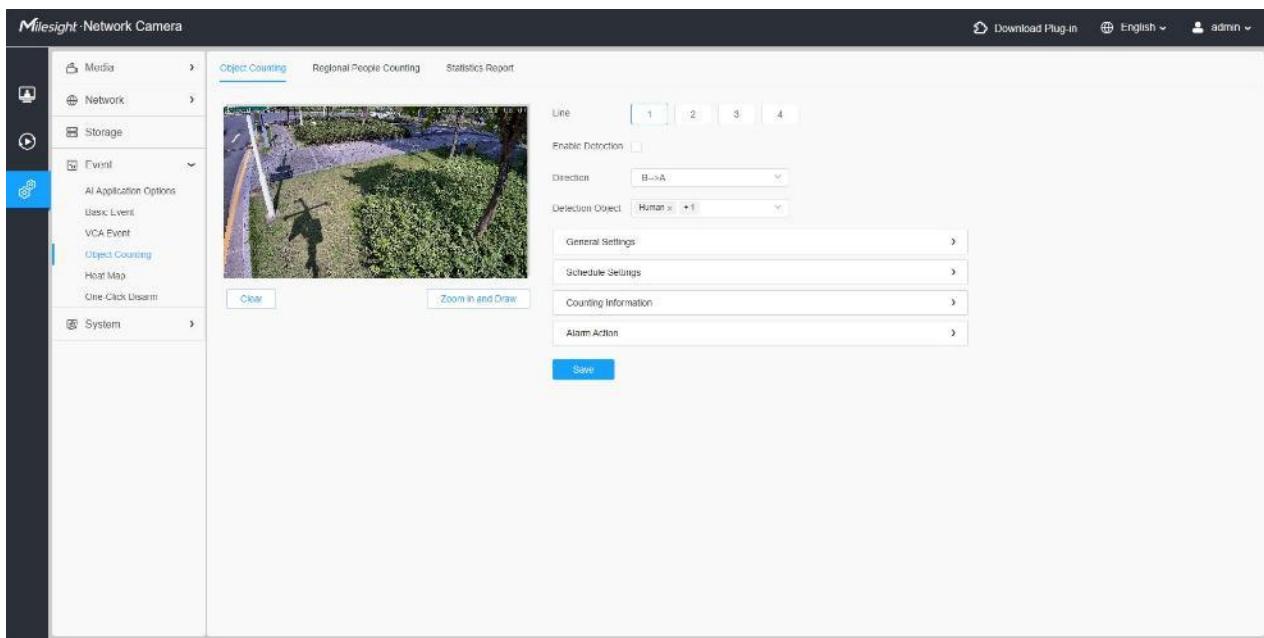
 **ご注意：**

- ・この部分は通常のアラーム設定と同様です。[モーション検知（99ページ）](#)をご参照ください。
- ・外部出力を有効にし、「外部出力アクション時間を一定に設定」を選択した場合、選択した領域から物体が移動/除去された際、外部出力アクションのアラーム時間はアラーム解除まで常に一定となります。

8.4.3 物体カウント

8.4.3.1 物体カウント

オブジェクトカウント機能は、設定期間中に進入または退出するオブジェクトの数を計測することができます。



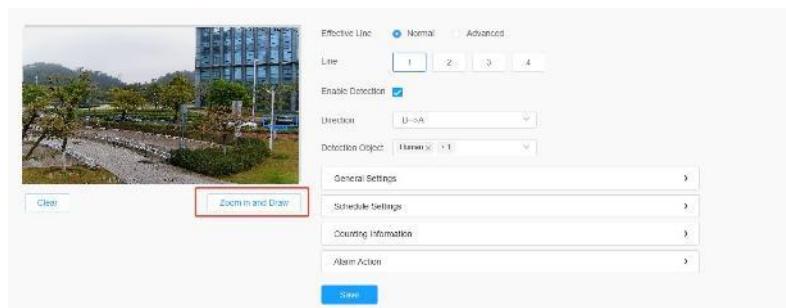
設定手順は以下の通りです：

ステップ1：検出領域を選択します。最大4領域まで選択可能です。

ステップ2：オブジェクトカウント機能を有効にします。

ステップ3：検知ラインと方向を設定します。

「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知ラインやエリアを描画できます。



Step4: 人物や車両など、検出対象を選択します。

Effective Region Normal Advanced

Region 1 2 3 4

Enable Detection

Direction B->A ▼

Detection Object Human Vehicle

General Settings ›

Schedule Settings ›

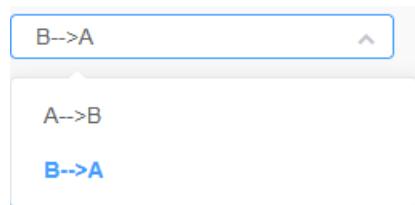
Counting Information ›

Alarm Action ›

Save

 **注記 :**

- 矢印の方向に沿った横断は「進入」として記録され、反対方向は「退出」として記録されます。
- 最大4本の検知ラインをサポートします。



General Settings]

ステップ5：感度と対象物サイズの制限を設定します。

General Settings

Sensitivity 5 —

Trigger Mode General Mode ▼

Object Size Filter

Edit

Min. Size Max. Size

Note: Please draw on the video to set Detection Regions/Lines!

Schedule Settings ›

Counting Information ›

Alarm Action ›

Save

表53. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Trigger Mode	トリガーロジックの希望モード（一般モードおよびボトムモードを含む）を設定します。 General Mode ：対象物本体が検知エリアにほぼ入った時点で警報が作動します。 Bottom Mode ：対象物の底部が検知エリアに入った時点でアラームが作動します。侵入状態への感度や底面検知を優先する必要がある場合に適しています。
Sensitivity	レベル1～10が選択可能で、デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。
Min. Size	画面をドラッグして、検出対象の最小サイズを設定します。対象物がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
Max. Size	画面に描画して、検出対象の最大サイズを設定します。対象がこのサイズを超える場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[Schedule Settings]

検出スケジュールを設定します。

 **注：**この部分は通常のスケジュール設定と同様です。[モーション検知（98ページ）](#)をご参照ください。

[Counting Information]

ステップ7：カウント情報を設定します。

Counting Information

Count Type All In Out Sum Capacity

Total Counting ⓘ

Show OSD

Font Size

Font Color

Text Position

Single Counting

Show Information

Manual Reset Reset the statistics report together?

Auto Reset

Day

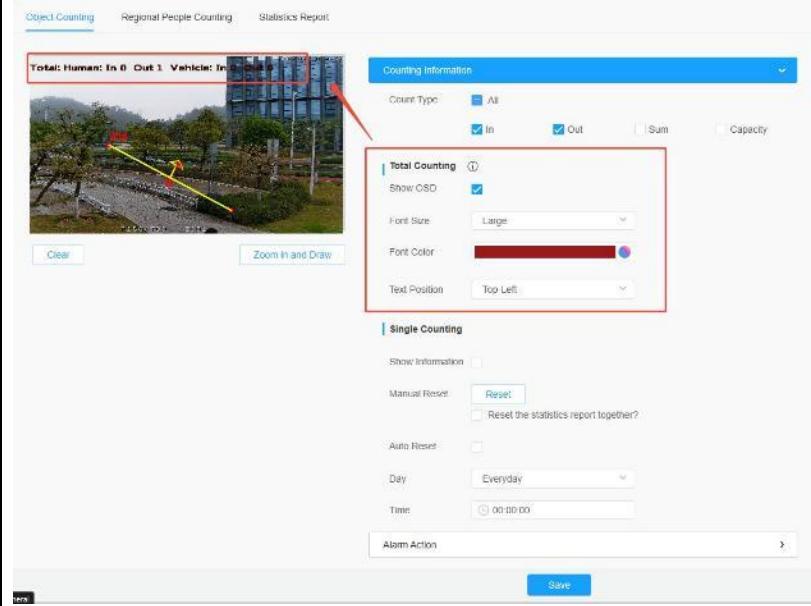
Time

Alarm Action

Save

表54. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Count Type	ユーザーはライブ映像に表示したい情報を選択できます。

パラメータ	機能紹介
Total Counting	<p>カウント用OSDを設定します。</p> <p>注記 : 総計カウントOSDの設定は、すべての検知ラインで連動します。</p> <p>Show OSD : クリックすると、表示される OSD を有効/無効にできます。</p> <p>Font Size : OSD表示のフォントサイズです。</p> <p>Font Color : OSD 表示のフォントカラーです。</p> <p>Text Position : OSD 表示のテキスト位置。</p> 
Single Counting	<p>シングルカウントを設定します。</p> <p>注記 : 総計カウントのOSD設定は、すべての検出ラインで連動しております。</p> <p>Show Information : クリックすると情報を表示します。</p> <p>Manual Reset : 各ラインの計数をリセットします。統計レポートも同時にリセットすることを選択できます。</p> <p>Auto Reset : シングルカウント情報を自動的にクリアするために使用します。</p> <p>Day : 自動リセットを行う曜日です。</p> <p>Time : 自動リセットの時間です。</p>

[Alarm Action]

ステップ8：アラームトリガーとアラームアクションを設定します。

Alarm Action

Alarm Trigger Thresholds

Total Counting **Single Counting**

Human In 9999 Out 9999
 Capacity 9999 Sum 9999

Vehicle In 9999 Out 9999
 Capacity 9999 Sum 9999

Alarm Action

- Record
- Snapshot
- External Output
- Play Audio (Please enable the Audio Speaker.)
- Alarm to SIP Phone (Please open the SIP.)
- HTTP Notification

Save

表55. ボタン説明

パラメータ	機能説明
Alarm Trigger	<p>閾値が1から9999までの特定の値に達した場合にアラームが作動します。総計数と単一計数の両方が利用可能です。入出庫数、容量、合計のそれぞれについてアラーム閾値を設定できます。</p> <p> 注記 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総計の場合、しきい値は4つの検知ラインの合計数となります。 ・個別カウントの場合、閾値は選択した検知ラインに対して適用されます。

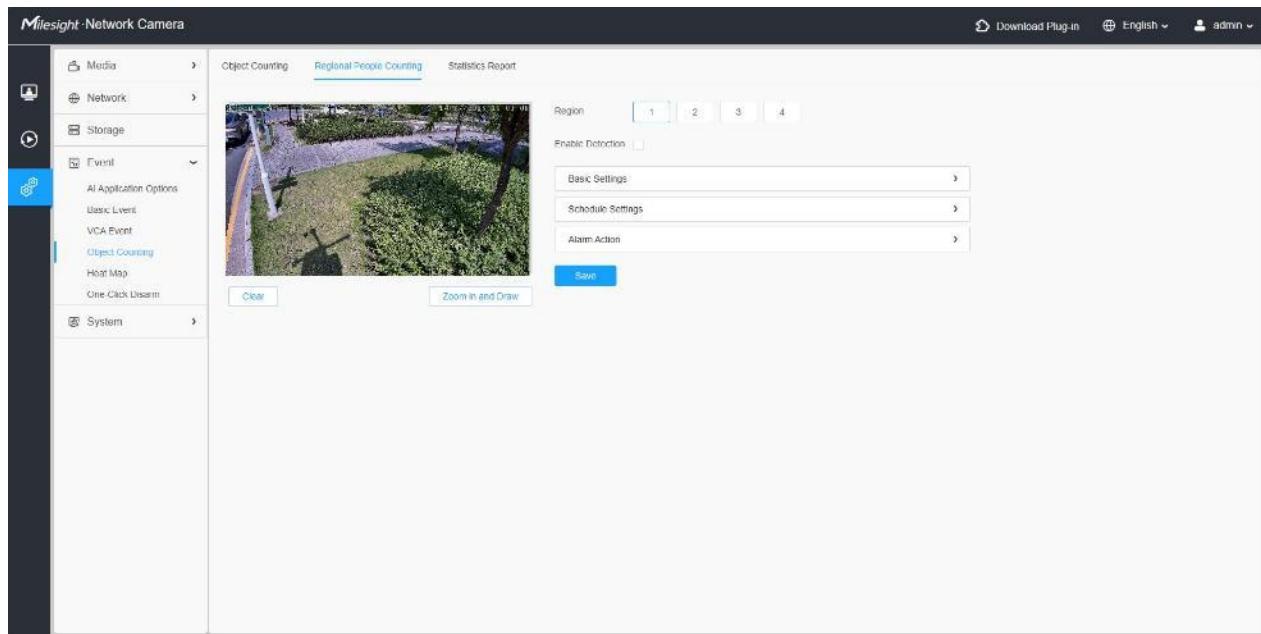
パラメータ	機能紹介
	<p>この部分は通常のアラーム設定と同様です。モーション検知 (99ページ) をご参照ください。</p> <p>Alarm Action</p> <p>ご注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"> アラームアクションは、4つの検知ラインで同時に有効となります。 外部出力を有効にし、「外部出力アクション時間を一定に設定」を選択した場合、閾値が設定値に達すると、アラーム解除まで外部出力アクションのアラーム時間は常に一定となります。

8.4.3.2 エリア別人数計測

エリア別人流計数を有効にすると、検知エリア内のリアルタイムの人数および各人の滞在時間を確認できます。

注記 :

- ユーザーはライブビューインターフェース上で、検知エリア内のリアルタイムの人数および各人の滞在時間を確認できます。



設定手順は以下の通りです：

ステップ1：検知エリアを選択し、エリア別人流検知を有効にします。



注記：最大4つの検知エリアまで対応しております。

[Basic Settings]

ステップ2：感度と対象物サイズの制限を設定します。

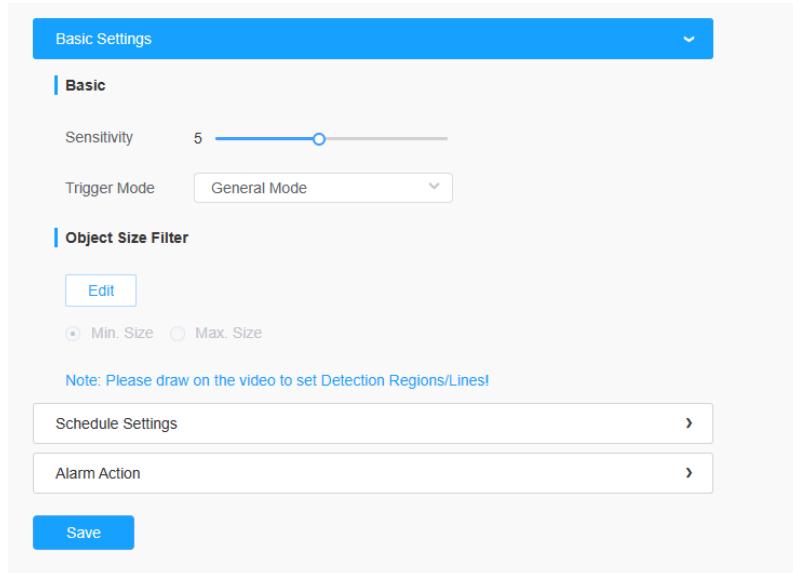


表56. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Trigger Mode	<p>トリガーロジックの希望モード（一般モードおよび底部モードを含む）を設定します。</p> <p>General Mode : 対象物本体が検知エリアにはほぼ入った時点で警報が作動します。</p> <p>Bottom Mode : 対象物の底部が検知エリアに入った時点で即座に警報が作動します。侵入状態への感度や底部検知を優先する必要がある状況に適しています。</p>
Sensitivity	レベル1～10が選択可能です。デフォルトはレベル5です。感度が高いほど、移動物体が結果に記録されやすくなります。

パラメータ	機能紹介
Min. Size	画面に描画するか、入力ピクセル数で検出対象の最小サイズを設定します。対象がこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
Max. Size	画面に描画するか、ピクセル数を入力して、検出対象の最大サイズを設定します。対象がこのサイズより大きい場合、検出されません。デフォルトの最大サイズは320×240です。

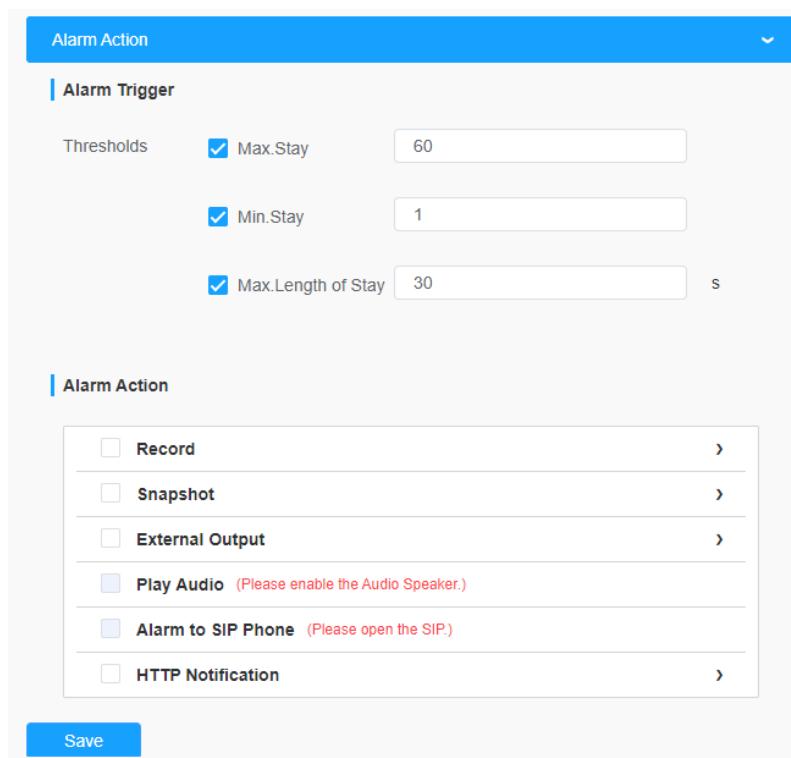
[Schedule Settings]

ステップ3：検知スケジュールを設定します。

 注：この部分は通常のスケジュール設定と同様です。[モーション検知（98ページ）](#)をご参照ください。

[Alarm Action]

ステップ4：アラームトリガーとアラームアクションを設定します。



Alarm Action

Alarm Trigger

- Thresholds
 - Max.Stay 60
 - Min.Stay 1
 - Max.Length of Stay 30 s

Alarm Action

- Record
- Snapshot
- External Output
- Play Audio (Please enable the Audio Speaker.)
- Alarm to SIP Phone (Please open the SIP.)
- HTTP Notification

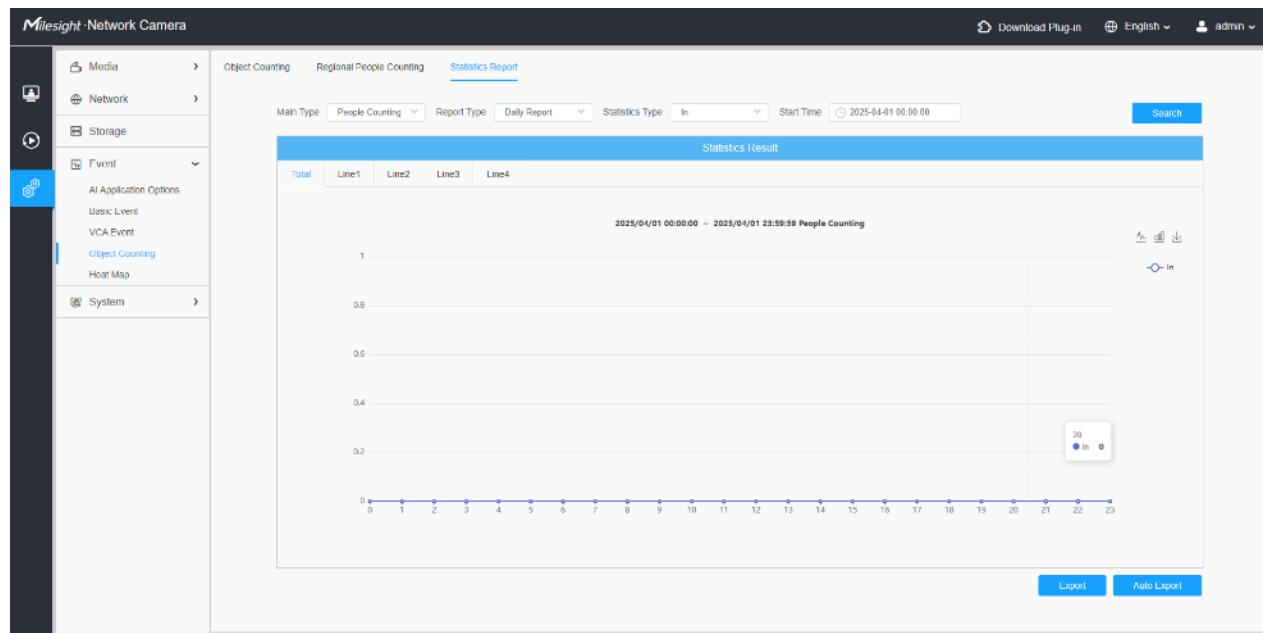
Save

表57. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Alarm Trigger	<p>最大／最小滞在時間または最大滞在期間のしきい値に到達した場合、アラームが作動します。</p> <p></p> <p>注：値は1から60の範囲で設定してください。</p>
Alarm Action	<p>この部分は通常のアラーム設定と同様です。モーション検知（99ページ）をご参照ください。</p> <p></p> <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> アラームアクションは、4つの検知領域で同時に有効となります。 外部出力を有効にし、「外部出力アクション時間を一定に設定」を選択した場合、しきい値が設定した特定の値に達すると、アラームが解除されるまで外部出力アクションのアラーム時間は常に一定となります。

8.4.3.3 統計レポート

有効期間中の結果は「**Statistics Report**」インターフェースに表示されます。



ステップ1：メインタイプを選択してください。

ステップ2：レポートタイプ（日次レポート、週次レポート、月次レポート、年次レポート）を選択します。

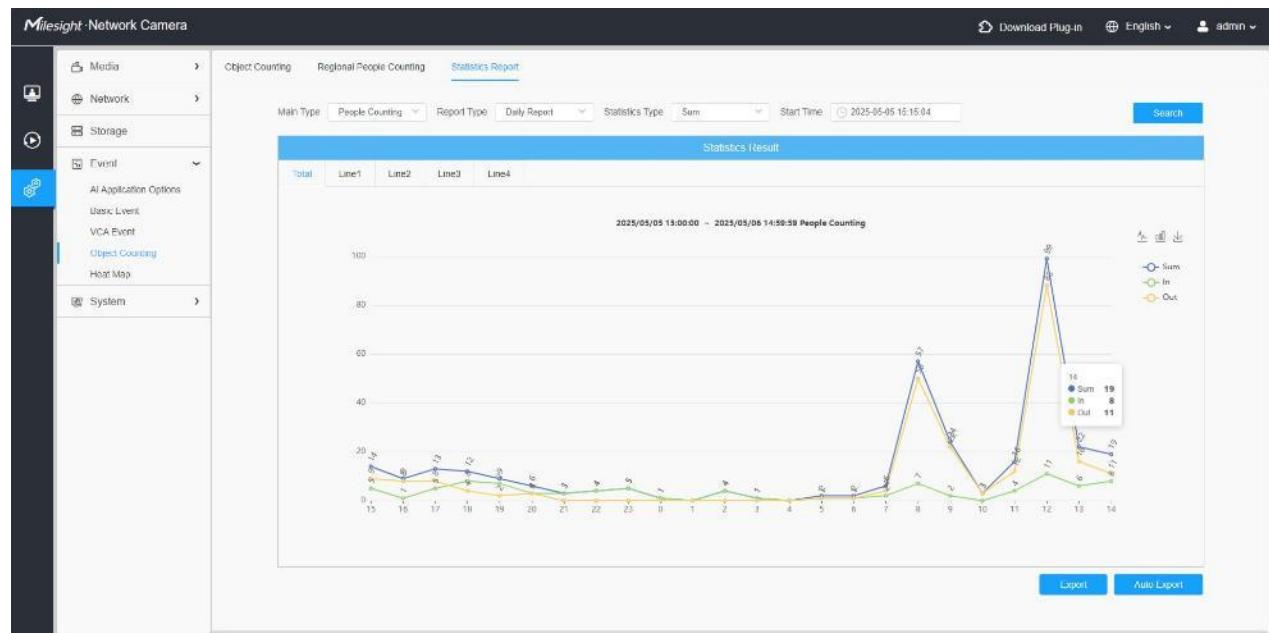
ステップ3： 人数カウントの場合、統計タイプとして「In」「Out」「Sum」を選択します。エリア別人数カウントの場合、滞在時間として「All」「More Then」「Less」を選択し、それぞれの上限時間／下限時間を設定します。

注記： エリア別人流計測の場合、必要に応じてエリア別レポートを検索するチェックボックスにチェックを入れてください。

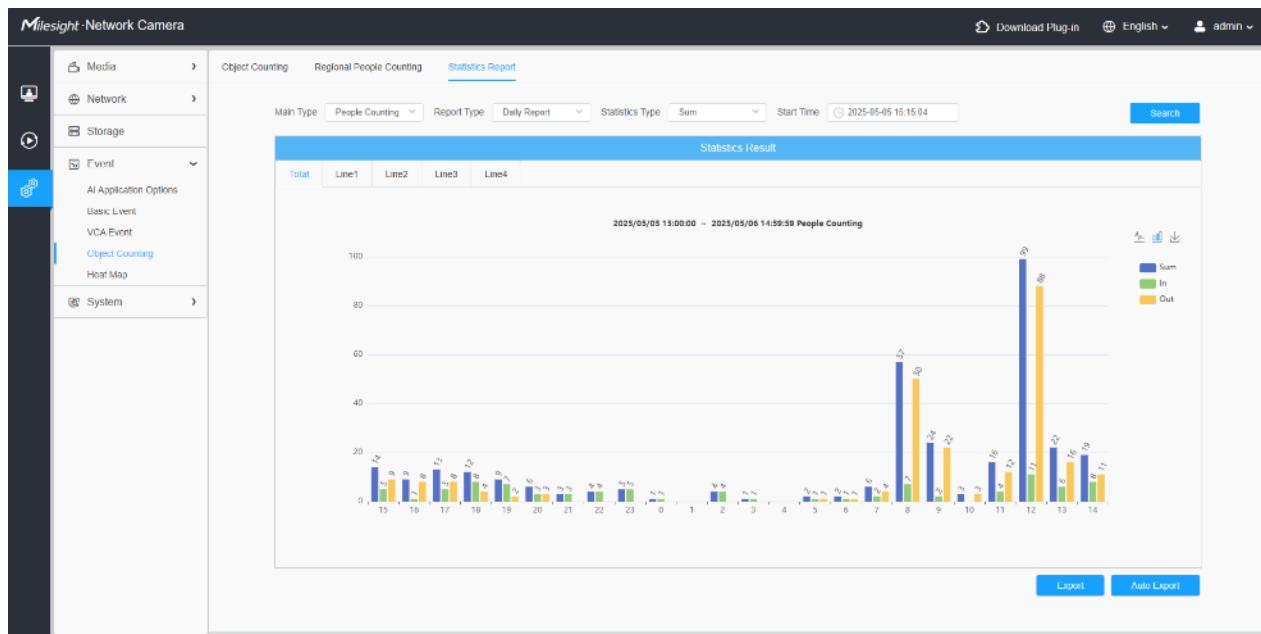
ステップ4： 開始時間を選択し、「Search」ボタンをクリックすると、カメラは開始時間から該当する日/週/月/年（ユーザーが選択したレポートタイプに基づく）のデータを集計し、対応するレポートを生成します。

ステップ5： さらに、「Line Chart」または「Bar Chart」をクリックすると、統計レポートの表示モードを切り替えることができます（下図参照）。

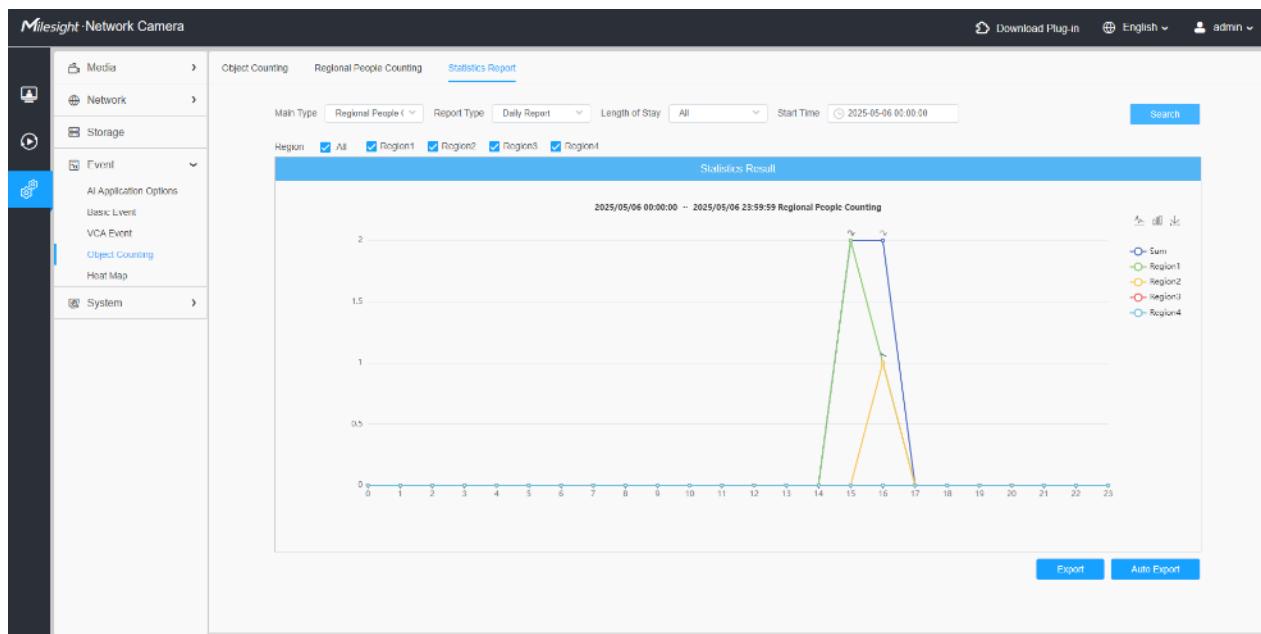
人流計測-統計レポート（折れ線グラフ）



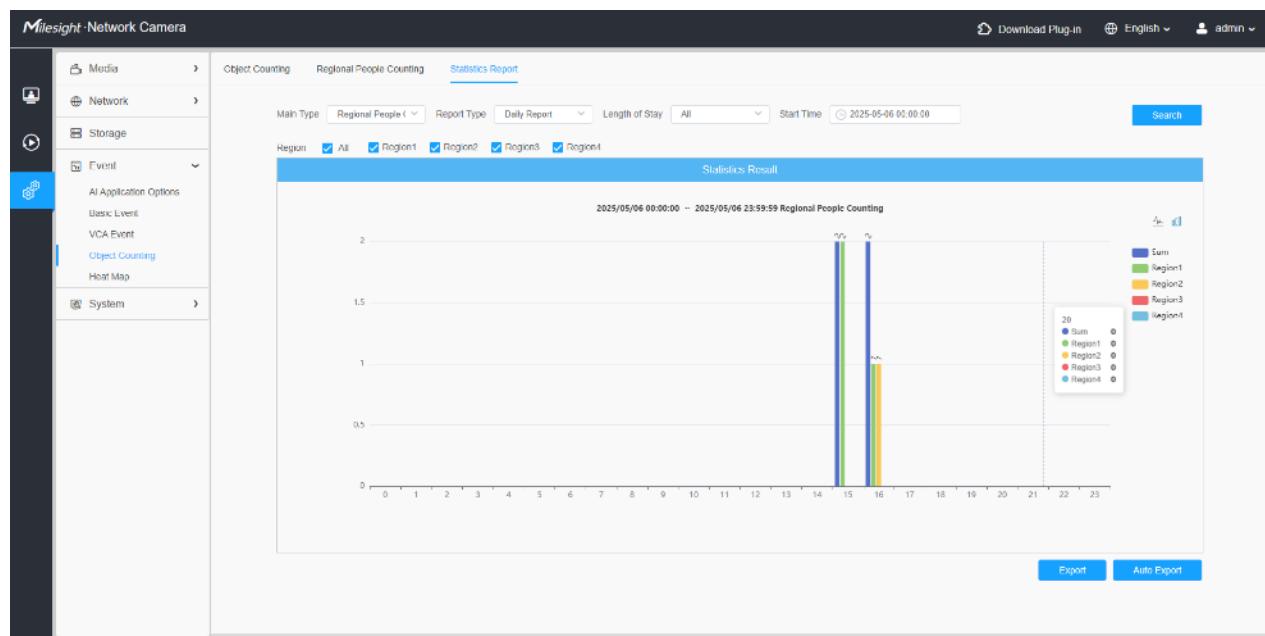
人流計測統計レポート (棒グラフ)



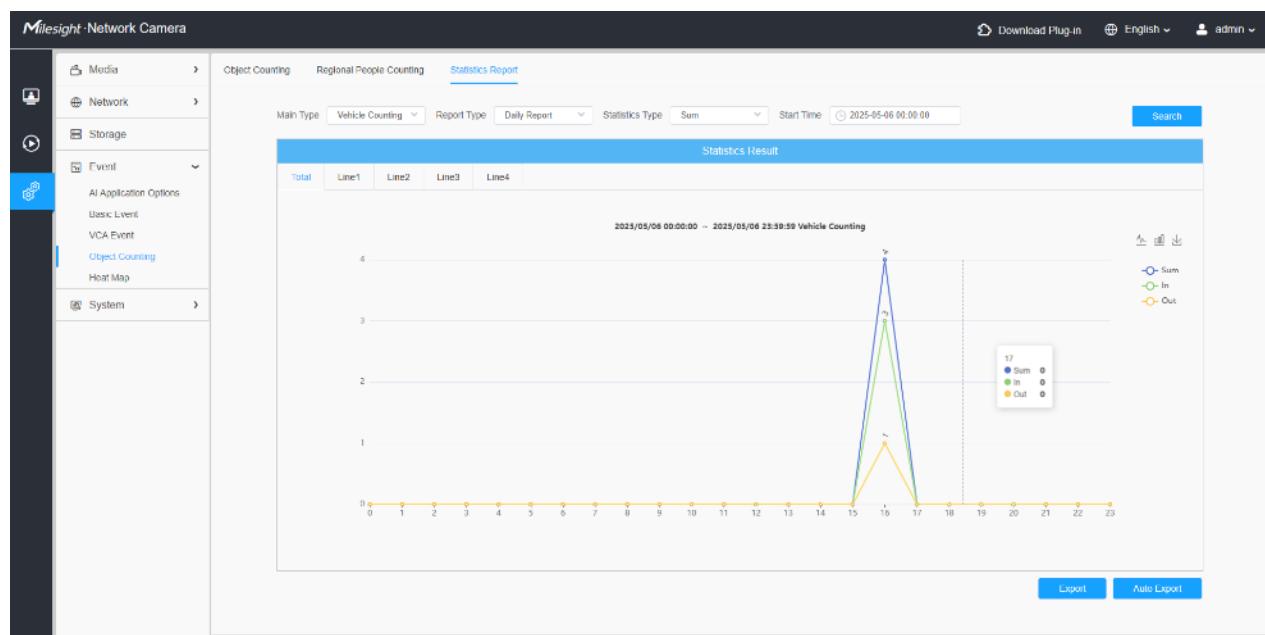
エリア別人流計測統計レポート (折れ線グラフ)



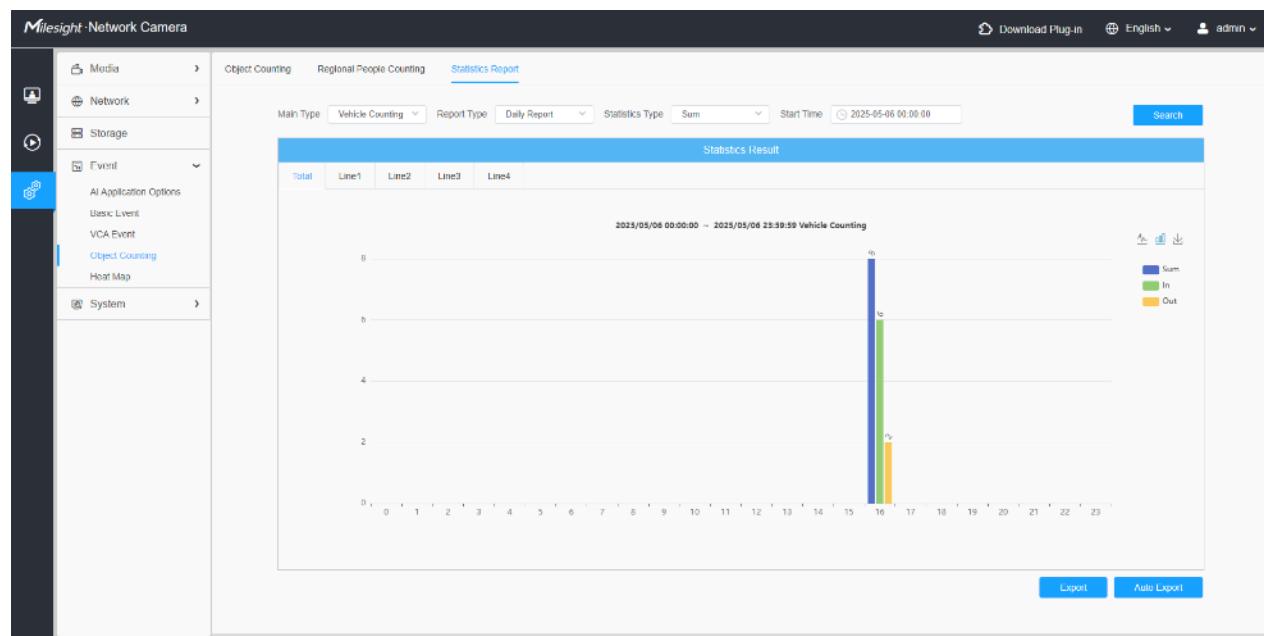
エリア別人流計測統計レポート (棒グラフ)



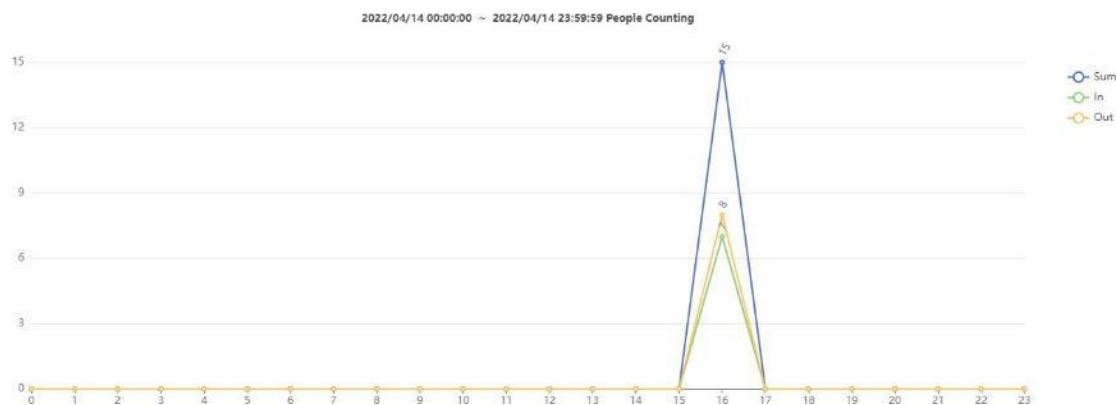
車両カウント統計レポート (折れ線グラフ)



車両カウント統計レポート (棒グラフ)

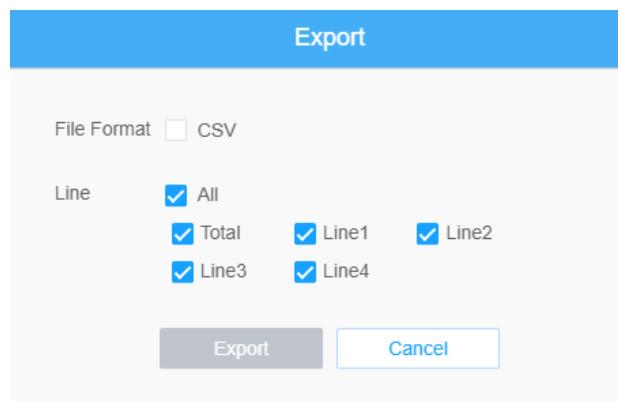


ステップ6：「Download」ボタンをクリックし、統計レポートのグラフ画面を保存してください。

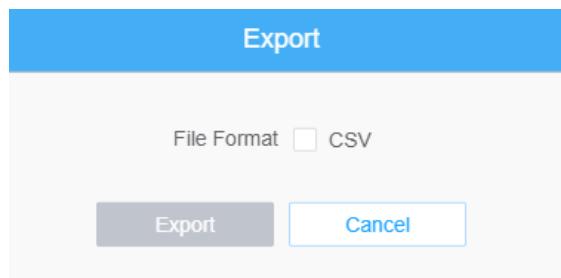


ステップ7：「Export」ボタンをクリックすると、下記のエクスポートウィンドウが表示されます。ファイル形式を選択し、レポートをローカルにエクスポートできます。人流量統計レポートの場合、必要に応じてチェックボックスをオンにし、異なるラインのレポートをエクスポートできます。

人流量計測-エクスポート、車両計測-エクスポート

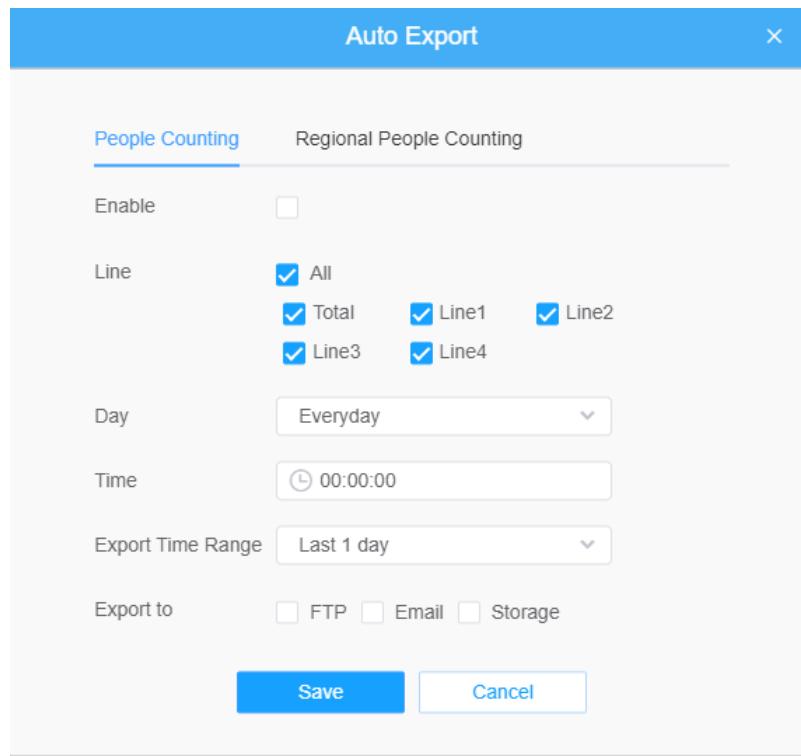


地域別人数計測- エクスポート

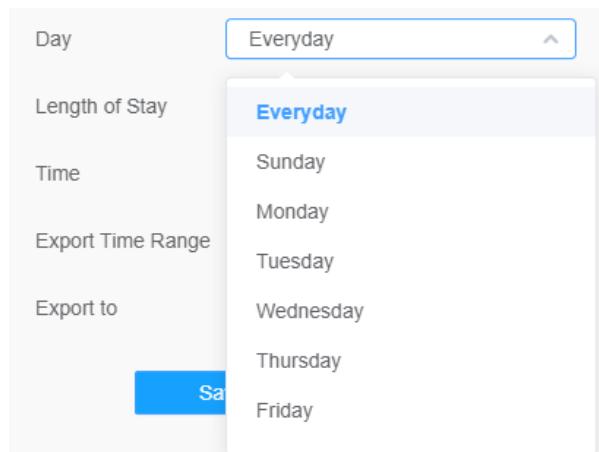


ステップ8: 「Auto Export」ボタンをクリックすると、下記の統計レポート設定画面が表示されます。

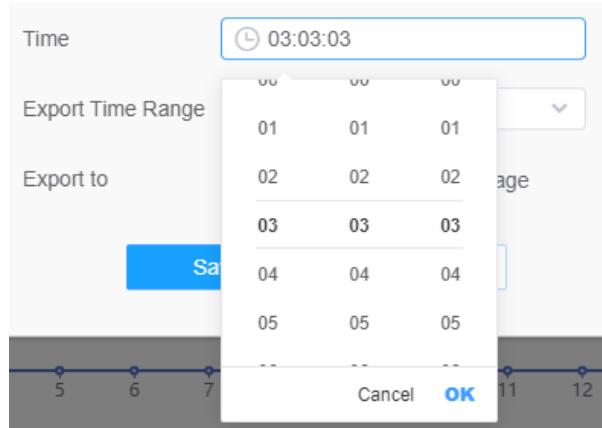
人流計測 - 自動エクスポート



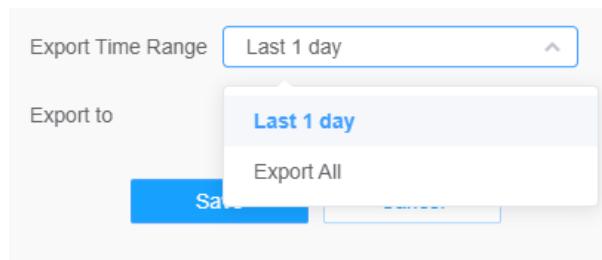
- ・人流計測の自動エクスポートを有効にするにはチェックボックスにチェックを入れ、必要に応じてラインを選択してください。
- ・日付の設定：毎日を選択すると日次レポートをエクスポートし、その他の選択肢では特定の曜日のレポートをエクスポートします。



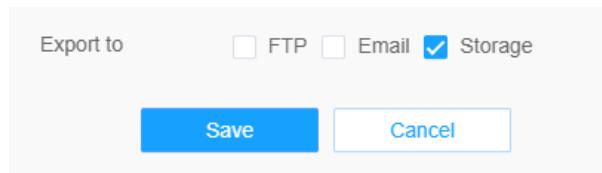
- ・時刻の設定。統計レポートを自動エクスポートする時間帯を選択できます。カレンダーアイコンをクリックすると、以下のクイック選択画面が表示されます。



- エクスポート時間範囲の設定；

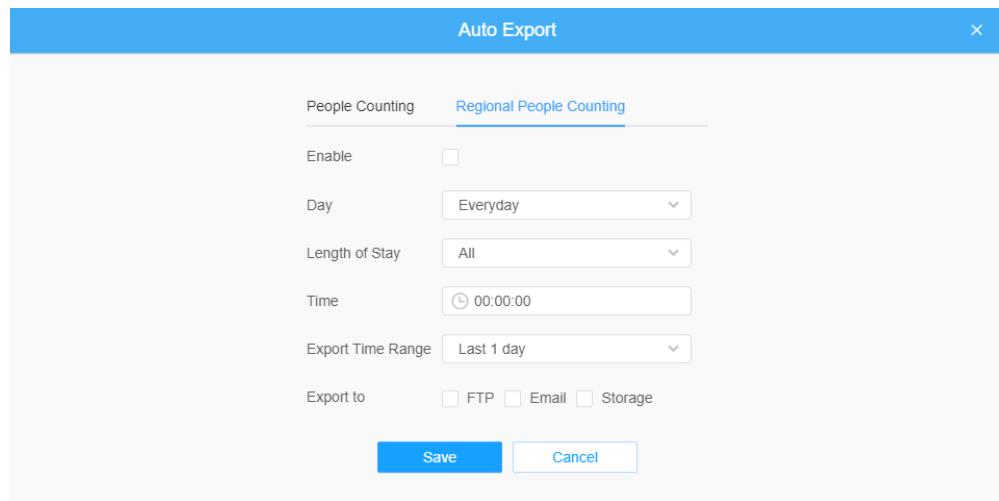


- 自動エクスポートトレポートの保存先パスを設定します。設定した曜日・時間帯・エクスポート時間範囲に基づき、レポートはExcel形式でFTP/メール/ストレージへ自動エクスポートされます。その後「保存」をクリックしてください。

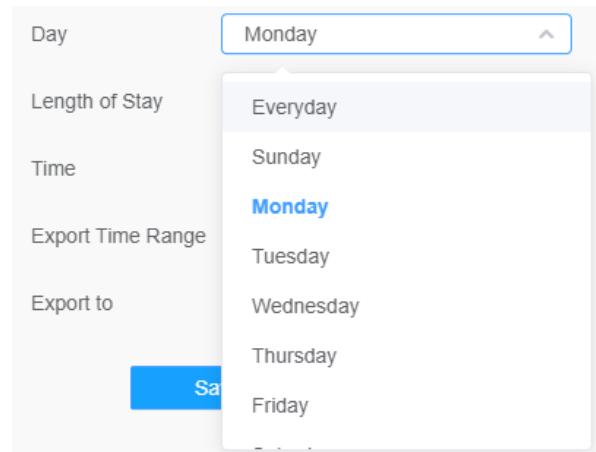


注記：現在の統計レポートが生成されている場合、CSV形式で保存されます。

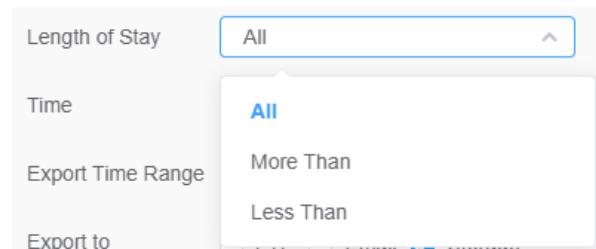
地域別人数計測 - 自動エクスポート



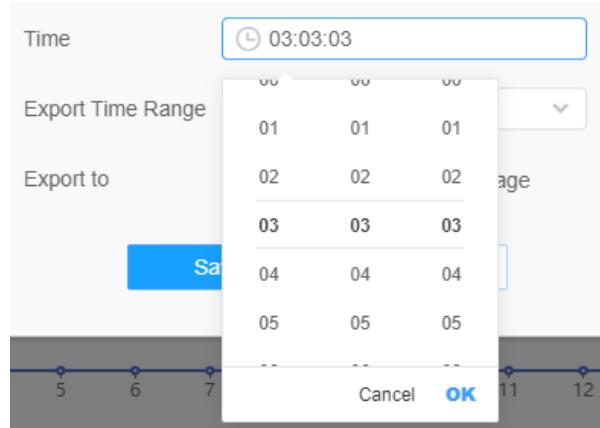
- ・チェックボックスをオンにすると、エリア別人流計数の自動エクスポートが有効になります。
- ・日数を設定します。毎日レポートをエクスポートする場合は「**Everyday**」を選択し、特定の曜日にレポートをエクスポートする場合はその他の選択肢から選択してください。



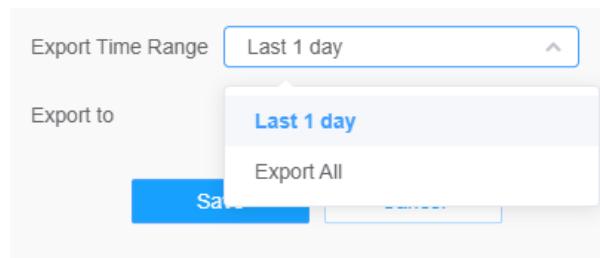
- ・滞在時間の設定。



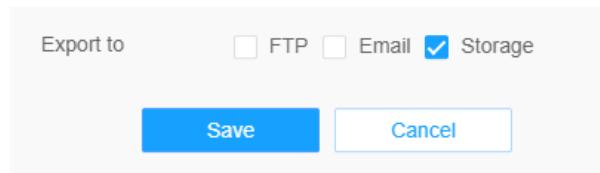
- ・時刻の設定。統計レポートを自動エクスポートする時間帯を選択できます。カレンダーアイコンをクリックすると、以下のクイック選択画面が表示されます。



- エクスポート時間範囲の設定；

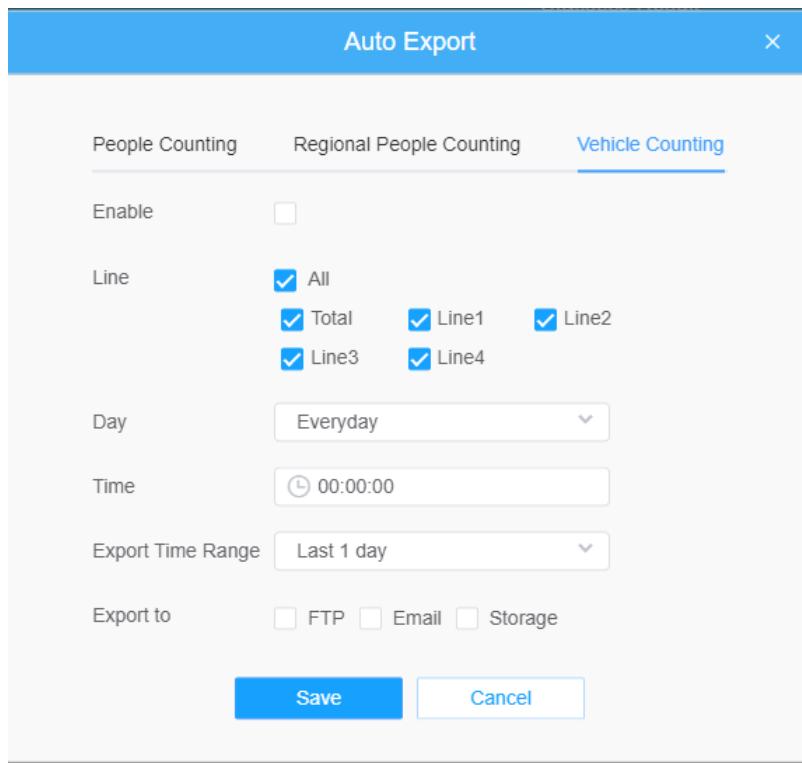


- 自動エクスポートトレポートの保存先パスを設定します。設定した日付・時刻・エクスポート時間範囲に基づき、レポートはExcelスプレッドシート形式でFTP/メール/ストレージへ自動エクスポートされます。その後「保存」をクリックしてください。

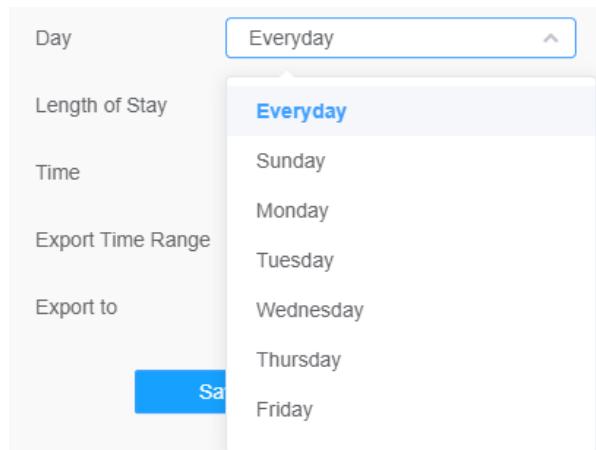


注記：現在の統計レポートが生成されている場合、CSV形式で保存されます。

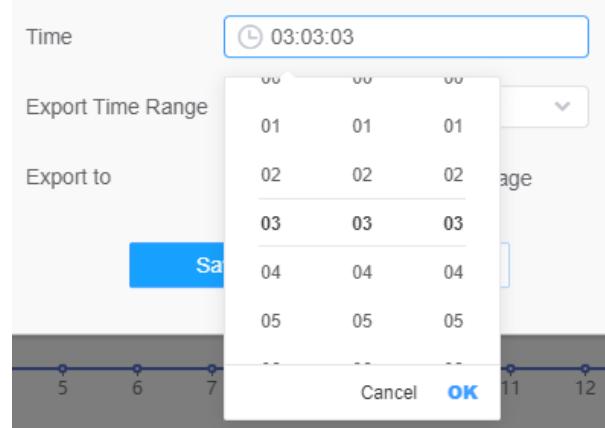
車両カウント-自動エクスポート



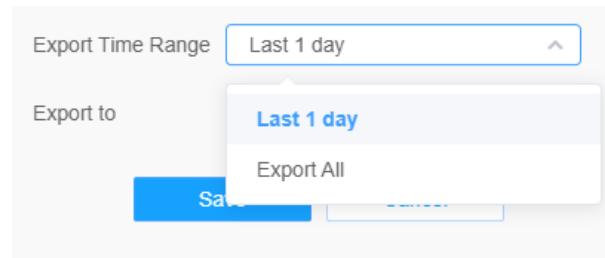
- ・人数の自動エクスポートを有効にするにはチェックボックスをオンにし、必要に応じてラインを選択してください。
- ・日付を設定します。毎日レポートをエクスポートする場合は「Everyday」を選択し、特定の曜日にレポートをエクスポートする場合はその他の選択肢から選択してください。



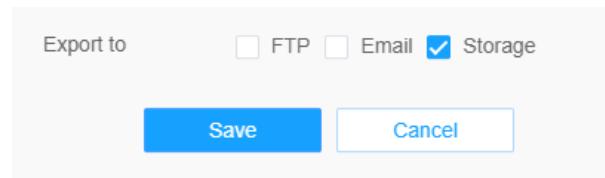
- ・時刻の設定。統計レポートを自動的にエクスポートする時間帯をお選びいただけます。カレンダーアイコンをクリックすると、以下のクイック選択画面が表示されます。



- エクスポート時間範囲の設定。



- 自動エクスポートトレポートの保存先パスを設定します。設定した日付、時刻、およびエクスポート時間範囲に基づき、レポートはExcelスプレッドシート形式でFTP/メール/ストレージへ自動エクスポートされます。その後「Save」をクリックしてください。



注 : 現在の統計レポートが生成されている場合、CSV形式で保存されます。

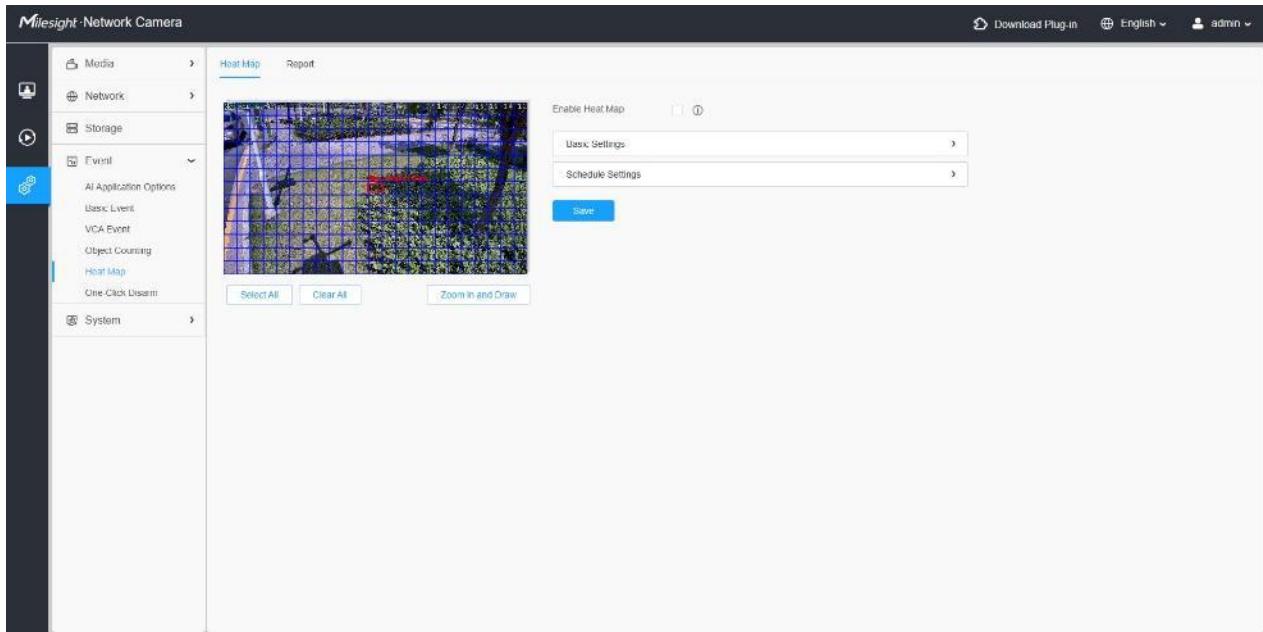
8.4.4 ヒートマップ^o

ヒートマップ機能は、お客様の動きを分析し、必要に応じて時間や空間パターンで直感的で正確な統計分析結果を提供することで、より良い経営管理のための洞察を明らかにします。

8.4.4.1 ヒートマップ^o

 ご注意 :

- SDカードまたはNASがない場合、7日以内のレポートのみ閲覧可能です。
- ヒートマップの設定方法の詳細については、
<https://milesight.freshdesk.com/a/solutions/articles/69000643314> をご参照ください。



ステップ1：ヒートマップ機能を有効にします。

[Basic Settings]

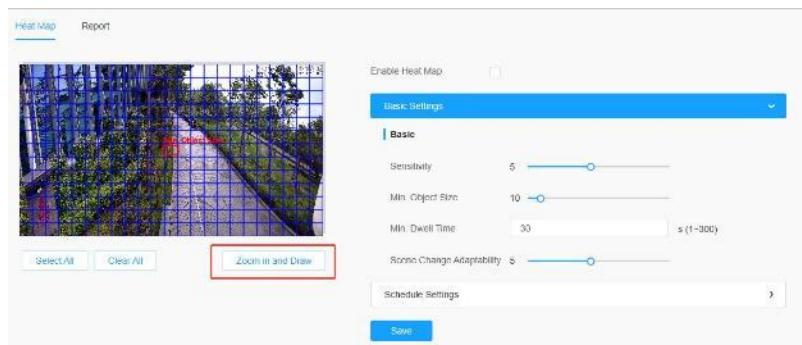
Basic Settings	
Sensitivity	5
Min. Object Size	10
Min. Dwell Time	30 s(1-300)
Scene Change Adaptability	5
Schedule Settings	
Save	

表58. 各ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Sensitivity	レベル1～10が選択可能です。初期設定はレベル5です。感度が高いほど、動いている物体がより容易に記録結果に捉えられます。
Min. Object Size	最小対象サイズを1～100の範囲で設定します。デフォルト値は10です。この値より小さい対象は結果に記録されません。
Min. Dwell Time	最小滞留時間を1～300の間で設定します。デフォルト値は30です。対象物が設定された「最小滞留時間」より長くエリア内に留まった場合、結果に記録されません。
Scene Change Adaptability	レベル1～10が選択可能です。デフォルトレベルは5です。シーン変化適応性とは、カメラがシーンの変化に適応する能力を示し、検出精度を高めることができます。この値が高いほど、カメラは変化の速いシーンに適応しやすくなります。

ステップ2 : ヒートマップ領域の設定。画面上に描画して検知領域を設定します。「Select All」ボタンで全領域を選択したり、「Clear All」ボタンで現在描画中の領域を削除したりできます。

「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンポップアップウィンドウが表示され、より正確な検知領域を描画できます。



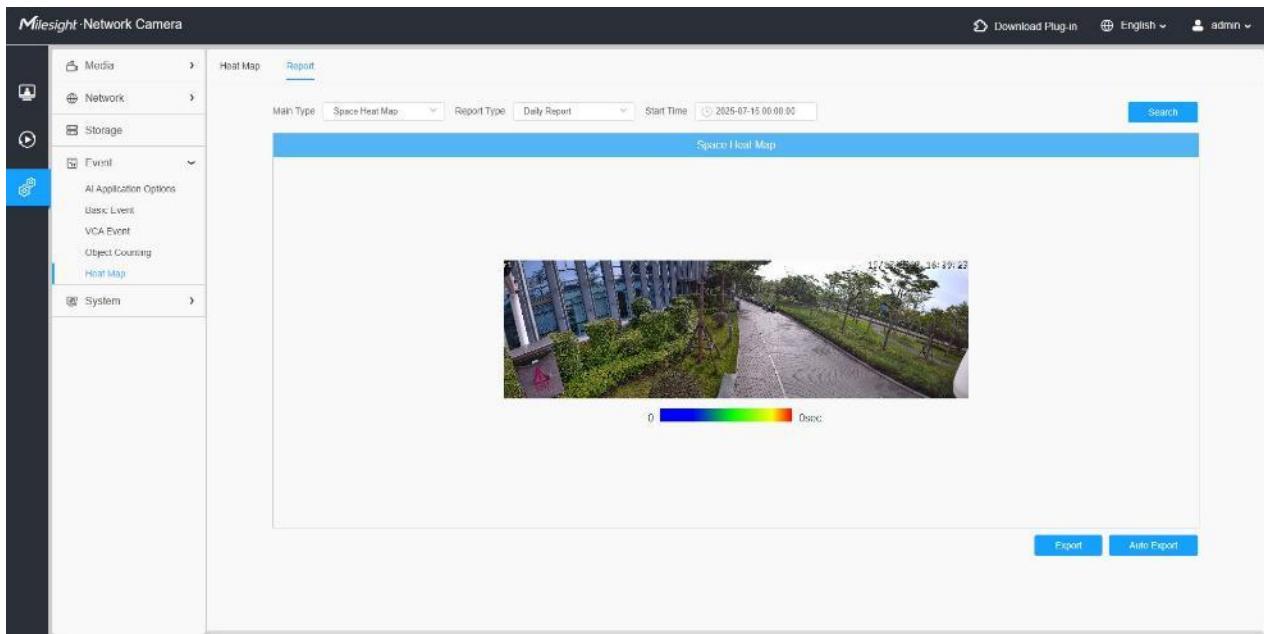
[Schedule Settings]

ステップ3: スケジュール設定。

注 : この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

8.4.4.2 レポート

ヒートマップの結果は、こちらの画面に表示されます。



ステップ1 : メインのヒートマップの種類をお選びください。

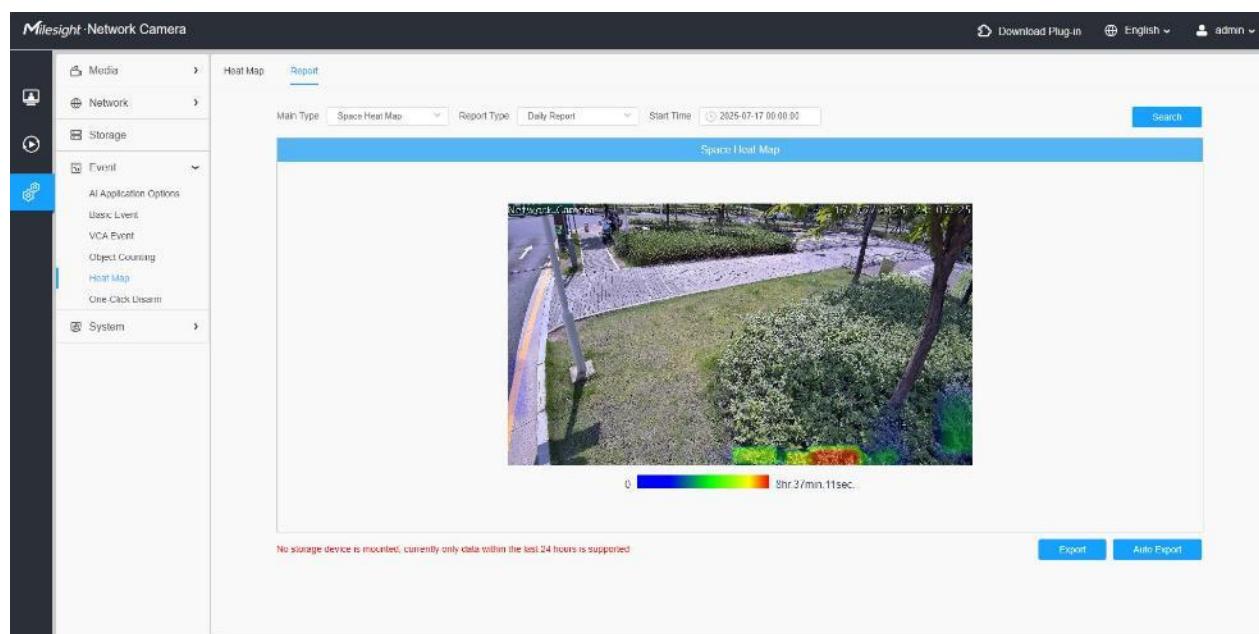
[Space Heat Map]: 空間ヒートマップは、異なる色で表示される画像として提示されます。異なる色は異なる熱値を表します。赤は最高値を、青は最低値を表します。

[Time Heat Map]: 時間ヒートマップは折れ線グラフで表示され、異なる時間帯の熱分布を示します。

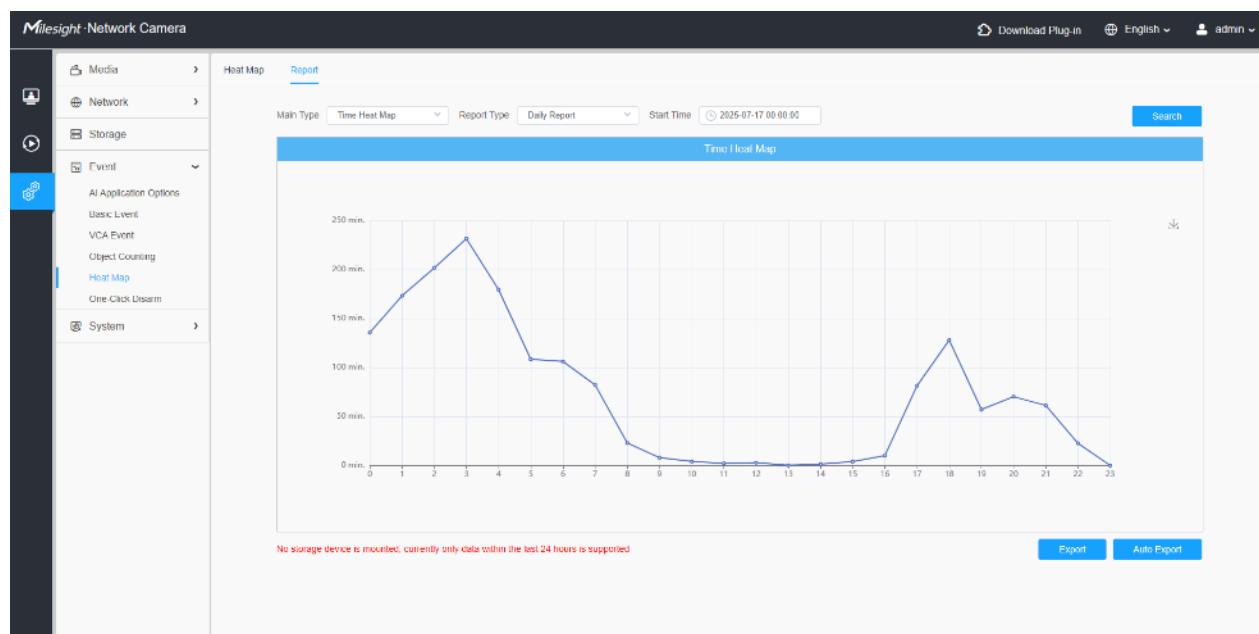
ステップ2 : レポートの種類を選択してください。日次レポート、週次レポート、月次レポート、年次レポートが含まれます。

ステップ3 : 開始時刻を選択し、「Search」ボタンをクリックすると、カメラは開始時刻から該当する日/週/月/年（ユーザーが選択したレポートタイプに基づく）のデータを集計し、下記の通り対応するレポートを生成します。

スペースヒートマップ[®]

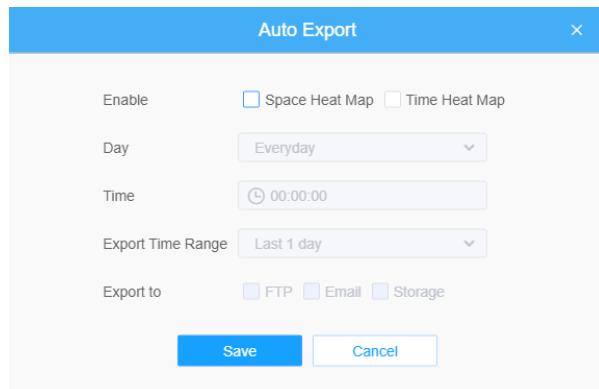


時間別ヒートマップ[®]

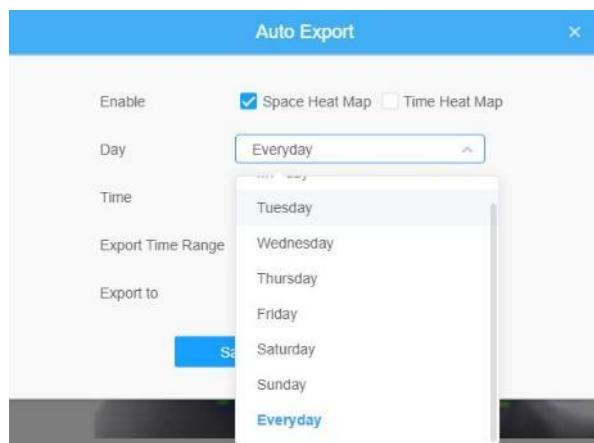


ステップ4: 「Report Export」ボタンをクリックし、レポートをローカルにエクスポートします。

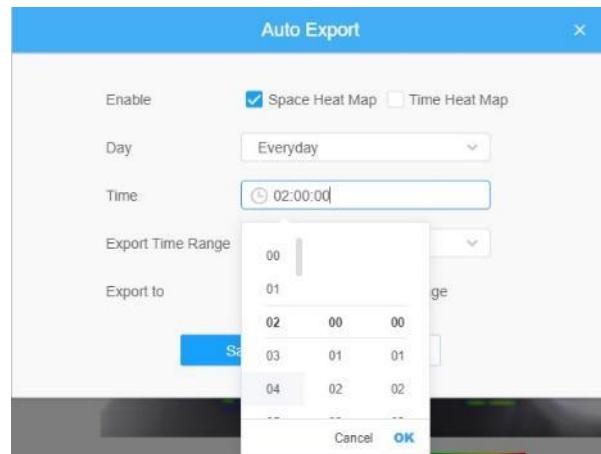
ステップ5: 「Auto Export」ボタンをクリックすると、下記のようにヒートマップレポート設定画面が表示されます。



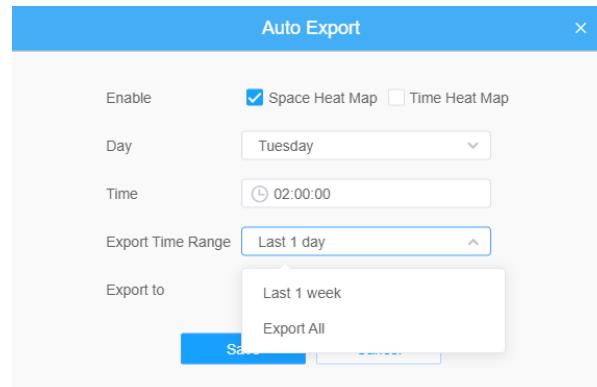
- エクスポートタイプを設定します。スペースヒートマップ、タイムヒートマップ、または両方のチェックが可能です。スペースヒートマップまたはタイムヒートマップのいずれかにチェックを入れると、下記のようにグレーの項目が編集可能になります。
- 日付の設定。毎日レポートをエクスポートする場合は「毎日」を選択し、特定の曜日のレポートをエクスポートする場合はその他の選択肢から選択してください。



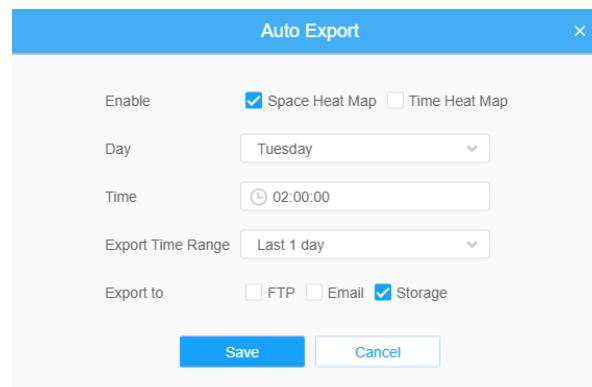
- 時刻の設定。ユーザーはヒートマップを自動エクスポートする時間帯を選択できます。カレンダーアイコンをクリックすると、以下のクイック選択画面が表示されます。



- エクスポート時間範囲の設定。



- 自動エクスポートトレポートの保存先パスを設定します。設定した曜日・時間帯・エクスポート時間範囲に基づき、レポートはExcelスプレッドシートまたは画像形式でFTP/メール/ストレージへ自動エクスポートされます。その後「Save」をクリックしてください。

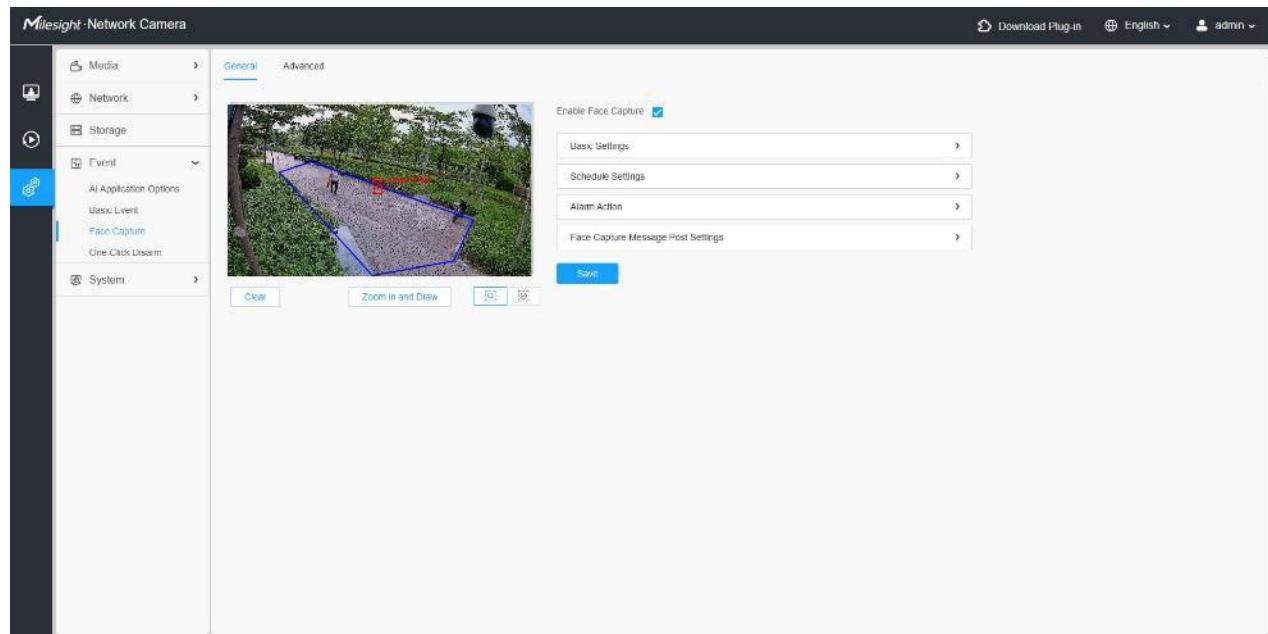


現在の空間ヒートマップが生成された場合、png画像として保存されます。現在の時間ヒートマップが生成された場合、csv形式で保存されます。

8.4.5 顔キャプチャ

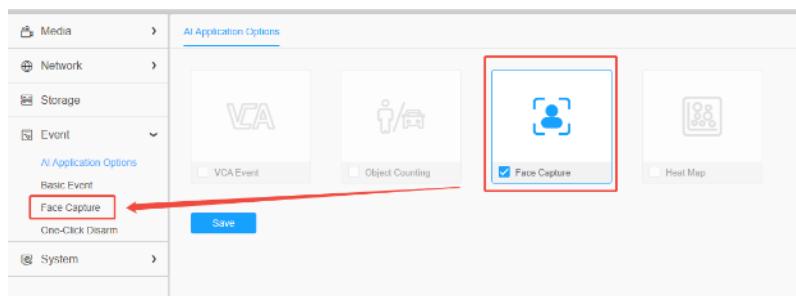
顔キャプチャ機能は、描画領域に現れた顔を捕捉し、顔スナップショットをストレージへの保存、FTPまたはメール経由でのアップロード、ライブビューでの表示をサポートします。さらに、カメラは顔画像をサードパーティ製VMSへプッシュし、集中管理、分析、顔属性認識を行うことをサポートします。

8.4.5.1 一般

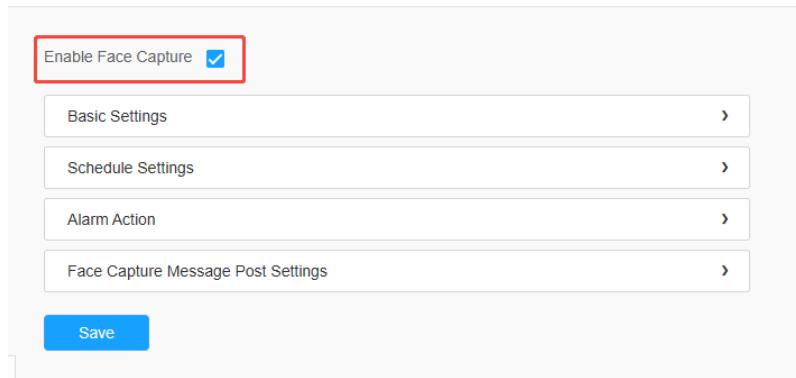


設定手順は以下の通りです：

本機能をご利用になる前に、AIアプリケーションオプション画面内の「Face Capture」チェックボックスにチェックを入れてください。



ステップ1 : 顔認識機能を有効にしてください。



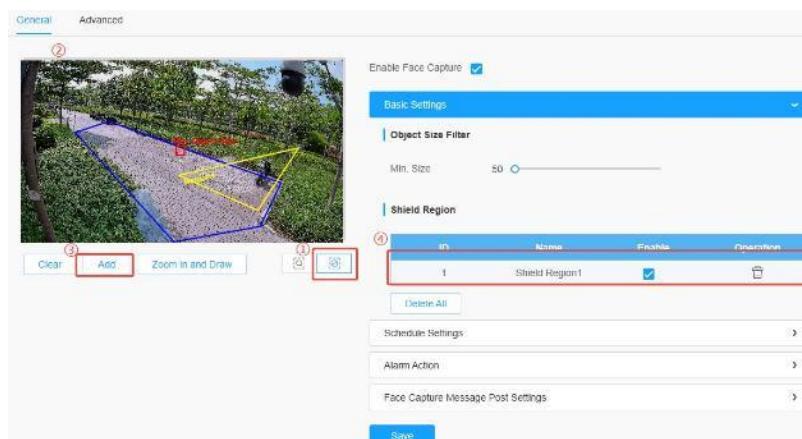
[Basic Settings]

ステップ2 : 最小オブジェクトサイズを設定します。

ステップ3 : 検出領域を設定します。検出領域をドラッグしてサイズを調整できます。この領域内の顔のみが検出されます。

「Zoom in and Draw」ボタンをクリックすると、フルスクリーンでポップアップウィンドウが表示され、より正確な検出領域を描画できます。

ステップ4 : シールド領域を設定し、検出領域内の特定の場所にある顔を検出対象外にします。シールド領域を設定することで、検出領域内の特定の場所にある顔を検出対象外に設定できます。まずプレビュ一画面でシールド領域を描画し、その後「Add」ボタンをクリックしてください。最大4つのシールド領域を設定可能です。



[Schedule Settings]

ステップ5：検知スケジュールの設定を行います。

 **注：**この部分は通常のスケジュール設定と同様です。 [モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。

[Alarm Action]

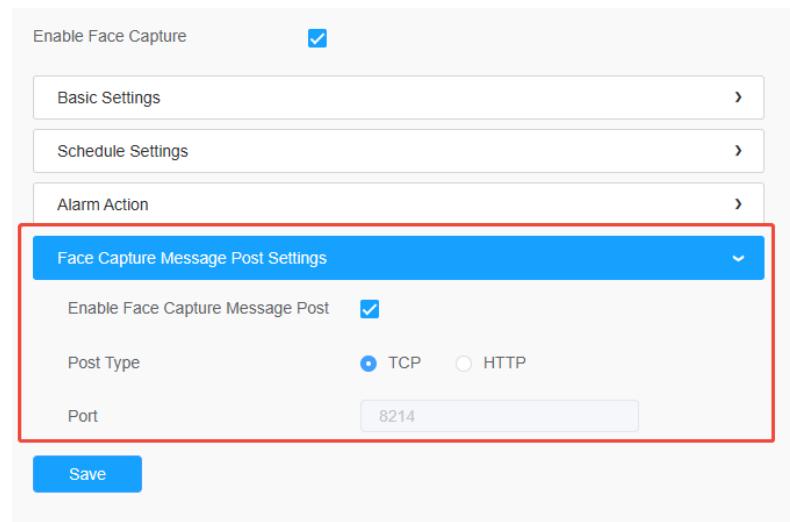
ステップ6：アラーム動作を設定します。

表59. 各ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Record	<p>Duration : アラームの持続時間を選択します。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が利用可能です。</p> <p>Linkage : アラーム録画ファイルをSDカードまたはNASに保存、またはFTP経由で録画ファイルをアップロードします。</p>
Snapshot	<p>Number : スナップショットの枚数です。1~5枚まで設定可能です。</p> <p>Interval : スナップショットを1枚以上選択した場合にのみ編集可能。</p> <p>Linkage : アラーム録画ファイルをSDカードまたはNASに保存、録画ファイルをFTP経由でアップロード、アラームメールを送信します。</p>

[Face Detection Message Post Settings]

ステップ6：顔検出メッセージ投稿を有効にします。

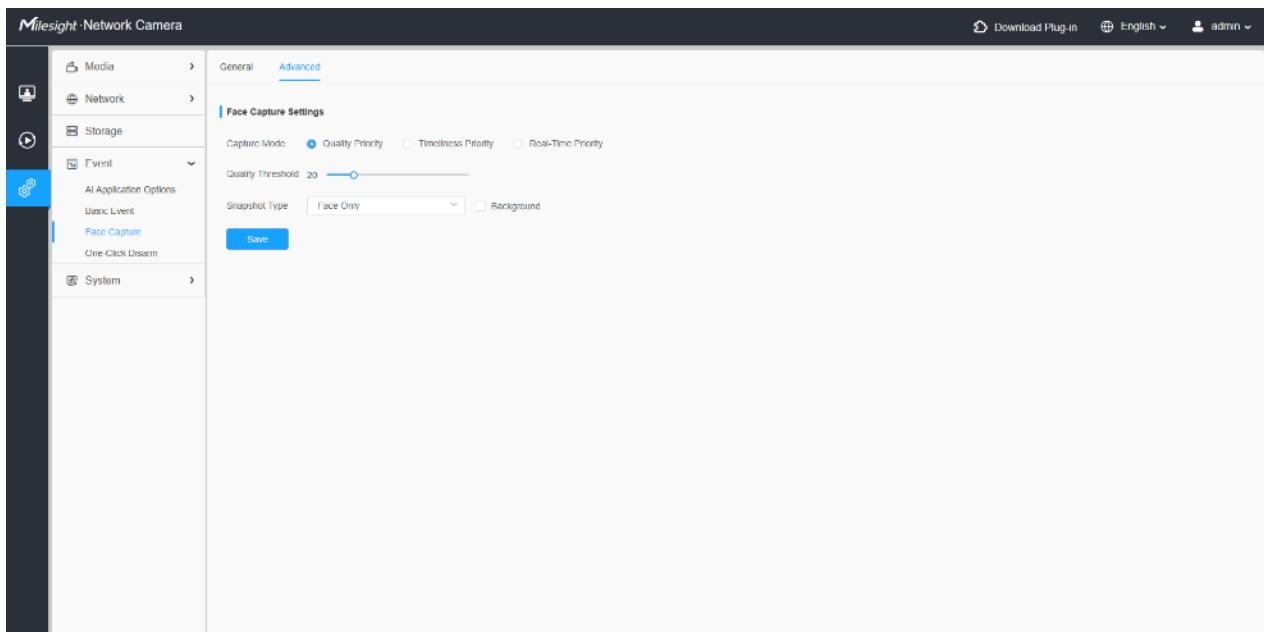


本機能を有効にすると、顔スナップショットをサードパーティシステムに送信し、さらなる分析や処理を行うことが可能となります。

表 60. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Enable Face Detection Message Post	チェックボックスをオンにすると、顔検出メッセージ投稿機能が有効になります。これにより、一部のサードパーティ製デバイスまたは互換性のあるソフトウェアに情報がプッシュされます。情報は TCP または HTTP によってプッシュされます。
Port Type	情報はTCPまたはHTTPで送信されます。

8.4.5.2 詳細設定



[Face Capture Settings]

ここでは、顔キャプチャのスナップショット設定を行うことができます。

表 61. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Capture Mode	<p>画質優先、タイムリ一性優先、リアルタイム優先が選択可能です。</p> <p>Quality Priority : このモードでは、設定された閾値を超えた場合、顔が画面に現れた瞬間から消えるまでの間に、最も優れた顔画像をキャプチャします。</p> <p>Timeliness Priority : このモードでは、画質が閾値を超えた時点で直ちに画像を送信し、その後より高品質な画像が存在する可能性は考慮されません。</p> <p>Real-Time Priority : このモードでは、閾値を超えた顔画像をリアルタイムで連続的にプッシュします。</p>
Capture Threshold	デフォルト値は 20 です。顔画像の品質がデフォルトのキャプチャしきい値を超えた場合、カメラは顔をキャプチャし、その画像と属性をバックエンドにアップロードします。
Snapshot Number	<p>顔検出時に撮影されるスナップショットの枚数を設定してください。</p>  <p>注：タイムリー優先モードではオプションです。</p>
Snapshot Type	<p>顔のみ、上半身、全身が選択可能です。</p> <p>Face Only : 顔のみのスクリーンショットを撮影します。</p> <p>Upper Body : 上半身のスクリーンショットを撮影します。</p> <p>Whole Body : 全身のスクリーンショットを撮影します。</p> <p>「Background」オプションにチェックを入れると、画像全体の別のスクリーンショットが撮影されます。</p>

カメラは、お客様が設定された領域と条件に基づき、[ライブビュー（26ページ）](#)で顔を撮影します。

「Show Tracks」オプションをチェックすると、ライブビューの左側にID付きの顔スクリーンショットが表示されます。

8.4.6 ワンクリック解除

ワンクリック解除を有効にする：このオプションを選択すると、ワンクリックで警報連動動作を簡単に制御できます。ワンクリック解除を有効にするオプションが選択されている場合、指定された警報連動動作は無効になります。

- **Enable One-Click Disarm :** このオプションを選択すると、対応するイベントの「**Alarm Action**」設定で構成されている場合でも、元の**Alarm Action**構成を削除することなく、指定された警報連動アクションが一時的に無効になります。

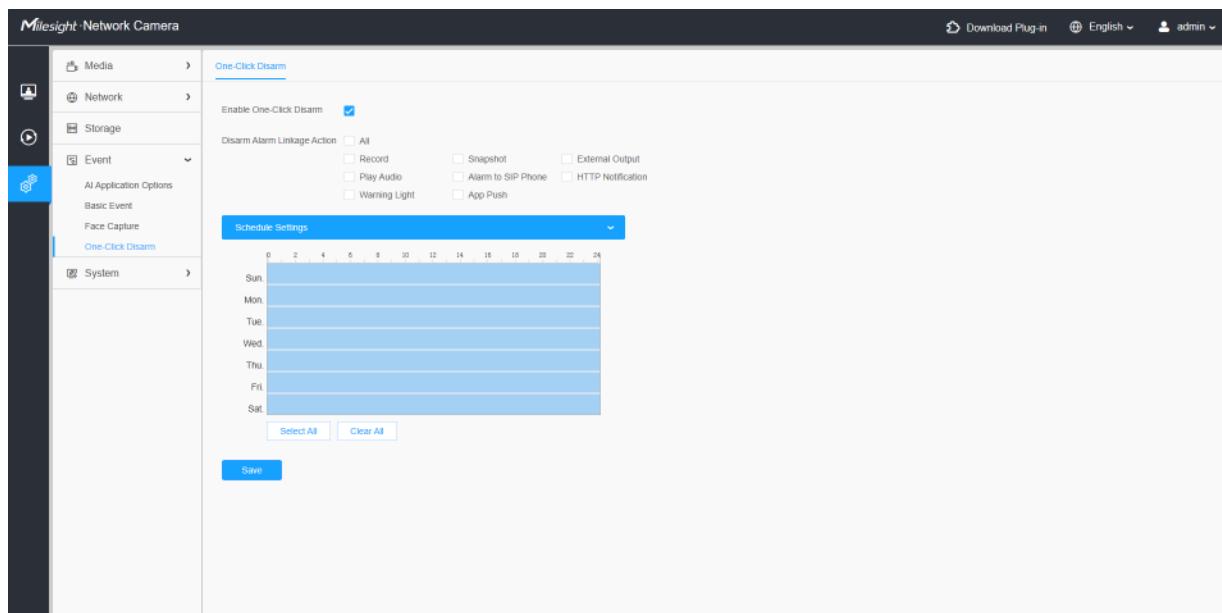
- **Disarm Alarm Linkage Action :** 設定済みの警報動作を一時的に無効化するには、チェックボックスにチェックを入れ、解除スケジュールを設定してください。

表 62. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Record	イベント発生時に記録を行いません。
Snapshot	イベント発生時にスナップショットを撮影しません。
External Output	イベントが発生した際に外部出力をトリガーしないでください。
Play Audio	イベントがトリガーされた際にオーディオファイルを再生しないでください。
Alarm to SIP Phone	SIP機能を有効にした後、SIP電話への発信を行わないでください。
HTTP Notification	指定されたHTTP URLへのアラーム通知を送信しません。
Warning Light	アラームが作動した場合、警告灯は消灯したままとなります。
App Push	アラームメッセージをアプリにプッシュ送信しないでください。

- **Disarm by Schedule :** 指定した時間帯は、警報運動動作が無効になります。

スケジュール設定については、[モーション検知 \(98ページ\)](#) をご参照ください。



8.5 システム

ここでは、システム設定、セキュリティ、ログ、およびメンテナンスを設定できます。

8.5.1 システム設定

ここでは、システム情報と日付・時刻を確認できます。

8.5.1.1 システム情報

カメラのハードウェアおよびソフトウェアに関するすべての情報をこのページで確認できます。

表 63. ボタンの説明

パラメータ	機能 概要
Device Name	デバイス名はカスタマイズが可能です。動画ファイルのファイル名に表示されます。
Product Model	カメラの製品モデルです。
Hardware Version	カメラのハードウェアバージョンです。
Software Version	カメラのソフトウェアバージョンはアップグレードが可能です。
MAC Address	メディアアクセス制御アドレス。

パラメータ	機能紹介
S/N	在庫番号
Device Information	デバイス情報（アラーム I/O およびクリッパーチップに関する情報を含む）。
Alarm Input	アラーム入力インターフェースの数。 注： アラーム入力は、カメラにアラーム入力/出力インターフェースがある場合にのみ表示されます。
Alarm Output	アラーム出力インターフェースの数。 注記： アラーム出力は、カメラにアラーム入力/出力インターフェースがある場合にのみ表示されます。
Uptime	デバイスの最後の再起動からの経過時間です。
Save	設定を保存します。

8.5.1.2 日付と時刻

The screenshot shows the Milesight Network Camera's web-based management interface. The left sidebar has a dark theme with white icons and text. The main content area has a light background. The top navigation bar includes the Milesight logo, language selection (English), and user information (admin). The left sidebar menu includes Media, Network, Storage, Event, System (which is currently selected and highlighted in blue), and System Setting (which is also a sub-item under System). The main content area is titled 'Date & Time' under 'System Info'. It displays the current system time (06/04/2023 at 00:46:43) and allows setting the system time through various methods: Time Zone (UTC-08:00 United States - Pe), Daylight Saving Time (Automatic), Synchronization Mode (NTP server selected), Server Address (pool.ntp.org), and NTP Sync (checkbox checked). A 'Save' button is located at the bottom of this section.

表 64. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Current System Time	システムの現在の日付と時刻です。
Set the System Time	<p>Time Zone : お住まいの地域のタイムゾーンをお選びください。</p> <p>Daylight Saving time : 夏時間有効になります。</p>
Set the System Time	<p>Synchronize Mode : NTPサーバー、手動、およびコンピューターの時刻との同期が選択可能です。</p> <p>NTP server : NTPサーバーのアドレスを入力してください。</p> <p>NTP Sync : 設定した間隔で定期的に時刻を更新します。</p> <p>Manual : システム時刻を手動で設定します。</p> <p>Synchronize with computer time : お使いのコンピューターと時刻を同期します。</p>
Save	設定を保存してください。

8.5.2 セキュリティ

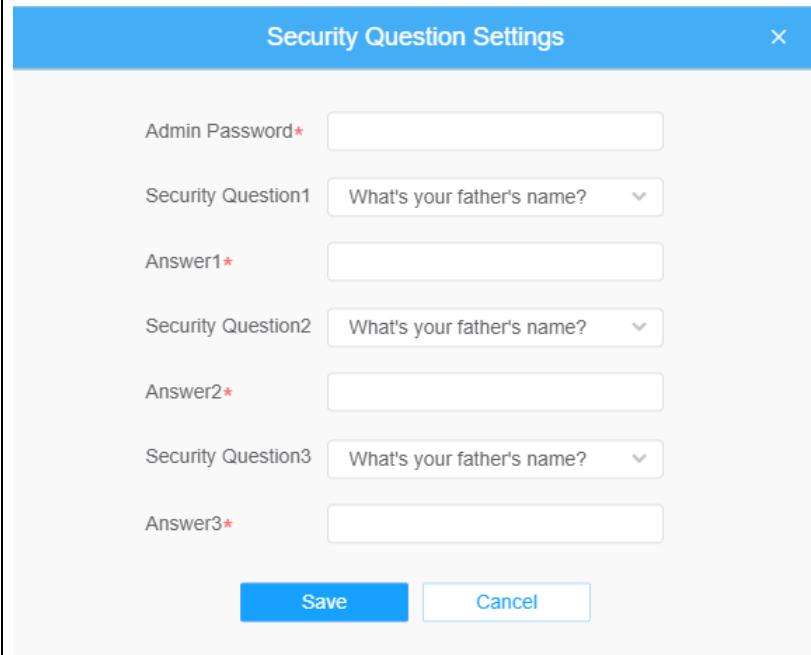
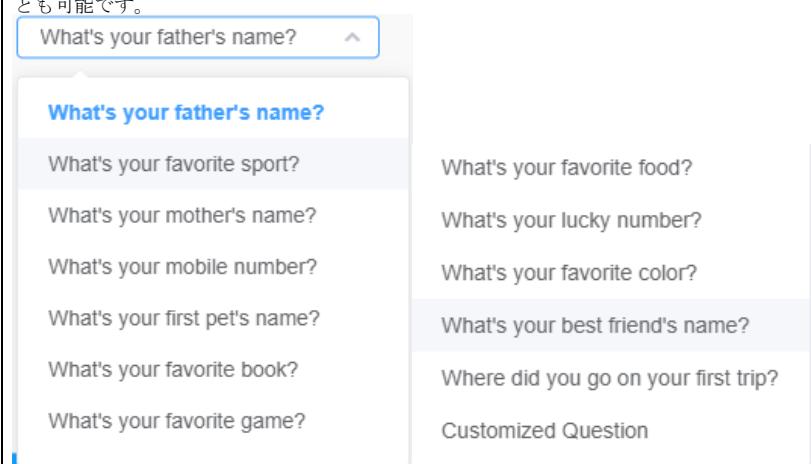
ここでは、ユーザー、アクセスリスト、セキュリティサービス、透かしなどを設定できます。

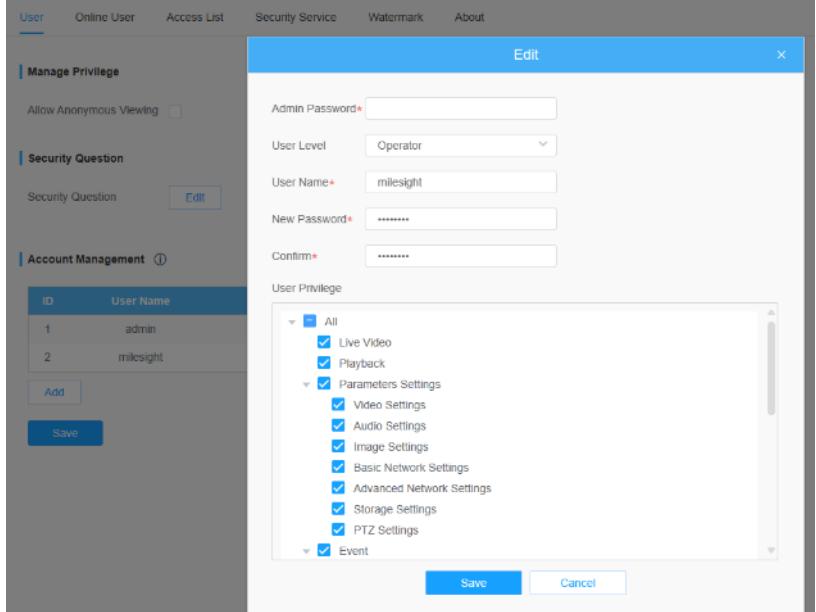
8.5.2.1 ユーザー

ID	User Name	Privilege	Operation
1	admin	Administrator	

表 65. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Manage Privilege	Allow anonymous viewing : チェックボックスをオンにすると、デバイスのアカウントをお持ちでない方からのアクセスを許可します。

パラメータ	機能のご紹介
Security Question	<p>「編集」ボタンをクリックして、カメラ用のセキュリティ質問を3つ設定してください。パスワードをお忘れになった場合、ログイン画面の「パスワードを忘れた場合」ボタンをクリックし、3つのセキュリティ質間に正しくお答えいただくことでパスワードをリセットできます。</p>  <p>以下に12のデフォルトの質問をご用意しておりますが、セキュリティの質問をカスタマイズすることも可能です。</p> 

パラメータ	機能紹介
Account Management	<p>「Add」ボタンをクリックすると、アカウント管理ページが表示されます。管理者パスワード、ユーザーレベル、ユーザー名、新しいパスワード、確認を入力してカメラにアカウントを追加できます。また、をクリックしてユーザー権限を編集できます。追加されたアカウントはアカウントリストに表示されます。</p> <p>Admin Password : 正しい管理者パスワードを入力した場合のみ、アカウントを追加できます。</p> <p>User Level : アカウントの権限を設定します。</p> <p>User Name : アカウント作成用のユーザー名を入力してください。</p> <p>New Password : アカウントのパスワードを入力してください。</p> <p>Confirm : パスワードを確認してください。</p> <p>管理者アカウント下のアカウント一覧では、アカウントの編集および削除が可能です。デフォルトの管理者アカウントについては、パスワードの変更のみ可能で、削除はできません。</p> <p> 「」をクリックすると、カスタムユーザーの詳細情報（ユーザーlevel、名前、パスワード、権限など）を編集できます。</p>  <p>ご注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大20ユーザーまで対応可能です（デフォルトユーザー1名とカスタム追加ユーザー19名を含みます）。 オペレータ権限はデフォルトで全てチェックされています。

8.5.2.2 オンライнуーザー

カメラにログインしているユーザーのリアルタイム状態が表示されます。

表 66. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Refresh	クリックすると、カメラにアクセスしているユーザーの最新のステータスを取得できます。
ID	<p>カメラにログインしているユーザーのシリアル番号を記録します。</p> <p>ご注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"> リストには最大30件の記録が表示されます。 同一のIPアドレスから同一ユーザーがカメラにログインした場合、記録は1件のみとなります。
User Name	カメラにログインしているユーザーの名前です。
User Level	カメラにログインしているユーザーの権限レベルです。
IP Address	カメラのウェブインターフェースにログインしているユーザーのデバイスIPアドレス。
Login Time	カメラシステムにおける、ユーザーがカメラにログインした時刻。

8.5.2.3 アクセスリスト

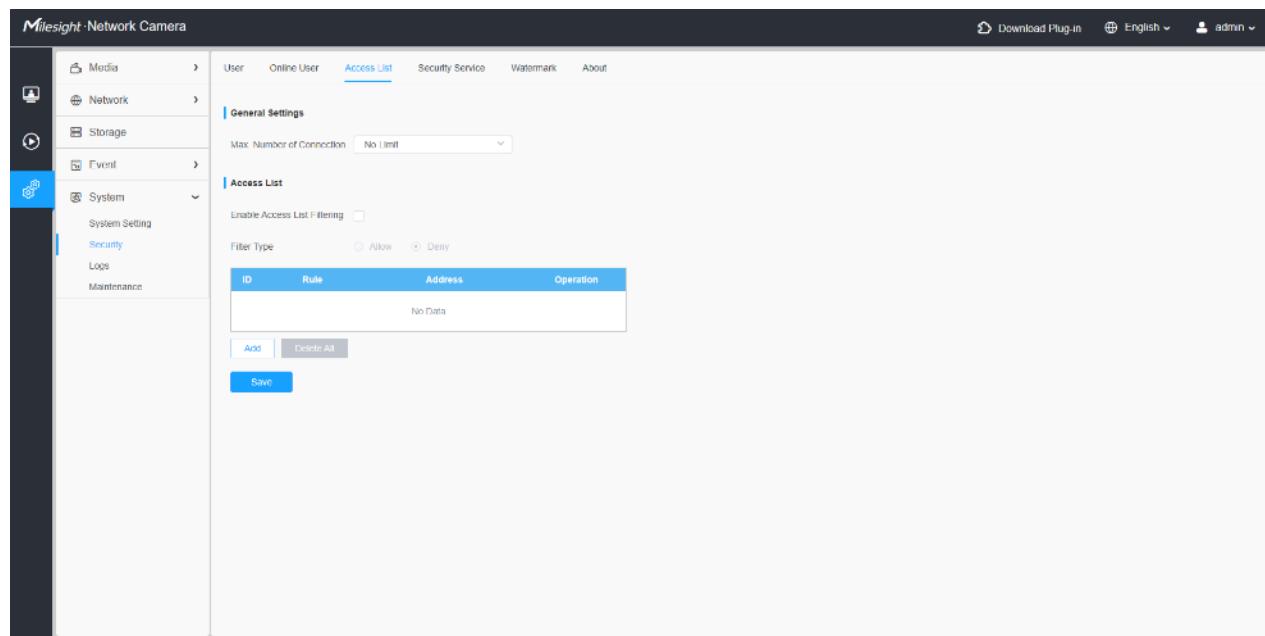


表 67. ボタン説明

パラメータ	機能紹介	
General Settings	Max. Number of Connection : 同時ストリーミングの最大数を選択します。選択肢は「無制限」、「1～10」です。	
Access List	Enable Access List Filtering : 特定のIPアドレスへのアクセスを許可または制限できます。	
Access List	Filter type : アクセスを許可または拒否します。	
	 Add	Rule : Single, Network、Rangeが利用可能です。 IP address : デバイスへのアクセスを許可するアドレスを入力してください。
	 Delete All	アクセスリストをすべて削除します。
		アクセスリストで選択したIPを編集します。
		アクセスリストから選択したIPを削除します。

パラメータ	機能紹介
Save	設定を保存します。

8.5.2.4 セキュリティサービス

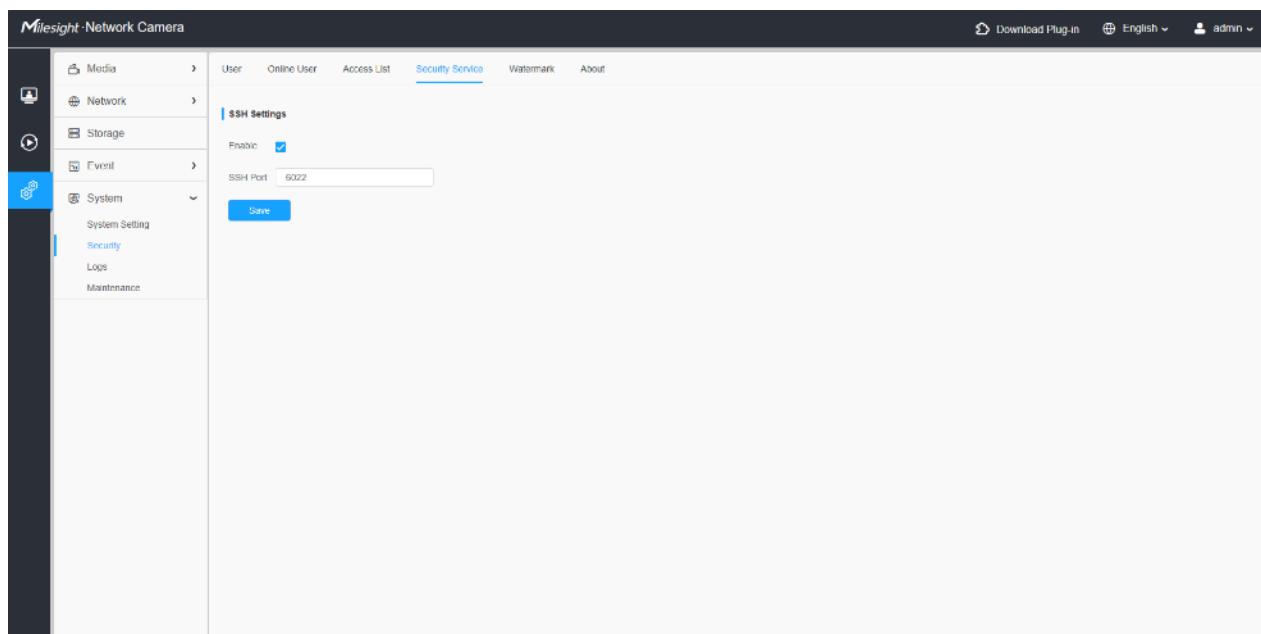
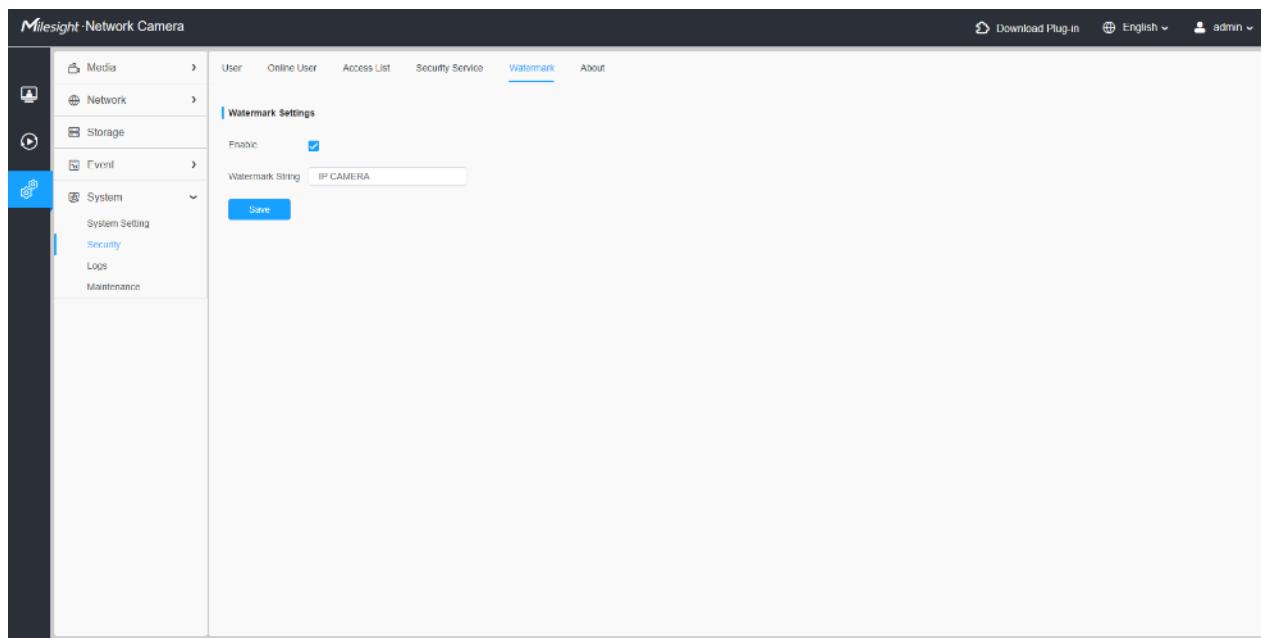


表 68. ボタン説明

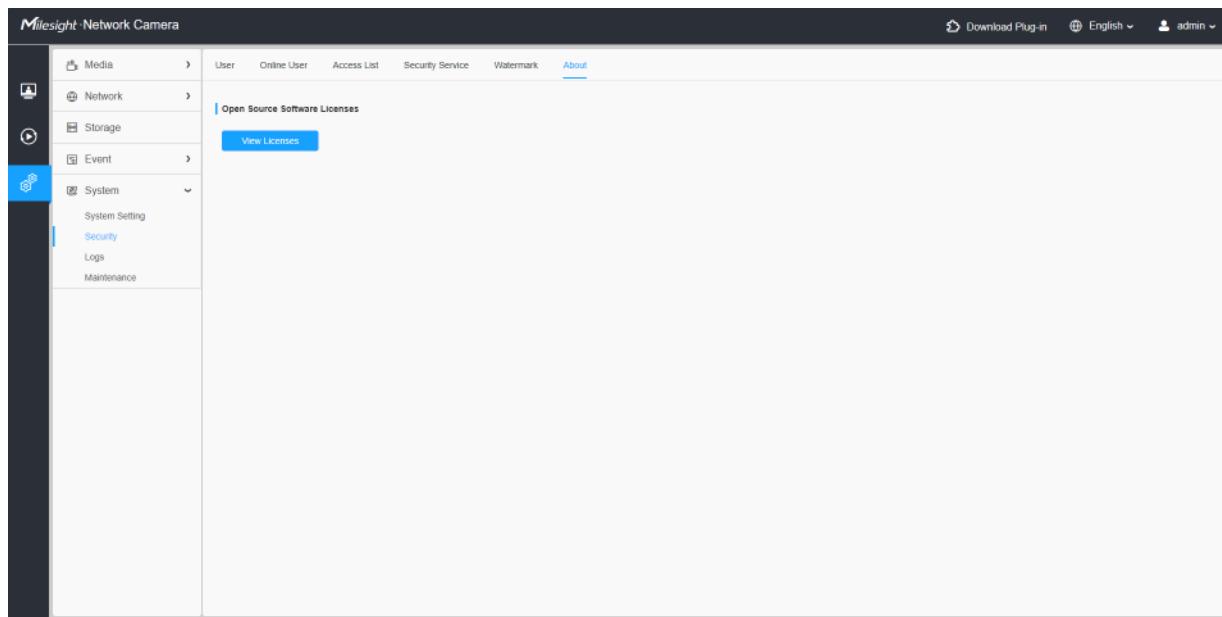
パラメータ	機能紹介
SSH Settings	Secure Shell (SSH) には多くの機能があります。Telnet の代替となるほか、FTP、POP、さらには PPP にも安全なチャネルを提供します。

8.5.2.5 透かし



透かしは、情報セキュリティを保護し、偽造防止のトレーサビリティと著作権保護を実現する効果的な方法です。Milesight ネットワークカメラは、情報セキュリティを確保するために透かし機能をサポートしています。

8.5.2.6 概要



ユーザー様は、ライセンスを表示ボタンをクリックすることで、カメラに関するオープンソースソフトウェアのライセンスを閲覧できます。

8.5.3 ログ

ログには、ウェブ経由でカメラにアクセスした日時とIPアドレスに関する情報が含まれています。

8.5.3.1 ログ

Time	Main Type	Sub Type	Param	User	IP	Detail
2025-05-06 18:01:07	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:06:36	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:06:23	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:05:17	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:05:15	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:04:58	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:04:56	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:04:40	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:04:19	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:04:17	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:03:57	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:03:55	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:03:36	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:03:34	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:02:18	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:02:16	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 18:02:13	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1
2025-05-06 17:59:23	Smart	Intrusion Detection	-	-	-	region.1

ご注意 :

本インターフェースはログ（全タイプ、イベント、操作、情報、例外、スマートを含む）の記録に使用されます。ストレージデバイスが利用可能であることをご確認ください。SDカードの挿入またはNASの設定によりデータ保存が可能です。

表 69. ボタン説明

パラメータ	機能紹介
Main Type	主なログタイプは5種類あります : All Type, Event, Operation, Information, Exception Smart. です。

パラメータ	機能紹介
Sub Type	メインタイプが選択されていることを前提に、サブタイプを選択してログの範囲を絞り込みます。
Start Time	ログの開始時刻です。
End Time	ログが終了する時刻です。
Search	ログを検索します。
Export	ログをエクスポートします。
Go to	ログのページ数を入力してください。

8.5.3.2 セキュリティ監査ログ

Time	Main Type	Sub Type	Param	User	IP	Detail
2025-07-16 11:21:54	Operation	Login Remotely	-	admin	192.168.70.1/7	-
2025-07-16 10:43:11	Operation	RTSP Session Stop	-	admin	192.168.70.175	HTTP
2025-07-16 10:41:16	Operation	RTSP Session Start	-	admin	192.168.70.175	HTTP
2025-07-16 10:41:15	Operation	RTSP Session Stop	-	admin	192.168.70.175	HTTP
2025-07-16 10:34:20	Operation	RTSP Session Start	-	admin	192.168.70.175	HTTP
2025-07-16 10:34:18	Operation	Login Remotely	-	admin	192.168.70.175	-
2025-07-16 10:01:53	Operation	RTSP Session Stop	-	admin	192.168.70.175	HTTP
2025-07-16 09:52:19	Operation	RTSP Session Start	-	admin	192.168.70.175	HTTP
2025-07-16 09:52:16	Operation	Login Remotely	-	admin	192.168.70.175	-

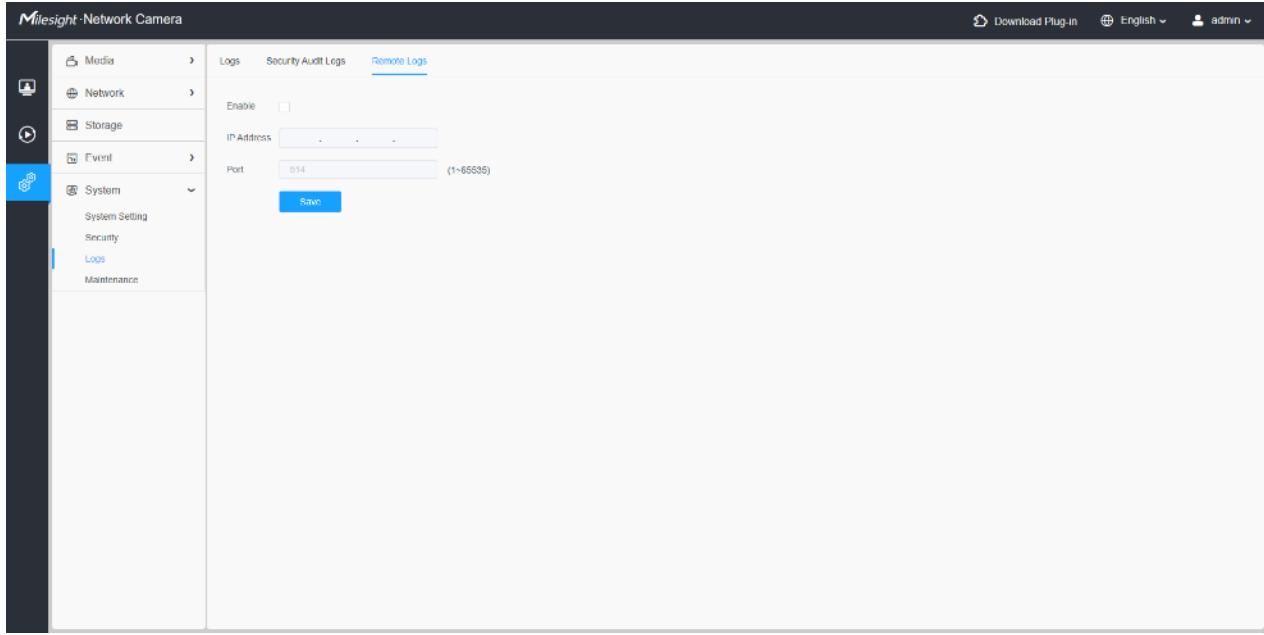
セキュリティ監査ログインターフェースでは、デバイスに関連する重要な操作および例外情報を記録します。Main Typeオプションには、以下の項目が含まれます：全タイプ、操作、情報、例外。標準のログインターフェースと比較して、こちらの情報カテゴリには**Basic Event , VCA and Advanced Events**のエントリは含まれません。

- これらのログには、デバイスのセキュリティと例外追跡に不可欠なデータが含まれています。
- ログは永続的に保存され、カメラの再起動後も失われることがあってはなりません。

表 70. ボタンの説明

パラメータ	機能 概要
Main Type	ログには、オールタイプ、操作、情報、例外の 4 つの主要タイプがあります。
Sub Type	主要タイプが選択された前提で、サブタイプを選択し、ログの範囲を絞り込みます。
Start Time	ログの開始時刻です。
End Time	ログが終了する時刻です。
Search	ログを検索します。
Export	ログをエクスポートします。
Go to	ログのページ数を入力してください。

8.5.3.3 リモートログ



ログをサードパーティのサーバーに転送し、一元管理することができます。

- **Enable** : ログ転送を有効にするには、このオプションをオンにしてください。
- **IP Address** : ログを受信するサーバーの宛先IPアドレスを入力してください。
- **Port**: 受信サーバーがログデータを受け取る際に使用するポート番号を指定してください。

8.5.4 メンテナンス

ここでは、システムメンテナンスと自動再起動を設定できます。

8.5.4.1 システムメンテナンス

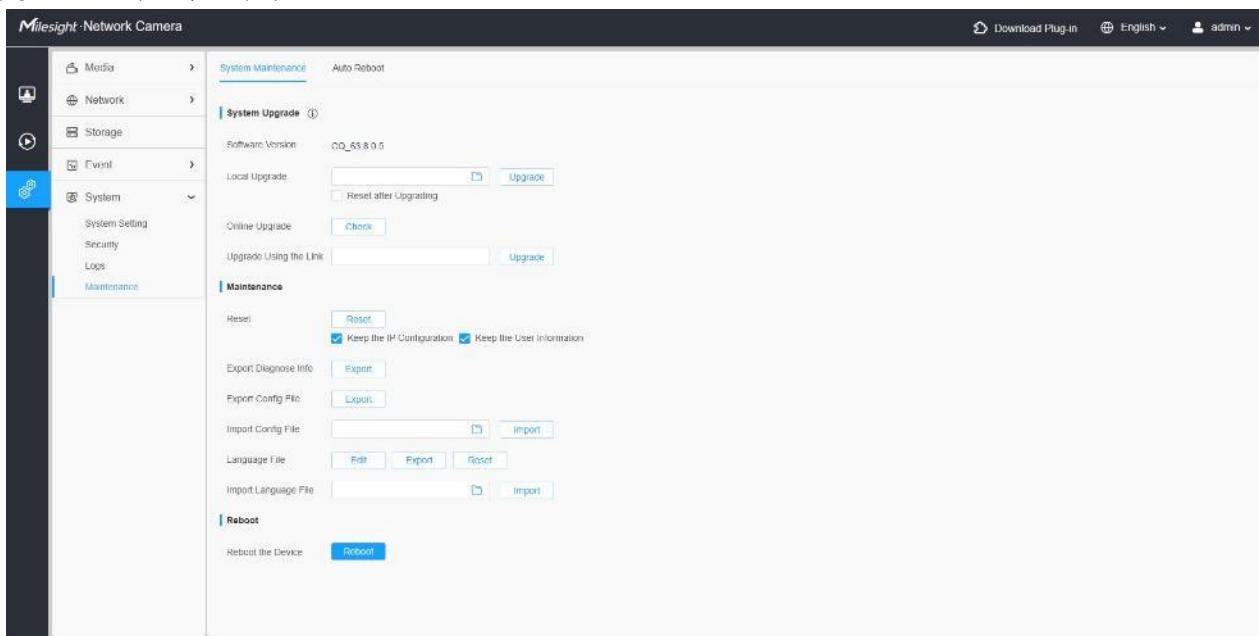
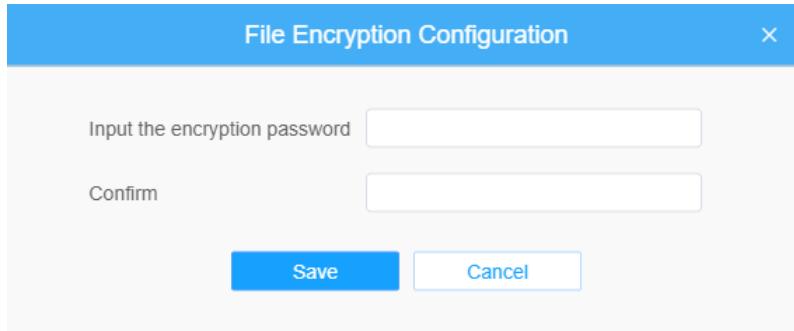
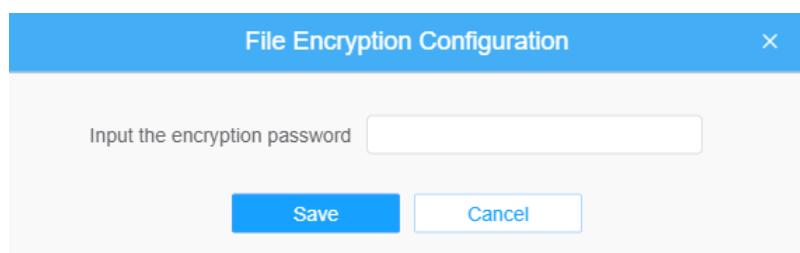


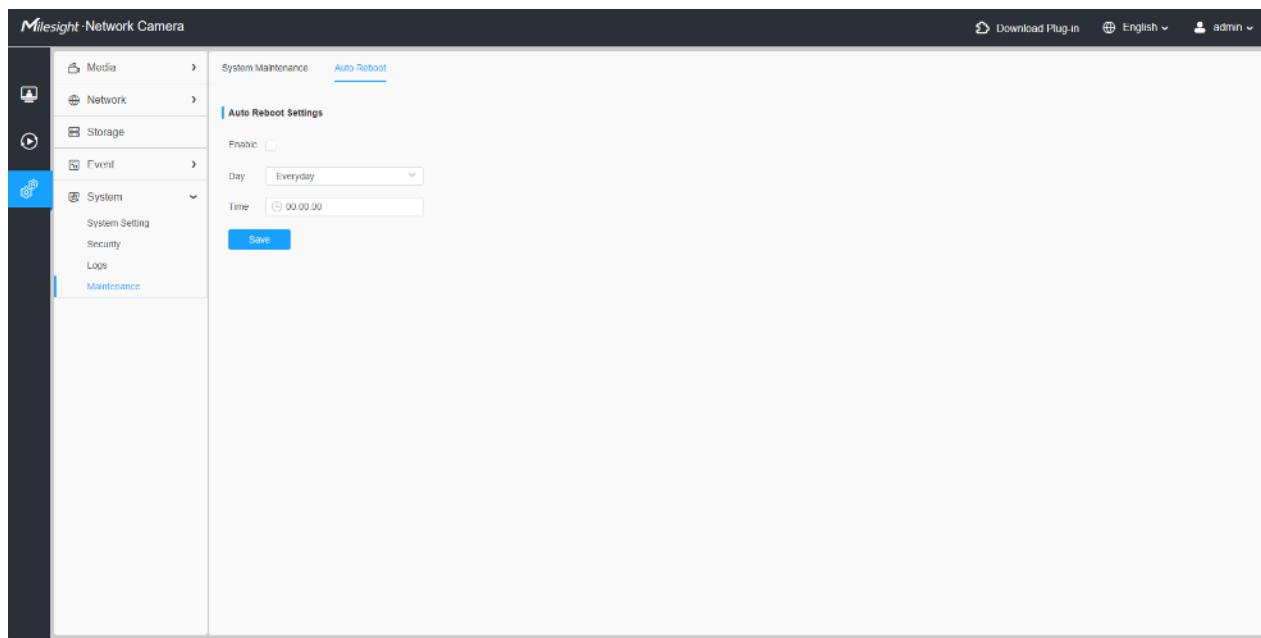
表 71. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
System Upgrade	<p>Software Version : カメラのソフトウェアバージョンを表示します。</p> <p>Local Upgrade : 「Browse」ボタンをクリックし、アップグレードファイルを選択した後、「Upgrade」ボタンをクリックしてアップグレードを行います。システムの再起動が正常に完了すると、更新は終了します。</p> <p>「Reset after Upgrading」にチェックを入れると、アップグレード後にカメラをリセットすることができます。</p> <p>Online Upgrade : 「Check」ボタンをクリックして、弊社ウェブサイト上の最新のファームウェアバージョンを確認し、「OK」をクリックすると、そのバージョンにアップグレードされます。</p> <p>カメラが既に最新バージョンである場合、「The current version is the latest version」と表示されます。</p> <div style="background-color: #0072BD; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> Tips × </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> The current version is the latest version. </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> OK </div>

パラメータ	機能紹介
System Upgrade	<p>Upgrade Using the Link : Google Driveなどのクラウドサービスにアップグレード用ファイルをアップロード後、リンクアドレスを入力し、「アップグレード」ボタンをクリックしてアップグレードを行ってください。</p> <p> ご注意 : 更新中はデバイスの電源を切らないでください。デバイスは再起動し、アップグレードを完了します。</p>
Maintenance	<p>Reset : 「Reset」ボタンをクリックすると、カメラが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。</p> <p>Keep the IP Configuration : カメラをリセットする際、IP設定を保持したい場合は、このオプションにチェックを入れてください。</p> <p>Keep the User information : カメラをリセットする際、ユーザー情報を保持する場合はこのオプションにチェックを入れてください。</p> <p>Export Diagnose Info : このボタンをクリックすると、デバイスの動作状況に関するログおよびシステム情報をエクスポートできます。</p> <p> 注記 : ファイル形式は「.txt」となります。</p> <p>Export Config File : このボタンをクリックすると、以下のウィンドウが表示されます：</p>  <p>再度パスワードを入力し、確認後、保存ボタンをクリックすると設定ファイルがエクスポートされます。</p>

パラメータ	機能紹介
Maintenance	<p>Import Config File : このボタンをクリックすると、ウィンドウが表示されますので、「OK」をクリックして設定を更新してください。</p> <p>「設定ファイルのパスワードを入力してください」というプロンプトが表示されますので、パスワードを入力し、保存ボタンをクリックすると設定ファイルがインポートされます。</p>  <p>ご注意 :</p> <p>同じ設定ファイルをエクスポートおよびインポートする場合、パスワードは同一である必要があります。</p> <p>Language File : こちらでは、言語ファイルの編集、エクスポート、リセットが可能です。</p> <p>Import Language File: 言語ファイルをインポートし、「Import」ボタンをクリックすると、ウィンドウが表示されます。「OK」をクリックすると設定が更新されます。</p> <p>あらかじめ定義された言語翻訳パックを修正またはインポートすることができ、好みに応じてインターフェースの言語をカスタマイズし、さまざまな言語環境への適応性を高めることができます。</p>
Reboot	「Reboot」ボタンをクリックすると、デバイスが直ちに再起動します。

8.5.4.2 自動再起動



自動再起動機能を有効にするには、日付と時刻を設定してください。カメラが長時間稼働した後に過負荷状態になった場合、カスタマイズされた時刻に基づいてカメラが自動的に再起動します。

第9章 サービス

Milesightはお客様にタイムリーかつ包括的な技術サポートサービスを提供しております。エンドユーザー様は、お近くの販売店様にお問い合わせいただき、技術サポートをご利用いただけます。ディストリビューター様および再販業者様は、Milesightに直接お問い合わせいただき、技術サポートをご利用いただけます。

テクニカルサポートメールボックス : support@milesight.com

ウェブサイト : <http://www.milesight.com>

オンライン問題報告システム : <http://www.milesight.com/service/feedback.asp>

MILESIGHT CHINA

TEL: +86-592-5922772

住所 : Building C09, Software Park Phase III, Xiamen 361024, Fujian, China